

1740迄 (2954件)

- 1721年-08:00|マレーシア| |||<死去>ハンダハラ・セリ・マハラジャ「トウン・アブドゥル・ジヤマル・ビン・トウン・ハビブ・アブドゥル・マジド」
- 1721年-08:00|インドネシア/オランダ| |||<就任>アンボン島オランダ総督「Pieter Gabriij」(~1725年)
- 1721年-08:00|中国| |||<就任>チベット摂政「カンチェン」(~1728年)
- 1721年-05:30|インド| |||<就任>ウアンカナル国統治者(ラーシ・サーヒブ)「フリウ・イラーシ・チャント・ラシジ」(~1728年没)
- 1721年-05:30|インド| |||<就任>カラハンティ国ラジャ「カダグ・ライ・テオ」(~1747年)
- 1721年-05:30|インド| |||<就任>コーチン国統治者(マハラジャ・ガナカタラ・コウイラティ・カリカル)「ラウ・イヴァル3世」(~1731年没)
- 1721年-05:30|インド| |||<就任>スケト国ラジャ「カール・セン」(~1748年没)
- 1721年-05:30|インド| |||<就任>ハスター国ラジャ「ママ」(~1731年)
- 1721年-05:30|インド| |||<就任>ムガル帝国ガミール総督「アブドゥル・サマド・カーン」(~1723年)
- 1721年-05:00|ウズベキスタン| |||<死去>コーカンド(フェルガナ)ベク「Shah Rukh Biy」
- 1721年-05:00|ウズベキスタン| |||<即位>コーカンド(フェルガナ)ベク「Abd ar-Rahim Biy」(~1739年死去)
- 1721年-05:00|ウズベキスタン| |||<即位>ヒヴァン国対立汗「Shah Timur Khan」(~1736年死去)
- 1721年-04:00|アゼルバイジャン| |||<即位>シルヴァン(シャマカ)のハン「ハジ・ダウト・ベク」(~1728年)
- 1721年-04:00|アゼルバイジャン/イラン| |||シルヴァンのハン国(シャマハ)、ペルシャに反乱を起こす(~1734年)
- 1721年-03:00|イラク| |||<即位>ハバン首長「Khana Mohammad Pasha」(~1731年)
- 1721年-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||<就任>アレクソ・ワリス(総督)「Arnavut Recep Pasha」(2期目~1724年)
- 1721年-02:00|エジプト/トルコ| |||<就任>オスマン帝国領エジプト・ベイルベグ「Nisanci Mehmed Pasha」(~1725年)
- 1721年-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||<就任>ダマスカス・ワリス(総督)「Ali Pasha Maqtuloglu」(~1723年)
- 1721年-01:00|ベナン/ポルトガル| |||<再建>サン・ジョアン・パプティスタ・デ・アジュダ砦(1821年までブラジルに従属)
- 1721年-01:00|スペイン| |||<死去>12代メニェニェ公「マヌエル・アロンソ・ペレス・デ・グスマン・イ・ヒメナル」
- 1721年-01:00|スペイン| |||<就任>13代メニェニェ公「トミンコ・セ・クラロス・アロンソ・ペレス・デ・グスマン・イ・シルバ」(~1739年死去)先代の子
- 1721年-01:00|ニジェール| |||<就任>アイル国統治者(アメリカ)「ムハンマド・アル・アミン・イブン・ムハンマド・アル・ムハラク」(1回目)⇒「アル・ワリ・ブン・ムハンマド・アル・ムハラク」⇒「ムハンマド・アル・アミン・イブン・ムハンマド・アル・ムハラク」(2回目)⇒「ムハンマド・アル・ムミン」⇒「ウスマーン・イブン・ムハンマド・アル・ムミン」(~1722年)
- 1721年-01:00|セルビア/トルコ| |||<就任>オスマン帝国セルビア・ワリス「オスマン・トパル・パシャ」(1回目~1727年11月)
- 1721年-01:00|ドイツ| |||<就任>ヘッセン＝フィリップスタール＝バルヒェルト方伯「ヴィルヘルム」初代ヘッセン＝フィリップスタール方伯フィリップの下の息子(~17610513死去)
- 1721年-01:00|ロシア| |||<即位>ホリツァ大公「イワン・ノヴゴロドツ」(~1732年)
- 1721年-01:00|フランス| |||マルセイユでペストが大流行
- 1721年 00:00|イギリス| |||<死去>6代キンカーデン伯「アレクサンダー・ブルース」
- 1721年 00:00|チャネル諸島/イギリス| |||<死去>イギリス王領オランダ島知事「Anne Andros」
- 1721年 00:00|イギリス| |||<就任>7代キンカーデン伯「トマス・ブルース」(~17400323死去)
- 1721年 00:00|チャネル諸島/イギリス| |||<就任>イギリス王領オランダ島知事「Anne Andros Le Mesurier」(~1729年死去)
- 1721年 00:00|セネガル| |||<就任>ジョロフ帝国統治者(フルバ・ジョロフ)「アル・ブウリ・ジヤケル」(~1740年頃)
- 1721年 00:00|セネガル| |||<就任>ワタト・ロ統治者(デナンク・サティギ)「ハブ・ムサ」(1回目~1722年頃)
- 1721年 04:00|アルバ/オランダ| |||<就任>アルバ島司令官「Pieter Pietersz. van Kempen」(~1722年)
- 1721年 04:00|バルバドス/イギリス| |||<就任>イギリス領バルバドス総督代理「Samuel Cox」(~1722年)
- 1721年 04:00|パラグアイ| |||パラグアイがリマの副王支配に対して反乱
- 1721年 06:00|エルサルバドル/スペイン| |||<就任>サン・サルバドル、サン・ミゲル、サン・ビセンテ州暫定市長兼副司令官「ペドロ・デ・トリア」(~1723年没)
- 1721年 06:00|アメリカ/スペイン| |||<就任>スペイン領ニューメキシコ総督「Juan Estrada de Austria」(~1723年)
- 1721年 06:00|ニカラガア/スペイン| |||<就任>ニカラガア総督「アントニオ・デ・ボベダ・イ・リバデネラ」(1回目~1724年)
- 1721年 07:00|メキシコ| |||北部ナリの原住民の反乱、平定される
- 1721年1月-03:30|イラン| |||<就任>サファヴィー朝大宰相「モハンマド・コリ・ハーン・シャムル(ソルタン・セイン1世)」(~17221023)
- 1721年1月 00:00|キニアビサウ/ポルトガル| |||<就任>カチュ司令官「アントニオ・デ・バロス・ベゼラ・ジュニア」(2回目~6月)
- 1721年1月1日 04:30|ベネチア/スペイン| |||<就任>スペイン領ベネチア総督「Alejandro Blanco de Villegas + Juan de Bolivar y Martinez de Villegas」(~5.4)
- 1721年1月1日-09:00|日本|茨城県下妻市|享保5年12月4日|<死去>常陸下妻藩1万石「井上正長」(67歳)⇒養子「井上正敦」が継ぐ(⇒宝暦3(1753)年6月20日、47歳で死去)
- 1721年1月3日 04:00|グレナダ/フランス| |||<就任>グレナダ総督代行「ジャン＝レオン・フルニエド・カルト・プランドーヌ」(2回目)⇒総督「ジャン＝バルザール・デュフォー」(~17220829没)
- 1721年1月3日-09:00|日本|大阪府大阪市|享保5年12月6日|<初演>近松門左衛門、人形浄瑠璃「心中天網島」竹本座
- 1721年1月8日-09:00|日本|愛媛県松山市|享保5年12月11日|<立藩>松山新田藩1万石「松平定章」松山藩より分与(⇒延享4(1747)年8月3日、死去)⇒長男「松平定静」が継ぐ(⇒明和2(1765)年2月12日、宗家松山藩を相続し廃藩)
- 1721年1月14日 00:00|イギリス| |||<死去>初代アナンティル侯「ウィリアム・ジョンストン」
- 1721年1月14日 00:00|イギリス| |||<就任>2代アナンティル侯「ジェームズ・ジョンストン」(~1730.2死去)
- 1721年1月18日-09:00|日本|北海道|享保5年12月21日|<死去>蝦夷松前藩1万石「松前矩広」(61歳)⇒翌年7月11日、養子「松前邦広」が継ぐ(⇒寛保3年閏4月8日(17430531)、死去)
- 1721年1月22日-09:00|日本|愛媛県松山市|享保5年12月25日|松山藩領和気郡三津大工町より出火、180軒を焼失
- 1721年1月22日-09:00|日本|神奈川県横須賀市|享保5年12月25日|下田港を廃し相模浦賀港を開く/浦賀奉行設置
- 1721年1月28日-09:00|日本| |||享保6年1月|<初演>森田座「大鷹賑曾我」2代目市川団十郎が演じて大当たり

1740迄 (2954件)

- 1721年2月-05:30|インド| |||<死去>サハヌール(ミヤ朝)ナワブ「Abdul Mahmad Khan」
1721年2月-05:30|インド| |||<就任>サハヌール国支配者(ナワブ)「アフドゥル・ガフル・カーン」(~17260407没)
1721年2月-05:30|インド| |||<就任>ティルウ・イダムコトウ国ラジャ「ラーマ・ウアル1世」(~17290127没)
1721年2月-05:30|インド| |||<即位>サハヌール(ミヤ朝)ナワブ「Abdul Ghafur Khan」(~17260407死去)
1721年2月-03:00|イタ/トルコ| |||<就任>ハスラ・ウリス「ウスマン・パシヤ」(2回目~)⇒「アーメト・パシヤ」(~1723年)
1721年2月 05:00|ハバマ/イギリス| |||<就任>イギリス王室植民地ハバマ総督代行「ウィリアム・フェアファックス」(~12. 26)
1721年2月4日 01:00|日本|東京都|享保6年1月8日|<江戸享保6年春の連続火災>巳中刻(午前10時ごろ)日本橋呉服町一丁目から出火し北風によって延焼、大工町、新数寄屋町、京橋から築地浜まで燃えて鎮火
1721年2月5日-04:00|ロシア| |||ロシア暦1月25日|ロシアが総主教制を廃止し、宗務院を設置
1721年2月5日 00:00|イギリス| |||<死去>初代スタンホープ伯「ジェームズ・スタンホープ」
1721年2月5日 00:00|イギリス| |||<就任>2代スタンホープ伯「フィリップ・スタンホープ」(~17860307死去)
1721年2月20日-09:00|日本|京都府福知山市|享保6年1月24日|<死去>丹波福知山藩32000石「朽木植元」(58歳)⇒1月25日、長男「朽木植綱」が継ぐ(⇒享保11(1726)年5月5日、死去)
1721年2月22日 00:00|イギリス| |||<死去>ラトランド公「ジョン・マース」
1721年2月22日 00:00|イギリス| |||<就任>ラトランド公「ジョン・マース」先代の長男(~17790529死去)
1721年2月24日 00:00|イギリス| |||<死去>初代ハッキンガム・ノーマンビー公・マルグレイヴ伯「ジョン・シェフィールド」
1721年2月24日 00:00|イギリス| |||<就任>2代ハッキンガム・ノーマンビー公・マルグレイヴ伯「エドマント・シェフィールド」先代の子(~17351030死去全爵位廃絶)
1721年2月24日-08:00|日本|東京都|享保6年1月28日|<江戸享保6年春の連続火災>子下刻(午前1時ごろ)麻布善福寺門前の家から出火し芝愛宕下裏町まで延焼
1721年3月 04:00|バルバドス/イギリス| |||春<就任>イギリス領バルバドス元帥兼総督代理「Samuel Cox」(~17230119)
1721年3月4日-09:00|日本|岡山県津山市|享保6年2月7日|<死去>美作津山藩10万石「松平長矩(宣富)」(42歳)⇒長男「松平浅五郎」が継ぐ(⇒享保11(1726)年11月11日、死去)
1721年3月4日 00:00|日本|東京都|享保6年2月7日|<江戸享保6年春の連続火災>巳上刻(午前9時ごろ)四谷中殿町から出火し六本木、麻布一本松あたりまで焼く
1721年3月6日 04:00|日本|東京都|享保6年2月9日|<江戸享保6年春の連続火災>午下刻(13時ごろ)四谷忍町から出火し左衛門町、麻布谷町、狸穴脇、三田筋より芝、品川あたりまで焼失
1721年3月7日 00:00|モリタニア/フランス| |||<就任>フランス領アルギン総督「ジュリアン・デュベレイ・デュアル」(~8月没)
1721年3月7日 00:00|モリタニア/フランス| |||アルギンをフランスが統治(~17220111)
1721年3月8日-09:00|日本|山口県周南市|享保6年2月11日|<死去>周防徳山藩3万石「毛利元堯」天然痘のため(20歳)⇒弟「毛利広豊」が継ぐ(⇒宝暦8(1758)年4月8日、隠居)
1721年3月16日-09:00|日本|東京都|享保6年2月19日|<死去>初代・大谷廣右衛門
1721年3月18日-09:00|日本|群馬県沼田市|享保6年2月21日|<死去>上野沼田藩4万石「本多正武」(57歳)⇒4月13日、養子「本多正矩」が継ぐ(⇒享保15(1730)年7月、駿河国田中藩に転封)
1721年3月19日-01:00|バチカン| |||<死去>第243代ローマ教皇「クレメンス11世」(71歳、16490723生)
1721年3月21日 00:00|イギリス| |||<死去>グレートブリテン連合王国国庫財務実行主席弁務官「スタンホープ伯ジェームズ・スタンホープ」
1721年3月21日 00:00|イギリス| |||<就任>グレートブリテン連合王国国庫財務実行主席弁務官「サントラント伯チャールズ・スパーンサー」Whg(~4. 4)
1721年3月29日-02:00|モントネーグ/オランダ| |||<設置>テラコア湾にオランダのレムヘイト砦(~17301227)
1721年3月30日 02:00|日本|東京都|享保6年3月3日|<江戸享保6年春の連続火災>巳下刻(午前11時ごろ)神田三河町四丁目から出火し強い南風にあおられて須田町、神田旅籠町、湯島天神社地、下谷筋まで残らず焼失、そこから上野池端から東叡山の仁王門を焼き、広小路も越えて下谷、浅草観音寺内あたりから坂本、千住まで焼く大火となった
1721年3月31日 00:00|日本|東京都|享保6年3月4日|<江戸享保6年春の連続火災>辰下刻(午前9時ごろ)牛込木津屋町から出火、同若宮、同御門外を経て小日向から小石川伝通院も全焼し境内に避難していた360人余が死亡/その後、火は本郷、駒込、千駄木、谷中と進み氷川あたりでようやく鎮火(6回の火災で江戸市中の三分の二が焼け2107人が死亡、百石以上武家屋敷と医師屋敷7415軒、陪臣(大名の家来)屋敷と町家13万3720軒、その他225軒、寺社560か所が焼失)
1721年4月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「フェデリコ・ゴジ」「ジローラモ・マルテリ」
1721年4月2日-05:30|インド/フランス| |||マヘをフランスが領有(~1725年2月)
1721年4月4日 00:00|イギリス| |||<就任>グレートブリテン連合王国第一大蔵卿「ロバート・ウォルポール」(2期目⇒17300526首相~17420211)
1721年4月12日-09:00|日本|福島県伊達市|享保6年3月16日|<死去>陸奥梁川藩3万石「松平義方」(36歳)⇒5月2日、長男「松平義真」が継ぐ(⇒享保14年5月5日(17290601)、死去改易)
1721年4月15日 00:00|イギリス| |||ユリウス暦:1721/4/4|<就任>グレートブリテン王国初代首相「サー・ロバート・ウォルポール」ホイッグ党(~17420211)
1721年4月22日-01:00|ドイツ| |||<死去>アンハルト＝ベルンブルク侯「Karl Frederick」
1721年4月22日-01:00|ドイツ| |||<就任>アンハルト＝ベルンブルク侯「Victor Frederick」(~17650518死去)
1721年4月26日 08:30|イラン| |||イラン、アフリーズで地震(M7. 4)死者4万人
1721年4月26日-09:00|日本|東京都千代田区|享保6年4月|幕府が大奥法度を改定
1721年4月26日-09:00|日本| |||享保6年4月1日|農民・町民の死刑に子供の連座が廃止になる

1740迄 (2954件)

- 1721年4月30日-02:00|エジプト/トルコ| |||<解雇>オスマン帝国領エジプト総督「レゾ・エッパ・ハ・シヤ」
- 1721年5月-04:00|ジョージア| |||<死去>カヘティ王「ダウ・イト2世」
- 1721年5月-04:00|ジョージア| |||<即位>カヘティ王「コンスタンチン2世」(~17321204没)
- 1721年5月1日-02:00|エジプト/トルコ| |||<就任>オスマン帝国領エジプト総督「ニヤンチ・メフメド・ハ・シヤ」(1回目~17250930、退任させられた)
- 1721年5月4日 04:30|ペルー/スペイン| |||<就任>スペイン領ペルー総督代理「Antonio Jose Alvarez de Abreu」(~12.11)
- 1721年5月8日-01:00|パチカン| |||<就任>第244代ローマ教皇「インケンティウス13世」(~17240307死去)
- 1721年5月10日-01:00|トイツ| |||<死去>シュヴァルツブルク=ゾンダーズハウゼン侯「クリスティアン・ヴィルヘルム」
- 1721年5月10日-01:00|トイツ| |||<就任>シュヴァルツブルク=ゾンダーズハウゼン侯「ギュンター43世」(~17401128死去)
- 1721年5月10日-01:00|パチカン| |||<就任>パチカン枢機卿國務長官「ジョルジュ・スピノラ」(~17240307)
- 1721年5月10日-09:00|日本| ||享保6年4月15日|野獣による農作物の被害を減らすため、農民への鉄砲使用が許される
- 1721年5月14日-09:00|日本|山口県下関市|享保6年4月19日|<死去>長門長府藩主「毛利元朝」(19歳)⇒弟の宗広が嗣ぐ
- 1721年5月16日-09:00|日本|兵庫県明石市|享保6年4月21日|<死去>松平直明(66歳)前播磨明石藩主
- 1721年5月18日-03:00|エチオピア| |||<死去>エチオピア帝国(ソロモン朝)皇帝「ダウイット3世」
- 1721年5月18日-03:00|エチオピア| |||<即位>エチオピア帝国(ソロモン朝)皇帝「ウォルデ・ギヨルギス・イヤス」(~21日)
- 1721年5月20日-09:00|日本|福井県勝山市|享保6年4月25日|<交替>越前勝山藩22000石「小笠原信辰」隠居⇒養子「小笠原信成」が継ぐ(⇒享保15年7月14日(17300827)、死去)
- 1721年5月21日-03:00|エチオピア| |||<即位>エチオピア帝国(ソロモン朝)皇帝「アスマ・ギヨルギス・イヤス」(~17300919没)
- 1721年5月26日-08:00|中国/台湾| ||清・康熙60年5月|台湾で朱一貴、拳兵し永和(1721)と建元、一時台湾全土を占領
- 1721年5月26日-08:00|中国/台湾| ||清・康熙60年5月1日|<即位>台湾皇帝「朱一貴」(~17210730)清帝国に反乱を起こした軍による支配/永和と建元
- 1721年5月29日 00:00|イギリス/アムカ| |||サスカワライがイギリス王領となる
- 1721年5月30日 06:00|アムカ/イギリス| |||<就任>イギリス領サスカワライ植民地総督「フランス・ニコルソン」(~17250507)
- 1721年6月7日-09:00|日本|福岡県柳川市|享保6年5月13日|<死去>筑後柳河藩104200石「立花鑑任」(39歳)⇒養子「立花貞徹」が継ぐ(⇒延享元年5月25日(17440705)、死去)
- 1721年6月18日-01:00|トイツ| |||<死去>ハッセン=フィリップ・スタール方伯「フィリップ」
- 1721年6月18日-01:00|トイツ| |||<就任>ハッセン=フィリップ・スタール方伯「カール1世」(~17700508死去)
- 1721年6月20日-01:00|デンマーク| |||<就任>デンマーク王国大首相「ホルシュタイン伯爵ウルリッヒ・アドルフ」(~17301011)
- 1721年6月22日-09:00|日本| ||享保6年5月28日|浅間山噴火/関東の者16人、石に当たり15人が死亡
- 1721年6月25日-09:00|日本|鹿児島県鹿児島市|享保6年6月|<交替>薩摩藩72万8700石「島津吉貴」隠居⇒長男「島津継豊」が継ぐ(⇒延享3(1746)年11月、隠居)
- 1721年6月25日-08:00|中国/台湾| ||清・康熙60年6月|清軍は鹿耳門港から上陸し朱一貴の反乱を鎮圧
- 1721年6月27日-09:00|日本|茨城県笠間市|享保6年6月3日|<死去>常陸宍戸藩1万石「松平頼道」(65歳)⇒長男「松平頼慶」が継ぐ(⇒寛保2(1742)年正月6日、64歳で死去)
- 1721年7月 00:00|ギニアビサウ/ポルトガル| |||<就任>カチー司令官「ペドロ・デ・パロス」(~1727年5月頃)
- 1721年7月 02:00|グリーンランド/デンマーク| |||<就任>グリーンランド管理者「Hans Egede」(~17581105死去)
- 1721年7月 02:00|グリーンランド/デンマーク| |||グリーンランドはデンマークの所有。アイスランドに従属(~17750306)
- 1721年7月7日-09:00|日本|兵庫県豊岡市|享保6年6月13日|<死去>但馬豊岡藩33000石「京極高栄」(32歳)⇒長男「京極高寛」が継ぐ(⇒享保11(1726)年9月12日、死去)
- 1721年7月13日 00:00|イギリス| |||<死去>2代ジャージー伯「ウィリアム・ゲイリアス」
- 1721年7月13日 00:00|イギリス| |||<就任>3代ジャージー伯「ウィリアム・ゲイリアス」(~17690828死去)
- 1721年7月14日-09:00|日本|長野県須坂市|享保6年6月20日|<死去>堀直佑(67歳)前信濃須坂藩主
- 1721年7月15日-09:00|日本| ||享保6年6月21日|幕府が諸国に入口・農地面積の調査を命じる(全国調査の初め)
- この頃の日本人口約2600万人
- 1721年7月16日-09:00|日本| ||享保6年6月22日|浅間山、噴石により登山者15名死亡
- 1721年7月18日-01:00|フランス| |||<死去>フランス「ロココ美術」の画家アントワヌ=ヴァトー(ワト) (1684-)フェット・ギヤント(雅宴画)「田園の楽興」・「シテル島の巡礼」を描いた
- 1721年7月19日-09:00|日本|栃木県さくら市|享保6年6月25日|<死去>喜連川藩4500石(10万石格)「喜連川氏春」(52歳)⇒長男「喜連川茂氏」が継ぐ(⇒宝暦7(1757)年12月25日、隠居)
- 1721年7月21日-09:00|日本| ||享保6年6月27日|<死去>県宗知(66歳)庭師、茶人
- 1721年7月25日-09:00|日本|静岡県牧之原市|享保6年7月2日|<死去>遠江国相良藩15000石「本多忠通」(17歳)⇒養子「本多忠如」が継ぐ(⇒延享3(1746)年9月25日、陸奥泉藩15000石へ移封)
- 1721年8月 00:00|モリタニア/フランス| |||<死去>フランス領アルギン総督「ジュリアン・デュ・ベレイ・デュ・アル」
- 1721年8月 00:00|モリタニア/フランス| |||<就任>フランス領アルギン総督「クロード・ボヌワ・アンチュール・ルリシュ」(~同年)⇒代行「ヤン・デ・ホ・ニコラス」(2回目~17220111)
- 1721年8月3日-09:00|日本|熊本県人吉市|享保6年7月11日|<交替>肥後人吉藩22165石「相良長興」隠居⇒弟「相良長存」が継ぐ(⇒元文3(1738)年6月25日、死去)
- 1721年8月6日-08:00|フィリピン/スペイン| |||<就任>スペイン領フィリピン諸島総督「トリビオ・ホセ・ミゲル・デ・コソア」(~17290814)

1740迄 (2954件)

- 1721年8月7日-09:00|日本|大阪府大阪市|享保6年7月15日|<初演>近松門左衛門「女殺油地獄」竹本座
- 1721年8月16日 00:00|イギリス| |||<死去>ウオリック伯・ホランド 伯「エドワード・ヘンリー・リッチ」
- 1721年8月16日 00:00|イギリス| |||<就任>ウオリック伯・ホランド 伯「エドワード・リッチ」先代の又従兄(〜17590907死去)
- 1721年8月23日-09:00|日本| |||享保6年閏7月|勘定所を公事方と勝手方の二部門に分ける/訴訟事務の増大が勘定所機能を圧迫することを防ぐ
- 1721年8月28日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド 副卿「ゲラフトン公爵チャールズ・フィッツロイ」(〜17241022)
- 1721年8月30日-02:00|フィンランド/ロシア| |||カリヤとウイボ(ウイボルグ)がロシアに譲渡された
- 1721年9月1日-09:00|日本|福島県白河市|享保6年閏7月10日|<死去>陸奥白河新田藩1万石「松平知清」(40歳)⇒長男「松平明矩」が継ぐ(⇒享保12(1727)年、伯父にあたる白河藩主「松平基知」の養子となり廃藩)
- 1721年9月4日 03:00|スリナム/オランダ| |||<就任>オランダ 領スリナム(オランダ 西インド 会社) 総督代行「フランソワ・アンソニー・ド・レインヴァール」(4回目〜17220301)
- 1721年9月5日-09:00|日本|岡山県|享保6年閏7月14日|<享保6年閏7月秋雨前線>備中松山洪水、所により6m余も堤防を乗り越え城下へ浸水/6日に渡って大風雨となり、浅口郡で2万石を収穫する田畑のうち8割が流出/川上郡では河川の水量が7mほども増水し、侍屋敷では鴨居の上まで浸水
- 1721年9月6日-09:00|日本|愛媛県松山市|享保6年閏7月15日|<享保6年閏7月秋雨前線>松山藩領、石手川洪水により、3万5,065石余の損毛、889軒の家屋流失、72人の死者を出す
- 1721年9月6日-09:00|日本|岐阜県|享保6年閏7月15日|<享保6年閏7月秋雨前線>16日にかけて、美濃国大垣では城中の三の郭まで浸水、田畑の流失多し
- 1721年9月6日-09:00|日本|滋賀県|享保6年閏7月15日|<享保6年閏7月秋雨前線>近江国高島郡、野洲郡では昼夜大雨、琵琶湖が1mほど増水し川々の堤防も切れ、民家や侍屋敷では床上浸水60cm以上、田畑の流失甚大
- 1721年9月7日-09:00|日本|茨城県|享保6年閏7月16日|<享保6年閏7月秋雨前線>17日にかけて常陸国土浦では近辺の川々が洪水を引き起こして城下に流れ込み床上浸水1m50余
- 1721年9月7日-09:00|日本|長野県|享保6年閏7月16日|<享保6年閏7月秋雨前線>17日にかけて信濃国飯山で千曲川が4mほど増水し城下へ浸水
- 1721年9月8日-09:00|日本|福島県福島市|享保6年閏7月17日|<死去>板倉重寛(53歳)前陸奥福島藩主
- 1721年9月9日-09:00|日本|千葉県|享保6年閏7月18日|<享保6年閏7月秋雨前線>下総関宿で利根川が5mほど増水し城内から城下まで浸水、見渡す限り一面の湖となる
- 1721年9月9日-09:00|日本|長崎県|享保6年閏7月18日|<享保6年閏7月秋雨前線>肥前国長崎で大洪水、46人死亡、家屋の流失や倒壊120戸、市内の橋数十カ所落ちる
- 1721年9月10日-02:00|エストニア/ラトビア/ロシア| |||エストニア公国、スウェーデン領リウ・オニア、イングリアがナイスタット 条約の下でスウェーデンからロシアに正式に割譲された
- 1721年9月10日-09:00|日本|宮城県|享保6年閏7月19日|<享保6年閏7月秋雨前線>20日にかけて、奥州仙台藩領では洪水で石高の約25%14万6000石の田畑が流失/北上川流域では和淵村で決壊し大洪水が発生
- 1721年9月10日-02:00|フィンランド/スウェーデン/ロシア| |||ロシア暦8月30日|フィンランド 南部のニスタットでロシアとスウェーデンの和平条約が調印される/大北方戦争中にロシアが占領していたフィンランド、ウイスマル、フォアボムメル西部はスウェーデンに返還/カリヤの大部分、エストニア、リウ・オニア(ラトビア)、イングリア(インゲルマント、イゾール)、またバルト海のサレマ島とヒューマ島(ともに現エストニア領)はスウェーデンからロシアに割譲
- 1721年9月14日 04:00|パラグアイ/スペイン| |||<就任>パラグアイ総督代行「ルイス・アントネラ・イ・カストロ」(1回目〜17220606)
- 1721年9月19日-09:00|日本|宮城県|享保6年閏7月28日|<享保の大水害>連日降雨の後、夜半の大雷雨、地震により烽火山から泥水噴出し長崎市中が大洪水。水死46人(男17、女29)。流家潰家120かまど、破損家96かまど。土蔵1軒、小屋40軒、納屋11軒流落
- 1721年9月20日-05:30|インド| |||ジャット王朝のチュランマンがムガル朝との戦闘で没、バダマン・シンガが跡を継ぐ
- 1721年9月22日-05:30|インド| |||<即位>バラトブル王国君主「バダマン・シンガ」(〜17550521死去)
- 1721年9月22日-09:00|日本|東京都千代田区|享保6年8月2日|將軍への直訴をシステム化し、目安箱を評定所門前に設置
- 1721年9月23日-09:00|日本|大阪府大阪市|享保6年8月3日|<初演>近松門左衛門、人形浄瑠璃「信州川中島合戦」竹本座
- 1721年10月-08:00|マレーシア| |||<死去>クランタン・ラジャ「スルタン・オマル・イブン・ニアル=マフルム・ラジャ・サケイ」
- 1721年10月-08:00|マレーシア| |||<即位>クランタン・ラジャ「スルタン・ロンク・ハハル・イブン・ニアル=マフルム・ワム・ダーム」(〜1734年5月没)
- 1721年10月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「ベルナルディーノ・レオナルデリ」 「フランチェスコ・ジヤンツ」
- 1721年10月7日-09:00|日本|東京都文京区|享保6年8月17日|幕府が小石川薬園を拡張
- 1721年10月8日-01:00|イタリア| |||<就任>ジェノヴァ共和国ドージェ「チェザレ・レ・テ・フランキ」(〜17231008)
- 1721年10月11日-05:30|インド/フランス| |||<就任>フランス領インド 総督代行「ピエール・クリストフル・ホワール」(1回目〜1723年10月)
- 1721年10月11日-01:00|リヒテンシュタイン| |||<死去>リヒテンシュタイン公「アントン・フロリアン」
- 1721年10月11日-01:00|リヒテンシュタイン| |||<就任>リヒテンシュタイン公「ヨゼフ・ヨハン・アダム」先代の息子(〜17321217没)
- 1721年10月15日-09:00|日本|新潟県長岡市|享保6年8月25日|<交替>越後長岡藩74000石「牧野忠辰」隠居⇒養子「牧野忠壽」が継ぐ(⇒享保20(1735)年10月2日、死去)
- 1721年10月19日 00:00|イギリス| |||<死去>4代アントリム伯「ランダル・マクト・ル」
- 1721年10月19日 00:00|イギリス| |||<就任>5代アントリム伯「アレクサンダー・マクト・ル」(〜17751013死去)
- 1721年10月21日-05:00|モルティヴ| |||<即位>モルティヴ・スルタン「イブラヒム・アレクサンダー2世」(〜17500225没)
- 1721年10月21日-09:00|日本| |||享保6年9月|<完成>田中丘隅「民間省要」全17巻
- 1721年11月-08:00|マレーシア| |||<死去>シヨホル・ハン・リアウ・リンガ(シヨホル帝国)スルタン「アブドゥル・ジャリル・シャー4世」

1740迄 (2954件)

- 1721年11月-08:00|マレーシア| |||<即位>シヨホル・パハン・リアウ・リンガ(シヨホル帝国)スルタン「スルタン・スライマン・パド・ル・アラム・シャー」(~17600820没)
- 1721年11月2日-04:00|ロシア| ||ユリウス暦:1721/10/22|<即位>ロシア帝国皇帝「ピョートル1世大王」(~17250208)
- 1721年11月2日-04:00|ロシア| ||ユリウス暦:1721/10/22|ピョートル1世が、国体を帝国と宣言し、対外的な国号を「ロシア帝国」と称した
- 1721年11月5日-03:00|エチオピア| |||<死去>ハル首長国エミール「タルハ・イブン・アブト・アッラー」
- 1721年11月5日-03:00|エチオピア| |||<就任>ハル首長国エミール「アブ・ハカル1世・イブン・アブト・アッラー」(~17320601没)
- 1721年11月8日 04:00|BES諸島/オランダ| |||<就任>セント・ユースタティウス島司令官「Jan Stevensen」(~17221218、死去)
- 1721年11月11日-09:00|日本|大阪府岸和田市|享保6年9月22日|<交替>和泉岸和田藩53000石「岡部長泰」隠居⇒次男「岡部長敬」が継ぐ(⇒享保9(1724)年7月25日、45歳で急死)
- 1721年11月15日 00:00|イギリス| |||<就任>初代マルス・フィールド 伯「トマス・パーク」(~17320428死去)
- 1721年11月15日-09:00|日本| ||享保6年9月26日|幕府が江戸・京都・大坂の金銀交換を停止し、金座・銀座でのみ交換する
- 1721年12月11日 04:30|ペルー/スペイン| |||<就任>スペイン領ペルー総督「Diego de Portales y Meneses」(1期目~17230321)
- 1721年12月17日 00:00|イギリス| |||<死去>初代スカハラ伯「リチャード・ラムリー」
- 1721年12月17日 00:00|イギリス| |||<就任>2代スカハラ伯「リチャード・ラムリー」(~17400129自殺)
- 1721年12月19日 04:00|アンティグア・バブータ/イギリス| |||<就任>リワード・カリブ諸島総司令官・総督「ジョン・ハート」(~17280614)
- 1721年12月19日-09:00|日本| ||享保6年11月|徳川家に関する出版、芝居禁止
- 1721年12月24日-04:00|モリシャス/フランス| |||<就任>モリシャス島総督代行「ジュリアン・テュロンゲ・ルトウレック」(~17220407)
- 1721年12月24日 00:00|イギリス| |||<死去>イクセター伯「ジョン・セシル」
- 1721年12月24日 00:00|イギリス| |||<就任>イクセター伯「ジョン・セシル」(~17220409死去)
- 1721年12月26日 05:00|バハマ/イギリス| |||<就任>イギリス王室植民地バハマ総督「ジョージ・フェニー」(~17290825)
- 1722年-08:00|インドネシア/東ティモール/ポルトガル| |||<就任>ティモール知事「アントニオ・デ・アルブケルケ・デ・コエリョ」(~1725年)
- 1722年-08:00|マレーシア| |||<即位>パタハラ・セリ・マハラジャ「トウン・アハハス・ヒン・スルタン・アブドゥル・ジャリル・リアット・シャー」(~1734年頃没)
- 1722年-07:00|カンボジア| |||<即位>カンボジア王国国王「サ2世アンチェイ」(~1738年)
- 1722年-05:45|ネパール| |||<即位>カンティポラ王「ジャヤジャガジヤマッラ」(~1734年)
- 1722年-05:30|インド| |||<就任>クルワイ国摂政「モハマト・アヌッラー・カーン」(~1727年)
- 1722年-05:30|インド| |||<就任>ジャヤサルミル国統治者(マハララ)「アクハイ・シン」(~1762年没)
- 1722年-05:30|インド| |||<就任>パタラ国統治者(シュリマット・タクル・サーヒブ・シュリ)「アデ・シンジ1世」(~1781年)
- 1722年-05:00|ウズベキスタン/カザフスタン/キルギス/タジキスタン| |||<死去>コカント・ハン国「イシヤール・ベク」
- 1722年-05:00|ウズベキスタン/カザフスタン/キルギス/タジキスタン| |||<即位>コカント・ハン国「アブドゥル・ウツラフマン」(~1734年)
- 1722年-05:00|ウズベキスタン| |||<即位>パハラ・ハン国対立ハン「Rajab Muhammad Khan」(~1731年)
- 1722年-04:00|UAE| |||<即位>アルカシミ・スルタン「Sheikh Rahma bin Matar Al Qasimi」(~1760年)
- 1722年-04:00|アゼルバイジャン/トルコ| |||シャマはオスマン帝国の宗主権下(~1734年)/ツァフルはオスマン帝国に貢納(~1735年)
- 1722年-04:00|ロシア| |||テレルントをロシアが占領
- 1722年-04:00|アゼルバイジャン/トルコ| |||ナフチヴァンをオスマン帝国が占領(1724年、併合~1736年)
- 1722年-03:30|イラン| |||<即位>サファヴィー朝篡奪君主「マフムド」(~17250422死去)
- 1722年-02:00|モザンビーク/ポルトガル| |||<就任>モザンビーク、ソファラ、リオス・テ・クアマ、モ/モタハ 総司令官「アルバロ・カターノ・デ・メロ・エ・カストロ」(~1723年)
- 1722年-02:00|トルコ| |||イスタンブールに「幸福の館(サダバット)」が建設
- 1722年-01:00|ニジェール| |||<就任>アイル国統治者(アメカ)「ムハンマト・アック・アーイーシャ・イブン・ムハンマト・アック・アハ」(~1735年)
- 1722年-01:00|ベナン| |||<就任>サハルのマヒ国統治者「アクハタ」
- 1722年-01:00|ポーランド| |||<就任>チェシン公「レオポルト」ロレーヌ公(~17290327死去)
- 1722年-01:00|オランダ| |||<就任>ベルゲン・オブ・スム辺境伯「ヨハン・クリスティアン・ヨゼフ・プリンツ・フォン・デア・プファルツ・ズルツハッハ」(~17280728)
- 1722年-01:00|チャド| |||<即位>バギルミ王国スルタン「Wanja, Mbangi」(~1736年)
- 1722年 00:00|チャンド諸島/イギリス| |||<死去>イギリス領オタネー島知事「John Le Mesurier1世」
- 1722年 00:00|セントヘレナ/イギリス| |||<就任>イギリス領セントヘレナ総督「大佐John Smith」(~1726年)
- 1722年 00:00|セカール| |||<就任>ウタ・ト・口統治者(デナケ・サティギ)「フバカル・シレ」(3回目~1723年頃)
- 1722年 03:00|仏領ギアナ/フランス| |||<就任>ギアナ知事「Claude Guillouet」(2期目~1729.9)
- 1722年 04:00|アルバ/オランダ| |||<就任>アルバ島司令官「Willem Jansz」(1期目~1726年)
- 1722年 04:00|モントセト/イギリス| |||<就任>イギリス植民地モントセト副総督「Charles Dilke」(~1724年)
- 1722年 04:00|バルバドス/イギリス| |||<就任>イギリス領バルバドス総督「Henry Worsley」(~1727年)
- 1722年 06:00|アメリカ/スペイン| |||<就任>スペイン領テキサス植民地総督「フェルナント・ペレス・デ・アルマサン」(~1727年)
- 1722年 06:00|アメリカ| |||ウァージニア総督スツウットが6部族連合と平和条約を締結
- 1722年1月11日 00:00|モリタニア/オランダ| |||<就任>オランダ領アルギン総督「ヤン・リールス」(2回目~17240220)
- 1722年1月11日 00:00|モリタニア/オランダ| |||アルギンをオランダが統治(~17240220)
- 1722年1月20日 00:00|イギリス| |||<死去>初代マンチェスター公「チャールズ・モンタギュー」
- 1722年1月20日 00:00|イギリス| |||<就任>2代マンチェスター公「ウィリアム・モンタギュー」(~17391021死去)

- 1722年1月20日-09:00|日本|福井県福井市|享保6年12月4日|<死去>越前福井藩25万石「松平吉邦」(41歳)⇒11日、兄「松平宗昌」が継ぐ(自領松岡藩5万石を加え30万石⇒享保9(1724)年4月27日、死去)
- 1722年1月21日 00:00|イギリス| |||<死去>ホルトン公・ウィンチェスター侯「チャールズ・ホーレット」
- 1722年1月21日 00:00|イギリス| |||<就任>ホルトン公・ウィンチェスター侯「チャールズ・ホーレット」(~17540826死去)
- 1722年1月24日-04:00|ロシア| |||ロシア暦1月13日|ヒョートル1世が、軍隊、行政、宮廷の全てのポストを各14に分け、功績重視の「14官等表」を制定
- 1722年1月25日 00:00|ガーナ/デンマーク| |||<就任>デンマーク領ゴールドコースト長官「ニルス・ジエンセン・ストラップ」(~17230122)
- 1722年1月27日-09:00|日本|福井県吉田郡永平寺町|享保6年12月11日|<廃藩>越前松岡藩5万石「松平昌平」宗家福井藩を継ぎ本家に併合
- 1722年2月8日 00:00|イギリス| |||<死去>サフォーク伯・ヒントン伯「チャールズ・ウィリアム・ハワード」
- 1722年2月8日 00:00|イギリス| |||<就任>サフォーク伯「エドワード・ハワード」(~17310622死去)
- 1722年2月12日-09:00|日本| |||享保6年12月27日|<死去>後藤通乗(59歳)装剣金工
- 1722年2月24日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド 副卿代行判事「ダブリン大主教ウィリアム・キング/シャノン子爵リチャード・ポイル/ウィリアム・コノー/ミルトン子爵アラン・ブローリック(17230613から)」(~17230818)
- 1722年2月28日-09:00|日本|京都府京都市|享保7年1月13日|<就任>関白「二条綱平」(~享保11年6月1日)
- 1722年3月-01:00|ルクセンブルグ/オーストリア| |||<就任>オーストリア領ルクセンブルグ 総督「ヨハン・グーイヘルム・フライヘル・フォン・ウンルー」(~17270427)
- 1722年3月1日-01:00|フランス| |||<就任>フランス首席大臣(宰相)「ギヨーム・テュボワ」
- 1722年3月1日 03:00|スリナム/オランダ| |||<就任>オランダ 領スリナム(オランダ 西インド 会社) 総督「ヘンドリック・テミンク」(~17270917)
- 1722年3月2日-04:00|ロシア| |||<死去>カムイク・ハン国ハン「チャクトル・ジヤブ」
- 1722年3月7日-05:30|インド| |||<即位>ハラト国マハラジャ「ブリジラージ・ハダナン・シン」建国(~17550521没)
- 1722年3月14日 03:00|ウクライナ/ポルトガル| |||<就任>サクラメント新植民地ポルトガル総督「Antonio Pedro de Vasconcelos」(~17490202)
- 1722年3月15日 00:00|カリヤ諸島/スペイン| |||<死去>スペイン王国カリヤ諸島総司令官「Juan de Mur y Aguirre」23年)
- 1722年3月15日 00:00|カリヤ諸島/スペイン| |||<就任>スペイン王国カリヤ諸島総司令官代理「Jaime de Villanueva」(~1723年)
- 1722年3月17日 04:00|バミューダ/イギリス| |||<就任>イギリス直轄植民地バミューダ 総督「ジョン・ブルース・ホフ」(~1727.12)
- 1722年3月17日-09:00|日本|東京都|享保7年2月|定火消制が廃止され、飛火防組合65組をつくらせ町方中心の火消組織に改編
- 1722年3月19日-09:00|日本|山形県新庄市|享保7年2月3日|<死去>戸沢正誠(83歳)前出羽新庄藩主
- 1722年3月22日-01:00|アンゴラ/ポルトガル| |||<就任>ポルトガル領西アフリカ総督「アントニオ・デ・アルバ・カーキ・コエリョ」(~17250425)
- 1722年3月22日-09:00|日本|福井県敦賀市|享保7年2月6日|<死去>若狭敦賀藩1万石「酒井忠菊」(44歳)⇒三男「酒井忠武」が継ぐ(⇒享保16(1731)年8月21日、24歳で死去)
- 1722年3月25日-09:00|日本|兵庫県たつの市|享保7年2月9日|<死去>播磨龍野藩51000石「脇坂安清」(38歳)⇒三男「脇坂安興」が継ぐ(⇒延享4(1747)年8月10日、死去)
- 1722年3月26日 05:00|エカートル/スペイン| |||<就任>スペイン領北総督・総司令官・大審問院長「サンティアゴ・デ・ライン・イ・ビケル・ニャ」(2回目~17281231)
- 1722年3月30日-02:00|ルーマニア| |||トランシルヴァニア議会在ハブスブルグ家の諸領地の一体不可分を宣言し長子相続の原則をうたった「国事詔書」ブラチナ・サクツイオを承認
- 1722年4月-05:45|ネパール| |||<死去>バクタラ王「ジヤブ・ハティンタマラ」
- 1722年4月-05:45|ネパール| |||<即位>バクタラ王「ジヤラジ・タマラ」(~17691113)
- 1722年4月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「フランチェスコ・マリア・ベルツィ」[マリノ・ベニ]
- 1722年4月5日 04:00|リ/オランダ| |||オランダ 提督ヤコブ・ロッゲ・フェンがイースター島を発見。この日がイースター(復活祭)にあたるので、この日にちなんで「イースター島」と名づけられた
- 1722年4月7日-04:00|モリシャス/フランス| |||<就任>モリシャス島総督「トニユグ・アリエ・ド・ニヨン」(~17251216)
- 1722年4月9日 00:00|イギリス| |||<死去>エクセター伯「ジョン・セシル」
- 1722年4月9日 00:00|イギリス| |||<就任>エクセター伯「ブライアン・セシル」(~17541103死去)
- 1722年4月13日 00:00|サントメ・プリンシパル/ポルトガル| |||<就任>サントメ植民地総督「Jose Pinheiro da Camara」(~17271022)
- 1722年4月14日-01:00|ノルウェー/デンマーク| |||<就任>ノルウェー 総督「テイトレフ」(~17311005没)
- 1722年4月17日-04:00|ロシア| |||ロシア暦4月6日|ヒョートル1世が、ひげ税を課す
- 1722年4月19日 00:00|イギリス| |||<死去>3代サントラント 伯「チャールズ・スペンサー」
- 1722年4月19日 00:00|イギリス| |||<就任>4代サントラント 伯「ロバート・スペンサー」(~17290915死去)
- 1722年4月21日-09:00|日本|東京都|享保7年3月6日|<橋火消>江戸町奉行、髪結床に橋火消を命じる/備え付けられる火消道具は、川水をくむ長い柄のひしゃくと縄のついた釣瓶(水桶)、大はしご、消火用の水鉄砲、破壊消防用の大鷲口と斧、それと橋の両たもとに置き水をためる四斗(72リットル入り)樽など
- 1722年5月 04:00|セントクリストファー・ネイビス/イギリス| |||<就任>ネイビス副総督「チャールズ・サイプー」(~1732年)
- 1722年5月4日-09:00|韓国/朝鮮| |||<就任>朝鮮国領議政「趙泰コウ」(~17230707)
- 1722年5月4日-04:00|モリシャス/フランス| |||<就任>モリシャス島総督代行「テュヴァルト・オーヴィル」(~6.13)
- 1722年5月9日 00:00|イギリス| |||<死去>9代ロズ 伯「ジョン・ハミルトン=レスリー」
- 1722年5月9日 00:00|イギリス| |||<就任>10代ロズ 伯「ジョン・レスリー」先代の息子(~17671210死去)
- 1722年5月20日-09:00|日本| |||享保7年4月6日|<施行>質地流禁止令/質流れによる田畑の所有権の移転は田畑

1740迄 (2954件)

永代売買禁止令に反するので今後は質流れを禁止 (享保8年8月撤回)

- 1722年5月21日 00:00|イギリス| |||<死去>初代タンカーガイル伯「チャールズ・ベネット」
- 1722年5月21日 00:00|イギリス| |||<就任>2代タンカーガイル伯「チャールズ・ベネット」(~17530314死去)
- 1722年5月25日-09:00|日本|東京都|享保7年4月11日|幕府、火事場見廻役を置く/まず消火活動と被災地の処理など、火事場に関する事項を総括・管理するものとして、旗本、御家人を支配する若年寄の中から、伊勢神戸藩1万7000石・石川近江守総茂と駿河松長藩1万6000石・大久保長門守教寛を任命/火事場見廻役には無役の旗本の中から、旗本寄合席(3000石以上)の村瀬伊左衛門房矩、竹中主水定矩、小普請組支配下(3000石未満)の水谷彌之助勝比、大島因幡守義全、三島清左衛門政興、赤井圖書直綏の6名を任命/火事場見廻役の任務は消火活動現場での指揮と調整にあり、「火災の時、風下にある1万石以上の大名邸宅の巡視」「火災現場では方角火消や増火消を含む大名火消、各自火消などの武家火消人夫を指揮して消防の実際を監察」「炎の勢いが強く、火消人夫が不足していると判断したときは付近の大名屋敷などから人数を徴発」「鎮火後はその後を巡察する」など
- 1722年6月-05:45|ネーデルラント| |||<死去>リタワラ王「ジヤハスカラマ」
- 1722年6月-05:45|ネーデルラント| |||<即位>リタワラ王「ジヤヨカプカサマツ」(~1729年)
- 1722年6月-01:00|フランス| |||フランス王ルイ15世、1715年から約7年弱弱過した「チュイリ-宮」(1区)から「ヴェルサイユ宮殿」に戻る
- 1722年6月4日-09:00|日本|岐阜県中津川市|享保7年4月21日|<死去>美濃苗木藩10521石「遠山友由」(29歳)⇒6月15日、長男「遠山友将」が継ぐ(叔父「遠山友央」に美濃国加茂郡など500石を分知し10021石⇒享保17(1732)年閏5月21日死去)
- 1722年6月5日-09:00|日本|大阪府大阪市|享保7年4月22日|<初演>近松門左衛門、人形浄瑠璃「心中富庚申」<お千代・半兵衛>竹本座
- 1722年6月6日 04:00|ハヴラクアイ/スペイン| |||<就任>ハヴラクアイ総督「ディエゴ・デ・ロス・レイス・イ・バルメタ」(2回目~同年)⇒「セル・デ・アンテラ・イ・カストロ」(2回目~17250305)
- 1722年6月6日 10:00|ネーデルラント/オランダ| |||ネーデルラントの大尉「ジェイコブ・ロッケウ・グーテン」によって発見された
- 1722年6月6日-09:00|日本|福島県いわき市|享保7年4月23日|<死去>陸奥湯長谷藩15000石「内藤政貞」(38歳)⇒長男「内藤政醇」が継ぐ(⇒寛保元年9月5日(17411014)、死去)
- 1722年6月13日-13:00|サモワ/オランダ| |||オランダ人探検家ヤコブ・ロッケウ・グーテンがサモワを目撃
- 1722年6月13日 11:00|米領サモワ/オランダ| |||オランダのヤコブ・ロッケウ・グーテン大尉によって発見されたサモワのロース環礁は、ヴァイル・アイランド(ファウル島)と名付けられた
- 1722年6月14日-04:00|オスマン| |||<即位>ヤハリア王朝イムム「ヤアラブ・イブン・ヒラフ」(~17230316没)
- 1722年6月14日-09:00|日本|山形県米沢市|享保7年5月1日|<死去>出羽米沢藩15万石「上杉吉憲」(39歳)⇒6月18日、嫡男「上杉宗憲」が継ぐ(⇒享保19年5月13日(17340614)死去)
- 1722年6月16日-01:00|マルタ| |||<死去>マルタ騎士団総長「マルカントニオ・ザンタダリ」
- 1722年6月16日 00:00|イギリス| |||<死去>初代マルバウラ公「ジョン・チャーチル」
- 1722年6月16日 00:00|イギリス| |||<就任>2代マルバウラ女公「アンリエッタ・ゴドルフィン」先代の娘2代ゴドルフィン伯フランス・ゴドルフィンの妻(~17331024死去)
- 1722年6月17日-01:00|マルタ| |||<就任>マルタ騎士団総長「ラモン・デ・スプイク・イ・マルティネス・デ・マルシージャ」(2回目~19日)
- 1722年6月19日-01:00|マルタ| |||<就任>マルタ騎士団総長「アントニオ・マノエル・デ・ヒルナ」(~17361212没)
- 1722年6月22日-09:00|日本|滋賀県大津市|享保7年5月9日|<交替>近江堅田藩1万石「堀田正高」隠居⇒七男「堀田正峯」が継ぐ(⇒享保11(1726)年4月14日、死去)
- 1722年6月30日-01:00|ハンガリー| |||ハンガリー議会がハブスブルグ家の諸領地の一体不可分を宣言し長子相続の原則をうたった「国事詔書」プラグマティック・サンクツイオを承認
- 1722年6月30日-09:00|日本|茨城県笠間市|享保7年5月17日|<死去>常陸笠間藩6万石(老中)「井上正岑」(70歳)⇒甥「井上正之」が継ぐ(⇒元文2(1737)年9月17日、死去)
- 1722年7月-04:00|ロシア/イラン| |||ロシアとサファビ-朝イランが戦争を開始、ロシアがカスピ海南西岸を攻撃、ダラバンドを占領
- 1722年7月-02:00|ウクライナ/ロシア| |||ヘチマン国ロシアの直接政権は、外務参事会を通じてロシアによって扱われることをやめた(~1727.9)
- 1722年7月4日-09:00|日本|東京都千代田区|享保7年5月21日|<就任>老中「安藤重行」(~享保17年7月25日)
- 1722年7月13日-04:00|モリスヤス/フランス| |||<就任>モリスヤス島総督代行「ジャック・ガスト・ド・トリグ」(~12.3)
- 1722年7月14日-09:00|日本|鳥取県鳥取市|享保7年6月2日|<死去>池田仲澄(73歳)前因幡鹿奴藩主
- 1722年7月15日-04:30|アフガニスタン/イラン| |||<就任>ペルシヤ・アフガニスタン総督「シャーザダ・ムハンマド・ハン・アブダリ」(~1724年8月)
- 1722年7月18日-09:00|日本|大阪府大阪市|享保7年6月6日|<就任>大坂城代「松平乗邑」(~享保8(1723)年4月21日)
- 1722年7月30日-09:00|日本|京都府亀岡市|享保7年6月18日|<交替>丹波亀山藩5万石「青山忠重」隠居⇒四男「青山俊春」が継ぐ(⇒享保15(1730)年7月18日、死去)
- 1722年8月3日-09:00|日本|東京都中央区|享保7年6月22日|幕府が偽薬検査のため日本橋伊勢町に和薬改会所を設け、問屋25人を改役とする
- 1722年8月4日-09:00|日本|愛媛県今治市|享保7年6月23日|今治藩領暴風雨、総社川は蔵敷村突入新田付近決壊、浅川も氾濫して城下町も被災、潰家480軒
- 1722年8月4日-09:00|日本|愛媛県松山市|享保7年6月23日|松山藩領暴風雨のため、領内の被害甚大、流家307軒、潰家1,171軒、死者88人(~24日)
- 1722年8月4日-09:00|日本|兵庫県三田市|享保7年6月23日|<死去>九鬼隆久(43歳)前摂津三田藩主
- 1722年8月10日-09:00|日本|宮城県石巻市|享保7年6月29日|<死去>伊達村和(62歳)元陸奥中津山藩主

- 1722年8月12日-01:00|イタリヤ| |||<死去>ヴェネツィア共和国ドージェ(元首)「ジョヴァンニ・コルネーリ2世」
- 1722年8月12日-09:00|日本|新潟県佐渡市|享保7年7月|佐渡で疫病が流行/死者600人を越える
- 1722年8月14日-09:00|日本| ||享保7年7月3日|幕府、諸大名に上げ米を課し、参勤期間を緩和
- 1722年8月24日-01:00|イタリヤ| |||<就任>ヴェネツィア共和国ドージェ(元首)「アルヴィゼー・モチーニ」3世(〜17320521死去)
- 1722年8月29日 04:00|ケレタダ/フランス| |||<就任>ケレタダ 総督「ホナベンチャー=フランソワ・ド・ホワエルム」(〜同年没)
- 1722年9月-03:00|サウジアラビア| |||<就任>メッカ・シャリフ「ハラット・ブン・ヤヒヤ」(〜1723年10月)
- 1722年9月7日-09:00|日本|神奈川県横浜市金沢区|享保7年7月27日|<移封>下野皆川藩12000石「米倉忠仰」廃藩⇒武蔵六浦藩12000石(⇒享保20(1735)年4月8日、死去)
- 1722年9月11日-03:30|イラン| |||<即位>サファヴィー朝第10代シャー「タフマサフ2世」(〜17320416)
- 1722年9月15日 07:00|メキシコ/スペイン| |||<就任>ヌエバ・イスパニヤ副王「カサエル侯爵ジョアン・デ・アケニャ」(〜17340317没)
- 1722年9月16日-09:00|日本|新潟県長岡市|享保7年8月6日|<死去>牧野忠辰(58歳)前越後長岡藩主
- 1722年9月18日-09:00|日本| ||享保7年8月8日|<死去>高玄岱(深見玄岱)(74歳)儒学者、書家
- 1722年9月24日-09:00|日本|愛知県|享保7年8月14日|<享保7年8月の台風>朝から雨が降りつづき、夜九つ(午前0時ごろ)に風雨は一層激しくなり、宮の海辺でにわか高潮が生じ、裁断橋以東、井戸田、うつくしの森に至る間の参道の茶屋、番所(尾張藩の警備詰め所)や浜辺の民家など245軒が300m余り引き潮に取られ、月堂見聞集では4〜500人が行方不明となる/名古屋城下では強風によって屋根も壁も吹き飛んで、満足な家は一軒もない有様になるなど、尾張藩領全体では、高潮以外でも80余人が死亡、家屋の倒壊1万7000軒、田畑の損害39万石、荒地となった田畑4万5000石、堤防の破損は20kmにも及んだ/対岸の桑名藩領では城下全体が海につきり、近郊の村々の1600戸が倒壊、流失/紀州藩領では、倒壊、流失家屋6055軒、船舶の破損、流失384隻、141橋が損壊
- 1722年9月25日 00:00|カナダ/オランダ| |||<就任>オランダ領ゴート=ゴースト総裁「アラハム・ハウトマン」(〜17230517在任中死去)
- 1722年10月1日-01:00|サマリヤ| |||<就任>サマリヤ共和国執政「ヴァレリオ・マッジョーニ」「ヒエール・アントニオ・ウゴリーニ」
- 1722年10月2日-09:00|日本|香川県高松市|享保7年8月22日|(~翌日)高松藩内大風雨、各地で山崩れや堤防が決壊し、田野が浸水、溺死100余人、牛馬も多く斃死
- 1722年10月4日-09:00|日本|兵庫県赤穂市|享保7年8月24日|<死去>播磨赤穂藩2万石「森長直」(51歳)⇒婿養子「森長孝」が継ぐ(⇒翌年10月30日、30歳で死去)
- 1722年10月12日-05:30|インド| |||<就任>ケルワイ国支配者(ナワブ)「モハマト・イザット・カーン」(〜1762年没)
- 1722年10月12日-03:30|イラン/アフガニスタン| |||ミール・マフムド 下のアフガニスタンがペルシャのイスファハーン占領(〜17250425)
- 1722年10月13日-09:00|日本|京都府京都市|享保7年9月4日|<死去>近衛基熙(75歳)元太政大臣、関白
- 1722年10月15日 07:00|メキシコ/スペイン| |||<就任>ヌエバ・イスパニヤ副王「カサエル侯爵ファン・デ・アケニャ」(〜17340317)
- 1722年10月16日 00:00|チャノル諸島/イギリス| |||<死去>イギリス王領ジャージー=知事「Henry Lumley」
- 1722年10月21日-03:30|イラン| |||<退位>サファヴィー朝シャー「スルターン・フサイン」(〜17261115死去)
- 1722年10月23日-03:30|イラン| |||<就任>ガルバイ朝大宰相「アマヌ・カーン」(〜17250425)
- 1722年10月23日-03:30|イラン| |||<即位>ガルバイ朝シャー「マフムド」(〜17250425没)
- 1722年10月25日-04:30|アフガニスタン/イラン| |||アフガニスタンのミール・マフムド が、ペルシャのサファヴィー朝の首都イスファハーンを攻略
- 1722年10月28日-09:00|日本|兵庫県たつの市|享保7年9月19日|<死去>脇坂安照(65歳)前播磨龍野藩主
- 1722年10月31日-09:00|日本|静岡県藤枝市|享保7年9月22日|<死去>土岐頼殷(81歳)前駿河田中藩主
- 1722年10月31日-09:00|日本|山形県上山市|享保7年9月22日|<死去>出羽上山藩3万石「松平(藤井)信通」(47歳)⇒次男「松平長恒」が継ぐ(⇒享保17(1732)年12月12日、隠居)
- 1722年11月2日-09:00|日本| ||享保7年9月24日|<死去>池西言水(73歳)俳人
- 1722年11月8日-09:00|日本|奈良県大和郡山市|享保7年9月30日|<死去>大和国郡山藩12万石「本多忠村」(13歳)⇒11月5日、弟「本多忠烈」が継ぐ(幼少を理由に5万石まで減封)
- 1722年11月9日-09:00|日本|東京都|享保7年10月|幕府が千川上水を廃止/ついで青山・三田・本所各上水も廃止とする
- 1722年11月10日-03:30|イラン| |||<就任>サファヴィー朝大宰相「ファテアリ・カーン・カンギヤル」(〜17261011)
- 1722年11月10日-03:30|イラン| |||<即位>サファヴィー朝シャー「タフマサフ2世」(〜17320902)
- 1722年11月15日-09:00|日本|奈良県桜井市|享保7年10月7日|<死去>織田長清(61歳)前大和芝村藩主
- 1722年11月21日-02:00|ラトビア/ポーランド| |||<就任>ポーランド・リトアニア総督「アントニ・アンジエイ・モルシュティン」(〜17351011没)
- 1722年12月-03:00|イラク/ロシア| |||ギランがロシアに占領される
- 1722年12月6日-09:00|日本|京都府亀岡市|享保7年10月28日|<死去>青山忠重(69歳)前丹波亀山藩主
- 1722年12月12日-09:00|日本|奈良県大和郡山市|享保7年11月5日|<減封>大和郡山藩11万石「本多忠烈」幼少のため⇒5万石(⇒享保8(1723)年11月27日、死去無嗣断絶改易)
- 1722年12月15日-09:00|日本| ||享保7年11月8日|幕府が、好色本の禁止など、出版条目5ヶ条を出す
- 1722年12月16日 04:00|セントルシア/イギリス| |||<就任>イギリス領セントルシア副総督「サニエル・ウーリング」(〜1723年1月)
- 1722年12月18日 04:00|BES諸島/オランダ| |||<死去>セント・ユースティウス島司令官「Jan Stevensen」
- 1722年12月18日 04:00|BES諸島/オランダ| |||<就任>セント・ユースティウス島暫定司令官「Johan Lindesay」(〜17280708)
- 1722年12月19日-01:00|オーストリア/ベルギー| |||オーストリア東インド会社がベルギーのオーステンに創設される
- 1722年12月20日-08:00|中国| ||清・康熙61年11月13日|<死去>清朝創業の基礎を固めた史上最高の名君・康熙帝/68歳(誕生16540504)
- 1722年12月20日-08:00|中国| ||清・康熙61年11月13日|<即位>清5代皇帝「世宗雍正帝」第47コ(皇子の満州語)(〜17351008)
- 1722年12月22日 05:00|ジャマイカ/イギリス| |||<就任>英領サティアコ 総督「ポートランド 公ヘンリー・ベントニック」(〜17260704没)
- 1722年12月23日-09:00|日本|静岡県藤枝市|享保7年11月16日|<死去>土屋政直(82歳)前駿河田中藩主、元大坂城

1740迄 (2954件)

代・京都所司代・老中首座

- 1723年-08:00|インドネシア/オランダ | |||<死去>モルッカ諸島オランダ 総督「Anthonie Heinsius」
- 1723年-08:00|マレーシア | |||<就任>シヨホル統治者(ウダンク・ルカ・シヨホル)「ダトウク・プトリ・セティアワン1世」(~1747年)
- 1723年-08:00|インドネシア/イギリス | |||<就任>ベンクーレン副総督(マトラス総督に従属)「トマス・Dunster」(~同年)⇒「ジヨセフ・Walsh」(~1728年)
- 1723年-08:00|インドネシア/オランダ | |||<就任>モルッカ諸島オランダ 総督「Jacob Cloeck」(~1724年)
- 1723年-08:00|インドネシア | |||<即位>チルボーン・チレボナン君主「Sultan Cirebon1世 Muhammad Akbaruddin」(~1734年)
- 1723年-08:00|インドネシア | |||<即位>チルボーン・クスパハン君主「Sultan Sepuh3世 Muhammad Zainuddin」(~1753年)
- 1723年-07:00|ラオス | |||<即位>シェンクアーン王「カム・サッタ」カム・ランの孫(~1751年)
- 1723年-07:00|タイ | |||<即位>パタニ王国第15代国王「ラジャ・ラサマナ・ダシヤン」(~1724年)
- 1723年-07:00|ラオス | |||<即位>ルアンパバーン王国国王「オ・アーン(インタソム)」(~1749年死去)
- 1723年-05:45|ネパール | |||<即位>マスタング王「フクラシス=ラム=ギヤル」(~1728年没)
- 1723年-05:30|インド | |||<建国>ハヴガール国
- 1723年-05:30|インド/オランダ | |||<就任>オランダ領インド 総督「デイルク・ファン・クルーン」(~1729年)
- 1723年-05:30|インド | |||<就任>カンパラ国ラジャ「ハナマリ・シン・マルドラーシ・フアラマル・ルライ」(~1732年)
- 1723年-05:30|インド | |||<就任>ジャバア国ラジャ「アヌブ・シン」(~1727年)
- 1723年-05:30|インド | |||<就任>ナルシンプル国ラジャ「ヒスワンハール・ハリヤンダ・ンモハトラ」(~1765年)
- 1723年-05:30|インド | |||<就任>ハルムガール国統治者(マハラット)「コハール・シン」(~1758年没)
- 1723年-05:30|インド | |||<就任>ホハール国支配者(サフ)「ドスト・モハマト・カーン」建国(~1728年3月没)
- 1723年-05:30|インド | |||<就任>ムガル帝国ガミール総督「アサム・カーン」(~1724年)
- 1723年-05:30|インド/フランス | |||インド東海岸ヤムが植民地となった
- 1723年-05:00|パキスタン | |||<就任>ハハワルブル国エミール「サテク・モハマト・カーン1世」(~17460411没)
- 1723年-04:00|ロシア/トルコ | |||アケティはオスマン帝国の属国(~1732年);ガジ=クムク、メフタリはオスマン帝国の属国(~1734年)
- 1723年-04:00|シヨージア/イラン/トルコ | |||オスマン朝がサファビ朝下のゲルジアとイラン本土に出兵
- 1723年-04:00|アゼルバイジャン/トルコ | |||カンジャをオスマン帝国が占領(1724年に併合~1734年)/ナゴルノ・カラバフはオスマン帝国の一部(1724年に併合~1735年)
- 1723年-04:00|アゼルバイジャン/ロシア | |||サルヤン、クリシュムカンをロシアが統治(~1732年)
- 1723年-04:00|ロシア/イラン | |||タキはペルシャからカスピ海地方の一部であるロシアに割譲される(~1735年);テラバントはペルシャからカスピ海地方の一部であるロシアに割譲された(⇒1730年から、カーンがロシアによって任命された~1735年)
- 1723年-03:00|イラク/トルコ | |||<就任>バグダット・ワシ「アハマト・ビン・ハサン」(~1734年)
- 1723年-03:00|イラク/トルコ | |||<就任>ハスラ・ワシ「カリル・ハシヤ」(~1725年)
- 1723年-03:00|サウジアラビア | |||<即位>メッカ・アミール「Yahya bin Barakat」(~1725年)
- 1723年-03:00|イェメン | |||<即位>ラッシー朝イマム「アンナジール・ムハンマト・ビン・イシャク」アルマフディ・アハマトの孫(~同年)⇒「Qasim II ibn Husain」(2期目~17270423)
- 1723年-03:00|イラク/ロシア | |||アルテヒルをロシアが併合(~1732年)
- 1723年-02:00|モザンビーク/ポルトガル | |||<就任>モザンビーク、ソファラ、リオス・テ・クアマ、モモタハ 総司令官代行「デ・イオニウス・マヌエル・ヒェカス」(1回目~17240301)
- 1723年-01:00|フランス | |||<就任>ヌムール公「ルイ」(~17520204死去)
- 1723年-01:00|イタリア | |||<就任>パンツァッティ伯「Fortunato Bartolommeo de Felice, 2nd Count Panzutti」(~1789年)
- 1723年-01:00|フランス | |||<就任>オルレアン伯「Louis d'Orleans」(~1752年)
- 1723年-01:00|ベナン | |||<即位>アジヤチエ・イェのフォン王国国王「ヒアケン」(~1739年)
- 1723年-01:00|オランダ/インドネシア | |||マタラム王国第2次ジャワ継承戦争終結/反乱軍がオランダ東インド会社に制圧される
- 1723年 00:00|フェロ諸島 | |||<死去>フェロ諸島領土執行使(トースハウ)「Didrik Marcussen」
- 1723年 00:00|シエラレオネ | |||<就任>パナ諸島首長「トマス・カーカー」
- 1723年 00:00|フェロ諸島 | |||<就任>フェロ諸島領土執行使代理「Carl Hans Hoppner」(~7. 25)
- 1723年 00:00|セカール | |||<就任>ワタ・ト・ロ統治者(デナンク・サイギ)「ハブ・ムサ」(2回目~1724年頃)
- 1723年 01:00|アゾレス諸島/ポルトガル | |||<就任>アゾレス島・コルヴォ島トタリ長官「Jose de Mascarenhas da Silva e Lencastre, marques de Gouveia」(~17590113死去)
- 1723年 03:00|ブラジル | |||サンフランシスコ川流域のディアマンテスでダイヤモンド発見
- 1723年 04:00|モントセロ/イギリス | |||<就任>イギリス植民地モントセロ大統領「William Frye」(~17360517死去)
- 1723年 04:00|グレナダ/フランス | |||<就任>グレナダ 総督「ロベール・ジロー・デュポエ」(~1727年)
- 1723年 05:00|パナマ/スペイン | |||<就任>パナマ総督・大統領「ガスパル・ペレス・ブエルタ」(~1724年)
- 1723年 06:00|エルサルバドル/スペイン | |||<就任>サン・サルバドル、サン・ミゲル、サン・ビセンテ州暫定市長兼副司令官「トドリコ・サルタ」(~1724年)
- 1723年 06:00|アメリカ/スペイン | |||<就任>スペイン領ニューメキシコ総督「Juan Domingo de Bustamante」(~1731年)
- 1723年1月2日 06:00|アメリカ/イギリス | |||<就任>イギリス領マサチューセッツ湾直轄植民地総督「ウィリアム・ダマー」(~17280719)
- 1723年1月4日-09:00|日本|長野県小諸市|享保7年11月28日|<死去>信濃小諸藩15000石「牧野康重」(46歳)⇒12月24日、長男「牧野康周」が継ぐ(⇒宝暦8(1758)年正月8日、死去)
- 1723年1月5日-09:00|日本|兵庫県丹波市|享保7年11月29日|<死去>丹波柏原藩2万石「織田信休」(45歳⇒12月24日、次男「織田信朝」が継ぐ(⇒元文2(1737)年1月6日、死去)
- 1723年1月7日-01:00|ドイツ | |||<死去>ブランデンブルク=アンスタットの辺境伯「ウイヘルム・フリートリヒ」

1740迄 (2954件)

- 1723年1月7日-01:00|ドイツ| |||<就任>ブランデンブルク=アンスタット辺境伯「カール・グィルヘルム・フリードリヒ」(~17570803死去)
- 1723年1月10日-09:00|日本|東京都文京区|享保7年12月4日|幕府、養病所を小石川に開設、貧窮の病人を收容/養生所の設置場所は、幕府の薬草栽培・製薬センターとも小石川御薬園の一角/スタッフは町奉行与力2名で毎日1名が交代で養生所に詰め、同所の全体の指図や病人の入・出所の確認、総賄入用費(運営経費)の吟味(管理)を担当/次の同心10名のうち年寄同心2名は賄所総取締(運営部門の業務管理)と医療品など諸物の受け払いの管理をそれぞれ担当/他の平同心は病室などの見回りや薬膳の立ち会い、錠前(鍵)預かりなどを担当/その下の下男8人は男性患者の看病、火災時の足弱の患者の付き添い、患者用の炊事や薬を煎じるなど賄所の勤務、門番などを担当/女性の3人は女性患者の看病や患者の衣類や包帯などの洗濯を担当した
- 1723年1月13日-09:00|日本| ||享保7年12月7日|幕府が心中を報ずる出版を禁じる
- 1723年1月13日-09:00|日本|東京都|享保7年12月7日|幕府、市中の読売を禁じる
- 1723年1月19日 04:00|バルバドス/イギリス| |||<就任>イギリス領バルバドス元帥兼総督「ヘンリー・Worsley」(~17310921)
- 1723年1月22日 00:00|ガーナ/デンマーク| |||<就任>デンマーク領ゴールドコースト長官「クリスチャン・アンドレアス・シンダマン」(~17240427)
- 1723年1月22日-09:00|日本| ||享保7年12月16日|幕府、出版条例を定める/好色本のたぐいは「風俗の為にもよろしからざる」という理由によって絶版が命じられる
- 1723年1月27日-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||<就任>ダマスカス(総督)「Uthman Pasha Abu Tawq」(2期目~1725.1)
- 1723年2月1日-09:00|日本|広島県福山市|享保7年12月26日|福山大火、焼失家屋1000軒を越す
- 1723年2月2日 00:00|カナリヤ諸島/スペイン| |||<就任>スペイン王国カナリヤ諸島総司令官「Lorenzo Fernandez de Villavicencio y Cardenes」(~1735年)
- 1723年2月5日-09:00|日本| ||享保8年1月|<刊行>西川祐信の女性風俗絵本「百人女郎品定」
- 1723年2月5日-08:00|中国| ||清・雍正1年1月|清朝が会考府をおき、各省の財政報告を整理
- 1723年2月5日-08:00|中国| ||清・雍正1年1月1日|清・雍正と改元
- 1723年2月7日 00:00|イギリス| |||<就任>3代アーリントン伯「チャールズ・フィッツロイ」2代グランドプリンス公(~17570506死去)
- 1723年2月16日-01:00|フランス| |||<就任>フランス王国首席大臣「カテリナル・ジローム・ド・ボアイ」(~8.10死去)
- 1723年2月16日-01:00|フランス| |||フランス王ルイ15世成人宣言とともに自らの統治(親政)を開始、「摂政制」廃止
- 1723年2月16日 00:00|セントヘレナ/イギリス| |||<死去>イギリス領セントヘレナ総督「エドワード・ジョーンソン」
- 1723年2月16日 00:00|セントヘレナ/イギリス| |||<就任>イギリス領セントヘレナ総督代理「エドワード・バウフィールド」(1期目~5.28)
- 1723年2月19日-09:00|日本|大阪府大阪市|享保8年1月15日|<就任>大坂城代「酒井忠音」(~享保13(1728年10月7日))
- 1723年3月8日-09:00|日本|京都府京丹後市|享保8年2月2日|<死去>丹後峰山藩11100石「京極高之」(46歳)⇒婿養子「京極高長」が継ぐ(⇒明和2(1765)年8月8日、隠居)
- 1723年3月13日-09:00|日本|埼玉県深谷市|享保8年2月7日|<死去>武蔵岡部藩20250石「安部信賢」(39歳)⇒長男「安部信平」が継ぐ(⇒寛延3(1750)年4月5日、死去)
- 1723年3月13日-09:00|日本|山形県東根市|享保8年2月7日|前年に出された質地流禁止令をめぐって出羽国村山郡長瀬村の農民が騒動を起こす(長瀬質地一揆)/山形藩と新庄藩がこれを鎮圧
- 1723年3月16日-04:00|マーン| |||<死去>マーン王朝イマム「ヤアファ・イブン・ヒラファ」
- 1723年3月21日 04:30|ベネチア/スペイン| |||<就任>スペイン領ベネチア総督「Miguel Andres de Ascanio y Tovar + Juan Blanco Infante(2期目)」(~11月)
- 1723年3月23日-09:00|日本|大阪府大阪市|享保8年2月17日|<初演>初代竹田出雲、文耕堂「大塔宮曦鏡」人形浄瑠璃、竹本座
- 1723年3月25日-01:00|フランス| |||<死去>グエルトンベルク=メンベルク公「レオポルト・エーハート」
- 1723年3月25日-01:00|フランス| |||<即位>グエルトンベルク=メンベルク公「エーハート・ルートヴィヒ」(~17331031死去)
- 1723年3月26日-09:00|日本|東京都|享保8年2月20日|江戸幕府が心中者の弔いを禁止、生き残りは殺人罪
- 1723年3月29日-09:00|日本|東京都|享保8年2月23日|幕府、心中物の上演と、絵草紙の発行禁止
- 1723年3月31日 00:00|イギリス| |||<死去>3代クラレンドン伯「エドワード・ハイド」
- 1723年3月31日 00:00|イギリス| |||<就任>4代クラレンドン伯・2代ロチェスター伯「ヘンリー・ハイド」(~17531210死去断絶)
- 1723年3月31日-09:00|日本|東京都|享保8年2月25日|江戸幕府が葵紋の品の販売を禁止
- 1723年4月 00:00|セネガル/フランス| |||<就任>東インド会社セネガル局長「ジュリアン・テューベレー」(~1725年)
- 1723年4月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「ジュゼッペ・オノフリ」「トマソ・フィッコリ」
- 1723年4月9日-09:00|日本|岡山県倉敷市|享保8年3月5日|<交替>備中岡田藩10343石「伊東長救」隠居⇒長男「伊東長丘」が継ぐ(⇒宝暦13(1763)年9月16日、隠居)
- 1723年5月-04:00|ジョージア| |||<即位>カトリ王「コンスタンチン3世」カティ王(~6月)
- 1723年5月4日-09:00|日本| ||享保8年3月30日|幕府が諸国の戸口調査を子年・午年の6年ごとに実施することを定める
- 1723年5月5日-08:00|中国| ||清・雍正1年4月|清が山西・陝西の楽戸の関を除き、以後浙江の墮民、広東の蜒民など解放令
- 1723年5月5日-09:00|日本| ||享保8年4月1日|華美に傾く大風造りを禁止/この頃、風遊びが大人の遊びとなって盛んになる
- 1723年5月8日-09:00|日本|新潟県|享保8年4月4日|第二次頸城質地騒動、菖蒲村より起こる
- 1723年5月17日 00:00|ガーナ/オランダ| |||<死去>オランダ領ゴールドコースト総裁「アブラハム・ハウトマン」
- 1723年5月17日 00:00|ガーナ/オランダ| |||<就任>オランダ領ゴールドコースト大統領「マテウス・デ・クレーネ」(~12.14)
- 1723年5月21日-09:00|日本| ||享保8年4月17日|<死去>三上千那(73歳)浄土真宗の僧、俳人

1740迄 (2954件)

- 1723年5月25日-09:00|日本|東京都千代田区|享保8年4月21日|<就任>老中「松平乗邑」(~延享2年10月9日)
- 1723年5月25日-09:00|日本|福島県会津若松市|享保8年4月21日|<会津若松享保8年の大火>桂林寺町の湯屋(風呂屋)忠兵衛の風呂釜の火が外にもれて同家を炎上させ、折りからの戌亥(北西)の烈風にあおられて次々と火の粉が飛び散り延焼/城下で、下は七日町の常光寺の近所まで焼け、上は桂林寺町、老町、北小路町、針屋町、大町、一の町と、ほとんどに延焼。特に六ノ丁は全焼、五ノ丁北頬下は1軒が残るだけ、南頬大町通西角より東は全焼、興徳寺前も全焼、馬場町口両頬は3軒残り、四ノ丁北頬大町通りより三日町口までは中程で2軒残った/北頬上の長屋門と塀は2軒焼失、大町口御門ならびに番所は共に焼け、牢屋五ノ丁御蔵屋敷の内、蔵番の居所4か所と甲賀町口御門ならびに番所2か所、外繁六日町口御門ならびに番所、三日町口番所など郭内(城内)の建物はつごう49軒焼失、ほか2軒半焼/土手外の奉公人屋敷(侍屋敷)65軒、内鉄砲細工所1か所、郭内外の奉公人屋敷122軒、町家112軒、神社2か所、寺4か所が焼失したほか宿屋敷大町の火の見櫓も焼失
- 1723年5月27日 00:00|イギリス| |||<死去>レノックス公・リッチモンド公・マチ伯・ダーンリー伯「チャールズ・レノックス」
- 1723年5月27日 00:00|イギリス| |||<就任>リッチモンド公・レノックス公・マチ伯・ダーンリー伯「チャールズ・レノックス」先代の子(~17500808死去)
- 1723年5月27日-09:00|日本|岐阜県大垣市|享保8年4月23日|<交替>美濃大垣藩10万石「戸田氏定」隠居⇒次男「戸田氏長」が継ぐ(⇒享保20(1735)年8月10日、49歳で死去)
- 1723年5月28日 00:00|セントヘレナ/イギリス| |||<就任>イギリス領セントヘレナ総督「ジョン・スミス」(~17270226)
- 1723年6月-04:00|ジョージア| |||<即位>カトリ王「ハカリ3世」(2回目~1724年7月)
- 1723年6月-04:00|ジョージア/トルコ| |||カトリはオスマン帝国の家臣(~1727年)
- 1723年6月 04:00|ゲアドルプ/フランス| |||<就任>マリ・ガラン知事「Ravary」(~1724年死去)
- 1723年6月3日-09:00|日本|京都府京都市伏見区|享保8年5月1日|<移封>下総佐倉藩102000石「稲葉正知」⇒山城淀藩102000石(⇒享保14(1729)年5月29日、45歳で死去)
- 1723年6月3日-09:00|日本|千葉県佐倉市|享保8年5月1日|<移封>山城国淀藩6万石「松平乗邑」⇒下総国佐倉藩6万石(⇒延享2(1745)年、1万石加増され7万石)
- 1723年6月8日-09:00|日本|石川県金沢市|享保8年5月6日|<交替>加賀藩102万5千石「前田綱紀」隠居⇒四男の「前田吉徳」が継ぐ(~延享2年6月12日(17450711)、死去)
- 1723年6月11日-05:30|スリランカ/オランダ| |||<死去>オランダ領セイロン総督「アイザック・アウグスティン・ルンブフ」
- 1723年6月11日-05:30|スリランカ/オランダ| |||<就任>オランダ領セイロン総督代理「アールト・モル」(~17240112)
- 1723年6月12日-09:00|日本|長野県松本市|享保8年5月10日|<死去>信濃松本藩7万石「水野忠幹」(25歳)⇒弟「水野忠恒」が継ぐ(⇒享保10(1725)年7月28日、不祥事により改易)
- 1723年6月16日-04:00|オマン| |||<即位>ヤールハ王朝イム「サイフ・イブン・スルタン2世」(第3治世~1724年9月)
- 1723年7月1日-09:00|日本|宮崎県宮崎市|享保8年5月29日|<交替>日向国佐土原藩27000石「島津惟久」隠居⇒三男「島津忠雅」が継ぐ(⇒宝暦3年12月11日(17540104)、隠居)
- 1723年7月8日-09:00|日本|東京都|享保8年6月7日|江戸町奉行、江戸中心地の町家の屋根や家屋の防火構造命じる/内容は屋根を土塗りにすることで地域は北は神田川にそって両国橋際から筋違橋御門まで、南は日本橋川にそって永代橋際から江戸橋まで、西はほぼ現在の中央通りから東が隅田川河畔までの範囲/期限は3年以内に実施
- 1723年7月10日-04:00|アゼルバイジャン/ロシア| |||バクーをロシアが占領(⇒9.12併合~17350310)
- 1723年7月13日-05:30|インド/ポルトガル| |||<就任>ポルトガル領インド総督「クリストヴァン・デ・メロ」(~同年)
- 1723年7月19日-09:00|日本| |||享保8年6月18日|徳川吉宗が人材登用のための「足高の制」を制定
- 1723年7月25日 00:00|フェロ諸島| |||<就任>フェロ諸島領土執行使「Jorgen Frantz Hammershaimb」(~17650629死去)
- 1723年7月26日 00:00|イギリス| |||<死去>アンカスター=ケステイヴァン公・初代リンジー侯「ロバート・パーティ」
- 1723年7月26日 00:00|イギリス| |||<就任>2代アンカスター=ケステイヴァン公・第5代リンジー伯「ペレグリン・パーティ」(~17420101死去)
- 1723年7月30日 04:00|BES諸島/オランダ| |||<死去>ボネール暫定司令官「Pieter Scholten」
- 1723年7月30日 04:00|BES諸島/オランダ| |||<就任>ボネール暫定司令官「Jan Hendrik Geerkens」(⇒1729年司令官~1738年死去)
- 1723年8月1日-09:00|日本|京都府京都市|享保8年7月|<初演>歌舞伎「大塔宮曦鏡」京都荻野八重桐座
- 1723年8月10日-01:00|フランス| |||<死去>フランス王国首席大臣「カテリナル・ジロム・ド・カトリス」
- 1723年8月10日-01:00|フランス| |||<就任>フランス王国首席大臣「オルアン公フェリペ2世」(~12.2死去)
- 1723年8月14日-09:00|日本|静岡県浜松市|享保8年7月14日|<死去>遠江浜松藩7万石「松平資俊」(64歳)⇒義弟「松平資訓」が継ぐ(⇒享保14(1729)年2月15日、三河吉田藩7万石に移封)
- 1723年8月23日-04:00|レニオン/フランス| |||<就任>ブルボン島司令官「Antoine Labbe dit Desforges Boucher」(~17251201死去)
- 1723年8月24日 00:00|チャン礼諸島/イギリス| |||<就任>イギリス王領ジャージー島知事「Richard Temple」(~17490914死去)
- 1723年8月31日-08:00|中国| |||清・雍正1年8月|雍正帝が太子密建の法を制定、皇太子をたてず帝が優秀な皇子を密指名
- 1723年9月2日-09:00|日本| |||享保8年8月3日|<死去>水田正秀(67歳)俳人
- 1723年9月8日-09:00|日本| |||享保8年8月9日|<享保8年関東暴風雨>(8日~)「五十里洪水」大雨で五十里湖が増水しその圧力に耐えきれず、せき止め個所が崩壊して、40年間溜まりにたまった大水塊が大洪水となり、川治村、藤原村など沿岸の村々を押し流し、宇都宮まで席捲し、千数百人の人命が失われた

- 1723年9月9日-09:00|日本| ||享保8年8月10日|<享保8年関東暴風雨>江戸は荒川、隅田川沿岸が大洪水、利根川の氾らんで上総国関宿藩が大被害にあい人四、五百人溺死/常陸那珂川の“卯年の洪水”と伝えられている氾らんで、水戸では千波湖の増水で45cmも水が上がり下町一面が水浸しとなり床上浸水が2mになった家々もあった/湊村中嶋の100軒余りの人家が洪水で流され全滅
- 1723年9月12日-03:30|イラン/ロシア| |||ギラン、ザンダーン、アスタラハートがロシアに併合される(~17320201)
- 1723年9月12日-03:00|イラク/ロシア| |||カスピ海地方の一部であるギランをロシアが併合(~1732年6月)
- 1723年9月13日-05:30|インド/ポルトガル| |||<就任>ポルトガル領インド総督「統治委員会:クリストヴァン・デ・メロ(1回目)/フレイグ・ナオ・デ・サンタ・テレサ(1回目)/クリストヴァン・リス・デ・アントニオ」(~17251028)
- 1723年9月14日-09:00|日本|東京都|享保8年8月15日|八代将軍・吉宗・町奉行・大岡越前守による享保の改革の一環で、町奉行を通じて各町名主(町ごとの管理者)に火の見やぐら設置基準が申し渡され、建設が推進された/防災設備面での強化策で、その規格は、まずやぐらの上から2町ほど(約220m)先まで見渡せるように、屋根の棟より9尺(約2.7m)高くすること。町どうしで相談し、見通しのじゃまにならないよう重ならないよう配置すること。火の見やぐらに大型の風鈴を付けておき、風が強く風鈴が鳴れば番人をやぐらに登らせ、風のないときは番人を置く必要はない。番人は二人置き、一人は火の見やぐらに登り、一人は町中に拍子木を鳴らして火の用心を告げる。出火を見つけたとき、木板を打ち鳴らして火事を町中に知らせるとなっている
- 1723年9月16日-09:00|韓国/朝鮮| |||<就任>朝鮮国領議政「崔奎瑞」(~17241108)
- 1723年9月24日-09:00|日本|東京都大田区|享保8年8月25日|吉宗、池上祖師堂を再建
- 1723年9月25日-09:00|日本| ||享保8年8月26日|幕府が前年制定の質地流禁止令を撤回
- 1723年10月-05:30|インド| |||<就任>マダガスカル支配者(マハオ)「ドゥルジャン・サル」(~17560801没)
- 1723年10月-03:00|サウジアラビア| |||<就任>メッカ・シャリフ「ムハラク・ブン・アフマト」(2度目~1724年3月)
- 1723年10月1日-01:00|サマリヤ| |||<就任>サマリヤ共和国執政「ピエトロ・ロリ」「ジヨヴァンニ・マルテリ」
- 1723年10月3日 00:00|マン島/イギリス| |||<就任>マン島知事「John Lloyd」(~1725年)
- 1723年10月6日-05:30|インド/フランス| |||<就任>フランス領インド総督「ケルジャン伯爵 ジョセフ・ボヴァリエ」(~1726年)
- 1723年10月10日-01:00|トイ/イギリス| |||ユリウス暦:1723/9/29|イギリスとプロシヤが、王室の婚姻と相互軍事協力を盛り込んだシャローテンブルク条約を結ぶ
- 1723年10月10日 00:00|イギリス| |||<死去>初代ケーパー伯「ウィリアム・ケーパー」
- 1723年10月10日 00:00|イギリス| |||<就任>2代ケーパー伯「ウィリアム・クレイヴアーリング・ケーパー」(~17640918死去)
- 1723年10月11日-09:00|日本|三重県津市|享保8年9月13日|<交替>伊勢久居藩53000石「藤堂高陳」隠居⇒養子「藤堂高治」が継ぐ(⇒享保13(1728)年6月11日、本家伊勢津藩の家督を継ぐ)
- 1723年10月13日-01:00|イタリア| |||<就任>ジェノヴァ共和国ドージェ「トメスコ・ネグロネ」(~17251013)
- 1723年10月16日-09:00|日本|宮崎県宮崎市|享保8年9月18日|<死去>伊東祐実(80歳)前日向餼肥藩主
- 1723年10月20日 00:00|イギリス| |||<死去>初代ローズベリー伯「アーチボルト・プリムローズ」
- 1723年10月20日 00:00|イギリス| |||<就任>2代ローズベリー伯「ジェイムズ・プリムローズ」(~17551126死去)
- 1723年10月31日-01:00|イタリア| |||<死去>トスカナ大公「コジモ3世・デ・メディチ」
- 1723年10月31日-01:00|イタリア| |||<即位>トスカナ大公「ジャン・ガストーネ・デ・メディチ」コジモ3世の息子(~17370709死去)
- 1723年11月 04:30|ベネチア/スペイン| |||<就任>スペイン領ベネチア総督「Diego de Portales y Meneses」(2期目~17240224)
- 1723年11月12日-01:00|ベルギー| |||<就任>リエージュ大司教「フランソワ・ランベール(大聖堂支部大学部長)」(~17241207)
- 1723年11月27日-09:00|日本|兵庫県赤穂市|享保8年10月30日|<死去>播磨赤穂藩2万石「森長孝」(30歳)⇒養子「森長生」が継ぐ(⇒享保16(1731)年6月26日、死去)
- 1723年12月2日-01:00|フランス| |||<死去>フランス王国首席大臣「オルアン公・ヌール公・モルテン伯フェリペ2世」
- 1723年12月2日-01:00|フランス| |||<就任>ヌール公「ルイ」(~17520204死去)
- 1723年12月2日-01:00|フランス| |||<就任>フランス王国首席大臣(宰相)「ルイ・アンリ・ド・ブルボン＝コンテ」(~17260611)
- 1723年12月6日 05:00|ハイチ/フランス| |||<就任>フランスのサント・ミンゴ総督「ラ・ロシャールの騎士ガスパール・シャルロット・グッセ」(~17311008)
- 1723年12月14日 00:00|ガーナ/オランダ| |||<就任>オランダ領ゴールドコースト総裁「ピーター・ヴァルケニエ」(~17270311)
- 1723年12月19日-09:00|日本| ||享保8年11月22日|肥後・筑後で地震(M6.5)肥後で潰家980、死者2人、筑後、豊後でも潰家
- 1723年12月23日-01:00|フランス| |||<死去>ヴァロア公・オルアン公・モンパンス公「フィリップ2世」49歳/脳溢血で
- 1723年12月23日-01:00|フランス| |||<即位>ヴァロア公・モンパンス公「ルイ・ド・ブルボン＝オルアン」兼オルアン公「ルイ4世」(~17520204死去48歳)
- 1723年12月24日-09:00|日本|奈良県大和郡山市|享保8年11月27日|<死去改易>大和郡山藩5万石「本多忠烈」(8歳)無嗣
- 1723年12月27日-08:00|中国| ||清・雍正1年12月|清朝がキリスト教を禁止し、朝廷に奉仕するものをのぞき宣教師をすべてマカオに追放
- 1723年12月28日-09:00|日本| ||享保8年12月2日|<死去>2代伊藤宗印(69歳)将棋棋士。五世名人
- 1724年-08:00|モンゴル| |||<就任>化身ラマ「ロブサン・タンビトウミ(ジェブツタンパ2世)」(~17580205没)
- 1724年-08:00|マレーシア| |||<就任>ナニング統治者(オランダ・ジャバ・セリ・ラジャ・メラ)「ダト・コカ」(?)
- 1724年-08:00|インドネシア/オランダ| |||<就任>モルッカ諸島オランダ総督「Johan Happon」(~1728年)
- 1724年-08:00|マレーシア| |||<即位>パタニ王国国王「ラジャ・マス・チャム」(~1726年)
- 1724年-08:00|インドネシア| |||<即位>パレンバン・スルタン「Sultan Mahmud Badaruddin1世Jayo Wikramo」(~1757年)
- 1724年-08:00|マレーシア| |||ジョホール朝内でミンカバウとブギス族の勢力抗争がおこる

1740迄 (2954件)

- 1724年-07:00|タイ| |||<即位>ハタニ王国第16代国王「ラジヤ・マス・チャム」(2期目~1726年)
- 1724年-05:30|インド| |||<就任>アンハリア王国統治者(タムル・サーヒブ)「モガジ」(~1773年)
- 1724年-05:30|インド| |||<就任>クルムル国支配者(ナワブ)「アリフ・カン」(~1733年)
- 1724年-05:30|インド| |||<就任>チョク・ナグプール国支配者(ラジヤ)「シヴァ・ナー」(~1733年)
- 1724年-05:30|インド| |||<就任>ムガル帝国カミール総督「イヤット・ウー・カン」(3回目~1725年)
- 1724年-05:30|インド| |||<即位>カラウリ国マハラジャ「コパール・シン」(~1757年没)
- 1724年-05:00|パキスタン| |||<即位>カトゥール朝国王「Shah Afzal 1世」
- 1724年-04:00|アルメニア/トルコ| |||オスマン帝国がエリヴァンを占領併合(~1736年)
- 1724年-04:00|シヨージア/トルコ| |||カティはオスマン帝国の家臣(~1734年)
- 1724年-03:30|イラン| |||<就任>ホーサン大宰相「マフディー・ハーン」(~1726年)
- 1724年-03:30|イラン| |||<即位>ホーサン・シャー「マフムド・シスタニ」(~1726年没)
- 1724年-01:00|オランダ/オーストリア| |||<就任>オーストリア領ネーデルラント総督「マリア・エリーザベト・フォン・エスターライヒ」(~17410826死去)
- 1724年-01:00|ベルギー| |||<就任>リエージュ公「シヨルジュ・ユルイ・ド・ベルジュ」(~17431205死去)
- 1724年-01:00|ナシエリア| |||<即位>オヨ王国アラフィン「オギ」(~1735年)
- 1724年-01:00|フランス| |||パリ株式取引所が開設される
- 1724年 00:00|セカール| |||<就任>ワタト朝統治者(デナンケ・サティギ)「サンバ・サー・サンハ・ラム」⇒「パブ・ムサ」(3回目~1725年頃)
- 1724年 04:00|ヴアドルーフ/フランス| |||<死去>マリ・ガランテ知事「Ravary」
- 1724年 04:00|モントセルト/イギリス| |||<就任>イギリス植民地モントセルト副総督「Paul George」(~1728年死去)
- 1724年 04:00|ヴアドルーフ/フランス| |||<就任>マリ・ガランテ知事代理「Robert Philippe de Longvilliers de Poincy」(1期目~1725年)
- 1724年 04:00|アンギラ/セントクリストファー・ネイビス| |||アンギラは正式にセント・クリストファーの一部になった
- 1724年 05:00|パナマ/スペイン| |||<就任>パナマ暫定総督・大統領「ホセ・アルサモラ・イ・ウルシーノ」(~同年)⇒「マヌエル・デ・アルテ・レ・イ・フランコ」(~1730年)
- 1724年 06:00|エルサルバドル/スペイン| |||<就任>サン・サルバドル、サン・ミゲル、サン・ビセンテ州市長兼副司令官「ペドロ・デ・エチバラス」(~1729年)
- 1724年 06:00|ニカラガ/スペイン| |||<就任>ニカラガ総督「エストラダ・公トマス・マルコス」(1回目~1727年)
- 1724年 06:00|アメリカ/フランス| |||<就任>フランス領ルイジアナ植民地総督「ピエール・デュクエ・ド・ホワリアン」(~1726年)
- 1724年1月12日-05:30|スリランカ/オランダ| |||<就任>オランダ領セイロン総督「ヨハネス・ヘルテンベルク」(~17251019死去)
- 1724年1月14日-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン王国総合官房秘書官「Juan Bautista de Orendain y Azpilicuet a」(~9. 4)
- 1724年1月14日-01:00|スペイン| |||<即位>スペイン国王(ボルボン朝)「ルイス1世」フェリペ5世の息子(~8. 31死去17歳)
- 1724年1月14日-01:00|スペイン| |||<退位>スペイン国王「フェリペ5世」
- 1724年1月26日-09:00|日本|長野県飯山市|享保9年|<加増>信濃飯山藩2万石「本多助芳」⇒35000石(⇒享保10(1725)年4月14日、死去)
- 1724年2月4日-09:00|日本| ||享保9年1月10日|甘藷(サツマイモ)栽培始まる
- 1724年2月7日-09:00|日本|東京都|享保9年1月13日|<死去>英一蝶(73歳、承応1(1652)年生)絵師
- 1724年2月20日 00:00|モリタニア/フランス| |||<就任>フランス領アルギン総督「ルイ・バルテルミー・ド・ラ・モット」(~17270107没)
- 1724年2月20日 00:00|モリタニア/フランス| |||アルギンをフランスが統治(~17280505)
- 1724年2月24日 04:30|ベネチア/スペイン| |||<就任>スペイン領ベネチア総督「Francisco Carlos de Herrera y Ascanio + Ruy Fernandez de Fuenmayor」(~17250101)
- 1724年3月-03:00|サウジアラビア| |||<就任>メッカ・シャリフ「フトゥラ3世・イブン・サイド」(2度目~1731年5月)
- 1724年3月-01:00|ベナン| |||<死去>アラダのフォン王国国王「デ・アジヤ」
- 1724年3月-01:00|ベナン| |||<即位>アラダのフォン王国国王「ミシヨ・マト」(~1742年)
- 1724年3月-01:00|ベナン| |||アラダのフォン王国をダホメが征服
- 1724年3月1日-04:00|ロシア| |||<死去>カラムイク・ハン国ハン「アユカ・カン」
- 1724年3月1日-04:00|ロシア| |||<即位>カラムイク・ハン国ハン代行「ザルコ」(8人の評議会) (~10. 1)
- 1724年3月1日-02:00|モザンビーク/ポルトガル| |||<就任>モザンビーク、ソファラ、リオス・テ・クアマ、モモカバ 総司令官「アントニオ・ジョアン・テ・セケラ・イ・ファリア」(~1726年)
- 1724年3月7日-01:00|バチカン| |||<死去>第244代ローマ教皇「インノケンティウス13世」68歳(誕生16550513)
- 1724年3月7日 01:00|アゾレス諸島/ポルトガル| |||<死去>サンミゲル島トナリオ長官「Jose Rodrigo da Camara」
- 1724年3月7日 01:00|アゾレス諸島/ポルトガル| |||<就任>サンミゲル島トナリオ長官「Jose da Camara Teles」(~17570624 死去)
- 1724年3月9日-01:00|ドイツ| |||<死去>サクセン=ヒルトブルクハウゼン公「エルンスト=フリートリヒ1世」
- 1724年3月9日-01:00|ドイツ| |||<即位>サクセン=ヒルトブルクハウゼン公「エルンスト=フリートリヒ2世」(~17450813死去) 1728年まで母のゾフィー=アルベルトイン=フォン=エルバツハ=エルバツハが摂政を務めた
- 1724年3月10日-09:00|日本|愛知県刈谷市|享保9年2月15日|<交替>三河刈谷藩23000石「三浦明敬」隠居⇒三男「三浦明喬」が継ぐ(⇒享保11(1726)年4月6日、死去)
- 1724年3月19日 00:00|イギリス| |||<死去>初代ロッキンガム伯「ルイス=ワトソン」
- 1724年3月19日 00:00|イギリス| |||<就任>2代ロッキンガム伯「ルイス=ワトソン」(~17451104死去)
- 1724年3月25日-08:00|中国| ||清・雍正2年3月|清軍が青海でロブサン・テンジンの乱を平定し直轄地とする
- 1724年3月27日-09:00|日本|千葉県印旛郡栄町|享保9年3月3日|日寛下総猿島百戸に大乘寺を創す

1740迄 (2954件)

- 1724年4月1日-01:00|サンマリノ | ||<就任>サンマリノ共和国執政「ジョウ・アンニ・パ・オ・ウ・アローニ」「ヒ・アジ・オ・アントニオ・マルテリ」
- 1724年4月4日-09:00|日本|奈良県大和郡山市|享保9年3月11日|<移封>甲斐甲府藩15万1200石「柳沢吉里」⇒大和国郡山藩15万1200石⇒延享2(1745)年9月6日、死去
- 1724年4月7日-01:00|ドイツ | ||ハッハがライプツィヒに着任し「ヨハネ受難曲」初演
- 1724年4月14日 04:00|日本|大阪府大阪市|享保9年3月21日|<大坂最大の享保9年の大火「妙知焼」>屋の九つ半(13時ごろ)、堀江橋通三丁目の金屋治兵衛の祖母・妙知尼宅から出火、炎は阿弥陀池の南北線を西の境界として北は堂島、曾根崎の村はずれまで、家のある限り焦土とした/強風が途中で西風に転じたため、下船場から船場に延焼、北御堂、座摩神社を焼き、北御堂から曾根崎までの炎は、一面に東へと進み、中船場から中之島天満を焦土とし、天満は寺町から川崎まで、ここも家のある限りを焼き尽くし田んぼで焼き止まり、東は備前島相生町まで焼き進んだ/その後、再び風向きが北風になり、南へ炎が進むことになり上町にまで延焼、大坂城代下屋敷、京橋口常番下屋敷、東町奉行所、西町奉行所、破損奉行など諸奉行の屋敷などを残らず焼き払い、上町の町家もほとんど焼き尽くされた/三たび強風が東風に転じ、島之内全域と高津新地から道頓堀の芝居小屋も全焼、そして炎は堀江に戻り、その東側を焦土と化した/炎が大坂の町中を一周、翌日申の刻(16時ごろ)鎮火/大坂城から寺町の区域、南船場と難波新地の西の端及び阿弥陀が池の南北線の西側が残っただけで、全市の7割から8割、430余町、約2万8000戸、世帯数にして9万8700、土蔵2800棟が焼失し、死亡者3万人と伝えられている/このほか浜納屋(町人の経営する倉庫)1544棟、橋77か所、蔵屋敷32か所、寺社144か所(蓮興寺・正福寺など)が焼失、米問屋の米11万1740石、同じく麦8180石、大豆1万3950石が失われ、蔵屋敷では年貢米13万石を失った
- 1724年4月18日-09:00|日本|三重県亀山市|享保9年3月25日|<死去>伊勢亀山藩5万石「板倉重治」(28歳)⇒閏4月、長男「板倉勝澄」が継ぐ(⇒延享元(1744)年3月、備前松山藩に移封)
- 1724年4月22日-09:00|日本|静岡県静岡市清水区|享保9年3月29日|<死去>駿河小島藩1万石「松平信治」(52歳)⇒従弟「松平信嵩」が継ぐ(⇒享保16(1731)年7月27日、22歳で死去)
- 1724年4月27日 00:00|ガーナ/デンマーク | ||<就任>デンマーク領ゴールドコースト長官「ヘンドリック・フォン・スム」(~17270301)
- 1724年4月30日 03:00|日本|鳥取県鳥取市|享保9年4月8日|<鳥取享保9年の大火「黒川火事」>午の上刻(午前12時ごろ)、下台町の黒川祐清宅より出火、炎は丹後町から湯所、智頭海道、古大工町(元大工町)を延焼、鳥取城総構えの内にある商屋の大半が焼き尽くされた/そのほか上(旧袋川上流)の方は古大工町、下(同川下流)の方は内田(湯所内の田んぼ)、川向こう(旧袋川の南方向)は出来薬師(薬師町)までの間が全焼し焦土となった/一時は鳥取城の郭内も危うく丹後町、総門(城の外郭の正門)内にも炎が延び、侍屋敷にも延焼し、翌朝ようやく鎮火/町家34町、家数にして1065軒、かまど数にして2651、侍屋敷111軒、土蔵35棟、寺院2か所、その内1か所は塔頭(子院)まで焼失
- 1724年5月1日 04:00|米領ヴァージン諸島/デンマーク | ||<就任>セント・マス島・セントジョン島総督「Otto Jacob Thambsen」(~9.18死去)
- 1724年5月5日-09:00|日本|神奈川県横浜市神奈川区|享保9年4月13日|陣門日堯武蔵神奈川豊顕寺に三沢檀林を創す
- 1724年5月9日 00:00|アイルランド/イギリス | ||<就任>アイルランド 副卿代行判事「ミルトン子爵アラン・ブロードリック/シャノン子爵リチャード・ボイル/ウィリアム・コノー」(~10.22)
- 1724年5月11日 04:00|トリニダード・トバゴ/トミカ共和国 | ||(~17390820)トリニダード はサント・トミンゴ に従属
- 1724年5月14日 05:00|ペルー/スペイン | ||<就任>ペルー副王「カスルフェル侯爵セルゲ・アルメンダリス・イ・ペレナ・ガレス・ド・ウエチ・イ・ウルキ」(~17360104)
- 1724年5月17日 05:00|コロンビア/スペイン | ||<就任>ヌバグラタ 大統領・総督・総司令官「アントニオ・マンソ・イ・マルトナド」(~17310219)
- 1724年5月17日 05:00|ペルー/コロンビア/エクアドル/ペネエラ/スペイン | ||ヌバグラタ 副王領(コロンビア、エクアドル、ペネエラ)にペルーが一時的に組み込まれた(~17390820)
- 1724年5月18日-01:00|アルジェリア | ||<就任>アルジェのデイ「アブ・デ・イ・カド・アブ・デ・イ」(~1731年没)
- 1724年5月19日-09:00|日本|福井県福井市|享保9年4月27日|<死去>越前福井藩30万石「松平宗昌」(50歳)⇒養子「松平宗矩」が継ぐ(⇒寛延2(1749)年10月21日、死去)
- 1724年5月21日 00:00|イギリス | ||<死去>初代オックスフォード 伯=モティマー伯「ロバート・ハーレー」
- 1724年5月21日 00:00|イギリス | ||<就任>2代オックスフォード 伯=モティマー伯「エドワード・ハーレー」(~17410616死去)
- 1724年5月29日-01:00|バチカン | ||<就任>第245代ローマ教皇「ベネディクトゥス13世」(~17300221死去)
- 1724年6月6日-01:00|バチカン | ||<就任>バチカン枢機卿國務長官「ファブリツィオ・パオルッチ」(2度目~17260621)
- 1724年6月18日-09:00|日本|愛知県西尾市|享保9年閏4月27日|<死去>三河西尾藩23000石「土井利意」(61歳)⇒養子「土井利庸」が継ぐ(⇒享保19(1734)年4月20日、死去)
- 1724年6月19日-09:00|日本|新潟県新発田市|享保9年閏4月28日|<移封>甲府新田藩1万石「柳沢時睦」⇒越後三日市藩(⇒6月、隠居)
- 1724年6月19日-09:00|日本|新潟県胎内市|享保9年閏4月28日|<移封>甲府新田藩1万石「柳沢経隆」⇒越後黒川藩1万石(⇒翌年8月23日、32歳で死去)
- 1724年6月21日-09:00|日本|大阪大学|享保9年5月|尼崎町1丁目の富永芳春の隠居屋敷跡に富永ら豪商5人が商いの哲学を学ぶために出資「懐徳堂」創立
- 1724年6月23日-04:00|ロシア/トルコ | ||ロシア暦6月12日|ロシアとオスマン帝国の間にイスタンブール条約が結ばれ、ペルシャ分割の合意が成立
- 1724年6月24日-05:30|インド | ||<死去>ジョージ・ポル国マハラジャ「アジット・シン」
- 1724年6月24日-05:30|インド | ||<即位>ジョージ・ポル国マハラジャ「アハ・イ・シン」(~17490618没)
- 1724年6月29日-09:00|日本|石川県|享保9年5月9日|<死去>前田綱紀(82歳)前加賀藩主

1740迄 (2954件)

- 1724年6月30日 05:00|日本|京都府京都市|享保9年5月10日|四条通北の芝居小屋より出火、6座全焼、286軒焼亡
- 1724年7月-04:00|ジョージア| |||<即位>カトリ王「イセ(モスタファ・パシヤ)」(2回目~1727年)
- 1724年7月-01:00|フランス| |||フランス「王令」で、健全な「乞食」は15日以内に職に就くこととされ、再度乞食をした者、身体障害者を装って乞食をした者は5年間に船で奴隷のような漕ぎ手として服役する「漕役刑」に処す、とされる
- 1724年7月3日 05:00|日本|愛知県名古屋市|享保9年5月13日|<名古屋享保9年の大火>昼、八つ時(14時ごろ)、祢宜町の善左衛門の貸し家、いさば屋長右衛門方から出火、東は伏見町、南は葭町下と広井八幡社、そこから北は片端まで、西は広井から納屋町、船入町、大船町、塩町、小船町、堀江町、堀詰町にいたるまで、およそ幅6町(650m)、長さ15、6町(1.6~1.7km)137町が焼失/翌日寅の刻(午前4時ごろ)鎮火/国方(武家屋敷)935軒、鍵数(世帯数)にして2462、町方(町屋)871軒、鍵数にして1490、合計1806軒、鍵数にして3952、寺は雲門寺、光明院、信行院など13か所、神社は浅間社、神明社など5か所を焼失/主な焼失建物は、家老の成瀬隼人正、志水甲斐守、阿部河内守、中村友蔵、沢井織部正、滝川友之助などの蔵屋敷/その他、橋は五条、中橋、伝馬の3か所と小橋7か所/土蔵109棟、木戸26か所。1人死亡
- 1724年7月4日-09:00|日本| ||享保9年5月14日|<死去>初代都一中(75歳)一中節三味線方
- 1724年7月5日-09:00|日本| ||享保9年5月15日|<死去>初代山中平九郎(83歳)歌舞伎役者
- 1724年7月8日-03:00|スウェーデン| |||<即位>フツ・スルタン国スルタン「ハデ・イ4世アブ・シュルク・イブン・スル」(~17620325)
- 1724年7月9日-09:00|日本|群馬県高崎市|享保9年5月19日|<死去>上野吉井藩1万石「松平(鷹司)信清」(36歳)⇒長男「松平信友」が継ぐ(⇒宝暦10(1760)年3月7日、49歳で死去)
- 1724年7月16日 04:00|トミニカ共和国/スペイン| |||<就任>スペイン領サント・ミンゴ 総裁・総司令官「フランソワ・ド・ラ・ロジャ・フェレー」(~1732年)
- 1724年7月20日-08:00|中国| ||清・雍正2年6月|清が井田200余項を設置し、無産の旗人に耕作させる
- 1724年7月23日-09:00|日本|東京都江東区|享保9年6月4日|江戸三十三間堂通矢「半堂大矢数」で、加藤大助が11、623本(総矢数13、535中)を記録
- 1724年7月26日-09:00|日本| ||享保9年6月7日|<死去>狩野主信(50歳)奥絵師
- 1724年7月27日 00:00|ポルトガル| |||<就任>マテウ総督「Francisco da Costa Freire」(~17270927)
- 1724年7月31日-01:00|フランス| |||<死去>ジョユース公「Louis de Melun」
- 1724年8月-04:30|アフガニスタン/イラン| |||<就任>ヘルシャ・アフガニスタン総督「アッラー・ヤール・カーン・アフダリ」(1回目~17300421)
- 1724年8月2日-09:00|日本|大阪府大阪市|享保9年6月14日|<死去>初代上村吉彌
- 1724年8月3日-09:00|日本|東京都|享保9年6月15日|江戸町奉行大岡忠相が「享保度法律類寄」を編纂して幕府に提出
- 1724年8月10日-09:00|日本|香川県丸亀市|享保9年6月22日|<死去>讃岐丸亀藩51512石「京極高或」(33歳)⇒長男「京極高矩」が継ぐ(⇒宝暦13年9月24日(17631030)、46歳で死去)
- 1724年8月11日-09:00|日本| ||享保9年6月23日|幕府が大名・旗本に儉約令を出し、また商人の妻女の華やかな衣服を禁じる
- 1724年8月19日-09:00|日本|新潟県新発田市|享保9年7月|<交替>越後三日市藩1万石「柳沢時睦」隠居⇒弟「柳沢保経」が継ぐ(⇒宝暦10(1760)年6月6日、死去)
- 1724年8月22日 04:00|ポルトリコ/スペイン| |||<就任>ポルトリコ知事兼提督「Jose Antonio de Mendizabal y Azcue」(~17311011)
- 1724年8月22日-09:00|日本|山梨県甲府市|享保9年7月4日|幕府、甲府勤番を設置
- 1724年8月31日-01:00|スペイン| |||<死去>スペイン国王(ホルク朝)「ルイス1世」17歳
- 1724年8月31日-01:00|スペイン| |||<就任>アストリアス公(スペイン国王の推定相続人)「フェルナド」ルイス1世の弟、後のスペイン王フェルナド6世(~1746年~17590810死去)
- 1724年8月31日-09:00|日本|東京都|享保9年7月13日|江戸の札差組合発足
- 1724年9月-04:00|オスマン| |||<廃位>ヤアリハ王朝イラム「サイフ・イブン・スルタン2世」
- 1724年9月-02:00|シリア/アラブ/トルコ| |||<就任>アレクサ・ワリス(総督)「Kurt Ibrahim Pasha」(~同年)⇒「Hekimoglu Ali Pasha」(1期目~1725年)
- 1724年9月4日-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン王国総合官房秘書官Jose de Grimaldo y Gutierrez de Solorzano(~17251212)
- 1724年9月5日-09:00|日本|大阪府岸和田市|享保9年7月18日|<死去>岡部長泰(75歳)前和泉岸和田藩主
- 1724年9月5日-09:00|日本|富山県富山市|享保9年7月18日|<交替>越中富山藩10万石「前田利興」隠居⇒養子「前田利隆」が継ぐ(⇒延享元(1744)年12月20日、死去)
- 1724年9月6日-01:00|スペイン| |||<再位>スペイン国王(ホルク朝)<復位>フェリペ5世「ルイス1世の父」(~17460709死去62歳)
- 1724年9月8日-02:00|南アフリカ/オランダ| |||<就任>オランダ領ケープ植民地司令官代行(オランダ東インド会社)「ジャント・ラフォントエ」(1度目~17270225)
- 1724年9月8日-09:00|日本|東京都|享保9年7月21日|江戸町奉行は、東海道沿いの繁華街、日本橋通二丁目から南の地区に対し、塗家が家屋の周囲、建物を瓦葺きも含めた、しっくいや土で塗り固めた土蔵造りに改築するよう命じ、それが経済的に不可能な裏店(裏通の家)の場合は葺葺葺きだけでも良しとした
- 1724年9月12日-09:00|日本|大阪府岸和田市|享保9年7月25日|<死去>和泉岸和田藩53000石「岡部長敬」(45歳)⇒長男「岡部長著」が継ぐ(⇒宝暦6(1756)年5月10日、隠居)
- 1724年9月18日 04:00|米領ヴァージン諸島/デンマーク| |||<死去>セント・マス島・セントジョン島総督「Otto Jacob Thambsen」
- 1724年9月19日 04:00|米領ヴァージン諸島/デンマーク| |||<就任>セント・マス島・セントジョン島総督「Frederik Moth」(1期目~

1740迄 (2954件)

17270514)

- 1724年9月20日 06:00|アメリカ/イギリス| |||<死去>コネチカット植民地総督「カートン・ソルトンストール」
- 1724年9月20日 06:00|アメリカ/イギリス| |||<就任>コネチカット植民地総督「ジョセフ・タルコット」(~17411011死去)
- 1724年9月29日 05:00|キューバ/スペイン| |||<就任>スペイン植民地キューバ総督・総司令官「テオフィロ・マルティネス・デ・ラ・ベガ」(~17340318)
- 1724年9月30日-09:00|日本|広島県|享保9年8月14日|広島・福山領共に暴風雨・洪水・高潮, 広島領内全壊家屋55軒, 死者1人
- 1724年10月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「マリノ・エネア・ボネリ」「バルトロメオ・ベッティ」
- 1724年10月1日-09:00|日本| ||享保9年8月15日|<死去>万平(不明)俳人、豪商
- 1724年10月2日-04:00|ロシア| |||<即位>カムイウ・ハン国ハン「ツェレン・ドンドック」(17310301まで摂政~17351126)
- 1724年10月2日-04:00|オマーン| |||<即位>ヤアリハ王朝イマム「ムハンマド・イブン・ナスイル」(~1728年3月没)
- 1724年10月4日-09:00|日本|福井県鯖江市|享保9年8月18日|<死去>越前鯖江藩5万石「間部詮言」(35歳)⇒10月11日、甥「間部詮方」が継ぐ(⇒宝暦11(1761)年12月6日、隠居)
- 1724年10月11日-05:30|インド| |||カマルッティーン・ハーンはデカン総督ムハリス・ハーン率いるムガル帝国軍の攻撃を受けた(シャールケダーの戦い)が、巧妙な戦術でムガル帝国軍を完膚なきまでに打ち破り、ムハリス・ハーンを殺害。ニザーム王国創始。<即位>ニザーム王国初代国王ミール「カマルッティーン・ハーン」(~17480601死去)ハイダラーバードを一時的な首都したが、のちに同地からアウランガーバードへと移動
- 1724年10月11日-09:00|韓国/朝鮮| ||朝鮮・雍正2年8月25日|<死去>李氏朝鮮国王「景宗」
- 1724年10月16日-02:00|ウクライナ| |||<即位>クリミア汗国ハン「メンク・リ2世ギレイ」(1期目~17301023)
- 1724年10月16日-09:00|韓国/朝鮮| ||朝鮮・雍正2年8月30日|<即位>李氏朝鮮国王「英祖」(~17760422死去)
- 1724年10月22日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド副卿「カタルット男爵ジョン・カタルット」(~17300422)
- 1724年10月25日-09:00|日本|滋賀県甲賀市|享保9年9月9日|<死去>近江水口藩25000石「加藤嘉矩」(32歳)⇒長男「加藤明経」が継ぐ(⇒延享3(1746)年8月28日、死去)
- 1724年11月1日-09:00|日本|群馬県館林市|享保9年9月16日|<死去>上野国館林藩54000石「松平清武」(62歳)⇒養子「松平武雅」が継ぐ(⇒享保13(1728)年7月28日、死去)
- 1724年11月9日-09:00|日本|長崎県長崎市|享保9年9月24日|<死去>天文暦学・経世家, 西川如見(77)
- 1724年11月11日 00:00|イギリス| |||<死去>初代アール公・初代ダリハーン・デイン侯・初代ストラステイ=ストラステール伯「ジョン・マレー」
- 1724年11月14日 00:00|イギリス| |||<就任>2代アール公・2代ティハーン・デイン侯・5代ダリハーン・デイン伯・2代ストラステイ=ストラステール伯「ジェームズ・マレー」初代公の三男(~17640108死去)
- 1724年11月18日-09:00|韓国/朝鮮| |||<就任>朝鮮国領議政「李光佐」(~17250321)
- 1724年11月19日-09:00|日本|愛媛県西条市|享保9年10月4日|<死去>伊予小松藩1万石「一柳頼徳」(59歳)⇒甥「一柳頼邦」が継ぐ(⇒延享元(1744)年7月8日、死去)
- 1724年11月24日-01:00|ドイツ| |||<死去>ザクセン=マイニンゲン公「エルスト・ルトヴイヒ1世」
- 1724年11月24日-01:00|ドイツ| |||<即位>ザクセン=マイニンゲン公「エルスト・ルトヴイヒ2世」(~17290224死去)
- 1724年12月-01:00|ベルギー| |||<就任>リンブルク総督代行「ウイリッヒ・フィリップ・ローレンツ・グラーフ・ダウ」(~17251009)
- 1724年12月2日 06:00|グアテマラ/スペイン| |||<就任>スペイン領グアテマラ総督・総司令官・大統領「アントニオ・バドローニ・デ・イェハース・イスグイザ」(~17330711没)
- 1724年12月7日-05:30|インド| |||ハイダラーバードがハイデラーバード国の首都になる
- 1724年12月7日-01:00|ベルギー| |||<就任>レジュー大司教「ジョルジュ2世ルイト・ベルジュ」(~17431205没)
- 1724年12月14日-09:00|日本|千葉県香取市|享保9年10月29日|<交替>下野鹿沼藩13000石「内田正偏」狂気により妻女を傷つけてしまった罪を問われ蟄居処分⇒長男「内田正親」が継ぎ下総小見川藩1万石に減移封(⇒延享3(1746)年5月18日、死去)
- 1724年12月23日-04:00|ロシア| |||ピョートル大帝がベリク探検隊を派遣
- 1725年-08:00|インドネシア/東ティモール/ポルトガル| |||<就任>ティモール知事「アントニオ・モニス・デ・セト」(1期目~1729年)
- 1725年-08:00|マレーシア| |||<就任>レバウ統治者(ウンダニル・クレンバウ)「タトウク・セア・ラジャ・サハト」(~1750年頃)
- 1725年-08:00|インドネシア| |||<即位>シアク初代スルタン「Abdul Jalil Rahmad Shah1世」(~1746年)
- 1725年-08:00|インドネシア| |||<即位>チルボンパネンハーン君主「Panembahan Cirebon2世Muhammad Muhyiddin」(~1731年)
- 1725年-08:00|マレーシア| |||<即位>トレンガヌスルタン「トゥアンク・ザイナル・アビデイン1世・イブニ・アル=マルフム・ベンタハラ・セリ・マハラジャ・トウン・ハビブ・アブドゥル=マジド」建国(~17330307没)
- 1725年-08:00|フィリピン| |||<即位>マギンタナオ王国スルタン「Sultan Muhammad Ja'far Sadiq Manamir」(~1733.3死去)
- 1725年-05:30|インド| |||<就任>ウタカ国ラジャ「コピナトテウア」(~1732年没)
- 1725年-05:30|インド| |||<就任>カムハルサイン国統治者(タナ・サハブ)「アヌフ・シン」(~1755年没)
- 1725年-05:30|インド| |||<就任>サンバルポール国ラジャ「アジット・シン」(~1732年)
- 1725年-05:30|インド| |||<就任>シヤム=国ラジャ「ランゾット・デウ」(~17820404没)
- 1725年-05:30|インド| |||<就任>ソネポール国ラジャ「アチャル・シン・デオ」(~1750年没)
- 1725年-05:30|インド| |||<就任>ハシャル国統治者(ラ)「ラム・シン」(~1761年没)
- 1725年-05:30|インド| |||<就任>ハソリ国ラジャ「メティン・パル」(~1736年没)
- 1725年-05:30|インド| |||<就任>ハンガナハル国統治者(ナワブ)「アタ・カーン」(~1728年没)
- 1725年-05:30|インド| |||<就任>ムガル帝国ガミール総督「カーン・アキダット」(~1727年)
- 1725年-05:30|インド| |||<就任>ラムナト国ラジャ「スンダレスワラ・ラグナタ・セトウパティ」(~1726年)
- 1725年-05:30|インド| |||<即位>シヤム=マハラジャ「ランゾット・デウ」(~17820404)

1740迄 (2954件)

- 1725年-05:00|パキスタン| |||<就任>マラン統治者(ナゼム)「ハルーン・マラン・カーン」カラットの準国家として建国(~1730年)
- 1725年-04:30|アフガニスタン/イラン| |||アフガン族の首長マフムドがサファビ朝の王族を虐殺
- 1725年-04:00|ロシア| |||アクシャ・ダルジヨ、カイタグはロシアの宗主権下(~1735年)
- 1725年-04:00|ロシア| |||タルキはロシアに併合、国家廃止(~1734年)
- 1725年-03:30|イラン| |||<就任>サファヴィ朝大宰相「ゼレ・カーン」(~1727年)
- 1725年-03:00|イラク/トルコ| |||<就任>ハスラ・ワリス「アフマド・ハッシャ」(2回目~1741年)
- 1725年-03:00|カンタール| |||<就任>ブソコウ統治者(オムハイト)「ルイギ1世」建国(~1730年)
- 1725年-03:00|イェメン| |||<即位>カシーラー国サルタン「Amr ibn Badr al-Kathir」(~1760年)
- 1725年-02:00|エジプト/トルコ| |||<就任>オスマン帝国領エジプト・ベイルベグ「Morali Ali Pasha1世」(~1726年)
- 1725年-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||アズム家のイスマイール・ハッシャがダマスカス総督に就任
- 1725年-01:00|マルタ| |||<就任>アンボン島ランダ総督「Stephanus Versluys」(~1727年)
- 1725年-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン領ルノー総督「Manuel Luis de Orleans」(~1731年)
- 1725年-01:00|イタリヤ| |||ウーゴが「新しい諸科学の諸原則」を刊
- 1725年 00:00|セカール/フランス| |||<就任>東インド会社セカール局長「ニコラ・テ・スプレト・サン＝ロベール」(2度目~同年)⇒代行「アルノー・ブルメ」(~1726年)
- 1725年 00:00|トコノボ| |||<就任>ゲニガハ統治者(ワイオ)「アッソホン・タンジエ」(~1745年)
- 1725年 00:00|セカール| |||<就任>フクトーロ統治者(デナンケ・サティギ)「サンバ・シエラ・ジョ・ジ・キ」(1回目~1726年頃)
- 1725年 00:00|サントメ・プリンシペ/ポルトガル| |||<就任>プリンシペ植民地長官「Antonio Franco Portugues」
- 1725年 00:00|イギリス| |||フラムステートが「恒星表」を出版
- 1725年 03:00|ブラジル| |||マトグロソに続きゴイアスにも金鉱が発見される
- 1725年 04:00|グアドループ/フランス| |||<就任>マリ・ガランテ知事代理「La Chassagne」(~1726年)
- 1725年 04:00|ポルトガル/スペイン| |||<就任>ラ・プラタ・デ・ロス・チャルカス聴問庁長官「ガブリエル・アントニオ・デ・マティエンソ」⇒「フランスコ・デ・エル・ソ・イール」(~1733年没)
- 1725年 06:00|アメリカ| |||ブラッドフォード、ニューヨークで最初の新聞「ニューヨーク・ガゼット」を発行
- 1725年1月1日 04:30|ベネチア/スペイン| |||<就任>スペイン領ベネチア総督「Geronimo de Rada Sifuentes y Escobar + Miguel Rengifo Pimentel」(~17260625)
- 1725年1月4日 01:00|カボベルデ/ポルトガル| |||<就任>カボベルデ総督「ジョン・ペレイラ・デ・カヴァーリョ」(商工会議所上院議長)「セバスチャン・デ・ブラホー・ホテリョ」(~17260124)
- 1725年1月6日 05:00|ペルー| |||ペルー、トルヒーヨ・アンカシュで地震(マグニチュード7.8)死者1500人
- 1725年1月6日-09:00|日本|大阪府大阪市|享保9年11月22日|<死去>近松門左衛門(72歳、承応2(1653)年生)人形浄瑠璃・歌舞伎作家
- 1725年1月8日-08:00|中国| |||雲南、宣良・嵩明で地震/M6.8、死者600~900人
- 1725年1月11日-09:00|日本|東京都中央区|享保9年11月27日|芝居茶屋丸屋宅より出火、中村座、市村座焼失
- 1725年1月13日-09:00|日本|和歌山県田辺市|享保9年11月29日|<死去>紀伊田辺藩38000石(紀州藩附家老)「安藤陳定」(8歳)⇒翌年5月12日、養子「安藤雄能」が継ぐ(⇒享保15(1730)年3月30日、16歳で死去)
- 1725年1月16日-09:00|日本|奈良県天理市|享保9年12月3日|<交替>大和柳本藩1万石「織田成純」隠居⇒甥「織田秀行」が継ぐ(⇒享保11(1726)年6月18日、死去)
- 1725年1月18日 00:00|イギリス| |||<死去>初代チャムリー伯「ヒュー・チャムリー」
- 1725年1月18日 00:00|イギリス| |||<就任>2代チャムリー伯「ジョン・チャムリー」(~17330507死去)
- 1725年1月27日 00:00|イギリス| |||<死去>5代ダント・ハルト伯「ウィリアム・コラン」
- 1725年1月27日 00:00|イギリス| |||<就任>6代ダント・ハルト伯「トマス・コラン」先代の従兄弟(~17370529死去)
- 1725年1月28日-09:00|日本|東京都千代田区|享保9年12月15日|<就任>老中「松平忠周」(~享保13年5月1日)
- 1725年1月28日-09:00|日本|京都府京都市|享保9年12月15日|<就任>京都所司代「牧野英成」(⇒1734(享保19年6月6日))
- 1725年2月8日-04:00|ロシア| |||ロシア暦1月28日|<死去>ロシア帝国「ピョートル大帝」/52歳(誕生16720609)
- 1725年2月8日-04:00|ロシア| |||ロシア暦1月28日|<即位>ロシア帝国皇帝「エカテリナ1世」ピョートル大帝の皇后(~17270517没)
- 1725年3月9日-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||<就任>ダマスカス・ワリス(総督)「Azamzade Ismail Pasha」(~1730.11)
- 1725年3月28日 04:00|日本|東京都|享保10年2月14日|<江戸青山享保10年久保町放火による大火>午の下刻(13時ごろ)、青山久保町の持法寺の番小屋の陰から、近くの町家の屋根へ火を投げた男がいた、瞬く間に甲賀町あたりへ延焼し、千駄ヶ谷権田原、四谷大番町から大木戸まで延焼/ひとつは四谷仲町の食違御門の外から四谷御門の外、本村市ヶ谷田町三丁目まで延焼/今ひとつは尾張中納言上屋敷を焼いて、市ヶ谷八幡社から加賀屋敷あたり、大久保から川田窪、山伏町、高田下町、早稲田、大塚音羽町、牛込、小日向、津久戸、伝通院、水戸宰相の上屋敷と次々と延焼/その後、牛込天神から小石川白山、本郷追分、駒込、谷中まですべて焼き尽くし戌の刻(20時頃)鎮火/被害は小普請組など侍屋敷、大名屋敷、寺社、町家締めて888軒
- 1725年3月29日-09:00|日本|秋田県|享保10年2月15日|<死去>佐竹義都(61歳)前出羽久保田新田藩主
- 1725年4月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「ジャン・ジャコモ・アンジェリ」「ロレンツォ・ジャンギ」
- 1725年4月1日-09:00|日本|新潟県村上市|享保10年2月18日|<交替>越後村上藩5万石「内藤弑信」隠居⇒弟「内藤信輝」が継ぐ(⇒10月25日、死去)
- 1725年4月4日-10:00|グアム/北マリアナ諸島/スペイン| |||<就任>マリアナ諸島知事代理「Juan de Ojeda」(~9.28)
- 1725年4月5日-09:00|日本|東京都中央区|享保10年2月22日|幕府が永代築地の6万坪をふたたび塵芥捨て場とし、塵芥の河川投棄を厳禁
- 1725年4月6日-09:00|日本| |||享保10年2月23日|<死去>河瀬菅雄(79歳)歌人

1740迄 (2954件)

- 1725年4月8日 04:00|日本|富山県氷見市|享保10年2月25日|<越中氷見享保10年の大火>巳の刻(午前10時ごろ)、上伊勢町の鍛冶職四郎三郎の細工場の火が飛び散り、出火/炎は細工場から居宅へと燃え移り、近隣の家々を焼き尽くし、土蔵をなめ、寺を焼いた/焼失した被害は、町家1000軒余、寺方御坊6か所、寺方塔頭(脇寺)や御坊寺家6軒、御蔵(加賀藩の収蔵庫)1棟、町屋土蔵1棟、納屋200軒、高礼場1か所、船4艘、米2203石、雑穀175表、夏網漁道具12流分、肥料にする乾しか鯛など俵もの1万4693俵など
- 1725年4月16日-09:00|日本|佐賀県佐賀市|享保10年3月4日|佐賀城が炎上、本丸・天守・二の丸が焼失
- 1725年4月17日-09:00|日本|岡山県新見市|享保10年3月5日|<交替>備中新見藩18000石「関長治」隠居⇒甥「関長広」が継ぐ(⇒享保17(1732)年5月4日、死去)
- 1725年4月22日-04:30|アフガニスタン/イラン| |||<死去>ホーギー朝アミール・サファヴィー朝篡奪君主「マフムト・ホーギー」
- 1725年4月22日-04:30|アフガニスタン/イラン| |||<即位>ホーギー朝アミール・サファヴィー朝篡奪君主「アシュラフ・ギルザイ」(~1729年)
- 1725年4月22日-09:00|日本|愛知県刈谷市|享保10年3月10日|<死去>三浦明敬(68歳)前三河刈谷藩主
- 1725年4月23日-09:00|日本|新潟県|享保10年3月11日|高田藩、質地騒動者のうち5人を磔、10人を獄門・晒首とするなどの判決を下す
- 1725年4月25日-01:00|アンゴラ/ポルトガル| |||<就任>ポルトガル領西アフリカ総督代行「ホセ・カルヴァリョ・ダ・コスタ」(~17260507)
- 1725年4月26日-03:30|イラン| |||<即位>カズィ朝シャー「アシュラフ」(~17291113)
- 1725年4月29日 04:00|パラグアイ/スペイン| |||<就任>パラグアイ総督「ブルノ・マウリシオ・デ・ザハラ」(1回目~5.4)
- 1725年4月30日-01:00|オーストリア/スペイン| |||スペインのフェリペ5世とオーストリアのカル6世の間にウィーン条約が締結され、互いに国土拡張を行わないことを確約
- 1725年5月4日 04:00|パラグアイ/スペイン| |||<就任>パラグアイ総督「マルティン・デ・バル」(~17301228)
- 1725年5月6日-09:00|日本| ||享保10年3月24日|幕府大判金を改鋳
- 1725年5月7日 06:00|アメリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領サウスカロライナ植民地総督「アーサー・ミッドルトン」(~1730.12)
- 1725年5月8日-09:00|日本|群馬県沼田市|享保10年3月26日|<死去>上野沼田藩3万石「黒田直邦」⇒養子「黒田直純」が継ぐ(⇒寛保2(1742)年7月28日、上総国久留里藩に移封)
- 1725年5月12日-08:00|中国| ||清・雍正3年4月|清がミャオ族の集居する雲南威遠土州に流官を設置、以後、改土帰流が増加
- 1725年5月25日-09:00|日本|長野県飯山市|享保10年4月14日|<死去>信濃飯山藩35000石「本多助芳」(63歳)⇒6月9日、三男「本多康明」(⇒享保15(1730)年8月10日、死去)
- 1725年5月30日-09:00|日本| ||享保10年4月19日|<死去>秋色女(57歳)俳人
- 1725年5月31日-09:00|日本|広島県広島市|享保10年4月20日|<死去>味木立軒(76)広島藩儒者
- 1725年6月1日-07:00|ベトナム| ||大越黎朝・保泰6年4月21日|<死去>広南国主「明主」
- 1725年6月1日-07:00|ベトナム| ||大越黎朝・保泰6年4月21日|<即位>広南国主「寧王・阮福チュウ」(~17380607死去)
- 1725年6月3日-09:00|韓国/朝鮮| |||<就任>朝鮮国領議政「鄭弼」(~17270603)
- 1725年6月8日-09:00|日本|佐賀県佐賀市|享保10年4月28日|<死去>鍋島直之(83歳)前肥前蓮池藩主
- 1725年6月29日-09:00|日本|東京都渋谷区|享保10年5月19日|<死去>新井白石(69歳、明暦3(1657)0210生)朱子学派の儒者
- 1725年7月-04:00|モリシャス/フランス| |||<就任>マリアン島(フランスがロドリアス島を再占領し命名)司令官「アイザック・ジャン・ロイヤエト・ラウエルニ」(~同年)⇒「セザール・アントワヌ・ボナールド・マンガルト」(~同年)
- 1725年7月8日-08:00|インドネシア/オランダ| |||<就任>オランダ領東インド総督「Matthaeus de Haan」(~17290601死去)
- 1725年7月12日-01:00|フランス| |||パリでパン屋の店が数時間にわたって掠奪され、これを鎮圧するため出動した軍隊によって群衆に多数の死者がでる
- 1725年7月13日-09:00|日本|岩手県盛岡市|享保10年6月4日|<死去>陸奥盛岡藩10万石「南部利幹」(37歳)⇒7月21日、甥「南部利視」が継ぐ(⇒宝暦2年3月28日(17520511)、死去)
- 1725年7月27日-09:00|日本|茨城県古河市|享保10年6月18日|<死去>松平信輝(66歳)前下総古河藩主
- 1725年8月-03:30|イラン/トルコ| |||「タブラーズ、ルスタン、ケルマーンシャー」をオスマン帝国が占領(~1730年7月)
- 1725年8月4日-09:00|日本| ||享保10年6月26日|<死去>孝子内親王(礼成門院)(75歳)後光明天皇の皇女
- 1725年8月6日-09:00|日本|福岡県北九州市|享保10年6月28日|<死去>豊前小倉藩15万石「小笠原忠雄」(79歳)⇒嫡男「小笠原忠基」が継ぐ(⇒宝暦2(1752)年2月5日、死去)
- 1725年8月11日-09:00|日本|徳島県|享保10年7月4日|<廃藩>阿波富田藩5万石「蜂須賀宗員」宗家「蜂須賀綱矩」嗣子となる/宗家に吸収
- 1725年8月12日-09:00|日本| ||享保10年7月5日|幕府が目安箱への投書を農民・商人・浪人に限り、御家人の投書を禁じる
- 1725年8月15日-01:00|フランス| |||「ポランド」王女マリア・レチツカ(22)がフランス国王ルイ15世と結婚
- 1725年8月18日-09:00|日本|静岡県富士宮市|享保10年7月11日|<再建>重須本門寺客殿
- 1725年8月27日-09:00|日本| ||享保10年7月20日|<死去>初代十寸見河東(42歳)河東節家元
- 1725年9月3日-09:00|日本|岐阜県山県市|享保10年7月27日|<死去>美濃高富藩1万石「本庄道章」(43歳)⇒長男「本庄道矩」が継ぐ(⇒延享2(1745)年9月8日、37歳で死去)
- 1725年9月3日-01:00|フランス/ドイツ/イギリス| |||ユリウス暦:1725/8/23|スペインとオーストリアのウィーン条約に対抗して、プロシヤ、イギリス、フランスがハノーファー同盟を結ぶ
- 1725年9月4日-09:00|日本|東京都千代田区|享保10年7月28日|江戸城本丸の大廊下で松本藩主の水野忠恒が毛利師就に斬りつけ殺害
- 1725年9月4日-09:00|日本|長野県松本市|享保10年7月28日|<改易>信濃松本藩7万石「水野忠恒」発狂・刃傷事件を起こし切腹/8月27日叔父の水野忠毅に7千石安堵

1740迄 (2954件)

- 1725年9月9日-01:00|イタリヤ| |||<即位>トレント司教公「Giovanni Benedetto Gentilotti」(~17250920)
- 1725年9月14日 00:00|マン島/イギリス| |||<就任>マン島知事「Thomas J. Horton」(~1736年)
- 1725年9月15日-01:00|フランス| |||フランス王ルイ15世、7歳年上の前ホーランド王スタニスワフ1世シチニスキの娘マリ・レクザンスカ(ルイ・フェルデナン・フランスの母、ルイ16世、ルイ18世、シャルル10世の祖母)と結婚
- 1725年9月28日-10:00|ケアン/北マリアナ諸島/スペイン| |||<就任>マリアナ諸島知事「Manuel Arguelles y Valdes」(2期目~17300212)
- 1725年9月29日-09:00|日本|新潟県胎内市|享保10年8月23日|<死去>越後黒川藩1万石「柳沢経隆」(32歳)⇒養子「柳沢里濟」が継ぐ(⇒享保20(1735)年11月2日、27歳で死去)
- 1725年9月30日-02:00|エジプト/トルコ| |||<退任>オスマン帝国領エジプト総督「ニヤンチ・メフメト・パシャ」
- 1725年9月30日-09:00|日本|大分県大分市|享保10年8月24日|<死去>豊後府内藩22200石「松平近禎」(61歳)⇒甥「松平近貞」が継ぐ(⇒延享2(1745)年9月18日、隠居)
- 1725年9月30日-09:00|日本|高知県高知市|享保10年8月24日|<死去>土佐藩20万2600石「山内豊常」⇒養子「山内豊敷」が継ぐ(~明和4年11月19日(17680108)、死去)
- 1725年10月-02:00|シリア/アラブ/トルコ| |||<就任>アレクサンドリア(総督)「Bosnak Mehmed Pasha」(~1727.1)
- 1725年10月1日-02:00|エジプト/トルコ| |||<就任>オスマン帝国領エジプト総督「モラル・アリ・パシャ」(~1726年2月)
- 1725年10月1日-01:00|サマリヤ| |||<就任>サマリヤ共和国執政「フェデリコ・ゴジ」 「マリノ・ベニ」
- 1725年10月7日-09:00|日本|高知県|享保10年9月2日|<死去>土佐藩主「山内豊常」(15歳)⇒妹・長姫の夫で義弟の豊敷が豊常の養子となって跡を継いだ
- 1725年10月8日-09:00|日本|東京都|享保10年9月3日|<死去>江戸の豪商五代奈良屋茂左衛門(31)
- 1725年10月9日-01:00|ベルギー| |||<就任>リンブルク総督「マリア・エリザベート・エルツヘルツォーギン・フォン・オステルライヒ」(~17410826没)
- 1725年10月10日 06:00|カナダ/フランス/アメリカ| |||<死去>フランス領ヌーヴェル・フランス総督「フィリップ・ド・リコーク・ウオードレイユ」
- 1725年10月19日-05:30|スリランカ/オランダ| |||<死去>オランダ領セイロン総督「ヨハネス・ヘルテンベルク」
- 1725年10月19日-05:30|スリランカ/オランダ| |||<就任>オランダ領セイロン総督代理「ヤン・ハールス・シャーゲン」(~17260916)
- 1725年10月22日-01:00|イタリヤ| |||<死去>イタリヤの作曲家アルサント・ロ・スカラツティ/65歳(誕生16600502)
- 1725年10月22日 04:00|日本|島根県浜田市|享保10年9月17日|<石見浜田享保10年の大火>紺屋町の小頭屋敷、坪井宇太夫宅より出火し青川口まで延焼/町家1391世帯、穢名(えな:被差別部落の家)18軒、社寺9か所、山伏祈祷所2軒が焼失/寺院では、門前町は全焼したが、真光寺が唯一無事だった
- 1725年10月28日-05:30|インド/ポルトガル| |||<就任>ポルトガル領インド総督「ジョアン・デ・サルダニャ・ダ・ガマ」(~17320123)
- 1725年11月5日-09:00|日本|鳥取県|享保10年10月|<死去>本郷亘(81歳)発明家(地雷や水雷、消火器などを発明)、鳥取藩士
- 1725年11月5日-09:00|日本|新潟県上越市|享保10年10月1日|<死去>越後高田藩113000石「松平定輝」(22歳)⇒叔父「松平定儀」が継ぐ(⇒享保12(1727)年9月25日、死去)
- 1725年11月20日-01:00|ドイツ| |||<死去>ヘッセン＝ローテンブルク方伯「ウイヘルム1世」
- 1725年11月20日-01:00|ドイツ| |||<就任>ヘッセン＝ローテンブルク方伯「エルスト2世オボルト」(~17491129死去)
- 1725年11月22日-09:00|日本|千葉県館山市|享保10年10月18日|<移封>信濃・丹波国内12000石「水野忠定」⇒安房国北条藩12000石(⇒享保18(1733)年6月、丹波国内3000石を加増され15000石)
- 1725年11月22日-09:00|日本|栃木県那須烏山市|享保10年10月18日|<移封>近江国内15000石「大久保常春」⇒下野烏山藩2万石(⇒享保13(1728)年5月15日、1万石加増され3万石)
- 1725年11月22日-09:00|日本|長野県松本市|享保10年10月18日|<移封>志摩鳥羽藩6万石「松平光慈」⇒信濃松本藩6万石(⇒享保17年8月11日(17320929)、死去)
- 1725年11月22日-09:00|日本|三重県鳥羽市|享保10年10月18日|<移封>下野烏山藩3万石「稲垣昭賢」⇒志摩鳥羽藩3万石(⇒宝暦2(1752)年12月29日、55歳で死去)
- 1725年11月26日-01:00|イタリヤ| |||<即位>トレント司教公「Anton Dominik Graf von Wolkenstein」(~17300405)
- 1725年11月29日-09:00|日本|新潟県村上市|享保10年10月25日|<死去>越後村上藩5万石「内藤信輝」(45歳)⇒次男「内藤信興」が継ぐ(⇒宝暦11(1761)年5月25日、隠居)
- 1725年12月-05:30|インド/フランス| |||インド東海岸マヘをフランスが再領有
- 1725年12月-04:00|ロシア| |||ロシア科学アカデミーが開設
- 1725年12月1日-04:00|リュエノン/フランス| |||<死去>ブルボン島司令官「Antoine Labbe dit Desforges Boucher」
- 1725年12月2日-04:00|リュエノン/フランス| |||<就任>ブルボン島司令官「Helie Diore de Perigny」(~17270528)
- 1725年12月8日-09:00|日本|広島修道大学|享保10年11月4日|広島藩5代藩主浅野吉長が藩校「講学所」を創始
- 1725年12月12日-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン王国総合官房秘書官Juan Guillermo Ripperda(~17260414)
- 1725年12月16日-04:00|モリスヤス/フランス| |||<就任>モリスヤス島総督代行「テニスト・ブル」(~17290313)
- 1725年12月24日-09:00|日本|京都府京都市|享保10年11月20日|<死去>鷹司兼熙(67歳)元関白、左大臣
- 1726年-12:00|ウオリス・ツナ| |||<死去>ウアエ王「Atuvaha」
- 1726年-12:00|ウオリス・ツナ| |||<即位>ウアエ王「Fanalua」(~1756年)
- 1726年-08:00|インドネシア| |||<即位>アチェ王国スルタン「Jauhar ul Alam Aminuddin」(~同年死去)⇒「シャムス・アラム」(~1727年)
- 1726年-08:00|マレーシア| |||<即位>パタニ王国国王「ラジヤ・アロン・ユヌ」(~1729年)
- 1726年-08:00|インドネシア| |||<即位>マタラム王国スルタン「ハクワウ2世」(~1749年)
- 1726年-07:00|タイ| |||<即位>パタニ王国第17代国王「アロン・ユヌ」(~17290812)
- 1726年-05:30|インド| |||<就任>ラムナト国ラジヤ「ハバニ・サンカラ」(~1729年)
- 1726年-04:00|アゼルバイジャン/ロシア| |||<就任>カバ・ハン「フサイン・アリ・ハン」ロシアによって任命(~1734年)

1740迄 (2954件)

- 1726年-04:00|ジョージア| |||<就任>ゲリア公「マミア4世」(~1756年)
1726年-04:00|アゼルバイジャン/ロシア| |||ジヤトをロシアが統治(~1735年)
1726年-04:00|アゼルバイジャン/ロシア| |||ナフパンをはロシアが統治(~1734年)
1726年-03:30|イラン| |||<廢位>ホーサン・シャー「マフムド・キヤニ」タマース2世によって追放される
1726年-03:00|ウガンダ| |||<就任>ブシ統治者(オカマ)「カングジ1世」(~1747年頃)
1726年-02:00|モザンビーク/ポルトガル| |||<就任>モザンビーク、ソファラ、リオス・テ・クアマ、モノタパ 総司令官「アントニオ・カルデイル・フロース」(~1730年)
1726年-01:00|ドイツ| |||<死去>ロイス=シュライツ伯「Heinrich11世」
1726年-01:00|フランス| |||<就任>モンモンシー公「シャルル2世フレデリック」(~1730年)
1726年-01:00|ドイツ| |||<就任>ロイス=シュライツ伯「Heinrich1世」(~1744年死去)
1726年-01:00|スペイン/ウルクアイ| |||ラ・フラタ川河口にスペイン人がモンテペデオを建設
1726年 00:00|セネガル/フランス| |||<就任>東インド会社セネガル局長「ジャン・レーヴ・アンスト・ラールケット」(~1733年)
1726年 00:00|セネガル| |||<就任>フクトーロ統治者(デナク・サティギ)「コンゴ・ブ・ムサ」(1回目~1738年)
1726年 00:00|ギニア| |||西アフリカ内陸でフルベの聖戦が始まる
1726年 03:00|ウルクアイ| |||スペイン農園主はブラジルから侵入した野盗集団の駆逐に成功
1726年 04:00|アルバ/オランダ| |||<就任>アルバ島司令官「Isaac Obbens」(~1730年)
1726年 06:00|アメリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領ペンシルベニア植民地総督「ハトリック・ゴートン」(~1736年)
1726年 06:00|カナダ/フランス/アメリカ| |||<就任>フランス領ヌーヴェル・フランス総督「ホーアルノ侯爵シャルル・ド・ラ・ポワシエ」(~1747年)
1726年 06:00|アメリカ/フランス| |||<就任>フランス領ルイジアナ植民地総督「エティエンヌ・ペリエ」(~1733年)
1726年1月3日-09:00|日本| ||享保10年12月1日|幕府が新鑄の享保大判の通用および元禄大判金の停止
1726年1月18日-01:00|イタリヤ| |||<就任>ジェノヴァ共和国ドージェ「ジエロラモ・ヴェネツ」(~17280118)
1726年1月18日 00:00|アイルランド| |||アイルランドの作家ジョサン・スウィフトの「ガリア旅行記」が出版される
1726年1月24日 01:00|カーホベルグ/ポルトガル| |||<就任>カーホベルグ 総督「フランシスコ・マヌエル・ダ・ノブレガ・ヴァスコセロス」(~1728年)
1726年2月-02:00|エジプト/トルコ| |||<就任>オスマン帝国領エジプト総督「ニジャンチ・メフメト・ハシヤ」(2回目~17270929)
1726年2月6日-01:00|イタリヤ| |||イタリヤ・パレルモ地震、死者3千
1726年2月8日-04:00|ロシア| |||ロシアで最高枢密院が設置される
1726年2月12日-09:00|日本| ||三重県鈴鹿市|享保11年1月11日|<拝領>伊勢西条藩1万石「有馬氏倫」(⇒享保20(1735)年12月12日、68歳で死去)
1726年2月12日-09:00|日本| ||三重県四日市市|享保11年1月11日|<拝領>伊勢東阿倉川1万石「加納久通」(⇒寛延元(1746)年8月17日、死去)
1726年2月26日-01:00|オーストリア/ドイツ| |||<死去>バイエルン選帝侯「マクシミリアン2世マヌエル」
1726年2月26日-01:00|オーストリア/ドイツ| |||<就任>バイエルン選帝侯「カール1世アルブレヒト」マクシミリアン2世マヌエルの息子(~17450120死去)
1726年3月 04:00|グアドループ/フランス| |||<就任>マリー・カラン知事「Pierre Le Begue」(~1729年死去)
1726年3月2日-09:00|日本| ||福島県伊達郡桑折町|享保11年1月29日|<死去>松平忠尚(76歳)前陸奥桑折藩主
1726年3月2日-08:00|中国| ||清・雍正4年1月29日|清で百科事典「古今圖書集成」が銅活字で刊行
1726年3月22日-09:00|日本| ||享保11年2月19日|幕府が全国に戸口調査を命じる(調査結果は総人口2,654万8,998人)
1726年3月27日-09:00|日本| ||愛媛県大洲市|享保11年2月24日|<死去>加藤泰舂(71歳)前伊予新谷藩主
1726年4月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「トランキロ・マネンティ・ベルツィ」「ジエロラモ・マルテッリ」
1726年4月1日-09:00|日本| ||福島県勝山市|享保11年2月29日|越前勝山で津波大風/人畜溺死多数
1726年4月2日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド 副卿代行判事「アーサー大司教ヒュー・ボルトナー/リチャード・ウェスト(17261203まで)/ウィングム男爵トマス・ウィングム(17261223から)/ウィリアム・コナリー(17260402から)」(~17271119)
1726年4月5日-09:00|日本| ||佐賀県佐賀市|享保11年3月4日|佐賀城が炎上、本丸・天守・二の丸が焼失
1726年4月5日 00:30|日本| ||福岡県久留米市|享保11年3月4日|<久留米享保11年の大火「田代火事」>巳刻(午前9時半ごろ)筑後久留米城内、田代三郎右衛門屋敷から出火、炎は城下の両替町綿屋宗兵衛方に飛び火して延焼、同町をはじめ呉服町は全焼し、三本松町は半分が焼け、築島町から紺屋町へと炎は延び、原古賀町、庄島町などおよそ4230軒余が焼けた/12人死亡/戌刻(20時ごろ)まで続いた
1726年4月7日-05:30|インド| |||<就任>サハール国支配者(ナワブ)「アブドゥル・マジド・カン1世」(~1755年10月没)、摂政「アブドゥル・サタル・カン」(~17301019)
1726年4月14日-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン王国総合官房秘書官Jose de Grimaldo y Gutierrez de Solorzano(~17261001)
1726年4月15日-09:00|日本| ||福島県|享保11年3月14日|越前で大地震/470余人死亡
1726年5月2日-07:00|タイ| |||<即位>ナン王国初代国主「ティンハーウオン」ビルマ・コンバウン王朝によって国主に指名(~17520407)
1726年5月5日 00:00|イギリス| |||<初演>ゲオルク・フリードリヒ・ヘンデル《歌劇「アレックスandro」》
1726年5月7日-01:00|アンゴラ/ポルトガル| |||<就任>ポルトガル領西アフリカ総督「パウロ・カターノ・デ・アルバカーキ」(~1732年12月没)
1726年5月7日-09:00|日本| ||愛知県刈谷市|享保11年4月6日|<死去>三河刈谷藩23000石「三浦明喬」(38歳)⇒弟「三浦義理」が継ぐ(⇒延享4(1747)年2月11日、三河西尾藩に移封)
1726年5月9日-09:00|日本| ||享保11年4月8日|<初演>西沢一風・並木宗輔・安田蛙文合作の浄瑠璃「北条時頼記」

大坂道頓堀の豊竹座/大入りとなる

- 1726年5月10日 00:00|イギリス| |||<死去>初代セント・オールバンス公「チャールズ・ホークワーク」
 1726年5月10日 00:00|イギリス| |||<就任>2代セント・オールバンス公「チャールズ・ホークワーク」(~17510727死去)
 1726年5月15日-09:00|日本|滋賀県大津市|享保11年4月14日|<死去>近江堅田藩1万石「堀田正峯」(23歳)⇒6月9日、弟「堀田正永」が継ぐ(⇒享保20(1735)年8月29日、死去)
 1726年5月21日-09:00|日本|滋賀県大津市|享保11年4月20日|<死去>斯波園女(63歳)俳人
 1726年5月26日-01:00|フランス| |||フランスが貨幣制度を改革、1エキュ=6リヴルに固定
 1726年6月4日-09:00|日本|京都府福知山市|享保11年5月5日|<死去>丹波福知山藩32000石「朽木植綱」(17歳)⇒11日、叔父「朽木植治」が継ぐ(⇒享保13(1728)年11月23日、隠居)
 1726年6月7日 14:00|日本|山形県酒田市|享保11年5月8日|<酒田享保11年の大火「権九郎火事」>夜半23時ごろ、内町組上片町から出火、炎は日和山下まで延び、上、下片町、細肴町、上、下内町、本町一丁目から六丁目まで、秋田町、狛師町、台町、伝馬町、今町、寺町、上、下匠町、上、下中町、大工町、桶屋町、鍛冶町、十王堂町、笠屋町、肴町、稲荷小路、上袋小路、山椒小路と、酒田の中心部がほぼ全焼し、4分の3に当たる2077軒を焼く/翌9日23時ごろ鎮火/下の山王社も類焼
 1726年6月8日-09:00|日本| |||享保11年5月9日|伝統のある劇場以外に、新たな狂言座、操り座の設立が禁じられる
 1726年6月11日-01:00|フランス| |||<就任>フランス王国首席大臣(宰相)「アントワーヌ・ルイ・ド・フルーリー」(~17430129死去)
 1726年6月14日-01:00|パチカン| |||<就任>パチカン枢機卿國務長官「ニコラ・マリア・レルカリ」(~17300221)
 1726年6月24日-09:00|日本|静岡県|享保11年5月25日|民政家田中丘隅が酒匂川堤を修復(文命堤)
 1726年6月25日 04:30|ベネチア/スペイン| |||<就任>スペイン領ベネチア総督「Domingo Antonio de Tovar + Antonio de Liendo y Blanco」(~7.15)
 1726年6月29日-09:00|日本| |||享保11年5月30日|<死去>水間沾徳(65歳)俳人
 1726年6月30日-09:00|日本|京都府京都市|享保11年6月1日|<就任>関白「近衛家久」(~元文元年8月27日)
 1726年6月30日-09:00|日本|東京都|享保11年6月1日|永代橋維持のため渡り賃を徴収
 1726年7月4日 00:00|イギリス| |||<死去>初代ホートランド公「ヘンリー・ベントイック」
 1726年7月4日 00:00|イギリス| |||<就任>2代ホートランド公「ウィリアム・ベントイック」(~17620501死去)
 1726年7月4日 05:00|ジャマイカ/イギリス| |||<就任>英領ジャマイカ総督代行「ジョン・エイスコフ」(1回目~17280129)
 1726年7月15日 04:30|ベネチア/スペイン| |||<就任>スペイン領ベネチア総督「Diego de Portales y Meneses」(3期目~17280629)
 1726年7月17日 00:00|イギリス| |||<死去>初代カトガン伯「ウィリアム・カトガン」
 1726年7月17日-09:00|日本|奈良県天理市|享保11年6月18日|<死去>大和柳本藩1万石「織田秀行」(30歳)⇒8月16日、養子「織田信方」が継ぐ(⇒寛保元(1741)年8月13日、死去)
 1726年7月26日 00:00|イギリス| |||<就任>初代エインバラ公・イーリー侯・初代エルム伯「フレデリック・ルイス王子」ジョージ2世の子(~17510331死去)
 1726年7月27日 00:00|イギリス| |||<就任>カバランド公「ウィリアム・オーガスタス」ジョージ2世の三男(~17651031死去)
 1726年7月31日-01:00|スイス| |||<死去>スイスの数学者「レオンハルト・オイラー」で
 1726年8月6日-01:00|オーストリア/ロシア| |||ロシア暦7月26日|ロシアとオーストリアが条約を結び、オーストリアがウィーン同盟に加入
 1726年8月27日-09:00|日本| |||享保11年8月|幕府、新田検地条目32ヶ条を定める
 1726年9月1日-01:00|イタリア| |||イタリア、パレルモで地震(M5.7) 死者250人
 1726年9月4日-05:30|インド/フランス| |||<就任>フランス領インド総督「ヒェール・クリストフ・ノール」(2回目~1735年)
 1726年9月16日-05:30|スリランカ/オランダ| |||<就任>オランダ領セイロン総督「ペトルス・ヴァイスト」(~17290827)
 1726年9月23日-09:00|日本| |||享保11年8月28日|<死去>6代千宗室(33歳)茶人、裏千家家元
 1726年9月24日 00:00|イギリス/インド| |||イギリスがインド3管区に英法を施行し各管区に裁判所を設置
 1726年9月25日-09:00|日本| |||享保11年8月30日|幕府が武家所有の農民地・町地を譲渡する場合、それぞれ農民・町人に譲ることを定める
 1726年9月30日 00:00|イギリス| |||<死去>5代ウィンチルシー伯「ヘンリッジ・フィンチ」
 1726年9月30日 00:00|イギリス| |||<就任>6代ウィンチルシー伯「ジョン・フィンチ」(~17290909死去)
 1726年10月-02:00|ルーマニア| |||<就任>モルダヴィア総督代行「コンスタンティン・コスハッチ」「サントウ・ストゥルツァ」(~12.18)
 1726年10月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「ヴァレリオ・マッジョーニ」「ヒェール・アントニオ・ウコリーニ」
 1726年10月1日-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン王国総合官房秘書官「Juan Bautista de Orendain y Azpilicuet a」(~17341121)
 1726年10月5日-02:00|ルーマニア| |||<即位>モルダヴィア公「ゲリゴ・レ2世ギェーカ」(1期目~17330416)
 1726年10月7日-09:00|日本|兵庫県豊岡市|享保11年9月12日|<死去改易>但馬豊岡藩33000石「京極高寛」(10歳)無嗣、一旦幕府に没収
 1726年10月12日-05:30|インド/デンマーク| |||<就任>デンマーク領東インド諸島(トランバル)司令官「ラスマス・ハンセン・アトラップ」(~17300808)
 1726年10月12日-03:30|イラン| |||<就任>サファヴィー朝大宰相「モハメド・アリ・カーン・カフター・エカシ」(~17291113)
 1726年10月14日-09:00|日本|兵庫県豊岡市|享保11年9月19日|<再封>但馬豊岡藩15000石「京極高永」(高寛弟)家名相続(⇒宝暦10(1760)年8月12日、死去)
 1726年10月25日-09:00|日本|鹿児島県鹿児島市|享保11年10月|薩摩藩主島津繼豊、一之宮神社を再興
 1726年10月28日 00:00|イギリス| |||<刊行>英国、スウィフト「ガリバ-旅行記」
 1726年10月28日-09:00|日本|愛知県田原市|享保11年10月4日|<死去>三河田原藩12000石「三宅康雄」(68歳)⇒次

- 男「三宅康徳」が継ぐ(⇒延享2(1745)年8月8日、隠居)
- 1726年11月8日-03:30|イラン| |||<即位>サファグィー朝シャ「サイト・アフマド」(ケルマンで対立~1728年7月没)
- 1726年11月8日 00:00|アイルランド| ||10月28日|アイルランドの作家スウィフトの「ガリバ-旅行記」が出版
- 1726年11月9日 03:00|スリナム/オランダ| |||<就任>オランダ領スリナム(オランダ西インド会社)総督「カル・エミリウス・ヘンリー・ド・シュース」(~17340126)
- 1726年11月14日-09:00|日本| ||享保11年10月21日|<死去>伏見宮邦永親王(51歳)皇族
- 1726年11月24日-09:00|日本|J. フロントリテリング|享保11年11月1日|京都伏見の呉服店「大文字屋」が大坂心齋橋筋に大阪店「松屋」を開き、現金正札販売を開始(現・心齋橋店現在地)
- 1726年12月4日-09:00|日本|岡山県津山市|享保11年11月11日|<死去>美作津山藩10万石「松平浅五郎」(11歳)⇒18日、従弟「松平長熙」が継ぐ(5万石に減封⇒享保20(1735)年10月13日、16歳で死去)
- 1726年12月5日-09:00|日本| ||享保11年11月12日|<死去>初代市川小団次(歌舞伎)[1676年生~](享年50)
- 1726年12月7日-09:00|日本|兵庫県姫路市|享保11年11月14日|<死去>播磨姫路藩15万石「榊原政邦」(52歳)⇒12月25日、次男「榊原祐祐」が継ぐ(⇒享保17(1732)年8月29日、死去)
- 1726年12月18日-02:00|ルーマニア| |||<就任>モルダヴィア総督「ケリコ・ル・マティ・ギカ」(1回目~17330413)
- 1726年12月18日-01:00|ドイツ| |||<死去>ブランテンブルク=ハノイ辺境伯「ゲオルク・ヴィルヘルム」
- 1726年12月18日-01:00|ドイツ| |||<就任>ブランテンブルク=ハノイ辺境伯「ゲオルク・フリートリヒ・カール」(~17350517死去)
- 1726年12月24日 03:00|ウルグアイ/スペイン| |||<就任>サン・フェリペ・イ・サンティアゴ・デ・モンテビデオ軍事司令官「Francisco Antonio de Lemus」⇒「Francisco de Cardenas」(~1730年)
- 1726年12月24日 03:00|ウルグアイ/スペイン| |||スペインはサン・フェリペ・イ・サンティアゴ・デ・モンテビデオを設立(1751年に州に引き上げられる:リテララに從属)
- 1726年12月24日-09:00|日本|京都府京丹後市|享保11年12月2日|<死去>京極高明(67歳)前丹後峰山藩主
- 1727年-08:00|インドネシア/オランダ| |||<就任>アンボン島オランダ総督「Johannes ハーナート」(~1733年)
- 1727年-08:00|インドネシア| |||<即位>アチェ王国スルタン「アラウッティン・アマト・シャー」(~1735. 5)
- 1727年-07:00|タイ| |||<即位>ラーナー王朝「テープ・シン」(~同年)⇒「オンカム」(~1759年死去)
- 1727年-05:30|インド| |||<就任>コッタ・サンガニ国統治者(タコル)「ジャヤジ」(~1755年)
- 1727年-05:30|インド| |||<就任>ジャバア国ラジャ「シエオ・シン」(~1758年没)
- 1727年-05:30|インド| |||<就任>パガル国統治者(ラナ)「マール・チャント」(~1743年没)
- 1727年-05:30|インド| |||<就任>マンデイ国ラジャ「ジャムシャー・セン」(~1781年没)、摂政「ミアン・ジャヤッパ・シン」(~1740年頃没)
- 1727年-05:30|インド| |||<就任>ムガル帝国カミール総督「カン・アガル」(~1729年)
- 1727年-05:30|インド| |||<就任>ラングル国ラジャ「サランガタル・バジュラタル・ナレンドラ」(~1754年)
- 1727年-04:00|アゼルバイジャン| |||<即位>バケ汗国ハン「タルガ・クリ・ハン」(~1730年)
- 1727年-04:00|ジョージア/トルコ| |||カルトリはオスマン帝国に併合(チュルトウルのイェレットの一部~1735年)
- 1727年-03:30|イラン| |||<就任>サファグィー朝大宰相「モハンマド・アミン・カン」(~1729年)
- 1727年-03:00|カンタ| |||<死去>ソコレ王国国王「Natare4世 Kitabanyoro」
- 1727年-03:00|マヨット| |||<即位>マオレ・スルタン国スルタン「サリム・ヒン・アビ・ハクル」(~1752年)
- 1727年-03:00|カンタ| |||<即位>ソコレ王国国王「Macwa」(~1755年)
- 1727年-02:00|ラトビア| |||<就任>ケルラント・ゼムガレ公国政府議長「アダム・ガジ・ミエシュ・コンウシユク」(~1729年)
- 1727年-02:00|トルコ| |||トルコのイスタンブールに、アビエ文字の活版印刷所が開設
- 1727年-01:00|ポズニア・ヘルツェゴビナ/トルコ| |||<就任>ポズニア総督「トバル・オスマン・パシャ」(2回目~1728年)
- 1727年 00:00|セントヘレナ/イギリス| |||<就任>イギリス領セントヘレナ総督「Edward Byfield」(~1731年)
- 1727年 00:00|モリタニア| |||<就任>トルザ連邦エミール「マル」(~1757年没)
- 1727年 00:00|イギリス| |||イギリスで第2次農業革命、ノーフォーク農法がはじまる
- 1727年 00:00|シエラレオネ| |||フタ・ジャロンのジハード始まる
- 1727年 04:00|アンギラ/英領ヴァージン諸島/イギリス| |||<就任>アンギラ及びバーズン諸島(トルラ島)副知事「Francis Phips」(~1729年)
- 1727年 04:00|バルバドス/イギリス| |||<就任>イギリス領バルバドス総督「Thomas Gatesby Paget」(~1731年)
- 1727年 04:00|グレタ/フランス| |||<就任>グレタ総督「ラルナージュ侯爵シャルル・ド・ブルニエ」(~1734年)
- 1727年 06:00|アメリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領メリーランド植民地総督「ベネディクト・レナート・カルハート」(~1731年)
- 1727年 06:00|コスタリカ/スペイン| |||<就任>コスタリカ総督「バルタサル・フランシスコ・デ・バルテラマ・イ・ハロ」(~1736年)
- 1727年 06:00|ホンジュラス/スペイン| |||<就任>コマケア県総督「マヌエル・デ・カスティリャ・イ・ホルタル」(~1738年)
- 1727年 06:00|アメリカ/スペイン| |||<就任>スペイン領テキサス植民地総督「メルチョル・デ・メティアラ・イ・アスコナ」(~1730年)
- 1727年1月-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||<就任>アレクホ・ワシ(総督)「Arifi Ahmed Pasha」(~1728年)
- 1727年1月7日 00:00|モリタニア/フランス| |||<就任>フランス領アルギン総督「クロト・ガルサン」(~17280505)
- 1727年1月22日-09:00|日本| ||享保12年|<刊行>荻生徂徠「政談」
- 1727年1月22日-08:00|中国| ||清・雍正5年|<死去>ジュンガル・ホンタイジ「ツェワン・ラフタン」
- 1727年1月22日-08:00|中国| ||清・雍正5年|<即位>ジュンガル・ホンタイジ「カルダン・ツェレン」(~1745年8月、死去)
- 1727年1月22日-07:00|ベトナム| ||大越黎朝・保泰8年|<死去>パントウランガ王「Po Saktiraydapatih」
- 1727年1月22日-07:00|ベトナム| ||大越黎朝・保泰8年|<即位>パントウランガ王「Po Ganuhpatih(Ba Thi)」(~1730年)
- 1727年1月26日 06:00|ニカラガ/スペイン| |||<就任>ニカラガ総督「アントニオ・デ・ホセ・イ・リハデネイラ」(2回目~7. 7)
- 1727年2月2日-01:00|ジブラルタル/イギリス| |||<就任>イギリス領ジブラルタル総督「ジャスパー・クレイトン」(~17300513)
- 1727年2月2日-01:00|ジブラルタル/イギリス| |||<就任>イギリス領ジブラルタル知事代理「Jasper Clayton」(⇒17300102知事~17300513)

1740迄 (2954件)

- 1727年2月22日-09:00|日本|長崎県平戸市|享保12年閏1月2日|<交替>肥前平戸藩61700石「松浦篤信」隠居⇒長男「松浦有信」が継ぐ(⇒享保13年8月25日(17280928)、死去)
- 1727年2月25日-02:00|南アフリカ/オランダ| |||<就任>オランダ領ケープ植民地司令官(オランダ東インド会社)「ピーター・ギスベルト・ヌート」(~17290423)
- 1727年2月26日-01:00|イタリア| |||<即位>ハルカ公(ファルネーゼ家)アントニオ[ラヌッチョ2世の息子](~17310120死去49歳)
- 1727年2月26日 00:00|セントヘレナ/イギリス| |||<就任>イギリス領セントヘレナ総督「エドワード・バークフィールド」(2期~17310324)
- 1727年3月-01:00|ベナン| |||<就任>ダホメ王国サウ・フェダ総督「ダッス」(~1744年)
- 1727年3月1日-09:00|日本|長崎県大村市|享保12年閏1月9日|<交替>肥前大村藩24973石「大村純庸」隠居⇒次男「大村純富」が継ぐ(⇒寛延元(1748)年11月16日、死去)
- 1727年3月4日 00:00|カナデンマーク| |||<就任>デンマーク領ゴートランド=コスト長官「フレッド・ハール」(~9. 18没)
- 1727年3月9日-01:00|ベナン| |||サウ・フェダ国がダホメによって征服され編入された/王権は継続
- 1727年3月11日 00:00|カナ/オランダ| |||<就任>オランダ領ゴートランド=コスト総裁「ロバート・ノレ」(~17300306)
- 1727年3月21日-05:30|インド| |||<死去>ケワリヤル太守「ダウラ・ラーオ・シンデイヤ」
- 1727年3月22日 00:00|モロッコ| |||<死去>アラウィー朝スルタン「アブーン・ナシル・イスマイル・アッ=サミン」82歳
- 1727年3月22日 00:00|モロッコ| |||<即位>アラウィー朝スルタン「アブールアッハス・アッ=マド2世アッ=ハビ」(1回目~17280313廃位)
- 1727年3月23日-08:00|中国| ||清・雍正5年3月|清が南洋海禁を解除、商船による交易が復活
- 1727年3月23日 04:00|日本|愛媛県大洲市|享保12年2月1日|大洲城下で大火、御城類焼、家中数百軒焼失
- 1727年3月23日 04:00|日本|高知県高知市|享保12年2月1日|<高知享保12年の大火>午の下刻(13時ごろ)高知城の西、越前町の伊野邊方より出火、炎は数条に分かれて東の方、城の方に延びた/炎は西大門を過ぎてまず三の丸の建物を焼き、次に二の丸から本丸へと延焼、全郭が焼け落ちた/炎の勢いは城内にとどまらず永国寺に及び、城の西郭の北部からの炎は江ノ口は尾戸へと延び、さらに大川筋、愛宕町にいたり、京町から種崎町、農人町へ、山田町からさらに鉄砲町まで焼失させた/侍屋敷205軒、町方(町人の家)1163軒、郷分(郊外の農家など)397軒焼失
- 1727年3月24日-09:00|日本|高知県高知市|享保12年2月2日|<高知享保12年の大火>前日の火元の南隣から出火、郭中は帯屋町の北側と南側の東半分、鷹匠町の西の一部を残すだけですべて焼失、郊外の塩江村の農家290余戸も焼けた/侍屋敷187軒、町方1304軒、郷方325軒焼失
- 1727年3月26日-09:00|日本| ||享保12年2月4日|<死去>本因坊道悦(92歳)囲碁棋士/三世本因坊
- 1727年3月31日-09:00|日本| ||享保12年2月9日|<死去>向井元成(72歳)儒学者、俳人
- 1727年3月31日 00:00|イギリス| ||ユリウス暦3月20日|イギリスの物理学者、数学者アイザック・ニュートン死去/84歳(誕生:16430104)
- 1727年4月1日-01:00|サマリヤ| |||<就任>サマリヤ共和国執政「ジューッパ・オノリ」「トマリ・チッコリ」
- 1727年4月15日 00:00|イギリス| |||<死去>ノーサンプトン伯「ジョージ・コンプトン」
- 1727年4月15日 00:00|イギリス| |||<就任>ノーサンプトン伯「ジェームズ・コンプトン」(~17541003死去)
- 1727年4月17日 04:00|日本|鳥取県鳥取市|享保12年2月26日|<鳥取享保12年の大火「帳屋火事」>九時半(13時ごろ)、新町の油屋三郎左衛門の借家に住む住吉屋源三郎という帳屋(文房具店)より出火、本町一丁目より四丁目まで、茶町二階町一丁目より四丁目まで、本魚町一丁目より三丁目まで、川端一丁目より四丁目までが類焼/また片原一丁目、二丁目、三丁目と次々と灰にし、豆腐町から鹿野町へ、下魚町から下横町へ、材木町まで焼けた/城内においては智頭海道惣門の番所が焼け、同海道広小路に建っていた火の見やぐらが焼け落ちた時は、鞆殿筑後守邸に炎が燃え移り柳蔵の辺りまでを焼土と化した/また鹿野海道惣門と番所が共に焼け、柳蔵の米倉庫もまた炎に包まれ、内丹後町と外丹後町の両惣門と番所が共に焼けた/炎は湯所下の町筋を焼け通り、晩の七時半(午後5時半ごろ)ようやく神戸主税屋敷内で止まった/侍屋敷74軒、町家は町筋25町、家持ち世帯数779軒、借家世帯数1072軒、御役者・諸職人の家19軒、土蔵13か所が焼失
- 1727年4月20日-01:00|リトベニヤン| |||<就任>リトベニヤン王室廷吏「ヨハン・エルグ・イン・フォン・キル」(~17300528)
- 1727年4月23日-03:00|イェメン| |||<死去>ラッシー朝イマム「アルムタキル・アルカズム」
- 1727年4月23日-03:00|イェメン| |||<即位>ラッシー朝イマム「ムハンマド4世 al-Hadi al-Majid ibn Ali」(~1728年)
- 1727年4月28日-09:00|日本| ||享保12年3月8日|幕府が旗本に対して、金銀を持参して養子縁組することを禁止
- 1727年5月6日 00:30|日本|宮城県仙台市|享保12年3月16日|<仙台享保12年の大火>巳の上刻(午前9時半)ごろ、北二番丁から出火、城下の中心部を焼き尽くし、東の方面に燃え広がった/侍屋敷443軒、足軽屋敷493軒、町同心屋敷50軒、下級家臣や職人の屋敷など104軒、町屋敷(町家)204軒、寺社の門前町177軒、寺院54軒、合計1525軒焼失
- 1727年5月14日 04:00|米領ヴァージン諸島/デンマーク| |||<就任>セントトマス島・セントジョン島総督「Henrik von Suhm」(~1730221)
- 1727年5月17日-04:00|ロシア| ||ロシア暦5月6日|<死去>ロシア帝国皇帝「エカテリナ1世」43歳(誕生16840415)
- 1727年5月17日-04:00|ロシア| ||ロシア暦5月6日|<即位>ロシア帝国皇帝「ピョートル2世」(12)エカテリナ1世の息子(~17300130没)
- 1727年5月29日-01:00|ルクセンブルグ/オーストリア| |||<就任>オーストリア領ルクセンブルグ総督「フランツ・アントン・ハール・グラーフ・ウオリス」(~1729年10月)
- 1727年5月29日 00:00|イギリス| |||<死去>4代トローバット伯「ハンリー・ムーア」
- 1727年5月29日 00:00|イギリス| |||<就任>5代トローバット伯「エドワード・ムーア」(~17581028死去)
- 1727年5月29日-09:00|日本|鳥根県浜田市|享保12年4月9日|<死去>松平康直(71歳)前石見浜田藩主
- 1727年5月31日-01:00|オーストリア| ||オーストリア東インド会社が解散
- 1727年6月 00:00|キニアビサウ/ポルトガル| |||<就任>カチュー司令官「ジョアン・ペレストロ」(~1732年7月)
- 1727年6月7日-09:00|日本|大阪府茨木市|享保12年4月18日|<陣屋移転>和泉国大庭寺藩13500石「渡辺基綱」⇒和

- 泉国伯太藩13500石 (⇒享保13(1728)年7月19日、死去)
- 1727年6月17日-09:00|日本| |||享保12年4月28日|関東八か国で猪鹿を、月日を限って鉄砲でうつことを許す
- 1727年6月22日 00:00|イギリス/ドイツ| |||ユリウス暦:1727/6/11|<死去>グレートブリテン王国国王・ザクセン＝ラウエンブルク公・ブルーシユアイク＝リユネルク選帝侯・ハノーファー選帝侯「ゲオルク1世ルートヴィヒ」大陸遠征中に/67歳(誕生16600407)
- 1727年6月22日 00:00|イギリス| |||<就任>ロス公(スコットランド王位の法定推定相続人)・コンウォール公・23代キャリック伯「フレック・ルイス」初代デインバラ公・イーリー侯・初代エルム伯(〜17510331死去)
- 1727年6月22日 00:00|イギリス/ドイツ| |||ユリウス暦:1727/6/11|<即位>グレートブリテン王「ジョージ2世」兼ザクセン＝ラウエンブルク公・ハノーファー選帝侯「ゲオルク2世」ジョージ1世の息子(〜17601025死去)
- 1727年6月30日-06:00|ハンガリー/シシ| |||<死去>ベネチア共和国「パウル・ナフタム・メルシ・クリ・シヤファル・カーン」
- 1727年6月30日-06:00|ハンガリー/シシ| |||<就任>ベネチア共和国「シュジヤウティン・ムハンマド・カーン」(〜1739年没)
- 1727年6月30日-05:30|インド| |||<死去>ベネチア共和国「メルシ・クリ・カーン」
- 1727年7月1日-05:30|インド| |||<即位>ベネチア共和国「シュジヤウティン・ムハンマド・カーン」(〜17390826死去)
- 1727年7月15日-09:00|日本|長野県長野市|享保12年5月27日|<死去>信濃松代藩主「真田幸道」(71歳)⇒甥(長兄で旗本寄合の信就の七男)の信弘を養嗣子として迎え跡を継がせた
- 1727年7月21日-04:00|レニオン/フランス| |||<就任>ブルボン島司令官「Pierre Benoit Dumas」(〜17350711)
- 1727年7月21日-09:00|日本|愛媛県大洲市|享保12年6月3日|<交替>伊予新谷藩1万石「加藤泰貴」隠居⇒12月18日、従弟「加藤泰広」が継ぐ(⇒宝暦6(1756)年8月26日、隠居)
- 1727年7月21日-09:00|日本|福島県白河市|享保12年6月3日|<廃藩>陸奥白河新田藩1万石「松平明矩」伯父にあたる白河藩主「松平基知」の養子となる/宗家白河藩に吸収
- 1727年7月28日-09:00|日本| |||享保12年6月10日|<死去>本因坊道知(38歳)囲碁棋士/五世本因坊
- 1727年7月31日-09:00|日本| |||享保12年6月13日|<死去>都治月丹(辻月丹)(80歳)剣術家/無外流の流祖
- 1727年8月3日-09:00|日本|岩手県一関市|享保12年6月16日|<死去>陸奥一関藩3万石「田村誠顕」(58歳)⇒婿養子「田村村顕」が継ぐ(⇒宝暦5(1755)年8月3日、死去)
- 1727年8月4日-01:00|フランス| |||<死去>プロイシアン伯「ウイクトル・モリス」
- 1727年8月11日-09:00|日本|愛媛県大洲市|享保12年6月24日|<死去>伊予大洲藩5万石「加藤泰統」(39歳)⇒長男「加藤泰温」が継ぐ(⇒延享2(1745)年6月12日、30歳で死去)
- 1727年8月17日-09:00|韓国/朝鮮| |||<就任>朝鮮国領議政「李光佐」(〜17290614)
- 1727年8月23日-04:00|ロシア/中国| |||清・雍正5年7月7日|清とロシアがキヤフタ条約を締結し、外モンゴリアの国境を画定
- 1727年8月26日 06:00|ニカラガ/スペイン| |||<就任>ニカラガ総督「ペドロ・マルティネス・デ・ウパリア」(〜1728年)
- 1727年9月17日 03:00|スリナム/オランダ| |||<就任>オランダ領スリナム(オランダ西インド会社)総督代行「フランソワ・アンソニー・ド・レインエウアル」(5回目〜17281109)
- 1727年9月18日 00:00|カナダ/デンマーク| |||<就任>デンマーク領グリーンランド＝コスト長官「アントニアス・ウィルムセン」(〜17281224没)
- 1727年9月22日-09:00|日本|静岡県富士宮市|享保12年8月8日|日詳、日寛発願の大石寺常唱堂を完成
- 1727年9月27日 00:00|ポルトガル| |||<就任>マテウス総督「Filipe de Alarcão Mascarenhas」(〜17340421)
- 1727年9月30日-02:00|エジプト/トルコ| |||<就任>オスマン帝国領エジプト総督「アブドゥル・ハシム」(2回目〜10月)
- 1727年10月-02:00|エジプト/トルコ| |||<就任>オスマン帝国領エジプト総督「エフベキル・ハシム」(1回目〜1729年)
- 1727年10月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「シエンティル・マリア・マツジョ」(シヨヴァン・マルツリ)
- 1727年10月15日-09:00|日本|大阪府大阪市|享保12年9月|幕府目安箱を大坂町奉行所外に置く
- 1727年10月15日-09:00|日本/カボニア|長崎県長崎市|享保12年9月|カボニアの使節が長崎へ来航し、幕府から信牌を与えられる
- 1727年10月22日 00:00|サントメ・プリンシペ/ポルトガル| |||<就任>サントメ植民地総督「Serafim Teixeira Sarmiento de Sa」(〜17310104)
- 1727年11月-05:30|インド| |||<国名変更>アンバ王国(新首都ジャイプール設立)⇒ジャイプール国
- 1727年11月-01:00|セルビア/トルコ| |||<就任>オスマン帝国セルビア総督「アブドゥル・ハシム」(2回目〜1730年11月)
- 1727年11月8日-09:00|日本|新潟県上越市|享保12年9月25日|<死去>越後高田藩113000石「松平定儀」(48歳)⇒11月18日、養子「松平定賢」が継ぐ(⇒寛保元(1741)年11月1日、陸奥白河藩11万石に移封)
- 1727年11月18日-03:30|イラン| |||イラン、タブライズで地震(M7.2)死者7万7千人
- 1727年11月18日-09:00|日本| |||享保12年10月6日|<死去>光子内親王(94歳)後水尾天皇の皇女
- 1727年11月26日 00:00|イギリス| |||<死去>初代オフォート伯「エドワード・ラッセル」断絶
- 1727年12月-05:00|ウズベキスタン/トルクメニスタン| |||<死去>ヒヴァハン国第26代ハン「シル・ガースィー」
- 1727年12月 04:00|バミューダ/イギリス| |||<就任>イギリス直轄植民地バミューダ総督代理「ジョン・トリニガ」(2世)(〜17280902)
- 1727年12月1日 04:00|トミニカ国/フランス| |||<就任>フランス・トミニカ司令官「クロード・ル・グランド」(1)(〜1742年)
- 1727年12月13日-09:00|日本|東京都中央区|享保12年11月|舞台二人せり出し開始、二代目市川團十郎、大谷廣次中村座
- 1727年12月18日-09:00|日本|東京都|享保12年11月6日|幕府が辻番所の町人請負制を廃し、組合辻番所を復活
- 1727年12月19日 06:00|アメリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領ニューハンプシャー州植民地総督「ウィリアム・バーネット」(〜17290907)
- 1727年12月26日 00:00|イギリス| |||<死去>2代プリマス伯「アサ・ウィンザー」
- 1727年12月26日 00:00|イギリス| |||<就任>3代プリマス伯「アサ・ウィンザー」(〜17321123死去)
- 1728年-12:00|ウオリス・ツツ| |||<即位>トウア(アロ)王「Pili」⇒「Mala' evaoa」(1期目〜1748年)
- 1728年-08:00|マレーシア| |||<死去>ペラ・スルタン「アラジン・ムガヤット・リアヤット・シャー・イブニ・アル・マルム・スルタン・マンスール・シャー」
- 1728年-08:00|インドネシア/イギリス| |||<就任>ベンケレン副総督(マララ総督に從属)「Nicholas Morse」(〜1730年)

1740迄 (2954件)

- 1728年-08:00|インドネシア/オランダ| |||<就任>モルッカ諸島オランダ 総督「Jacob Christiaen Pielat」(~1731年)
- 1728年-08:00|インドネシア| |||<即位>ティムール・スルタン「Amir Muiduddin Malikulmanan」(~1757年)
- 1728年-08:00|インドネシア| |||<即位>デリ・スルタン「Tuanku Panglima Pasutan」(~1761年)
- 1728年-08:00|マレーシア| |||<即位>ペラ・スルタン(上ペラ統治)「ムザファル・シャー3世ヨハン・ベルダウラット・ヘル・アラム・ジャラルッラー・イブン・アル=マルフム・スルタン・マンスール・シャー」(1回目~1742年)
- 1728年-05:45|ネパール| |||<死去>マスタング王「フクラ=シス=ラム=ギヤル」
- 1728年-05:45|ネパール| |||<就任>マスタング 摂政「ノルジン・フデレク・トバンモ」(~1734年)
- 1728年-05:45|ネパール| |||<即位>マスタング王「ソナム・フスタンジン・ハンギヤル」(~1750年没)
- 1728年-05:30|インド| |||<死去>タンジャール=マラーター王国国王「サラホージー」
- 1728年-05:30|インド| |||<就任>アラカール王国ラジャ「アリ=ラジヤ=ヒビ=ハラビチ=カタ=フ=ベ」(~1732年)
- 1728年-05:30|インド| |||<就任>ウアンカール国統治者(ラーシ=サーヒブ)「ケサルシンジ 1世チャンドラシンジ」(~1749年没)
- 1728年-05:30|インド| |||<就任>カシュワール国ラジャ「アムル=ク=シン」(~1771年没)
- 1728年-05:30|インド| |||<就任>カナヌール国統治者(アリ=ラジヤ)「ラニ=ハラビチ=カタ=ウ=ベ=ア=デ=イ=ヒ=ビ=アリ=ラジヤ=ヒ=ビ」(~1732年)
- 1728年-05:30|インド| |||<就任>スルジャ国ラジャ「ジヤワット=シン=テ=オ」(~1749年)
- 1728年-05:30|インド| |||<就任>セライクラ国統治者(クワール)「サトルガン=シン」(~1743年)
- 1728年-05:30|インド| |||<就任>ダール国ラジャ「ウタ=ジ=ラオ1世フ=アル」建国(~1731年)
- 1728年-05:30|インド| |||<就任>ダソル=フル国統治者(マハラ)「シフ=シン」(~1783年没)
- 1728年-05:30|インド| |||<就任>チャヤ国統治者(ラ)「ウ=イクマティ3世ヒモジ」(~1757年没)
- 1728年-05:30|インド| |||<就任>デウス国ラジャ「トウガン=ラオ1世フ=アル」建国(~17541116没)、「ジウ=ア=ジ=ラオ=フ=アル=タ=タ=サーヒブ」(~17740815没)
- 1728年-05:30|インド| |||<就任>デソカール国ラジャ「フラジヤ=ヘ=ハリ」(~1741年)
- 1728年-05:30|インド| |||<就任>トリプラ国ラジャ「シヤガ=ット=マニ=キヤ」(~同年)⇒「タ=ル=マ=マニ=キヤ2世」(2回目~1729年)
- 1728年-05:30|インド| |||<就任>ハンガナハル国統治者(ナワブ)「ファジール=アリ=カン1世」(~1737年没)
- 1728年-05:30|インド| |||<就任>ホル国統治者(ラ)「カサンジ」(~不明)⇒「マカンジ」(~不明)⇒「ハティンジ」(~不明)⇒「マフンジ」(~不明)⇒「アジヤ=シンジ」(~不明)⇒「フ=ハ=ツインジ1世」(~不明)⇒「ハ=ウ=ア=シンジ」(~不明)⇒「スラジ=シンジ」(~不明)⇒「ウ=ア=ジ=シンジ」(~不明)⇒「ラタンジ」(~1808年没)
- 1728年-05:30|インド| |||<就任>ムルハニ国ラジャ「ラク=ナ=ト=ハ=ニ=テ=オ」(~1750年)
- 1728年-05:30|インド| |||<即位>タンジャール=マラーター王国国王「トウク=ジー」(~1736年死去)
- 1728年-05:30|インド| |||<即位>ホパール太守「Nawab Sultan Muhammad」(~1742年)
- 1728年-05:00|イスラーム/トルクメニスタン| |||<即位>ヒヴァン国第27代ハン「サリク=アイギル(ママイ)」(~数日で死去)⇒第28代ハン「ハトウル」(~6週間)⇒第29代ハン「イルハルス2世」(~1740.11死去)
- 1728年-04:00|ジョージア| |||<就任>ミンクレリア公「イア」(~1757年没)
- 1728年-04:00|アゼルバイジャン| |||<即位>シルヴァン(シャマカ)のハン「スルカイ=ハン=チュルク」(~1734年)
- 1728年-04:00|アゼルバイジャン/トルコ| |||シヤルバ=ラカンがオスマン帝国に貢納(~1734年)
- 1728年-03:00|ウガンダ| |||<就任>バグウェリ統治者(オムカマ)「カイレ1世」建国(~1735年)
- 1728年-03:00|スーダン| |||<即位>ダフル=スルタン国スルタン「イスマイル=アブ=ハラ」(~1741年頃)
- 1728年-03:00|イェメン| |||<即位>ラッシー朝イマーム「アルマンスール=アルセイフ2世」アルムタワキル=アルガジムの息子(~17480306死去)
- 1728年-03:00|ケニア| |||スワヒリ語最古の韻文詩「ウテン=イ=ワ=タム=カ」が刊
- 1728年-03:00|ケニア/ボルトガル| |||ボルトガルがモンバサの奪回に失敗し、モザンビーク以南に撤退
- 1728年-02:00|シリア=アラブ/トルコ| |||<就任>アレppo=ワリス(総督)「Genc Ali Pasha」(~1730年)
- 1728年-01:00|ドイツ| |||<就任>プロシヤ王国首相「Friedrich Wilhelm von Grumbkow」(~1739年)
- 1728年-01:00|ポズナ=ヘルツェゴビナ/トルコ| |||<就任>ポズナ総督「アフメド=パシャ」(~1730年)
- 1728年-01:00|ドイツ| |||<即位>メクレンブルク=シュエリン公「クリスティアン=ルートヴィヒ2世」カール=レオポルトの弟(~17560530死去)
- 1728年-01:00|ドイツ| |||<退位>メクレンブルク=シュエリン公「カール=レオポルト」弟のクリスティアン=ルートヴィヒ2世に譲位
- 1728年-01:00|イタリア| |||ヴェネツィアがベルカモ併合
- 1728年 00:00|チャンドル諸島/イギリス| |||<就任>イギリス領ガーンジー=島管理人「Josue Le Marchant」(~17510913死去)
- 1728年 00:00|モリタニア| |||<就任>ブラクナ連合エミール「アフメド=アル=ヒバ」(~1762年)
- 1728年 00:00|シエラレオネ/ボルトガル/イギリス| |||アフロ=ボルトガル人のロベスガベンス島の城砦を襲撃して破壊。これに伴い、王立アフリカ会社はシエラレオネを撤退
- 1728年 00:00|イギリス| |||イギリスの天文学者ブラッドリーがリュウ座のγ星で光行差を発見
- 1728年 01:00|カーボベルテ/ボルトガル| |||<就任>カーボベルテ 総督「商工会議所上院」(~12.23)
- 1728年 04:00|モントセロ/イギリス| |||<死去>イギリス植民地モントセロ副総督「Paul George」
- 1728年 04:00|マルティニーク/フランス| |||<就任>フランス領アンティル総督「Jacques Charles de Bochart」(~1745年)
- 1728年 04:00|マルティニーク/フランス| |||<就任>フランス領マルティニーク知事「Jean Francois Louis de Brach」(~1742.3死去)
- 1728年 05:00|キューバ| |||ハバナ大学創立
- 1728年 06:00|アメリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領ニューヨークおよびニュージャージー=総督「ジョン=モンゴメリー」(~1731年)
- 1728年 06:00|アメリカ| |||ユダヤ人がニューヨークで初のシナゴグを作成
- 1728年1月1日-01:00|ドイツ| |||<死去>ヴァルデック侯「フリードリヒ=アントン=ウルヒ」
- 1728年1月1日-01:00|ドイツ| |||<就任>ヴァルデック侯「カール=アウグスト=フリードリヒ」(~17630829死去)
- 1728年1月14日-09:00|日本|佐賀県鹿島市|享保12年12月4日|<死去>肥前鹿島藩25000石「鍋島直堅」(33歳)⇒長男「鍋島直郷」が継ぐ(⇒宝暦13(1763)年4月7日、隠居)

1740迄 (2954件)

1728年1月19日-09:00|日本|山梨県甲府市|享保12年12月9日|甲府城が全焼し、城下の大半を焼失
1728年1月22日-01:00|イタリヤ| ||<就任>ジェノヴァ共和国トージェルカ・グリマルディ (~17300122)
1728年1月29日 05:00|ジャマイカ/イギリス| ||<就任>英領サテティアコ 総督「ロバート ハンター」 (~17340331没)
1728年2月-05:30|インド| ||マラーター王国はニザーム王国の軍にブネー及びその周辺の地域を占領され、マラーター王シャーフはフ
ランダル城へ避難/遠征から戻ってきた宰相バジール・ラオがニザーム王国軍を破った(ハールケートの戦い)
1728年2月3日 04:00|グアドループ/フランス| ||<就任>グアドループ 知事「Robert Giraud du Poyet」 (~17340727)
1728年2月9日 00:00|イギリス| ||ユリウス暦:1728/1/29|「三文ホウ」のもととなるジョン・ゲイの「乞食ホウ」がロンドン
のリンクス・イン・イルズ 劇場で上演される
1728年2月10日-09:00|日本| ||享保13年|この年、荷田春満が「創学校啓」を著す
1728年2月10日-08:00|中国| ||清・雍正6年|<就任>チベット摂政「ホルハナ」 (~1747年)
1728年2月15日-09:00|日本| ||享保13年1月6日|<死去>狩野周信 (69歳) 狩野派の絵師
1728年2月28日-09:00|日本|東京都|享保13年1月19日|<死去>荻生徂徠 (63歳、寛文6 (1666) 0216生) 漢学者・儒学者
/「梅が香や隣は萩生葱右衛門」と俳人宝井其角が詠んだその隣人
1728年3月-05:30|インド| ||<就任>ポルポル国支配者(ナワブ)「ソルタン・モハマト・カーン」 (~1742年)、摂政「サルタール・アキル・ムハンマ
ド・カーン」 (~8. 30)
1728年3月-04:00|オマーン| ||<死去>ヤア・リハ 王朝イマム「ムハンマド・イブン・ナースイル」
1728年3月3日-09:00|日本|徳島県徳島市|享保13年1月23日|<交替>阿波徳島藩25万7千石「蜂須賀綱矩」隠居⇒四
男「蜂須賀宗員」が継ぐ(⇒享保20 (1735) 年6月7日、死去)
1728年3月11日-09:00|日本|京都府京都市|享保13年2月|<初演>「傾城満蔵鑑」初代瀬川菊之丞、京都萬太夫、市山
助五郎座
1728年3月13日 00:00|モロッコ| ||<即位>アラウィー朝スルタン「アブド・アルマリク」 (~7. 18 薨位)
1728年3月13日 00:00|モロッコ| ||<薨位>アラウィー朝スルタン「アブ・アルアッハス・アフマド 2世アダハビ」
1728年3月24日-09:00|日本|千葉県香取郡多古町|享保13年2月14日|<死去>下総多古藩12000石「松平勝以」 (68歳)
⇒次男「松平勝房」が継ぐ(⇒享保21 (1736) 年4月6日、隠居)
1728年4月1日-01:00|サンマリノ| ||<就任>サンマリノ共和国執政「フランチェスコ・マリア・ベッルツィ」 「ピエジジオ・アントニオ・マルテッリ」
1728年4月9日-09:00|韓国/朝鮮| ||朝鮮・雍正6年3月|朝鮮で李麟佐の乱が起こる(戊申の乱)
1728年4月9日-09:00|日本|広島県広島市西区|享保13年3月|安芸国広島藩主「浅野吉長」の命により、新川場町正
清院を再建
1728年4月11日-04:00|オマーン| ||<即位>ヤア・リハ 王朝イマム「サイフ・イブン・スルタン2世」 (第4治世~1742年)
1728年4月23日-09:00|日本|千葉県東金市|享保13年3月15日|日因上総広瀬に本城寺を創す
1728年5月5日-09:00|日本|新潟県長岡市|享保13年3月27日|<越後長岡享保13年の大火「三蔵火事」>夕刻、柳原町
の町人三蔵が喧嘩相手の門左衛門の屋敷に放火、炎は激しい西風にあおられて燃え広がり、翌朝ようやく鎮火/
焼失したのは長岡城の郭内すべて、町屋1251軒、侍屋敷287軒、足軽屋敷13軒、寺8か所、神社1か所
1728年5月11日 00:00|イギリス| ||<死去>6代ストラモア・キング ホーン伯「チャールズ・ライオン」
1728年5月11日 00:00|イギリス| ||<就任>7代ストラモア・キング ホーン伯「ジェイムズ・ライオン」先代の弟 (~17350104死去)
1728年5月13日-09:00|日本| ||享保13年4月5日|<死去>3代大橋宗与 (81歳) 将棋棋士/六世名人
1728年5月15日 00:00|アイルランド/イギリス| ||<就任>アイルランド 副卿代行判事「アーマー大司教ヒュー・ポルター/ウィングラム男爵トマ
ス・ウィングラム/ウィリアム・コナー」 (2度目~17290913)
1728年5月21日-09:00|日本|三重県津市|享保13年4月13日|<死去>伊勢津藩32万3千石「藤堂高敏」天然痘のため (3
6歳) ⇒6月11日、養子「藤堂高治」が継ぐ(⇒享保20年8月2日 (17350918)、26歳で死去)
1728年6月8日-08:00|中国| ||清・雍正6年5月|チベットでホラネが清軍と協力してラサを制圧
1728年6月8日-09:00|日本|長野県上田市|享保13年5月1日|<死去>信濃国上田藩58000石(老中)「松平(藤井)忠周」
(68歳) ⇒三男「松平忠愛」が継ぐ(弟「忠容」に川中島5000石を分知し53000石⇒寛延2 (1749) 年8月2日、隠居)
1728年6月12日-09:00|日本|福島県二本松市|享保13年5月5日|<死去>陸奥二本松藩100700石「丹羽秀延」 (39歳) ⇒
6月25日、養子「丹羽高寛」が継ぐ(⇒延享2 (1745) 年5月9日、隠居)
1728年6月14日 04:00|アンティグア・バブーダ/イギリス| ||<就任>リワード・カリブー諸島総司令官・総督代行「ウィリアム・マシュー・
ジュニア」 (2回目~8. 19)
1728年6月14日-09:00|日本|東京都千代田区|享保13年5月7日|<就任>老中「大久保常春」 (~9月10日)
1728年6月14日-09:00|日本|栃木県那須烏山市|享保13年5月7日|<加増>下野烏山藩2万石「大久保常春」+1万石⇒3
万石(⇒同年9月9日、死去)
1728年6月19日-09:00|日本|徳島県阿南市|享保13年5月12日|<死去>平島公方「平島義辰」⇒嫡男「平島義武」が継
ぐ(~宝暦11年12月11日 (17620105)、死去)
1728年6月29日 04:30|ベネチア/スペイン| ||<就任>スペイン領ベネチア総督「Lope Carrillo de Andrade Sotomayor y
Pimentel」 (~17300831死去)
1728年7月2日 00:00|アイルランド/デンマーク| ||<就任>アイルランド 総督「クリスチャン・ギルデンクロネ」 (~17301211)
1728年7月6日-09:00|日本|大阪府大阪府中央区|享保13年5月29日|幕府が、大坂道頓堀の鑄銭座を設けて寛永通
宝を売出
1728年7月6日-09:00|日本|滋賀県大津市|享保13年5月29日|<死去>堀田正高 (62歳) 前近江堅田藩主
1728年7月8日 04:00|BES諸島/オランダ| ||<就任>セント・ユースタチウス島司令官「Everardt Raecx」 (~17330210、死去)
1728年7月17日-09:00|日本|三重県津市|享保13年6月11日|<交替>伊勢久居藩53000石「藤堂高治」本家伊勢津藩の
家督を継ぐ⇒19日、甥「藤堂高豊」が継ぐ(⇒享保20 (1735) 年9月21日、本家伊勢津藩の家督を継ぐ)
1728年7月18日 00:00|モロッコ| ||<即位>アラウィー朝スルタン「アブ・アルアッハス・アフマド 2世アダハビ」 (2回目~17290305死去)

1740迄 (2954件)

- 1728年7月18日 00:00|モロッコ| |||<廃位>アラウィー朝スルタン「アブド・アルマリク」
- 1728年7月19日 06:00|アメリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領マサチューセッツ湾直轄植民地総督「ウィリアム・バーネット」(~17290907)
- 1728年7月28日-01:00|オランダ| |||<就任>ベルゲン・オブ・ズーム辺境伯「カール・フィリップ・ネトール・フォン・ファルツグラーフ」(⇒1742年、兼プロシヤ選帝侯⇒1777年、兼バイエルン選帝侯~17950130)、摂政「マリア・エンリエッタ・テル・カレット・デ・イ・サウ・オナ・エ・グラーフ」(~1742年)
- 1728年8月 06:00|ニカラガ/スペイン| |||<就任>ニカラガ総督「エストラダ・公トマス・マルコス」(2回目~1730年)
- 1728年8月14日 00:00|イギリス| |||<死去>初代ヨーク＝オールバニ公・初代アルスター伯「アーネスト・オーガスタス王子」
- 1728年8月17日-09:00|日本|長野県飯田市|享保13年7月12日|<死去>信濃飯田藩2万石「堀親庸」(22歳)⇒弟「堀親蔵」が継ぐ(⇒延享3年2月13日(17460403)、死去)
- 1728年8月19日 04:00|アンティガ/イギリス| |||<就任>リワード・カリブ諸島総司令官・総督「ロンドンリー伯爵トマス・ヒット」(~17290912)
- 1728年8月24日-09:00|日本|大阪府和泉市|享保13年7月19日|<死去>和泉国伯太藩13500石「渡辺基綱」(64歳)⇒長男「渡辺登綱」が継ぐ(⇒明和4(1767)年9月10日、隠居)
- 1728年8月26日-04:00|ロシア| ||ロシア暦8月15日|デンマーク生まれのロシアの探検家「ヴィタス・ベリング」(47)が、アジア大陸とアメリカ大陸が陸続きでないことを発見
- 1728年8月26日-01:00|ドイツ| |||<死去>ザクセン＝ヴァイマル公「ヴィルヘルム・エルスト」
- 1728年8月30日-05:30|イギリス| |||<就任>ホルヘール国摂政「ヤール・モハムド・カーン」(~1742年)
- 1728年9月2日 04:00|バミューダ/イギリス| |||<就任>イギリス直轄植民地バミューダ総督「ジョン・ヒット大佐」(~1737年)
- 1728年9月2日-09:00|日本|群馬県館林市|享保13年7月28日|<死去>上野国館林藩54000石「松平武雅」(27歳)⇒9月、養子「松平武元」が継ぐ(⇒同月22日、陸奥棚倉藩54000石に移封)
- 1728年9月6日-01:00|オランダ| |||<就任>メーゲン伯「マクシミリアン・ダミアン・フライヘル・フォン・シャル・ツェーベル」メーゲンを購入(~17410204没)
- 1728年9月7日 00:00|イギリス| |||<死去>リンカーン伯「ヘンリー・クリントン」
- 1728年9月7日 00:00|イギリス| |||<就任>リンカーン伯「ジョージ・クリントン」(~17300430死去)
- 1728年9月14日-09:00|日本|長崎県五島市|享保13年8月11日|<交替>肥前福江藩12530石「五島盛佳」隠居⇒長男「五島盛道」が継ぐ(⇒明和6(1769)年12月20日、隠居)
- 1728年9月28日-09:00|日本|長崎県平戸市|享保13年8月25日|<死去>肥前平戸藩61700石「松浦有信」(19歳)⇒11月7日、弟「松浦誠信」が継ぐ(⇒安永4(1775)年2月16日、隠居)
- 1728年10月1日-01:00|サマリヤ| |||<就任>サマリヤ共和国執政「マリノ・エネア・ホネリ」「ヘルバルティエーノ・カッティオニ」
- 1728年10月5日 05:00|日本|東京都|享保13年9月2日|<享保13年江戸大洪水>羊の刻(14時ごろ)大風雨、小日向、小石川、下谷、浅草辺り水身の丈を越す/武士屋敷、町屋流失し崩潰/翌3日明け方には水が引いた/江戸川、神田川の諸橋多く流失し、隅田川では両国橋、新大橋大部分崩潰して流失/死亡者7980人、行方不明者含め1万人以上の犠牲者
- 1728年10月9日 00:00|イギリス| |||<就任>6代ソールズベリー伯「ジェームズ・セシル」先代の息子(~17800919死去)
- 1728年10月11日-09:00|日本|栃木県那須烏山市|享保13年9月9日|<死去>下野烏山藩3万石(老中)「大久保常春」(54歳)⇒長男「大久保忠胤」が継ぐ(⇒宝暦9(1759)年、隠居)
- 1728年10月13日-09:00|日本| ||享保13年9月11日|<死去>金子吉左衛門(不明)歌舞伎役者・作者
- 1728年10月20日-01:00|デンマーク| |||デンマーク・コペンハーゲン大火。市街地の25%を焼失、3650家族が家を失った
- 1728年10月23日-09:00|日本|愛媛県大洲市|享保13年9月21日|<死去>加藤泰貫(53歳)前伊予新谷藩主
- 1728年10月24日-09:00|日本|群馬県館林市|享保13年9月22日|<移封>陸奥棚倉藩5万石「太田資晴」⇒上野館林藩5万石に移封(⇒享保19(1734)年9月25日、大坂城代に任じられ摂津国周辺5万石)
- 1728年10月24日-09:00|日本|福島県東白川郡棚倉町|享保13年9月22日|<移封>上野国館林藩54000石「松平武元」⇒陸奥棚倉藩54000石(延享3(1746)年5月15日、上野国館林藩54000石へ再移封)
- 1728年10月26日-09:00|日本|東京都|享保13年9月24日|幕府が牛車・地車・荷つき馬の市中往来の慎重を命じ、過失致死者を死罪とする
- 1728年10月26日-09:00|日本|長崎県平戸市|享保13年9月24日|<死去>平戸新田藩1万石「松浦鄰」(24歳)⇒11月23日、養子「松浦到」が継ぐ(⇒明和3(1766)年5月21日、隠居)
- 1728年10月28日-01:00|ロシア| |||<即位>ポルツァ大公「ハヴ・オ・ハヴ・イツチ」
- 1728年11月7日-09:00|日本|福島県相馬市|享保13年10月6日|<死去>相馬昌胤(68歳)前陸奥相馬中村藩主
- 1728年11月8日-09:00|日本|大阪府大阪市|享保13年10月7日|<就任>大坂城代「堀田正虎」(~享保14(1729)年1月22日)
- 1728年11月8日-09:00|日本|東京都千代田区|享保13年10月7日|<就任>老中「酒井忠音」(~享保20年5月18日)
- 1728年11月19日-01:00|ドイツ| |||<死去>アンハルト＝ケーテン侯「Leopold」
- 1728年11月19日-01:00|ドイツ| |||<就任>アンハルト＝ケーテン侯「Augustus Louis」(~17550806死去)
- 1728年11月21日-02:00|エストニア/ロシア| |||<死去>ロシア＝エストニア総督「フォートル・マトヴェイ・イェー・グラーフ・ラウソン」
- 1728年11月21日-02:00|エストニア/ロシア| |||<就任>エストニア総督代行「フリドリッヒ・レーヴ・エン男爵フリドリッヒ・フライヘル・フォン・レーヴ・エン・セヴァー」(⇒1730年9月総督~17360325)
- 1728年11月28日 00:00|イギリス| |||<死去>2代コードーン公・5代ハントリー侯「アレクサンダー・コードーン」
- 1728年11月28日 00:00|イギリス| |||<就任>3代コードーン公・6代ハントリー侯「コスモ・ジョージ・コードーン」(~17520805死去)
- 1728年12月1日-09:00|日本|J. フロントリヤック|享保13年11月|京都伏見の呉服店「大文字屋」が名古屋本町4丁目に名古屋店「大丸屋」開店
- 1728年12月13日 04:00|モントセラト/イギリス| |||<就任>イギリス植民地モントセラト副総督「Adam Pancier」(~同年)⇒「John Os

1740迄 (2954件)

borne) (~1729年)

- 1728年12月15日-09:00|日本|島根県安来市|享保13年11月15日|<死去>出雲広瀬藩3万石「松平近朝」(48歳)⇒弟「松平近明」が継ぐ(⇒寛延2(1749)年8月9日、隠居)
- 1728年12月16日-09:00|日本|香川県丸亀市|享保13年11月16日|丸亀城下渡し場より出火、34軒焼失
- 1728年12月23日-01:00|オーストリア/ドイツ| ||プロシエンのフリードリヒ・ヴィルヘルム1世がカル6世と条約を結ぶ/オーストリアの国事詔書を承認
- 1728年12月23日 01:00|カボベルデ/ポルトガル| ||<就任>カボベルデ 総督「フランス・オリベ・イラ・ケラン」(~17330330)
- 1728年12月23日-09:00|日本|茨城県つくば市|享保13年11月23日|<交替>常陸谷田部藩16300石「細川興栄」隠居⇒孫「細川興虎」が継ぐ(⇒元文2年12月21日(17380209)、死去)
- 1728年12月23日-09:00|日本|京都府福知山市|享保13年11月23日|<交替>丹波福知山藩32000石「朽木植治」隠居⇒甥「朽木玄綱」が継ぐ(⇒明和7(1770)年8月30日、死去)
- 1728年12月24日 00:00|カナダ/デンマーク| ||<就任>デンマーク領コロト=ニコスト長官「アンダー・ス・ペーター・セン・ウェロー」(~17350812)
- 1728年12月28日-09:00|日本| ||享保13年11月28日|<死去>一平安代(49歳)刀工
- 1728年12月29日 05:00|イタリ/スペイン| ||<就任>スペイン領トリス総督・総司令官・大審問院長「テオドシオ・デ・アルベルト・イ・エレラ」(~1736年12月)
- 1729年-08:00|インドネシア/東ティモール/ポルトガル| ||<就任>ティモール知事「ペドロ・デ・メロ」(~1731年)
- 1729年-08:00|マレーシア| ||<即位>パタニ王国国王「ラジャ・ユヌ」(~1749年)
- 1729年-06:00|ブータン| ||<就任>ブータン摂政「ミナム・ワンポ」(~1736年)
- 1729年-05:45|ネパール| ||<即位>ラリタプーラ王「スリ・シヤウ・イシュマラ」(~1745年没)
- 1729年-05:30|インド| ||<死去>カカー国統治者(マハラジャ・テ・イラジ)「ゲール・サイ・デ・オ」
- 1729年-05:30|インド/オランダ| ||<就任>オランダ 領インド 総督「アドリアン・ファン・プーラ」(~1733年)
- 1729年-05:30|インド| ||<就任>カカー国統治者(マハラジャ・テ・イラジ)「ハハル・デ・オ」(~1775年没)
- 1729年-05:30|インド| ||<就任>コラ 国統治者(サルル)「サコジ・アングリア」(~1733年没)
- 1729年-05:30|インド| ||<就任>タルチャー 国ラジャ「ヒ・タンバル・ヒラール・ハリチャンドン」(~1740年没)
- 1729年-05:30|インド| ||<就任>タンジュール 国ラジャ「トウコジ」(~1736年没)
- 1729年-05:30|インド| ||<就任>トリプーラ 国ラジャ「ムカンタ・マニーキヤ3世」(~1739年没)
- 1729年-05:30|インド| ||<就任>トランガドゥ 国統治者(ラジ・サーヒブ)「ライムジ 2世 プラタプ・シムジ」(~1744年没)
- 1729年-05:30|インド| ||<就任>ムガル帝国カミール総督「アミール・カーン」(~1736年)
- 1729年-05:30|インド/デンマーク| ||<制定>デンマーク王領インド 植民地(~1732年)
- 1729年-05:30|インド| ||<即位>トラヴァンコール王「マルタンタ・ヴァルマ」ケーラ地方南部に割拠した付近の領主を統一建国(~17580707死去)
- 1729年-05:30|インド| ||<即位>ラタック 国王(フォス・ギヤル・チェン・ホ)「デギョン・ナムギヤル」(~17390320没)
- 1729年-05:00|ガフスタン| ||<死去>中ジユス・ハーン「ホラット・カーン」
- 1729年-05:00|ガフスタン| ||<就任>中ジユス・ハーン「サメ・カーン」(~1737年没)
- 1729年-04:30|アフガニスタン| ||<即位>ホタキ朝首長「サイン・ホタキ」(~1738年死去)
- 1729年-03:30|イラン| ||<就任>サファヴィー朝大宰相「ラジャブ・アリ・カーン」(~1732年)、「ナディール・カーン・アフシャル」(~17360308)
- 1729年-03:30|イラン| ||<即位>サファヴィー朝シャー「タフマースプ 2世」(~1732年退位~17400211死去)
- 1729年-02:00|エジプト/トルコ| ||<就任>オスマン帝国領エジプト総督「アブ・テイ・ハシヤ」(3回目~同年)
- 1729年-02:00|ラトビア| ||<就任>ケルラント・ゼムカレン公国政府議長「カミール・クリストフ・フォン・ブラッカル」(~17310118)
- 1729年-01:00|ドイツ| ||<就任>トリア選帝侯「フランツ・ゲオルク」(~17560118死去)
- 1729年-01:00|オランダ| ||<就任>ネーデルラント連邦共和国ヘルダーラント州総督「オラニエ公ウィレム4世」フリースラント州総督・オラニエ公ヨハン・ウィレム・フリーツの子(~1747年~17511022死去)
- 1729年-01:00|ポスニア・ヘルツェゴビナ/トルコ| ||<就任>ポスニア総督「カークラク・イブ・レヒム・ハシヤ」(~1730年)
- 1729年-01:00|ポーランド| ||<即位>チェジ公「神聖ローマ皇帝フランツ1世」(~17650818)
- 1729年-01:00|イタリア/フランス| ||コルカ島でジェノヴァの支配に対する反乱が勃発
- 1729年-01:00|デンマーク| ||デンマークの東インド会社が破産
- 1729年 00:00|チャンドル諸島/イギリス| ||<死去>イギリス王領ルダニ島知事「Anne Andros Le Mesurier」
- 1729年 00:00|チャンドル諸島/イギリス| ||<就任>イギリス王領ルダニ島知事「Henry Le Mesurier」(~17440602)
- 1729年 00:00|イギリス| ||イギリスの物理学者スティーブン・グレイが電気の伝導性を発見
- 1729年 03:00|ブラジル| ||ミナス州セラ・フォアでダイヤモンドも発見
- 1729年 04:00|グアドループ/フランス| ||<死去>マリー・ガランテ知事「Pierre Le Begue」
- 1729年 04:00|モントセロ/イギリス| ||<就任>イギリス植民地モントセロ副総督「トマス・Diggs」(~1734年)
- 1729年 04:00|グアドループ/フランス| ||<就任>マリー・ガランテ知事「Robert Philippe de Longvilliers de Poincy」(2期目~1748年)
- 1729年 06:00|エルサルバドル/スペイン| ||<就任>サン・サルバドル、サン・ミゲル、サン・ビセンテ 州市長兼副司令官「アントニオ・ゴンザレス・マンリケ」(~1734年)
- 1729年1月8日 00:00|イギリス| ||<就任>25代フェスター伯「フレデリック」ロシー公(スコットランド 王位の法定推定相続人)・コーンウォール公・初代エ丁堡公・イーリー侯・23代キャリック伯・初代エルム伯(~17510331死去)
- 1729年1月11日-01:00|イタリア| ||ベネチアで大運河の浚渫
- 1729年1月14日-01:00|ドイツ| ||<死去>サクセン=アイトナ侯「John William」
- 1729年1月14日-01:00|ドイツ| ||<就任>サクセン=アイトナ侯「William Henry」(~17410726死去)

1740迄 (2954件)

- 1729年1月14日 00:00 | イギリス | ||| <死去>4代ノースフォーク「デヴィッド・カーク」
- 1729年1月14日 00:00 | イギリス | ||| <就任>5代ノースフォーク「デヴィッド・カーク」(~17410624死去)
- 1729年1月27日-05:30 | インド | ||| <就任>ティルヴァムコウ国ラジャ「ラマヴァルマ2世」(~8.30没)
- 1729年1月29日-09:00 | 日本 | || 享保14年<刊行>太宰春台「経済録」
- 1729年1月29日-09:00 | 日本 | || 享保14年<儒教による女子修身書「女大学」刊行
- 1729年1月29日-08:00 | 中国 | || 清・雍正7年<清・雍正帝がアヘン禁止令を公布、アヘン窟を開いた者は死刑、売買で辺境送り
- 1729年1月29日-09:00 | 日本 | 東京都中央区 | 享保14年1月<初演>「扇恵方曾我」<矢の根>, 二代目市川團十郎、(市川團十郎十八番), 中村座(~4)月
- 1729年2月17日-01:00 | ドイツ | ||| <死去>ザクセン＝コーブルク＝グーフェルト公「ヨハン・エルスト4世」
- 1729年2月17日-01:00 | ドイツ | ||| <即位>ザクセン＝コーブルク＝グーフェルト公「クリスティアン・エルスト2世」先代の息子(~17450904死去)、「フランツ・ヨアス」弟(~17640916死去) 共同統治
- 1729年2月19日-09:00 | 日本 | 山形県山形市 | 享保14年1月22日<死去>出羽山形藩10万石「堀田正虎」(68歳)⇒養子「堀田正春」が継ぐ(甥「正亮」に3000石分与⇒享保16(1731)年2月9日、死去)
- 1729年2月24日-01:00 | ドイツ | ||| <死去>ザクセン＝マインゲン公「エルスト＝ルートヴィヒ2世」
- 1729年2月24日-01:00 | ドイツ | ||| <即位>ザクセン＝マインゲン公「カール＝フリートリヒ」(~17430328死去)
- 1729年3月1日-09:00 | 日本 | 大阪府大阪市 | 享保14年2月2日<就任>大坂城代「松平信祝」(~享保15(1730)年7月11日)
- 1729年3月5日 00:00 | モロッコ | ||| <死去>アラウイ朝スルタン「アブ＝ル＝アッハ＝ス＝アッマド2世アダハビ」52歳
- 1729年3月5日 00:00 | モロッコ | ||| <即位>アラウイ朝スルタン「アブド＝アッラー」(1回目~17340928廃位)
- 1729年3月7日-09:00 | 日本 | || 享保14年2月8日<刊行>儒学者・太宰春台「経済録」全10巻
- 1729年3月13日-04:00 | モーリシャス/フランス | ||| <就任>モーリシャス島総督「ビエール＝ブワテュマ(商務長官)」(~8.20)
- 1729年3月14日-09:00 | 日本 | 愛知県豊橋市 | 享保14年2月15日<移封>遠江浜松藩7万石「松平資訓」⇒三河吉田藩7万石(⇒宝暦2(1752)年3月26日、死去)
- 1729年3月14日-09:00 | 日本 | 静岡県浜松市 | 享保14年2月15日<移封>三河吉田藩7万石「松平信祝」⇒遠江浜松藩7万石(⇒延享元年4月18日(17440529)死去)
- 1729年3月25日-09:00 | 日本 | || 享保14年2月26日<幕府が、関八州で猪・鹿に対する農民の鉄砲使用の制限を緩和
- 1729年3月27日-01:00 | ホーランド/フランス | ||| <死去>チェジ公・ロレーヌ公「レホルト」
- 1729年3月27日-01:00 | ホーランド | ||| <就任>チェジ公「皇帝フランツ1世」(~17650818死去)
- 1729年3月27日-01:00 | フランス/イタリ | ||| <即位>ロレーヌ(ロートリンゲン)公「フランツ3世エティエンヌ(フランツ3世シュテファン)」(~17370709) 兼カプリア公(ホーリア王の推定相続人の称号)「フランチェスコ・レホルト」の四男(~17650818死去). 神聖ローマ皇帝フランツ1世
- 1729年3月27日-09:00 | 日本 | || 享保14年2月28日<死去>初代中村伝次郎(57歳) 歌舞伎振付師
- 1729年3月29日-09:00 | 日本 | 東京都千代田区 | 享保14年3月1日<幕府が小納戸頭取の役職を創設する
- 1729年4月1日-01:00 | サマリ | ||| <就任>サマリ/共和国執政「ジョヴァンニ＝パオロ＝ガロニ」「フランチェスコ・ジャンツ」
- 1729年4月3日 00:00 | イギリス | ||| <剥奪>2代ウォートン侯・第2代マムズベリー侯・第2代キャザロー侯・第2代ラスファーム伯「ウィリアム・ウォートン」
- 1729年4月5日 05:00 | 日本 | 岐阜県高山市 | 享保14年3月8日<飛騨高山享保14年の大火>未の刻(14時ごろ)、一之町六丁目の北沢屋孫兵衛の貸家小島屋長兵衛宅より出火/炎は二之町下へ移り、三之下町をなめ尽くし、三筋之町は北の方から三町が残らず焼けた/炎は照蓮寺、雲龍寺へも延焼し御防小屋も焼けた/飛び火で八幡長久寺も全焼/翌朝卯の刻(午前6時ごろ)鎮火/焼失家数975軒、同土蔵44棟、同寺13か所
- 1729年4月14日 00:00 | イギリス | ||| <死去>2代フェーズ伯「ウィントン＝シャーリー」
- 1729年4月14日 00:00 | イギリス | ||| <就任>3代フェーズ伯「ハンリー＝シャーリー」(~17450806死去)
- 1729年4月15日-01:00 | ドイツ | ||| J. S. バッハ「マタイ受難曲」がライブ・ツピで初演される
- 1729年4月23日-02:00 | 南アフリカ/オランダ | ||| <就任>オランダ領ケープ植民地司令官代行(オランダ東インド会社)「ジャン＝ド・ラフォンテーヌ」(2度目⇒17370308司令官~17370831)
- 1729年4月24日-09:00 | 日本 | 大阪府豊中市 | 享保14年3月27日<死去>青木重矩(65歳) 前撰津麻田藩主
- 1729年4月30日 06:00 | 日本 | 岩手県盛岡市 | 享保14年4月3日<盛岡享保14年の大火>未の下刻(15時ごろ)、北上川沿い大沢川原の新土手横町南側の中居円太郎宅から出火、同川原の東南側すべてと中津川を越えて鷹匠小路の四つ辻にある女鹿孫惣宅へ飛び火/炎は六日町から新町へと同川上流方面へ延焼、紺屋町曲がり目まで焼失させた/吹手町の愛染観音堂と三明院を焼失したのち炎は東南に曲がり、餌差小路から生姜町、八幡丁へと東上、八幡神社の拝殿や鳥居を残らず焼失させた/南の方へと延びた炎は、石町から馬町、十三町、鉦屋町、水主丁、十文字まで延焼して焦土とし、上小路組丁も残らず焼失して鎮火/河南地区の大半を焼失する大火となった/被害は、町家1340軒、職人の家26軒、百姓家50軒、侍屋敷213軒、用屋敷(藩の官舎)2軒、足軽屋敷137軒、足軽並みの者の家56軒. そのほか、惣門番所2軒、寺26か所、神社11か所、鐘楼堂1か所、土蔵54棟、穴蔵14棟、高札場1か所、橋1か所/6人死亡
- 1729年5月4日-01:00 | ベトナム | ||| フエがウイグの町を占領(~7.16)
- 1729年5月18日-09:00 | 日本 | 東京都品川区 | 享保14年4月21日<天一坊事件>天一坊改行が獄門にされる/25歳(誕生: 宝永2(1705)0315) 幕府が、みずから将軍吉宗の御落胤と称していた修験者
- 1729年5月18日-07:00 | ベトナム | || 大越黎朝・永慶1年4月21日<譲位>後黎朝(大越)後期第12代皇帝「裕宗」
- 1729年5月18日-07:00 | ベトナム | || 大越黎朝・永慶1年4月21日<即位>後黎朝(大越)後期第13代皇帝「後廢帝」(~1732.8廃位) 永慶と改元(~1732)
- 1729年5月25日 03:00 | 日本 | 熊本県熊本市 | 享保14年4月28日<熊本享保14年の大火「藪の内火事」>午の上刻(午前

12時ごろ)、藪ノ内、御台所方役の塙善左衛門屋敷から出火/火薬の原料・煙硝を荒仕子で搗いていた際の火の火から屋敷に燃え移り、四方、八方に炎が飛び散った/御賄い所、音信所、竹小屋が延焼し、上林、坪井米屋町は全焼、広丁は半分が焼け、八百屋町、内坪井町も全焼/寺原から京町、御座打町、向寺原にかけて全焼し京町は小笠原備前の屋敷までを灰とした/隣接の牧崎村へ飛び火し、3、4か所を焼いて、夜申の下刻(18時ごろ)鎮火/焼失した屋敷は火元とも1381か所、家数にして2584軒。内訳、町屋敷343か所、家数367軒、土蔵36軒。知行取り屋敷、中小姓御用屋敷とも339か所、家数は土蔵24軒を含み1337軒。御切米取(所領のない給料取り武士)屋敷184か所、家数262軒。足軽屋敷415か所、家数415軒。御掃除の者など小者25か所、家数25軒。地子屋敷24か所、32軒。寺院・山伏など31か所、118軒、その他竹小屋1か所、1軒。御掃除方会所3軒。牧崎村内沼田勘解由下屋敷3か所、家数5軒。京町村7かまど、家数7軒など/その内大きな家屋は、細川内膳殿屋敷、朽木内匠殿屋敷、持法院殿屋敷、藤崎作左衛門殿屋敷など/9人死亡

- 1729年5月27日-01:00|ホーランド| |||<即位>チェン公「神聖ローマ皇帝フランツ1世」(~17650818)
- 1729年5月29日-09:00|日本|岡山県岡山市北区|享保14年5月2日|<交替>備中足守藩25000石「木下利定」隠居⇒甥「木下利潔」が継ぐ(⇒元文5(1740)年7月21日、死去)
- 1729年6月1日-08:00|インドネシア/オランダ| |||<死去>オランダ領東インド総督「Matthaeus de Haan」
- 1729年6月1日-08:00|インドネシア/オランダ| |||<就任>オランダ領東インド総督「Diederik Durven」(~17311009)
- 1729年6月1日-09:00|日本| ||享保14年5月5日|<死去>村山十平次(不明)歌舞伎役者
- 1729年6月4日 00:00|イギリス| |||<死去>2代デュークオブヨーク公「ウィリアム・キャヴェンディッシュ」
- 1729年6月4日 00:00|イギリス| |||<就任>3代デュークオブヨーク公「ウィリアム・キャヴェンディッシュ」先代の息子(~1751205死去)
- 1729年6月6日-09:00|日本|福島県伊達市|享保14年5月10日|<死去改易>陸奥梁川藩3万石「松平義真」(16歳)無嗣断絶
- 1729年6月25日 00:00|イギリス| |||<死去>2代リス公「ヘンリー・オブ・ポーン」
- 1729年6月25日 00:00|イギリス| |||<就任>3代リス公「ヘンリー・オブ・ポーン」2代公の唯一の男子(~17310509死去)
- 1729年6月25日-09:00|日本|京都府京都市伏見区|享保14年5月29日|<死去>山城淀藩102000石「稲葉正知」(45歳)⇒三男「稲葉正任」が継ぐ(⇒翌年正月12日、17歳で死去)
- 1729年6月26日-08:00|中国| ||清・雍正7年6月|雍正帝がジュンガル遠征に際して軍機処を設置、早馬の高速軍令伝達組織
- 1729年7月1日-09:00|韓国/朝鮮| |||<就任>朝鮮国領議政「洪致中」(~17320813)
- 1729年7月11日-02:00|エジプト/トルコ| |||<就任>オスマン帝国領エジプト総督「キョリュリュ・アブドゥラ・パシャ」(~1731年7月)
- 1729年7月25日 00:00|イギリス/アメリカ| ||ユリウス暦7月14日|ノースカロライナとサウスカロライナが、イギリスの王領植民地になる
- 1729年7月31日-09:00|日本|福岡県久留米市|享保14年7月6日|<交替>筑後久留米藩21万石「有馬則維」隠居⇒四男「有馬頼僮」が継ぐ(⇒天明3年11月23日(17831216)、70歳で死去)
- 1729年8月7日-09:00|日本| ||享保14年7月13日|<死去>鶴沢探山(75歳)画家
- 1729年8月9日-09:00|日本|大阪府大阪市|享保14年7月15日|<死去>初代芳沢あやめ(57歳)女形の歌舞伎役者
- 1729年8月12日-07:00|タイ| |||<即位>パタニ王「ラジャヌ」(~1750年)
- 1729年8月14日-08:00|フィリピン/スペイン| |||<就任>スペイン領フィリピン諸島総督「フェルナンド・バルデス」(~1739.7)
- 1729年8月20日-04:00|モリシャス/フランス| |||<就任>モリシャス島総督「ニコラス・ト・モバン(司令官)」(~17350604)
- 1729年8月22日-09:00|日本|東京都|享保14年7月28日|<死去>鳥居清信(66歳、1664年生)浮世絵師
- 1729年8月25日 05:00|バハマ/イギリス| |||<就任>イギリス王室植民地バハマ総督「ウッズ・ロジャース」(2回目~17320715)
- 1729年8月27日-05:30|スリランカ/オランダ| |||<就任>オランダ領セイロン総督「ステファヌス・ヴェルスミス」(~17320825)
- 1729年8月30日-05:30|インド| |||<就任>ティルウヴァムコウ国ラジャ「マルタン・ヴァルマ3世」(~17580707没)
- 1729年9月 03:00|仏領ギアナ/フランス| |||<就任>ギアナ知事代理「Francois Michel Marschalck des Bordes」(~1730.7死去)
- 1729年9月3日-09:00|日本|福島県伊達市|享保14年8月11日|<再興>陸奥梁川藩3万石「松平通春」(⇒享保15(1730)年11月28日、宗家尾張藩を相続、廃藩)
- 1729年9月6日-09:00|日本|福島県白河市|享保14年8月14日|<死去>陸奥国白河藩15万石「松平基知」(51歳)⇒閏9月2日、甥「松平明矩」が継ぐ(⇒寛保元(1741)年11月1日、播磨姫路藩15万石に転封)
- 1729年9月9日 00:00|イギリス| |||<死去>6代ウィンチル伯「ジョン・フィンチ」
- 1729年9月9日 00:00|イギリス| |||<就任>7代ウィンチル伯「ダニエル・フィンチ」2代ノッティンガム伯(~17300101死去)
- 1729年9月10日 06:00|アメリカ/イギリス| |||<再任>イギリス領マチュセツ湾直轄植民地総督「ウィリアム・タマー」(~17300611)
- 1729年9月12日 04:00|アンティグア・バブダ/イギリス| |||<就任>リワード・カリビ-諸島総司令官・総督「ウィリアム・マシュー・ジュニア」(3回目、17331030まで代行~17520814)
- 1729年9月13日 00:00|イギリス| |||<就任>初代ウォルト・グレイヴ伯「ジェームズ・ウォルト・グレイヴ」(~17410411死去)
- 1729年9月15日 00:00|イギリス| |||<死去>4代サンターラント伯「ロバート・スペンサー」
- 1729年9月15日 00:00|イギリス| |||<就任>5代サンターラント伯「チャールズ・スペンサー」(⇒17331024兼3代マルバラ公~17581020死去)
- 1729年10月-01:00|ルクセンブルグ/オーストリア| |||<就任>オーストリア領ルクセンブルグ総督代行「カトリ-男爵フィリップ・アンリ-ト・マコーリ-」(1回目~17300507)
- 1729年10月 06:00|ニカラガア| |||<死去>モスキート王「ジエミ-2世」
- 1729年10月 06:00|ニカラガア| |||<就任>モスキート摂政「ヒーター」(~1739年5月没)
- 1729年10月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「ジャン・ジャコモ・アンジエリ」「ジョヴァンニ・アントレアーベニ」
- 1729年10月2日-04:30|アフガニスタン/イラン| |||ナテール・ゴリーがアフガン軍を撃退し、イсфаハーンを奪回

1740迄 (2954件)

- 1729年10月6日-09:00|日本|大分県別府市|享保14年9月14日|大雨洪水で境川(別府)が氾濫、大境村で15戸が流没、男7名、女14名が埋没死
- 1729年10月11日-09:00|日本|山口県下関市|享保14年9月19日|<死去>長門長府藩5万石「毛利匡広」(55歳)⇒10月26日、五男「毛利師就」が継ぐ(弟「政苗」に清末藩1万石を分知再興⇒享保20(1735)年4月22日、30歳で死去)
- 1729年10月20日 00:00|イギリス| ||<就任>4代サントウツ伯「ジョン・モンギュー」先代の孫(~17920430死去)
- 1729年10月22日-08:00|中国| ||清・雍正7年9月|雍正帝が「大義覚迷録」を頒布、漢人の民族思想を弾圧し呂留良の末裔を極刑
- 1729年11月9日-01:00|フランス/スペイン/イギリス| ||セビリヤ条約が結ばれ、スペインとイギリス、フランスの間の戦争が終結
- 1729年11月11日-09:00|日本|福島県|享保14年閏9月21日|陸奥国の信夫郡、伊達郡で百姓一揆が起こる
- 1729年11月24日-09:00|日本| ||享保14年10月4日|<死去>入江若水(59歳)漢詩人
- 1729年11月29日 00:00|カリブ諸島| ||<就任>ランカロー島領主「Martin Pedro de Castejon Belvis e Ibanez」(~1736年死去)
- 1729年12月11日 06:00|アメリカ/イギリス| ||<就任>イギリス領ニューハンプシャー州植民地総督「ジョン・ペルチャー」(~17411212)
- 1729年12月11日-09:00|日本|広島県広島市|享保14年10月21日|広島比治山町より出火800戸焼失
- 1729年12月16日-09:00|日本|山口県下関市|享保14年10月26日|<再興>長門清末藩1万石「毛利政苗」長府藩より分与(⇒安永4(1775)年7月29日、隠居)
- 1729年12月17日-09:00|日本|千葉県勝浦市|享保14年10月27日|<死去>上総勝浦藩1万石「植村正朝」(60歳)⇒次男「植村恒朝」が継ぐ(⇒寛延4(1751)年10月12日、改易)
- 1729年12月19日-09:00|日本|栃木県宇都宮市|享保14年10月29日|<死去>下野宇都宮藩77850石(老中)「戸田忠真」(79歳)⇒甥「戸田忠余」が継ぐ(⇒延享3(1746)年6月16日、死去)
- 1729年12月21日-09:00|日本|奈良県天理市|享保14年11月2日|<死去>織田成純(54歳)前大和柳本藩主
- 1729年12月27日-05:30|インド| ||<就任>シャープラ国統治者(タークル)「ウメイト・シン1世」(~17690114没)
- 1729年12月29日-01:00|イタリア| ||<即位>パルマ公「カルロ1世」(~17351003~17881214死去72歳)
- 1730年-08:00|インドネシア/イギリス| ||<就任>ベンクーレン副総督(マドラス総督に従属)「ステファン・Newcome」(~1731年)
- 1730年-08:00|ブルネイ| ||<即位>ブルネイ・スルタン「ムハマト・アラウティン」(~1737年死去)
- 1730年-07:00|イタリ| ||<死去>ヴェンチアン王「セテティラス2世」
- 1730年-07:00|イタリ| ||<即位>ヴェンチアン王「オロン」(~1767年没)
- 1730年-06:00|ブータン| ||<就任>ブータン精神的支配者・国家元首「ジグメ・ナルプ」(~1735年没)
- 1730年-05:30|インド| ||<就任>カチャリ国ラジャ「タルマト・ワジ・ナヤン」(~1735年)
- 1730年-05:30|インド| ||<就任>カンパイ国支配者(ナワブ)「ジャファル・コザム・エ・サヒム・ミン・カン1世」建国(~1743年没)
- 1730年-05:30|インド| ||<就任>キユーラ国摂政「ゴウアルタン・チャント」(~1741年)
- 1730年-05:30|インド| ||<就任>クトレハル国支配者(ライ・サハブ・シュリ)「ヤトウ・ハル」
- 1730年-05:30|インド| ||<就任>シャイラナ国ラジャ「ジャイ・シン」建国(~1757年没)
- 1730年-05:30|インド| ||<就任>シヴァカンガ国ラジャ「ウイジャヤ・ラクナ・サシウアルナ・ヘリヤダヤ・テウアル」建国(~1750年)
- 1730年-05:30|インド| ||<就任>シグニ国統治者(ラ)「パダム・ラ」建国(~1790年没)
- 1730年-05:30|インド| ||<就任>ナガール国ラジャ「チャンドラシール・シン・マンダッタ」(~1750年)
- 1730年-05:30|インド| ||<就任>パルワニ国統治者(ラ)「アヌブ・シン」(~1760年没)
- 1730年-05:30|インド| ||<就任>ラムナト国ラジャ「カチャ・テバン」(~1761年)
- 1730年-05:00|パキスタン| ||<就任>マクラン統治者(サム)「ムハット・カン」(1回目~1731年)
- 1730年-04:30|アフガニスタン| ||<即位>アンクイ・ハン「アリ・マルタン・カン」アフラの宗主権下建国(アフガニスタンのナティール・シャーのために~1736年)
- 1730年-04:00|アゼルバイジャン| ||<即位>サルヤン・ハン国ハン「アリ・クルム・ハン」(~1732年)
- 1730年-03:00|ウガンダ| ||<就任>ブガバラ統治者(オムカマ)「キティンボ」(~1755年頃)
- 1730年-03:00|ウガンダ| ||<就任>ブソコラ統治者(オムバイト)「フレム1世ルシヨイ」(~1740年)
- 1730年-03:00|ウガンダ| ||<設立>ブガバラ国
- 1730年-03:00|イェメン| ||<即位>上ヤファ首長「Ali ibn Ahmad ibn Harhara」(~1735年)
- 1730年-03:00|マダガスカル| ||<即位>メリナ王国君主「King Andriambelomasina」(~1770年)
- 1730年-02:00|シリア・アラブ/トルコ| ||<就任>アレppo・ワス(総督)「Kabakulak Ibrahim Pasha」(~1731年)
- 1730年-02:00|モザンビーク/ポルトガル| ||<就任>モザンビーク、ソファラ、リオス・テ・クアマ、モモタハ総司令官「アントニオ・カスコ・デ・メロ」(~17320811)
- 1730年-02:00|エジプト| ||エジプトでファリヤ派が勝利
- 1730年-02:00|ラトビア/ロシア| ||リヴァントもケルラントも事実上ロシア帝国の支配下に
- 1730年-01:00|スペイン| ||<死去>スペイン領メウラ総督「Alonso de Guevara y Vasconcelos」
- 1730年-01:00|フランス| ||<就任>シャテルロー公「アンヌ・シャルル・フレデリック・ド・ラトレイユ」(~1759年)
- 1730年-01:00|オランダ| ||<就任>ベルゲン・オブ・ズーム総督「ケッセル男爵ジョハン・ラホ」(~1733年没)
- 1730年-01:00|ポズニア・ヘルツェゴビナ/トルコ| ||<就任>ポズニア総督「サーケ・オスマン・ハシヤ」⇒「ハチ・イブ・ラヒム・ハシヤ」(~17331011)
- 1730年-01:00|フランス| ||<就任>モンモランシー公「アンヌ1世フランスワ」(~1761年)
- 1730年-01:00|ナジヴェリア| ||<即位>オヨ王国アラフィン「ケベル」(~1746年)
- 1730年-01:00|ガボン| ||<即位>オルンガ王国国王「デブリア・ムブラ」⇒「レンジヤンゲ・ントンゴ」(~1750年頃没)
- 1730年 00:00|セネガル| ||<就任>サアリ統治者(ファンカマラ)「シヤンジェ・ガソリ・シヤロ」
- 1730年 00:00|モリタニア| ||<就任>タガニット連邦エミール「ムハマト・シェイン」(~1785年)
- 1730年 01:00|アゾレス諸島/ポルトガル| ||<死去>ファイアル島・ピコ島トナトリア長官「Rodrigo Sanches Farinha e Baena」

1740迄 (2954件)

- 1730年 01:00|アゾレス諸島/ポルトガル | |||<就任>ファイアル島・ピコ島トナリア長官「Pedro Sanches Farinha de Baena」(~1737年死去)
- 1730年 03:00|ウルグアイ/スペイン | |||<就任>サン・フェリペ・イ・サンティアゴ・デ・モンテペデオ軍事司令官代理「Ignacio Gary」⇒司令官「Nicolas Carbajal」(~1731年)
- 1730年 03:00|ブラジル | |||ミナス州オ・ジ・エキティニョニヤにダ・イアメント 鉱山発見
- 1730年 04:00|アルバ/オランダ | |||<就任>アルバ 島司令官「Willem Jansz」(2期目~1739年)
- 1730年 04:00|パラグアイ | |||パラグアイでリマの副王支配に対してアンケウの反乱が勃発
- 1730年 05:00|パナマ/スペイン | |||<就任>パナマ総督・大統領「ウイエルモサ侯爵ファン・セルバンテス・イ・ベラスコ」(~1735年)
- 1730年 05:00|ジャマイカ | |||第一次マーン戦争開始/西部山地のトロニー(リーワード)タウンでは、クジョーを指導者に抵抗/東部ブルーマウンテン山地のナー(ウインドワード)タウンは、キャプテン・オ、クイン・ナー(オヘア教の呪術師)、パーキンソンらが活動
- 1730年 05:00|ペルー | |||ペルーでメステイソ数千名が重税反対の反植民地反乱
- 1730年 06:00|アメリカ/スペイン | |||<就任>スペイン領テキサス植民地総督「ファン・アントニオ・ブスティロ・イ・セバロ」(~1734年)
- 1730年 06:00|ニカラグア/スペイン | |||<就任>ニカラグア総督「バルトロメ・ゴンサレス・フィリア・イ・バルデス」(~1739年)
- 1730年 10:00|ハワイ | |||<死去>オアフ島・カウアイ島国王「Kualii Kunuiakea Kuikealaikauaokalani」
- 1730年 10:00|ハワイ | |||<即位>オアフ島国王「Kapiunookalani」(~1737年死去)
- 1730年 10:00|ハワイ | |||<即位>カウアイ島国王「Peleioholani」(~1770年死去)
- 1730年1月1日 00:00|イギリス | |||<死去>7代ウインチルシー伯・2代ノッティンガム伯「ダニエル・フィンチ」
- 1730年1月1日 00:00|イギリス | |||<就任>8代ウインチルシー伯・3代ノッティンガム伯「ダニエル・フィンチ」(~17690802死去)
- 1730年1月1日-09:00|日本|大分県速見郡日出町|享保14年11月13日|<死去>豊後日出藩25000石「木下俊量」(58歳)⇒六男「木下俊在」が継ぐ(⇒享保16(1731)年11月25日、18歳で死去)
- 1730年1月2日-01:00|シブラルル/イギリス | |||<死去>イギリス領シブラルル知事「デヴィッド・コリヤ」
- 1730年1月20日-01:00|イタリヤ | |||<就任>ジェノヴァ共和国ト・ジェ「フランセスコ・マリア・バルビ」(~17320120)
- 1730年1月22日 00:00|イギリス | |||<死去>12代モートン伯「ロバート・ダグラス」
- 1730年1月22日 00:00|イギリス | |||<就任>13代モートン伯「ジョージ・ダグラス」(~17380104死去)
- 1730年1月22日-09:00|日本|三重県桑名市|享保14年12月4日|<死去>松平忠充(79歳)元伊勢長島藩主
- 1730年1月29日-04:00|ロシア | |||ロシア暦1月18日|<死去>ロシア帝国皇帝「ピョートル2世」天然痘で/14歳(誕生17151023)
- 1730年1月29日-04:00|ロシア | |||ロシア暦1月18日|<就任>全ロシア最高枢密院「グラーフ・ガウリイル・イワノヴィチ・ゴロフキン/クニャース・ト・ミトリ・ミハイロヴィチ・ゴリツィン/アントレイ・イワノヴィチ・オスターマン男爵/クニャース・ウァシリ・ルキッチ・トルコルギ・クニャース・アレクセイ・グゴリ・イェ・イ・トルコルギ・クニャース・ミハイル・ミハイロヴィチ・ミル・ゴリツィン/クニャース・ウァシリ・ウラジミロヴィチ・ミル・トルコルギ」(~2.15)
- 1730年1月29日-09:00|日本 | |||享保14年12月11日|幕府が相対済令を改め、今年正月以後の金銀訴訟の受理を認める
- 1730年1月30日-09:00|日本|京都府京都市|享保14年12月12日|<死去>九条輔実(61歳)元摂政・関白、左大臣
- 1730年2月 00:00|イギリス | |||<死去>2代アナンデイル侯「ジェームズ・ジョンストン」
- 1730年2月 00:00|イギリス | |||<就任>3代アナンデイル侯「ジョージ・ウァンデン・ベンボト」(~17920429死去アナンデイル侯爵廃絶)
- 1730年2月3日 00:00|イギリス | |||ロンドン新聞「デイリー・アドバタイザ」に世界初の株式市場情報が掲載され始める
- 1730年2月12日-10:00|グアム/北マリアナ諸島/スペイン | |||<就任>マリアナ諸島知事「Pedro Lasso de la Vega」(~11.1)
- 1730年2月15日-04:00|ロシア | |||<即位>ロシア帝国皇帝「アンナ・エングレス」ピョートル2世の従姉(~17401028没)
- 1730年2月17日-07:00|ベトナム | |||大越黎朝・永慶2年|<即位>パントラウガ王「Po Thuntiraidaputih(Nguyen Van Thuan)」(~1732年)
- 1730年2月17日-09:00|日本 | |||享保15年1月|<出版>「家内用心集」火之用心を説く
- 1730年2月21日-01:00|バチカン | |||<死去>第245代ローマ教皇「ベネディクトゥス13世」[1649年02月02日生~](享年81)
- 1730年2月21日-09:00|日本|東京都|享保15年1月5日|江戸町奉行、大火の場合を考慮して、町火消組合の隅田川以西の47組を一番組から十番組までの10の“大組”に、本所・深川地区の16組を南・中・北の3つの大組にまとめた/組のシンボルである標識も馬連をつけた大纏に統一、より多くの火消人足を火事の現場に集められるようにした/火消人足の定員は1町あたり30人から15人に半減、人足の出勤費から消火設備までまかなう各町の負担を軽減
- 1730年2月28日-09:00|日本|京都府京都市伏見区|享保15年1月12日|<死去>山城淀藩102000石「稲葉正任」(17歳)⇒14日、養子「稲葉正恒」が継ぐ(⇒同年3月24日、25歳で死去)
- 1730年3月2日-09:00|日本 | |||享保15年1月14日|幕府が未回収の宝永金(乾字金)の通用を許し、2両をもって新金・慶長金の1両分とする
- 1730年3月6日 00:00|カナ/オランダ | |||<就任>オランダ領ゴールド=コスト総裁「ジョン・プランジャー」(~17340313)
- 1730年3月6日-09:00|日本 | |||享保15年1月18日|<死去>服部土芳(74歳)俳人
- 1730年3月22日-09:00|日本 | |||享保15年2月4日|賭博行為につながる道中双六類の出版禁止(東海道53次の宿場の絵を用いた、江戸を振出の双六)
- 1730年3月23日-01:00|ドイツ | |||<死去>ヘッセン=カッセル方伯「カール」
- 1730年3月23日-01:00|ドイツ | |||<就任>ヘッセン=カッセル方伯「フリートリヒ1世」カールの上の息子。スウェーデン王(~17510325死去)統治は弟の摂政「イルヘルム8世」に任せた
- 1730年4月-05:30|インド | |||<就任>ポトウコックタイ国ラジャ「ウイジャヤ・ラガナ・ラヤトナ・イマン」(~17691228没)
- 1730年4月1日-01:00|サンマリノ | |||<就任>サンマリノ共和国執政「ウァレリオ・マッジョーニ」ピエール・アントニオ・ウァリニ
- 1730年4月2日-09:00|日本|大阪府大阪市|享保15年2月15日|<初演>長谷川千四、文耕堂「梶原平三誉石切」竹本座
- 1730年4月2日-09:00|日本|京都府京都市|享保15年2月15日|四條大和大路より出火、芝居街の芝居小屋、町家など98軒焼亡
- 1730年4月3日-09:00|日本 | |||享保15年2月16日|幕府が簡便な家庭用救急医療法を記した「普救類方」全12冊を

1740迄 (2954件)

印刷・刊行

- 1730年4月21日-04:30|アファガニスタン/イラン| |||<就任>ペルシャ・アフガニスタン総督「サルダール・スルマイカル・カーン・アフダリ」(~17310707)
- 1730年4月22日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド副卿代行判事「アマー大司教ヒュー・ポルター(3度目)/ウインダム男爵トマス・ウインダム(3度目)/ラルフ・ゴア卿」(~17310911)
- 1730年4月30日 00:00|イギリス| |||<死去>8代リカン伯「ジョージ・クリントン」
- 1730年4月30日 00:00|イギリス| |||<就任>9代リカン伯「ヘンリー・ペラム=クリントン」(⇒17681117兼2代ニューカッスル=アングレーイン公~17940222死去)
- 1730年5月4日-09:00|日本|佐賀県佐賀市|享保15年3月18日|<死去>肥前佐賀藩32万石「鍋島吉茂」(67歳)⇒弟「鍋島宗茂」が継ぐ(⇒元文3(1738)年12月9日、隠居)
- 1730年5月7日-01:00|ルクセンブルク/オーストリア| |||<就任>オーストリア領ルクセンブルク総督「ウイヘルム・ラインハルト・グラーフ・ナイェルク」(1回目~17310522)
- 1730年5月9日-09:00|日本|福井県坂井市|享保15年3月23日|坂井郡三国湊で火事、町家467軒など焼失
- 1730年5月10日-09:00|日本|京都府京都市伏見区|享保15年3月24日|<死去>山城淀藩102000石「稲葉正恒」(25歳)⇒27日、養子「稲葉正親」が継ぐ(⇒享保19(1734)年9月14日、死去)
- 1730年5月11日-09:00|日本|東京都|享保15年3月25日|<死去>初代松本幸四郎(57歳、延宝2(1674)年生)歌舞伎役者
- 1730年5月12日-01:00|イタリヤ| |||イタリヤ、ルチャで地震(M6)死者500人
- 1730年5月14日 00:00|イギリス| |||<就任>ウイリントン伯「スペンサー・コンプトン」(~17430702死去廃絶)
- 1730年5月15日-01:00|ジブラルタル/イギリス| |||<就任>イギリス領ジブラルタル知事「ジョゼフ・サットン」(~17391024死去)
- 1730年5月16日-01:00|ベルギー| |||<就任>ブイヨン公「シャルル・ゴトフロワ」(~17711024没)
- 1730年5月16日-09:00|日本|和歌山県田辺市|享保15年3月30日|<死去>紀伊田辺藩38000石(紀州藩附家老)「安藤雄能」(16歳)⇒9月6日、養子「安藤次由」が継ぐ(⇒明和2(1765)年5月8日、50歳で死去)
- 1730年5月19日-05:30|インド| |||<就任>ブティイ国統治者「オラジャ」「タレル・シン」(~1749年)
- 1730年5月20日-09:00|日本|奈良県奈良市|享保15年4月4日|<死去>大和柳生藩1万石「柳生俊方」(58歳)⇒5月29日、養子「柳生俊平」が継ぐ(⇒寛保2(1742)年11月16日、隠居)
- 1730年5月22日 09:00|日本|秋田県秋田市|享保15年4月6日|<出羽久保田享保15年の大火>暮六つ時(18時ごろ)大町一丁目の見上家より出火し、町数29丁を焼いて翌朝の五つ時(午前8時ごろ)鎮火、城下の大半が焼失/本家(自分の家)約1100軒、借家・長屋約900軒、土蔵84棟、寺3か所が焼失
- 1730年5月23日-09:00|日本|茨城県水戸市|享保15年4月7日|<死去>常陸水戸藩35万石「徳川宗堯」(26歳)⇒次男「徳川宗翰」が継ぐ(⇒明和3(1766)年2月14日、死去)
- 1730年5月28日-01:00|リトアニア| |||<就任>リトアニア王室廷吏「アントン・パウアー」(1回目~10.1)
- 1730年5月31日-09:00|日本| |||享保15年4月15日|江戸幕府が、上米の制を停止し、参勤交代の期間を元の1年おきに戻す
- 1730年6月6日-09:00|日本|東京都文京区|享保15年4月21日|幕府が京都仁和寺の修復費調達のため富突興行を護国寺に許可
- 1730年6月11日 06:00|アメリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領マサチューセッツ湾直轄植民地総督代理「ウイリアム・テイラー」(~8.10)
- 1730年6月12日-09:00|日本|岡山県岡山市北区|享保15年4月27日|<死去>備中庭瀬藩2万石「板倉昌信」(31歳)⇒長男「板倉勝興」が継ぐ(⇒天明4(1784)年3月9日、隠居)
- 1730年6月15日 03:00|ブラジル| |||パントゥル地方の狩猟民「イヴァ族(現在絶滅)」が反乱/90隻のカヌーでLanhas Peixotoを襲撃
- 1730年6月19日-01:00|イタリヤ| |||<即位>トント司教公「Dominik Anton Graf von Thun」(~17580907)
- 1730年6月25日-09:00|日本|広島県広島市|享保15年5月11日|<立藩>広島新田藩3万石「浅野長賢」広島藩から分知(⇒延享元(1744)年9月25日、52歳で死去)
- 1730年7月 03:00|仏領ギアナ/フランス| |||<死去>ギアナ知事代理「Francois Michel Marschalck des Bordes」
- 1730年7月 03:00|仏領ギアナ/フランス| |||<就任>ギアナ知事「Gilbert Guillouet」(1期目~8.2)
- 1730年7月8日 04:00|チリ| |||チリ中部、バルパライソ沖で地震(マグニチュード8.7)死者35人
- 1730年7月12日-01:00|パチカン| |||<就任>第246代ローマ教皇「クレメン12世」(~17400206死去)
- 1730年7月15日-01:00|パチカン| |||<就任>パチカン枢機卿国務長官「アントニオ・パンキエリ」(~17330916)
- 1730年7月19日-09:00|日本| |||享保15年6月5日|幕府が、藩札の発行をあらためて制度化
- 1730年7月26日-09:00|日本|東京都千代田区|享保15年6月12日|<辞任>老中「水野忠之」
- 1730年8月2日-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン領メキシコ総督「Juan Andres del Thoso」(~1732年)
- 1730年8月2日 03:00|仏領ギアナ/フランス| |||<就任>ギアナ知事「Henri Dussault」(~17360830死去)
- 1730年8月3日 05:00|日本|京都府京都市|享保15年6月20日|<京都享保15年の大火「西陣焼け」>未の刻(14時ごろ)、上京上立売室町の大字屋五郎兵衛宅の台所から出火、南西方面に延焼、17時ごろになると風が変わり西陣一帯が火の海となった/134町が類焼し民家など3810軒、公家屋敷4、武家屋敷1、寺社67か所が焼失、80人死亡/西陣では7割近くが被災し西陣織の機3012台を失い壊滅に近い状態となった/皇室の衣服の製作に奉仕する御寮織物司6家すべてが焼失
- 1730年8月8日-05:30|インド/デンマーク| |||<就任>デンマーク領東インド諸島(トランケバル)司令官「デュー・リヒ・ミュレンホルト」(~17330801)
- 1730年8月8日-09:00|日本| |||享保15年6月25日|<死去>6代千宗左(53歳)茶人、表千家家元
- 1730年8月10日 06:00|アメリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領マサチューセッツ湾直轄植民地総督「ジョン・ペルチャ」(~17410814)

1740迄 (2954件)

- 1730年8月12日-04:00|アゼルバイジャン/アフガニスタン/トルコ| |||アフガニスタンのナディール・シャーがオスマン・トルコを駆逐しアゼルバイジャンを収め、この日タブリスを奪回
- 1730年8月19日-09:00|日本|愛知県岡崎市|享保15年7月6日|<交替>三河岡崎藩6万石「水野忠之」隠居⇒次男「水野忠輝」が継ぐ(⇒元文2年7月2日(17370729)、死去)
- 1730年8月23日-02:00|ルーマニア| |||<就任>ワラキア総督・領主「コンスタンティン・ニコラエ・マウロルダット」(1回目~10.6)
- 1730年8月24日-09:00|日本|大阪府大阪市|享保15年7月11日|<就任>大坂城代「土岐頼稔」(~享保19(1734)年6月6日)
- 1730年8月24日-09:00|日本|東京都千代田区|享保15年7月11日|<就任>老中格「松平輝貞」(~延享2年12月11日)
- 1730年8月24日-09:00|日本|東京都千代田区|享保15年7月11日|<就任>老中「松平信祝」(~延享1年4月18日)
- 1730年8月27日-09:00|日本|福井県勝山市|享保15年7月14日|<死去>越前勝山藩2200石「小笠原信成」(26歳)⇒養子「小笠原信胤」が継ぐ(⇒延享2(1745)年6月29日、死去)
- 1730年8月30日-01:00|フランス| |||<即位>アンジュー公「フィリップ3世」フランス国王ルイ15世とマリー・レザンスカの四男(~17330417死去2歳)
- 1730年8月31日 04:30|ペルー/スペイン| |||<死去>スペイン領ペルー総督「Lope Carrillo de Andrade Sotomayor y Pimentel」
- 1730年8月31日 04:30|ペルー/スペイン| |||<就任>スペイン領ペルー総督「Sebastian Garcia de la Torre」(~17321215)
- 1730年8月31日-09:00|日本|京都府亀岡市|享保15年7月18日|<死去>丹波亀山藩5万石「青山俊春」(31歳)⇒養子「青山忠朝」が継ぐ(⇒寛延元(1748)年8月3日、丹波篠山藩に転封)
- 1730年9月3日-01:00|イタリア/フランス| |||<即位>サルデーニャ国王・サヴォイア公「カルロ・エマヌエーレ3世」ウイットリオ・アマデーオ2世とアナ・マリア・トールアンスの息子(~17730220死去72歳)
- 1730年9月3日-01:00|イタリア/フランス| |||<退位>サルデーニャ国王・サヴォイア公「ウイットリオ・アマデーオ2世」(~17321031死去66歳)
- 1730年9月9日 00:00|イギリス| |||<死去>2代カーウラント公・初代サウサンプトン公・初代チチェスター伯「チャールズ・フィッツロイ」
- 1730年9月9日 00:00|イギリス| |||<就任>3代カーウラント公・2代サウサンプトン公「ウィリアム・フィッツロイ」(~17740518死去)
- 1730年9月10日-09:00|日本|静岡県藤枝市|享保15年7月28日|<移封>上野沼田藩4万石「本多正矩」⇒駿河国田中藩4万石(⇒享保20(1735)年8月17日、55歳で死去)
- 1730年9月19日-03:00|エチオピア| |||<死去>エチオピア帝国(ソモソモ朝)皇帝「アスマ・ギヨルギス・イヤス」
- 1730年9月19日-03:00|エチオピア| |||<就任>エチオピア帝国(ソモソモ朝)摂政「メンヅァブ・ギヨルギス皇后」(1回目~17550626)
- 1730年9月19日-03:00|エチオピア| |||<即位>エチオピア帝国(ソモソモ朝)皇帝「イヤス2世アスマ・ギヨルギス」(~17550626没)
- 1730年9月19日 01:00|アゾレス諸島/ポルトガル| |||<死去>グランド・サウダド長官「Rodrigo Sanches Farinha e Baena」
- 1730年9月19日 01:00|アゾレス諸島/ポルトガル| |||<就任>グランド・サウダド長官「Pedro Sanches Farinha de Baena」(~17370218死去)
- 1730年9月21日-09:00|日本|長野県飯山市|享保15年8月10日|<死去>信濃飯山藩35000石「本多康明」(22歳)⇒10月9日、弟「本多助有」が継ぐ(⇒元文2(1737)年9月20日、死去)
- 1730年9月24日-09:00|日本|大阪府大阪市|享保15年8月13日|米価の調整を意図し、大坂堂島の米市場を公認
- 1730年9月24日-09:00|日本|兵庫県豊岡市|享保15年8月13日|<死去>京極高住(71歳)元但馬豊岡藩主
- 1730年9月28日-02:00|トルコ| |||イスタンブールで、パトナ・ハルが率いる反乱が起こる(~10.1)
- 1730年10月1日-02:00|トルコ| |||<死去>オスマン帝国大宰相「ネジヒルリ・タマト・イブラヒム・パシャ」反乱軍により殺害される
- 1730年10月1日-02:00|トルコ| |||<就任>オスマン帝国大宰相「シラフダル・タマト・メフメド・パシャ」(~17310122)
- 1730年10月1日-02:00|トルコ| |||<即位>オスマン帝国第24代スルタン「マフムト1世」先代の甥、22代ムスタファ2世の子(~17541213死去)
- 1730年10月1日-02:00|トルコ| |||<退位>オスマン帝国第23代スルタン「アフメト3世」
- 1730年10月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「トランキロ・マネンティ・ベルツツィ」「ジローモ・マルテッリ」
- 1730年10月1日-01:00|リヒテンシュタイン| |||<就任>リヒテンシュタイン王室廷吏「フランツ・アントン・ケラー」(~17340312)
- 1730年10月6日-02:00|ルーマニア| |||<就任>ワラキア総督・領主「ミハイ・イオン・ラウイ・イツァ」(1回目~1731年10月)
- 1730年10月8日-09:00|日本| |||享保15年8月27日|幕府が武家に実子誕生のさいは即刻届け出ること、また武家養子についてを定める
- 1730年10月11日-01:00|デンマーク| |||<就任>デンマーク王国秘密評議会議長「ヨハン・ゲオルク・フォン・ホシュタイン・ス・モレンハーゲン」(~12.26没)
- 1730年10月12日-01:00|デンマーク/ノルウェー/ドイツ| |||<死去>ノルウェー・デンマーク王・シュレーズヴィヒ公「フレデリク4世」兼ホルデン伯「フレデリク2世」59歳(誕生16711011)
- 1730年10月12日-01:00|デンマーク/ノルウェー/ドイツ| |||<即位>ノルウェー・デンマーク王・シュレーズヴィヒ公・ホシュタイン公「クリスチャン6世」兼ホルデン伯「クリスチャン9世」フレデリク4世とルイーゼ・フォン・メレンブルクの次男(~17460806死去46歳)
- 1730年10月23日-02:00|ウクライナ| |||<即位>クリミアハン国ハン「カラン1世ギレイ」(3期目~17360906)
- 1730年11月-01:00|セルビア/トルコ| |||<就任>オスマン帝国セルビア・ワリス「フェイン・パシャ」(~1731年9月)
- 1730年11月1日-10:00|グアム/北マリアナ諸島/スペイン| |||<就任>マリアナ諸島暫定知事「Diego Felix de Balboa」(~17340825)
- 1730年11月19日-09:00|日本|広島県三次市|享保15年10月10日|三次三勝寺より出火、五日市上市全焼
- 1730年11月23日-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||<就任>ダマスカス・ワリス(総督)代行「Uthman Agha」(~12.26)
- 1730年12月10日 00:00|アイスランド/デンマーク| |||<就任>アイスランド総督「ヘリック・ホケン」(~17500909没)
- 1730年12月15日 06:00|アメリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領サウスカロライナ植民地総督「ロバート・ジョンソン」(~17350503)

1740迄 (2954件)

- 1730年12月15日-09:00|日本|長崎県対馬市|享保15年11月6日|<死去>対馬府中藩22800石「宗義誠」(39歳)⇒翌年2月21日、弟「宗方熙」が継ぐ(⇒享保16(1732)年9月11日、隠居)
- 1730年12月16日-09:00|日本|徳島県|享保15年11月7日|<死去>蜂須賀綱矩(70歳)前阿波徳島藩主
- 1730年12月20日-09:00|日本|新潟県村上市|享保15年11月11日|<死去>内藤弑信(73歳)元越後村上藩主
- 1730年12月24日-09:00|日本|大阪府大阪市|享保15年11月15日|<初演>文耕堂・長谷川千四,人形浄瑠璃「源平魁躰躑」<扇屋熊谷>大阪竹本座
- 1730年12月26日-02:00|シリア・アラブ/トルコ| ||<就任>ダマスカス・ワリス(総督)代行「Qara Sulayman Agha」(~17310330)
- 1730年12月26日-01:00|デンマーク| ||<就任>デンマーク王国秘密評議会議長「クリスティアン・ルートヴィヒ・フォン・プレッセン・ス・グ・ロッブ」(~17340118)
- 1731年-08:00|インドネシア/東ティモール/ポルトガル| ||<就任>ティモール知事「ペドロ・デ・レコ・パレト・ダ・ガマ・エ・カストロ」(1734年)
- 1731年-08:00|インドネシア/イギリス| ||<就任>ベンケレン副総督(マダガスカル総督に従属)「フランス・Everest」(~1736年死去)
- 1731年-08:00|インドネシア/オランダ| ||<就任>モルッカ諸島オランダ総督「Elias de Haeze」(~1735年)
- 1731年-05:30|インド| ||<就任>イタリヤ「アナン・シン」(~1753年没)
- 1731年-05:30|インド| ||<就任>インド「カウラ」(マハラジャ)「マハラ・ラオ1世・ホム1世」建国(~17660520没)
- 1731年-05:30|インド| ||<就任>コチン国統治者(マハラジャ)「カウラ・コウ・イラ・イ・カリカ」「ラマ・アルマ6世」(~1746年1月没)
- 1731年-05:30|インド| ||<就任>サト国統治者(ヒンドゥー・ラオ,マハラット・マタル)「ムラ・ラオ」(~17760315)
- 1731年-05:30|インド| ||<就任>ジャイプールの国統治者「ジャガット・ライ」建国(~1758年)
- 1731年-05:30|インド| ||<就任>ジャイプールの国統治者「ホルコ・ハイン・シム・ストウカ2世」(~1770年)
- 1731年-05:30|インド| ||<就任>ダール国統治者「アナン・ラオ1世・アル」(~1736年6月)
- 1731年-05:30|インド| ||<就任>バスター国統治者「タルパット・デオ」(~1774年)
- 1731年-05:30|インド| ||<就任>パナ国統治者「ハルデ・サー・シン」建国(~1739年没)
- 1731年-05:30|インド| ||<即位>アジガール国統治者「ジャガット・ラジャ」建国(~1758年)
- 1731年-05:30|インド| ||マラーター王国の武将ラーノジ・ラーオ・シンデ・イアが宰相「ラーノ・ラーオ」の命により、マハラ・ラオ・ホムカールとともにチャウとサレ・シムキーを徴収するためマールワ地方へと遠征しかつての古代都市ウヅ・ヤインを拠点とする⇒<就任>「ワリヤル太守ラーノジ・ラーオ・シンデ・イア」(~17450703死去)
- 1731年-05:00|パキスタン| ||<就任>マラン統治者(サム)「モハト・カーン1世」(~1739年)
- 1731年-05:00|ウズベキスタン| ||<即位>カラカルパク・ハン「Gha'ip Khan」(~1743年以降)
- 1731年-04:30|アフガニスタン| ||サール・イ・ブルをマイナが支配(~1800年)
- 1731年-04:00|アゼルバイジャン| ||<即位>バク汗国ハン「サリム・ハン」(~1735年)
- 1731年-03:30|イラン| ||<就任>サファヴィー朝大宰相「Rajab Ali Khan」(~同年)
- 1731年-03:00|ウガンダ| ||<死去>フニヨロキタ王「Olimi3世 Isamnaj」
- 1731年-03:00|ウガンダ| ||<即位>フニヨロキタ王「Duhaga1世 Gwa Mujwiga」(~1782年死去)
- 1731年-01:00|アルジェリア| ||<就任>アルジェのデ・イ・イ・レム3世「ハバ」(~1745年11月)
- 1731年-01:00|スペイン| ||<就任>スペイン領セウタ総督「Alvaro de Navia Osorio y Vigil」(~1738年)
- 1731年-01:00|ニジェール| ||<就任>ダマラム国統治者(サキン・ダマラム)「マラム・ユス・タン・イラム」建国(~1746年没)
- 1731年-01:00|フランス| ||<就任>ルテル伯「ホルト・ラ・ポルト」メイレユ公(~1738年)
- 1731年-01:00|デンマーク| ||デンマークで土地緊縛制の導入
- 1731年 00:00|セネガル| ||<就任>ブントウ支配者(エリマン)「マ・フ・マ・マリク・シ」(~1764年)
- 1731年 00:00|サントメ・プリンシペ/ポルトガル| ||<就任>プリンシペ植民地長官「Joao Fernandes Lemos」
- 1731年 03:00|ウルクアイ/スペイン| ||<就任>サン・フェリペ・イ・サンティアゴ・デ・モンテ・デ・オ軍事司令官「Fructuoso de Palafox」⇒「Alonso de la Vega」(~1732年)
- 1731年 04:00|バルバドス/イギリス| ||<就任>イギリス領バルバドス総督代理「James Dotin」(1期目)
- 1731年 04:00|バルバドス/イギリス| ||<就任>イギリス領バルバドス総督「Walter Chetwynd」(~1732年)
- 1731年 04:00|トリニダード・トバゴ/スペイン| ||<就任>トリニダード知事「バルトロメ・デ・アルドゥアテ・イ・ラタ」(~1733年)
- 1731年 04:00|セントクリストファー・ネイビス/イギリス| ||<就任>ネイビス大統領「マイケル・ミス」(~1745年没)
- 1731年 04:00|サン・マルタン/フランス| ||<就任>フランス領サン・マルタン副王「Jacques Greaux, Jr.」(~1732年)
- 1731年 05:00|ペルー| ||コメネロの反乱。指導者アントラーテは処刑される
- 1731年 06:00|アメリカ/イギリス| ||<就任>イギリス領ニューヨークおよびニュージャージー総督「ルイス・モリス」(~1732年)
- 1731年 06:00|アメリカ/イギリス| ||<就任>イギリス領メリラント植民地総督「サミュエル・オケル」(~1732年)
- 1731年 06:00|アメリカ/スペイン| ||<就任>スペイン領ニューメキシコ総督「Gervasio Cruzat y Gongora」(~1736年)
- 1731年 06:00|アメリカ| ||ジャントクラブがアメリカ初の貸出図書館を設立
- 1731年1月 04:00|ハラガアイ| ||アスンシオンでデロスコムロス蜂起(~1733年7月)
- 1731年1月4日 00:00|サントメ・プリンシペ/ポルトガル| ||<就任>サントメ植民地総督「Lopo de Sousa Coutinho」(~17361205)
- 1731年1月5日-09:00|日本|愛知県名古屋|享保15年11月27日|<死去>尾張名古屋藩61万9500石「徳川継友」(39歳)⇒28日、弟「徳川宗春」が継ぐ(⇒元文4年1月12日(17390219)、幕府より蟄居を命ぜられる)
- 1731年1月5日-09:00|日本|静岡県沼津市|享保15年11月27日|<交替>駿河松永藩16000石「大久保教寛」隠居⇒長男「大久保教端」が継ぐ(弟教平に3千石分知し13000石⇒寛保2(1742)年8月晦日、死去)
- 1731年1月6日-09:00|日本|福島県伊達市|享保15年11月28日|<廃藩>陸奥梁川藩3万石「松平通春」宗家尾張藩を相続、廃藩天領化
- 1731年1月17日-09:00|日本|新潟県柏崎市|享保15年12月10日|<死去>越後椎谷藩1万石「堀直恒」(30歳)⇒甥「堀直旧」が継ぐ(⇒延享5年6月20日(17480715)、死去)

1740迄 (2954件)

- 1731年1月18日-02:00|ラトビア| |||<就任>ケルラントとゼムガレのリウオニア公国政府議長「ハインリッヒ・ゲオルク・フォン・ミルバツァ」(~17360415)
- 1731年1月18日-09:00|日本|兵庫県姫路市|享保15年12月11日|<交替>播磨安志藩1万石「小笠原長興」隠居⇒養子「小笠原長遠」が継ぐ(⇒明和7(1770)年8月18日、死去)
- 1731年1月22日-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||<就任>アレック・ワリス(総督)「Silahdar Mehmed Pasha」(~1732. 1)
- 1731年1月22日-02:00|トルコ| |||<就任>オスマン帝国大宰相「カハク・イブラヒム・パシャ」(~9. 10)
- 1731年1月27日 04:00|ハラガアイ/スペイン| |||<就任>ハラガアイ総督「イナチオ・デ・ソロエラ」(~28日)
- 1731年1月28日 04:00|ハラガアイ/スペイン| |||<就任>ハラガアイ対立総督「コムン(マティアス・デ・サルデバル/フランスコ・デ・サ/ホセ・ルイス・パレロ/ペドロ・ボガリン」(~同年)⇒「アロン・レイス」(~同年)
- 1731年1月28日 04:00|ハラガアイ/スペイン| |||<就任>ハラガアイ統治政権大統領「ホセ・ルイス・パレロ」(~同年)⇒「ミゲル・デ・カライ」(~1732年)
- 1731年1月31日-09:00|日本|岡山県岡山市|享保15年12月24日|<死去>木下公定(78歳)前備中足守藩主
- 1731年2月7日-07:00|カンボジア/ベトナム| ||大越黎朝・永慶3年|カンボジアが阮氏にモンテメ地帯の南部二州を割譲
- 1731年2月7日-09:00|日本|東京都中央区|享保16年1月|<初演>「傾城福引名古屋」葛城・初代瀬川菊之丞、大谷廣次、衣装の引き抜きはじめる、他に市川升五郎、松本七蔵、中村座(~7月)
- 1731年2月10日 00:00|イギリス| |||<死去>2代カマティ伯「ジョン・マッケンジー」
- 1731年2月10日 00:00|イギリス| |||<就任>3代カマティ伯「ジョン・マッケンジー」(~1746. 4爵位剥奪~17660928死去)
- 1731年2月15日-09:00|日本| ||享保16年1月9日|<死去>狩野古信(36歳)絵師
- 1731年2月19日 05:00|コロンビア/スペイン| |||<就任>ヌバゲラタ大統領・総督・総司令官「大審問院弁務官」ホセ・ホセ・マルティネス・マロ/ホセ・キンタ・イ・アセド/ホセ・ミゲル・ロサ・デ・ペラルタ/ホセ・カステリヤ」(~17330514)
- 1731年2月20日-01:00|モコ| |||<死去>モコ公「アントニオ(=アントワーヌ1世)」
- 1731年2月20日-01:00|モコ| |||<就任>モコ女公「ルイジア・イポリータ・プリンセス」(~12. 29)、摂政「シヤコモ1世」(~12. 29)
- 1731年3月5日-09:00|日本|東京都千代田区|享保16年1月27日|<創設>田安德川家「徳川宗武」(第8代将軍「徳川吉宗」の次男)江戸城田安門内に屋敷および賄料3万俵を賜る(⇒延享3(1746)年9月15日、賄料10万石)
- 1731年3月7日 00:00|イギリス| |||<死去>2代マチ伯「ウィリアム・ダグラス」
- 1731年3月7日 00:00|イギリス| |||<就任>4代クインズベリー公・3代マチ伯「ウィリアム・ダグラス」(~18101223死去)
- 1731年3月11日-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン領メウラ暫定総督「Francisco de Alba」(1期目~1732年)
- 1731年3月14日-09:00|日本|岐阜県山形市|享保16年2月7日|<死去>各務支考(67歳)俳人
- 1731年3月16日-01:00|オーストリア/イギリス| |||イギリスとオーストリアがウィーン条約締結
- 1731年3月16日-09:00|日本|山形県山形市|享保16年2月9日|<死去>出羽山形藩10万石「堀田正春」(17歳)⇒養子「堀田正亮」が継ぐ(⇒延享3(1746)年5月、下総佐倉藩10万石に移封)
- 1731年3月20日-01:00|イタリア| |||イタリア、フォッジャで地震(M6. 6)死者1500人
- 1731年3月23日-01:00|ドイツ| |||<死去>プラウシュヴァイク=ヴオルフェンビュッテル侯「アウグスト・ヴイルヘルム」
- 1731年3月23日-01:00|ドイツ| |||<就任>プラウシュヴァイク=ヴオルフェンビュッテル侯「ルートヴィヒ・ヘルツォグ」アウグスト・ヴイルヘルムの弟(~17350301死去)
- 1731年3月24日 00:00|セントヘレナ/イギリス| |||<就任>イギリス領セントヘレナ総督「アイザック・パイク」(2期目~17380728)
- 1731年3月30日-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||<就任>ダマスカス・ワリス(総督)「Aydinli Abdullah Pasha」(~1734. 1)
- 1731年4月-06:30|ミャンマー| |||<即位>ムラウケウ国王「サンタ・トゥリヤ3世」(~1734年)
- 1731年4月-05:30|インド| |||<就任>パロウ国統治者(セ・カス・ケル)「ヒラジ・ラオ・ケ・クワール」建国(~17320514ムガル帝国の武将「バインシング」との戦いで死亡)
- 1731年4月-05:30|インド| |||<タハイの戦い>マラーター王国の武将「ラジール・ラオ・ガイクワート」はマラーター王国宰相「バジーラオ」とともにトリバク・ラオをタハイで打ち破った
- 1731年4月1日-01:00|ドイツ| |||<死去>ハッセン=ヴァンフリート方伯「ヴイルヘルム1世」
- 1731年4月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「ジュゼッペ・オノフリ」
- 1731年4月1日-01:00|ドイツ| |||<就任>ハッセン=ヴァンフリート方伯「クリスティアン」(~17551021死去、断絶、領土は本家筋にあたるハッセン=ローテンブルクが相続)
- 1731年4月3日-09:00|日本|新潟県長岡市|享保16年2月27日|<交替>越後与板藩2万石「井伊直矩」隠居⇒長男「井伊直陽」が継ぐ(⇒翌年10月14日、病死)
- 1731年4月7日-09:00|日本|石川県金沢市|享保16年3月1日|<金沢享保16年の大火「小立野火事」>1300棟余りを延焼
- 1731年4月20日-09:00|日本|滋賀県高島市|享保16年3月14日|<死去>近江大溝藩2万石「分部光忠」(34歳)⇒長男「分部光命」が継ぐ(⇒宝暦4(1754)年9月7日、隠居)
- 1731年4月23日-09:00|日本|愛知県岡崎市|享保16年3月17日|<死去>水野忠之(63歳)前三河岡崎藩主、元若年寄・京都所司代・老中
- 1731年4月24日 05:00|日本|福島県会津若松市|享保16年3月18日|<会津若松享保16年の大火>夜の九時半(午前1時ごろ)、城下南町西横町の紺屋(染物屋)から出火、晒屋町や花畑に飛び火/炎の一方は米代四丁桂林寺町通下から三丁、二丁と焼き、融通寺町北の方を少し残し半兵衛町烏橋通まで焼失/一方は河原町の橋を焼き、新町北の方を3分の2ほど、村木町北の方のほとんどを焼いて同心町、片原町を全焼し柳原村から幕内村など一円を焼き尽くした/鎮火したのは翌朝の五つ(8時ごろ)/待屋敷は土手内外232軒、足軽屋敷396軒、町家387軒、村の家56軒など合計1071軒、寺院6、御門や番所などを焼失
- 1731年4月26日-05:30|インド| |||コルハール国統治者はサラの従属統治者となる
- 1731年4月26日 00:00|イギリス| ||ユリウス暦4月15日|<死去>ダニエル・デフォー/71歳(誕生1660年)「ロビンソン・クルソー」を書いた

1740迄 (2954件)

たぐり家の作家

- 1731年5月-03:00|サウジアラビア| |||<就任>メッカ・シャリフ「ムハンマド・ブン・アブドゥラー」(1回目~1732年11月)
- 1731年5月3日-09:00|日本|東京都|享保16年3月27日|幕府が川船改を創置し、作事棟梁に鶴延任を任命
- 1731年5月9日 00:00|イギリス| |||<死去>3代リズ公「ペレグリン・ハイド・オズボーン」
- 1731年5月9日 00:00|イギリス| |||<就任>4代リズ公「トマス・オズボーン」3代公の唯一の男子(~17890323死去)
- 1731年5月20日 03:30|日本|東京都|享保16年4月15日|<江戸享保16年の連続火災>午の後刻(12時半ごろ)、目白台の侍屋敷より出火、次々と延焼/初代の奉書火消役だった秋元但馬守の下屋敷を皮切りに目白不動堂を残らず焼き、関口台町から牛込古川町、赤城明神社から牛込一帯の旗本屋敷や町家を総なめにして市ヶ谷田町三丁目で焼け止まった
- 1731年5月20日 05:00|日本|東京都|享保16年4月15日|<江戸享保16年の連続火災>末の上刻(14時ごろ)、別の火の手が麹町一丁目の侍屋敷より上がり、同一丁目から火消役旗本・近藤登之助屋敷まで焼いた/近くの大名家屋敷や旗本屋敷を総なめにし桜田御用屋敷から太左衛門町、伏見町から烏森稲荷神社までを焼け野原にした/その先の芝三丁目、神明町、御浜御殿南の方角から芝金杉の浜辺まで焼き亥の刻(22時ごろ)鎮火/この日の連続火事で1000人が死亡/江戸の街、92町が灰燼に帰している
- 1731年5月22日-01:00|ルクセンブルグ/オーストリア| |||<就任>オーストリア領ルクセンブルグ 総督代行「カプリー男爵フリッポ・アンリト・マコリー」(2回目~17320222)
- 1731年6月20日-09:00|日本|青森県弘前市|享保16年5月16日|<交替>陸奥弘前藩46000石「津軽信寿」隠居⇒嫡孫「津軽信著」が継ぐ(⇒延享元(1744)年5月25日、26歳で病死)
- 1731年6月20日-09:00|日本|兵庫県宍粟市|享保16年5月16日|<死去>播磨山崎藩1万石「本多忠方」(24歳)⇒弟「本多忠辰」が継ぐ(⇒寛延3(1750)年11月24日、40歳で死去)
- 1731年6月22日 00:00|イギリス| |||<死去>サフォーク伯「エドワード・ハワード」
- 1731年6月22日 00:00|イギリス| |||<就任>サフォーク伯「チャールズ・ハワード」(~17330928死去)
- 1731年6月28日-09:00|日本|大阪府大阪市|享保16年5月24日|<死去>西沢一風(67歳)浮世草子作者、浄瑠璃作者
- 1731年7月-02:00|エジプト/トルコ| |||<就任>オスマン帝国領エジプト総督「シラダール・ダマト・マフムト・パシャ」(~1733年)
- 1731年7月3日-09:00|日本|島根県鹿足郡津和野町|享保16年5月29日|<死去>石見津和野藩43468石「亀井茲親」(63歳)⇒六男「亀井茲満」が継ぐ(⇒享保21(1736)年4月9日、死去)
- 1731年7月4日-08:00|中国| ||清・雍正9年6月|清軍がホソノールでジュンガル軍に大敗
- 1731年7月7日-04:30|アフガニスタン/イラン| |||<就任>ペルシャ・アフガニスタン総督「アッラー・ヤール・カーンアブダリ」(2回目~17320227)
- 1731年7月13日-09:00|日本|群馬県甘楽郡甘楽町|享保16年6月10日|<死去>上野小幡藩2万石「織田信就」(71歳)⇒7月28日、四男「織田信右」が継ぐ(⇒宝暦9(1759)年11月11日、隠居)
- 1731年7月22日-01:00|オーストリア/オランダ/スペイン/イギリス| |||オランダ、イギリス、スペインとオーストリアの間に第2次ウィーン条約が結ばれ、オーストリアの国事詔書が承認される/オーストリアは東インド会社の廃止を認める
- 1731年7月28日-09:00|日本| ||享保16年6月25日|<死去>初代十寸見蘭洲(不明)浄瑠璃太夫
- 1731年7月29日-09:00|日本|兵庫県赤穂市|享保16年6月26日|<死去>播磨赤穂藩2万石「森長生」(34歳)⇒弟「森政房」が継ぐ(⇒延享3(1746)年12月8日、死去)
- 1731年8月4日-09:00|日本|長野県諏訪市|享保16年7月2日|<死去>信濃高島藩3万石「諏訪忠虎」(69歳)⇒養子「諏訪忠林」が継ぐ(⇒宝暦13(1763)年8月23日、隠居)
- 1731年8月14日-09:00|日本|滋賀県長浜市|享保16年7月12日|<死去>堀田正休(77歳)前近江宮川藩主
- 1731年8月16日-01:00|ドイツ| |||ドイツで帝国ツツフ条例、賤民のギルト加盟を認める
- 1731年8月22日-04:30|アフガニスタン/イラン| |||ペルシャがヘラートの支配宣言
- 1731年8月28日 00:00|イギリス| |||<就任>5代オラーリ伯「ジョン・ボイル」(⇒17531203兼5代ヨーク伯~17621123死去)
- 1731年8月29日-09:00|日本|静岡県静岡市清水区|享保16年7月27日|<死去>駿河小島藩1万石「松平信嵩」(22歳)⇒長男「松平昌信」が継ぐ(⇒明和8(1771)年6月27日、44歳で死去)
- 1731年9月-01:00|セルビア/トルコ| |||<就任>オスマン帝国セルビア・ワリス「マフムト・パシャ」(~1732年8月)
- 1731年9月7日-09:00|日本|千葉県成田市|享保16年8月7日|<交替>下総高岡藩1万石「井上政鄰」隠居⇒弟「井上正森」が継ぐ(⇒宝暦10(1760)年12月7日、隠居)
- 1731年9月10日-02:00|トルコ| |||<就任>オスマン帝国大宰相「トパル・オスマン・パシャ」(~17320312)
- 1731年9月11日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド 副卿「ドゥーセット公ライオネル・クランフィールド・サックビル」(1回目~17370907)
- 1731年9月17日-01:00|ドイツ| |||<死去>ツグアイトリュッケン公「グスタフ・ザムエル・レオルト」
- 1731年9月21日 04:00|バルバドス/イギリス| |||<就任>イギリス領バルバドス元帥兼総督代理「Samuel Barwick Jr.」(~17330101死去)
- 1731年9月21日-09:00|日本|奈良県高市郡高取町|享保16年8月21日|<死去>大和高取藩20500石「植村家敬」(52歳)⇒養子「植村家包」が継ぐ(⇒元文3(1738)年8月13日、死去)
- 1731年9月21日-09:00|日本|福井県敦賀市|享保16年8月21日|<死去>若狭敦賀藩1万石「酒井忠武」(24歳)⇒弟「酒井忠香」が継ぐ(⇒天明8(1788)年8月20日、隠居)
- 1731年9月27日-09:00|日本|茨城県牛久市|享保16年8月27日|<交替>常陸牛久藩1万石「山口弘豊」隠居⇒養子「山口弘長」が継ぐ(⇒明和5(1768)年11月12日、死去)
- 1731年9月27日-09:00|日本|島根県松江市|享保16年8月27日|<死去>出雲松江藩18万6千石「松平宣維」(34歳)⇒10月13日、長男「松平宗衍」が継ぐ(⇒明和4(1767)年11月27日、隠居)
- 1731年9月28日-09:00|日本|山形県鶴岡市|享保16年8月28日|<死去>出羽庄内藩14万石「酒井忠真」(61歳)⇒次男「酒井忠寄」が継ぐ(⇒明和3年5月8日(17660614)、死去)

1740迄 (2954件)

- 1731年10月-02:00|ルーマニア| |||<就任>ワキ7総督・領主「コンスタンティン・ニコラエ・マゴロルタット」(2回目~1733年5月)
- 1731年10月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「ジョヴァンニ・アントニオ・レオナルド・トリ」(バルトロメオ・ベッティ)
- 1731年10月4日-09:00|日本|群馬県前橋市|享保16年9月4日|<死去>上野厩橋藩15万石「酒井親本」(27歳)⇒養子「酒井忠恭」が継ぐ(⇒寛延2(1749)年1月、播磨姫路藩15万石に転封)
- 1731年10月5日-01:00|クロアチア| |||<就任>クロアチアとダルマチアのバン代行「ザグレブ」司教「エルジ・ブラニン」(1回目)、「ニコラ・マレニッチ」(~17320217)
- 1731年10月5日-01:00|ノルウェー/デンマーク| |||<就任>ノルウェー総督代行「ハトロクス・レーミング」(~1733年)
- 1731年10月8日 05:00|ハイチ/フランス| |||<就任>フランスのサント・ミシゴ 総督「ウイェヌスト・ブセロール侯爵アントワヌ・ガブリエル」(~173204没)
- 1731年10月10日-09:00|日本|福島県会津若松市|享保16年9月10日|<死去>陸奥会津藩23万石「松平正容」(63歳)⇒八男「松平容貞」が継ぐ(⇒寛延3年9月27日(17501026)、死去)
- 1731年10月11日 04:00|ポルトリコ/スペイン| |||<就任>ポルトリコ知事兼提督「Matias de Abadia」(~17430628死去)
- 1731年10月13日-09:00|日本|大阪府大阪市|享保16年9月13日|<初演>文耕堂、長谷川千四「鬼一法眼三略巻」竹本座
- 1731年10月13日-09:00|日本|山口県萩市|享保16年9月13日|<死去>長州藩369000石「毛利吉元」(55歳)⇒五男「毛利宗広」が継ぐ(⇒寛延4(1751)年2月4日、35歳で死去)
- 1731年10月17日-09:00|日本| ||享保16年9月17日|<死去>狩野憲信(40歳) 絵師
- 1731年10月27日 00:00|イギリス| |||<死去>初代サックス伯「タルボット・エルムアートン」
- 1731年10月27日 00:00|イギリス| |||<就任>2代サックス伯「ジョージ・オーガスタス・エルムアートン」(~17580108死去)
- 1731年11月-04:00|ジョージア| |||<即位>イメリ王「マミア」(3回目~1714年5月)
- 1731年11月2日-05:30|インド| |||<就任>初代インド・ル太守「マルハル・ラオ・ホルカル1世」(~17660520死去) マラーター王国マールワ2州の支配を宰相から委ねられた
- 1731年11月2日-05:30|インド| |||<就任>ケワリル国統治者(スハダール)「ラジ・ラオ・シンデイヤ」建国(~17450719没)
- 1731年11月21日-04:00|ロシア| ||ロシア暦1月18日|<就任>全ロシア第一閣僚「ゲラフ・ガヴリル・イワノヴィチ・ゴロキ」(~17340131)
- 1731年12月8日 00:00|イギリス| |||<就任>初代エフィンガム伯「フランス・ハワード」(~17430212死去)
- 1731年12月15日-02:00|ルーマニア| |||<死去>トランシルヴァニア総督「ジグモント・ゲロフ・コルニス・コンツルシュカイ」
- 1731年12月15日-02:00|ルーマニア| |||<就任>トランシルヴァニア総督「イシュトヴァン・パーロウエツェレニイ・ハダティ」(2回目~1732年7月)
- 1731年12月23日-09:00|日本|大分県速見郡日出町|享保16年11月25日|<死去>豊後日出藩25000石「木下俊在」(18歳)⇒28日、叔父「木下長保」が継ぐ(⇒元文3(1738)年8月29日、死去)
- 1731年12月29日-01:00|モロコシ| |||<就任>モロコシ公「シヤコモ1世」(~17331108)
- 1731年12月29日-01:00|イタリア| |||スเปน王フェリペ5世とエリザベッタ・ファルネーゼの息子のドン・カルロスがバルマ・ヒアチンツァ公カロ1世に
- 1731年12月29日-08:00|中国| ||清・雍正9年12月|清が鉄器の輸出を厳禁
- 1732年-08:00|フィリピン| |||<死去>マギンダナオ王国スルタン「Sultan Muhammad Ja'far Sadiq Manamir」
- 1732年-08:00|インドネシア| |||<即位>サンハス国スルタン「Abu Bakar Kamal ud-din1世」(~1764年)
- 1732年-08:00|フィリピン| |||<即位>スール王国スルタン「Sultan Nasarud-Din」(~1735年)
- 1732年-08:00|インドネシア| |||<即位>ハカン・スルタン「Hamza Tarafan Nur」(~1741年)
- 1732年-07:00|タイ| |||<即位>ラムハーン国主「ティップ・チャック(フラーヤ・スワクル・チャイソクラーム)」(~1759年)
- 1732年-05:30|インド| |||<死去>カルナータカ太守「サーダトウッラー・ハーン」
- 1732年-05:30|インド| |||<就任>アークト国支配者「トースト・アリ・カーン」(~17400520没)
- 1732年-05:30|インド| |||<就任>アラカ王国ラジャ「アリ・ラジャ・ビビ・ジュヌマバ1世」(~1745年)
- 1732年-05:30|インド| |||<就任>アワド 国統治者(スハダール・ナワブ)「ホルハン・アル・モルク・ミール・モハマト・アミン・ムサウイ・サーダト・アリ・カーン1世」建国(~17390319没)
- 1732年-05:30|インド| |||<就任>ウトカラ国ラジャ「ラマチャンドラデーヴァ2世」(~1743年)
- 1732年-05:30|インド| |||<就任>カンナール国統治者(アリ・ラジャ)「ラニ・ジュヌマバ1世アディ・ビビ・アリ・ラジャ・ビビ」(~1745年)
- 1732年-05:30|インド| |||<就任>コット・カワラ国支配者「シヨト・シン」(~1767年没)
- 1732年-05:30|インド| |||<就任>サンバルプル国ラジャ「アハ・イ・シン」(~1778年)
- 1732年-05:30|インド| |||<就任>ジャヨ国統治者(デューン)「ハティ・チャンド」建国(~1750年没)
- 1732年-05:30|インド| |||<就任>ジャヤンラ国ワシ「ハサン・カーン」(1回目~1734年)
- 1732年-05:30|インド| |||<就任>ハリア国ラジャ「ラヤタルジ・プリスタイラジ」(~不明)⇒「ガントラジ・ラヤタルジ」(~不明)⇒「ガントルシムジ・ガントラジ」(~不明)⇒「ティライツィムジ・ガントルシムジ」(~1803年)
- 1732年-05:30|インド| |||<就任>ハロダ 国統治者(セナ・カス・ケル)「ムガル帝国総督セル・カーン・ハビ」(~1734年)
- 1732年-05:30|インド| |||<就任>ハランプル国統治者(デイヤ)「ハル・カーン2世」(~1743年没)
- 1732年-05:30|インド| |||<就任>ラージコット国統治者(タル・サーヒブ)「ランマルジ1世マフラムジ」(~1746年没)
- 1732年-05:30|インド| |||<即位>カルナータカ太守「トースト・アリ・ハーン」(~17400520)
- 1732年-04:00|オスマン| |||<即位>ヤアリア 王朝対立イマム「ヒラフ・イブン・ヒムヤル」(第1治世~1738年)
- 1732年-04:00|アゼルバイジャン/イラン| |||サリヤをヘルシヤが統治(~1747年)
- 1732年-03:00|イラク| |||<即位>ハバ ン首長「Nawaub Khalid Pasha」(~1742年)
- 1732年-01:00|スเปน| |||<就任>スเปน領メウラ総督「Juan de Villalba y Angulo」(~同年)
- 1732年-01:00|クロアチア| |||<即位>ホルツァ大公「ヘル・シノフチチ」(~1740年)

1740迄 (2954件)

- 1732年-01:00|デンマーク| |||デンマークでアジア会社が設立
- 1732年 00:00|ギニアビサウ/ポルトガル| |||<就任>カチュー司令官「ジョアン・ペレイラ・デ・カルヴァリョ」(~1736年9月以降)
- 1732年 00:00|カナ| |||カナでアクビンがこのころ国家的統一
- 1732年 03:00|ウルグアイ/スペイン| |||<就任>サン・フェルナンド・イ・サント・ヤコ・デ・モンテ・デ・オ軍事司令官「Jose de Arce y Soria」(~1733年)
- 1732年 04:00|ドミニカ共和国/スペイン| |||<就任>スペイン領サント・ミンゴ 総裁・総司令官「アロンソ・デ・カストロ・イ・メイス」(~1739年)
- 1732年 04:00|セントクリストファー・ネイビス/イギリス| |||<就任>ネイビス副総督「ウィリアム・ハンマー」(~1737年)
- 1732年 04:00|パラグアイ/スペイン| |||<就任>パラグアイ統治政権大統領「アントニオ・ルイス・デ・アラレーノ」(~1733年7月)
- 1732年 04:00|サン・マルティン/フランス| |||<就任>フランス領サン・マルティン島司令官「Christophe Mahieu」⇒「Jacques Greau x, Jr.」(~1744年死去)
- 1732年 04:00|サン・マルタン/フランス| |||<就任>フランス領サン・マルタン副王「Christophe Mathieu」(~1736年)
- 1732年 06:00|アメリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領ニューヨークおよびニュージャージー 総督「ウィリアム・コスター」(~1736年)
- 1732年 06:00|アメリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領メリーランド 植民地総督「チャールズ・カルハート」(~1733年)
- 1732年 06:00|アメリカ| |||郵便制度がアメリカの南部植民地まで拡大
- 1732年 06:00|アメリカ| |||バーリントンとアムステルダム間で駅馬車の定期運行が始まる
- 1732年1月-02:00|シリア/アラブ/トルコ| |||<就任>アレクサンドリア(総督)「Arifi Ahmed Pasha」(~1733. 3)
- 1732年1月-01:00|スペイン/ペネンサエラ| |||サンボ出身のアンドレテ(アントレ・ロペス・ロサ), 自由黒人を組織し, カカス市会とフランスの支援を受けスペイン軍に対し反乱勝利
- 1732年1月23日-05:30|インド/ポルトガル| |||<就任>ポルトガル領インド 総督「統治委員会: クリストヴァン・デ・マ(2度目)/フレイ・イグナチオ・デ・サント・テレサ(2回目)/トメ・ゴメス・モレイラ」(~11. 7)
- 1732年1月27日-07:00|ベトナム| |||<即位>パントゥラン王「Po Rattiraydaputao (Nguyen Van Dat)」(~1763年)
- 1732年1月27日-09:00|日本| ||享保17年1月|儒者太宰春台「聖学問答」を著す
- 1732年1月27日-09:00|日本|新潟県|享保17年1月|南条郡新道村・大桐村・広野村・大谷浦で雪崩, 死者34人
- 1732年1月29日-01:00|イタリヤ| |||<就任>ジェノヴァ共和国トージェ「トメコ・マリア・スピノラ」(~17340129)
- 1732年2月1日-03:30|イラン| |||キラガ条約によりペルシャに返還される
- 1732年2月1日-09:00|日本| ||享保17年1月6日|<死去>土肥二三(94歳) 三河吉田藩士、茶人
- 1732年2月4日 05:00|ハイチ/フランス| |||<就任>フランスのサント・ミンゴ 総督代行「エティエンヌ・コンヤール・デュ・ペルノト・シヤステワ」(1回目~10. 8)
- 1732年2月6日 00:00|イギリス| |||<死去>初代ハクルー女公「アン・スコット」
- 1732年2月6日 00:00|イギリス| |||<就任>2代ハクルー公「フランス・スコット」(⇒17430322兼トウカスター伯回復~17510422死去)
- 1732年2月17日-01:00|クワアア| |||<就任>クワアアとケルマアアのパン「イワン5世グロフ・トウシュコウ・イチ」(~17330104)
- 1732年2月22日-01:00|ルクセンブルグ/オーストリア| |||<就任>オーストリア領ルクセンブルグ 総督代行「ジギスムント・フライヘル・フォン・トゥンゲン」(1回目~17330505)
- 1732年2月27日-09:00|日本|愛媛県今治市|享保17年2月2日|<交替>伊予今治藩35000石「松平定基」隠居⇒従弟「松平定郷」が継ぐ(⇒宝暦13(1763)年4月19日、死去)
- 1732年3月2日-09:00|日本|京都府京都市|享保17年2月6日|<死去>二条綱平(61歳) 元関白、左大臣
- 1732年3月5日-05:30|インド| |||<死去>マイソール国マハラジャ「クリシュナラジャ1世ウデヤール」
- 1732年3月12日-02:00|トルコ| |||<就任>オスマン帝国大宰相「ヘキムパ・シュザデ/ヘキムル・アリ・パシヤ」(1期目~17350712)
- 1732年3月19日-05:30|インド| |||<即位>マイソール国マハラジャ「チャマラジャ7世ウットヤール」(~17340610、タラヴァーイーらにより廃位され、妃とともにカブラトウカへと幽閉されたのち、同年のうちに獄死)
- 1732年3月20日-01:00|ハンガリー| |||<就任>ハンガリー王国パライン代行「ヤノシュ・クルフ・パルフィ・エルデイ」(1回目~4. 5)
- 1732年3月23日-01:00|ドイツ| |||<死去>ザクセン＝コータアルテンブルク公「フリートリヒ2世」
- 1732年3月23日-01:00|ドイツ| |||<即位>ザクセン＝コータアルテンブルク公「フリートリヒ3世」(~17720310死去)
- 1732年3月26日-09:00|日本| ||享保17年3月|<刊行>祐左「太平百物語」
- 1732年3月26日-09:00|日本|茨城県筑西市|享保17年3月1日|<加増移封>伊勢神戸藩17000石「石川総茂」⇒常陸下館藩2万石(⇒享保18(1733)年9月16日、63歳で死去)
- 1732年3月26日-09:00|日本|群馬県沼田市|享保17年3月1日|<加増移封>常陸下館藩2万石「黒田直邦」⇒上野沼田藩25000石(⇒同年7月29日、5000石を加増され3万石)
- 1732年4月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「ジョヴァンニ・ペドレッツィ」 「ジョヴァンニ・マルテッリ」
- 1732年4月5日-01:00|ハンガリー| |||<就任>ハンガリー王国パライン「フランツ・シュテファン・ヘルツォーク・フォン・ロートリンゲン・ウント・パール」(~17410622)
- 1732年4月7日 00:00|イギリス| |||<死去>アボイン伯「ジョン・ゴートン」
- 1732年4月7日 00:00|イギリス| |||<就任>アボイン伯「チャールズ・ゴートン」(~17941228死去)
- 1732年4月16日-03:30|イラン| |||<廃位>サファヴィー朝第10代シャー「タフマースプ2世」ナデルにより
- 1732年4月21日-09:00|日本|長崎県対馬市|享保17年3月27日|対馬府中大火、1299戸焼ける
- 1732年4月22日 02:30|日本|東京都|享保17年3月28日|<江戸享保17年連続六番出火>第一番出火、昼九つ前(午前1時半頃) 浅草新寺町の松物師(曲げもの容器の職人) 菊屋五郎左衛門の家から出火、東本願寺表門通りの町家、寺などを焼き、花川戸から材木町、駒形町、御蔵前森田町、鳥越明神など両国通りを除いてすべて焼失/御馬河岸を焼いた炎が隅田川を越え本所埋堀へ飛び火、割り下水通りから北風に乗って回向院後ろへと延焼、新大橋橋詰めまで全焼し深川元木場まで焼いて同夜五つ時(20時頃)鎮火
- 1732年4月22日 04:00|日本|東京都|享保17年3月28日|<江戸享保17年連続六番出火>第二番出火、昼九つ半(13時

1740迄 (2954件)

- 頃)西の丸下の御用屋敷(隠密を勤める侍屋敷)の内部から出火、水野壱岐守を始め大名屋敷10余家に延焼、数寄屋河岸から山下町、家表町で焼き止まる
- 1732年4月22日 05:00|日本|東京都|享保17年3月28日|<江戸享保17年連続六番出火>第三番出火、昼八つ時(14時半頃)築地木挽町五丁目の表より出火、仙石因幡守屋敷から西本願寺表通り川向かいの旗本屋敷街へと延焼、海岸へ出て鎮火
- 1732年4月22日 05:30|日本|東京都|享保17年3月28日|<江戸享保17年連続六番出火>第四番出火、八つ過ぎ(14時半頃)西北西の風が吹く中、大塚の本伝寺近くの浪人宅より出火、大塚大町から茗荷谷へ焼け下り、服部坂、金剛寺坂まで焼け抜け、それより小日向水道町馬場付近から赤城明神表門前まで全焼、筑土八幡裏通りから牛込御門内へと飛び火し四番町を全焼させた
- 1732年4月22日 14:00|日本|東京都|享保17年3月28日|<江戸享保17年連続六番出火>第五番出火、同夜亥の中刻(23時頃)小石川蔦坂付近から出火、町家1町余を全焼
- 1732年4月23日-09:00|日本|東京都|享保17年3月29日|<江戸享保17年連続六番出火>第六番出火、夜子の刻(午前0時頃)本郷、巢鴨大原町など3町が焼失
- 1732年4月24日 00:00|アイルランド/イギリス| ||<就任>アイルランド 副卿代行判事「アマー大司教ヒュー・ホルター/ウィングム男爵トマス・ウィングム/準男爵アルフ・ゴア卿(17330523まで)」(~17330924)
- 1732年4月25日-09:00|日本|三重県鈴鹿市|享保17年4月1日|<移封>河内西代藩1万石「本多忠統」⇒伊勢神戸藩1万石(⇒延享2(1745)年、5000石加増され15000石)
- 1732年4月28日 00:00|イギリス| ||<死去>初代マルス・フィールド 伯「トマス・パーク」
- 1732年4月28日 00:00|イギリス| ||<就任>2代マルス・フィールド 伯「ジョージ・パーク」(~17640317死去)
- 1732年5月14日-05:30|インド| ||<就任>パロウ 国統治者(セ・ナス・ケル)「ダマジ・ラオ2世ゲークル」(~17680818没)
- 1732年5月20日-01:00|モコ/フランス| ||<就任>モコ総督「ケリマルティの騎士アントワヌ・シャル」(~17841128没)
- 1732年5月23日-01:00|イタリヤ| ||<死去>ヴェネツィア共和国トージェ(元首)「アルヴィセ・モチニゴ」3世
- 1732年5月25日-09:00|日本|栃木県足利市|享保17年5月2日|<死去>下野足利藩11000石「戸田忠圀」(64歳)⇒長男「戸田忠位」が継ぐ(⇒元文元(1736)年9月4日、死去)
- 1732年5月27日-09:00|日本|岡山県新見市|享保17年5月4日|<死去>備中新見藩18000石「関長広」(39歳)⇒長男「関政富」が継ぐ(⇒宝暦10(1760)年6月4日、死去)
- 1732年5月27日-09:00|日本|福井県坂井市|享保17年5月4日|坂井郡泥原新保浦で火事、家158軒など焼失
- 1732年5月28日-08:00|インドネシア/オランダ| ||<就任>オランダ 領東インド 総督「Dirk van Cloon」(~17350310死去)
- 1732年6月1日-03:00|エチオピア| ||<死去>ハラル首長国エミール「アブ・ハカル1世・イブン・アブド・アッター」
- 1732年6月1日-03:00|エチオピア| ||<就任>ハラル首長国エミール「カリフ・イブン・アヒ・ハカル」(~17330814没)
- 1732年6月1日 00:00|イギリス| ||イギリス議会在が帽子条例を制定
- 1732年6月1日-09:00|日本|秋田県秋田市|享保17年5月9日|<廃藩>出羽久保田新田藩(1)1万石「佐竹義堅」宗家久保田藩主「佐竹義峯」の養子となり1万石は久保田藩に還付
- 1732年6月6日-01:00|イタリヤ| ||<就任>ヴェネツィア共和国トージェ(元首)「カルロ・ルツィーニ」(~17350105死去)
- 1732年6月13日-09:00|日本|岐阜県海津市|享保17年5月21日|<死去>美濃高須藩3万石「松平義孝」(39歳)⇒従弟「松平義淳」が継ぐ(⇒元文4(1739)年2月3日、宗家尾張藩を相続)
- 1732年6月19日-09:00|日本|東京都|享保17年5月27日|江戸で悪疫流行のため水神祭・施餓鬼を行い、この例祭日に花火を上げて川開きとする(大川の川開きの初め)
- 1732年7月-02:00|ルーマニア| ||<就任>トランシルヴァニア総督「フランツ・アントン・パウル・ゲラーフ・ウオリス」(政府大統領~17341202)
- 1732年7月2日-09:00|日本|千葉県千葉市中央区|享保17年閏5月11日|<交替>下総生実藩1万石「森川俊胤」隠居⇒次男「森川俊常」が継ぐ(⇒享保19(1734)年7月1日、死去)
- 1732年7月2日-09:00|日本|新潟県新発田市|享保17年閏5月11日|<死去>越後新発田藩5万石「溝口直治」(26歳)⇒7月5日、養子「溝口直温」が継ぐ(⇒宝暦11(1761)年1月23日、隠居)
- 1732年7月3日-09:00|日本|愛媛県大洲市|享保17年閏5月12日|大洲城下町に大火があり、侍屋敷37軒・無足屋敷23軒・町家300軒余を焼く
- 1732年7月5日 00:00|イギリス| ||<死去>3代カーティガン伯「ジョージ・ブルデール」
- 1732年7月5日 00:00|イギリス| ||<就任>4代カーティガン伯「ジョージ・モンタギュー」先代の息子(⇒17661105兼モンタギュー公~17900523死去モンタギュー公爵廃絶)
- 1732年7月11日-01:00|ドイツ| ||<即位>プロヴァンツェルツァー公「ヨハン・クリスティアン」(~17330720死去)
- 1732年7月12日-09:00|日本|岐阜県中津川市|享保17年閏5月21日|<死去>美濃苗木藩10021石「遠山友将」(18歳)⇒叔父「遠山友友」が継ぐ(⇒元文5(1740)年8月27日、隠居)
- 1732年7月15日 05:00|バハマ/イギリス| ||<就任>イギリス王室植民地バハマ総督代行「リチャード・トンプソン」(~1734年6月)
- 1732年7月16日-01:00|アルジェリア/スペイン| ||スペインのオランとマサルキルの支配が回復(~17920229)
- 1732年7月22日-09:00|日本|千葉県安房郡鋸南町|享保17年6月|保田妙本寺客殿再建
- 1732年8月-01:00|セルビア/トルコ| ||<就任>オスマン帝国セルビア・ワリス「イスマイル・ハシヤ」(~1733年8月)
- 1732年8月3日-09:00|日本| ||享保17年6月13日|<死去>杉山杉風(86歳)俳人
- 1732年8月4日-09:00|日本|三重県津市|享保17年6月14日|<死去>藤堂高陳(32歳)前伊勢久居藩主
- 1732年8月11日-02:00|モザンビーク/ポルトガル| ||<就任>モザンビーク、ソファラ、リオス・テ・クマ、モノモバ 総司令官代行「デ・イオニウス・マニエル・ウエイガス」(2回目~1733年)
- 1732年8月16日-09:00|日本|熊本県熊本市|享保17年6月26日|<死去>肥後熊本藩54万石「細川宣紀」(57歳)⇒四男「細川宗孝」が継ぐ(⇒延享4(1747)年8月15日、殺害される)
- 1732年8月22日-01:00|スペイン| ||<就任>スペイン領メウラ総督「Antonio Villalba y Angulo」(~17570422死去)

1740迄 (2954件)

- 1732年8月25日-05:30|スリランカ/オランダ| |||<就任>オランダ領セイロン総督代理「ゲアルテルス・ヴァーサーシュ」(~12.2)
- 1732年8月31日-09:00|日本| |||享保17年7月12日|幕府が目安箱投書規則を定める
- 1732年9月2日-03:30|イラン| |||<即位>サファヴィー朝シャー「アッハマス3世」(~17360308)、摂政「ナディール・カーン・アフシャル」(~17360308)
- 1732年9月4日-09:00|日本|愛媛県|享保17年7月16日|松山藩領伊予郡の農民100人余り、袖乞と称して松山の町家へ押しかけ、米屋を打ちこわす(伊予百姓一揆)
- 1732年9月14日-09:00|日本|岐阜県岐阜市|享保17年7月25日|<死去>美濃加納藩65000石(老中)「安藤信友」(62歳)⇒養子「安藤信尹」が継ぐ(⇒宝暦5(1755)年2月4日、強制隠居)
- 1732年9月15日-01:00|ドイツ| |||プロシヤ王フリードリヒ・ヴィルヘルム1世が、常備軍を集めるために強制徴募制をとりいれる/これによりプロシヤはヨーロッパ第4位の陸軍を保有することになる
- 1732年9月17日-09:00|日本|群馬県沼田市|享保17年7月29日|<加増>上野沼田藩25000石「黒田直邦」+5000石⇒3万石(⇒享保20(1735)年3月26日、死去)
- 1732年9月19日-08:00|中国| |||清・雍正10年8月|ジュンガル部のガルダン・ツェリンが清の北辺で清軍に破れ逃走
- 1732年9月19日-07:00|ベトナム| |||大越黎朝・龍徳1年8月|<廃位>後黎朝(大越)後期第13代皇帝「後廢帝」
- 1732年9月19日-09:00|日本|埼玉県さいたま市岩槻区|享保17年8月1日|<死去>小笠原長重(83歳)前武蔵岩槻藩主、元寺社奉行・京都所司代・老中
- 1732年9月20日-09:00|日本| |||享保17年8月|(6月中旬~)近畿から九州にかけて雨が数十日降り続き、蝗虫大発生による飢饉、餓死者1万2,000人余に達する(享保の飢饉)
- 1732年9月24日-09:00|日本| |||享保17年8月6日|<死去>霊元天皇(79歳、承応3(1654)0525生)112代天皇
- 1732年9月29日-09:00|日本|長野県松本市|享保17年8月11日|<死去>信濃松本藩6万石「松平光慈」(21歳)⇒10月5日、弟「松平光雄」が継ぐ(⇒宝暦6(1756)年11月1日、死去)
- 1732年10月1日-01:00|サマリヤ| |||<就任>サマリヤ共和国執政「ヴァリオ・マツジョニ」「ウインツォ・モッチ」
- 1732年10月3日-09:00|日本|愛知県犬山市|享保17年8月15日|<交替>尾張犬山藩35000石(尾張藩附家老)「成瀬正幸」隠居⇒長男「成瀬正泰」が継ぐ(⇒明和5(1768)年1月28日、隠居)
- 1732年10月7日-09:00|日本|鹿児島県鹿児島市|享保17年8月19日|<鹿児島享保17年の大火>夜半、鹿児島城の南方、海岸寄りにある町民の街、下町の石灯炉あたりから出火/火の手は五方、六方にも別れ、町屋敷520か所と家老・伊勢兵部の下屋敷(別宅)を焼失
- 1732年10月8日 05:00|ハイチ/フランス| |||<就任>フランスのサント・ミンゴ総督「ファイ侯爵ピエール」(~17370811没)
- 1732年10月14日-07:00|ベトナム| |||大越黎朝・龍徳1年8月26日|<即位>後黎朝(大越)後期第14代皇帝「純宗黎維祥」(~17350605死去)龍徳と改元(~1735年)
- 1732年10月17日-09:00|日本|兵庫県姫路市|享保17年8月29日|<死去>播磨姫路藩15万石「榊原政祐」(28歳)⇒10月13日、弟「榊原政岑」が継ぐ(⇒寛保元(1741)年10月13日、強制隠居)
- 1732年10月18日-09:00|日本|京都府京都市|享保17年8月30日|<死去>松木宗子(敬法門院)(76歳)中御門宗条の娘、霊元天皇の妃
- 1732年10月19日-09:00|日本| |||享保17年9月|<初演>「大銀杏榮景清」<景清>中村座
- 1732年10月22日-09:00|日本| |||享保17年9月4日|<死去>山口雪溪(89歳)画家
- 1732年10月23日 00:00|イギリス| |||<死去>ベッドフォード公「ライオネル・ラッセル」
- 1732年10月23日 00:00|イギリス| |||<就任>ベッドフォード公「ジョン・ラッセル」先代の弟(~17710105死去)
- 1732年10月27日-09:00|日本| |||享保17年9月9日|<初演>文耕堂、長谷川千四「壇浦兜軍記」竹本座
- 1732年10月29日-09:00|日本|長崎県対馬市|享保17年9月11日|<交替>対馬府中藩22800石「宗方熙」隠居⇒甥「宗義如」が継ぐ(⇒宝暦2(1752)年1月5日、死去)
- 1732年11月-03:00|サウジアラビア| |||<就任>メッカ・シャリフ「マスト・ブン・サイド」(1回目~1733年1月)
- 1732年11月7日-05:30|インド/ポルトガル| |||<就任>ポルトガル領インド総督「サント・ミル伯爵ペドロ・マスカレニャス」(~17410518没)
- 1732年11月10日-09:00|日本|兵庫県姫路市|享保17年9月23日|<交替>播磨林田藩1万石「建部政周」隠居⇒長男「建部政民」が継ぐ(⇒宝暦12(1762)年6月24日、隠居)
- 1732年11月15日-09:00|日本|広島県廿日市市|享保17年9月28日|佐伯郡廿日市にて出火、家数75軒焼失
- 1732年11月18日-09:00|日本| |||享保17年10月|儒者・室鳩巢の随筆集「駿台雑話」ができる
- 1732年11月20日-09:00|日本|神奈川県小田原市|享保17年10月3日|<死去>相模小田原藩11万3000石「大久保忠方」病死(41歳)⇒長男「大久保忠興」が継ぐ(⇒宝暦13(1763)年9月10日、隠居)
- 1732年11月23日 00:00|イギリス| |||<死去>3代プリマス伯「アーウィンザー」
- 1732年11月23日 00:00|イギリス| |||<就任>4代プリマス伯「アーリス・ウィンザー」(~17710421死去)
- 1732年11月29日-01:00|イタリア| |||イタリア、アヴェッリーノで地震(M6.6)死者1942人
- 1732年12月-01:00|アンゴラ/ポルトガル| |||<就任>ポルトガル領西アフリカ総督「商工会議所上院」(~17330101)
- 1732年12月1日-09:00|日本|新潟県長岡市|享保17年10月14日|<死去>越後与板藩2万石「井伊直陽」病死(14歳)⇒養子「井伊直真」が継ぐ(⇒享保20(1735)年4月5日、死去)
- 1732年12月2日-05:30|スリランカ/オランダ| |||<就任>オランダ領セイロン総督「ヤコブ・クリスティアン・ピエラト」(~17340127)
- 1732年12月2日-09:00|日本|長崎県長崎市|享保17年10月15日|夜、大風。唐船が暗礁にのりあげて長崎港外に沈没。乗組員中1人は沖の島に漂着、他の39人は全員死亡
- 1732年12月4日-04:00|ジョージア| |||<即位>カヘティ王「ティムラズ2世」(1回目~1736年)
- 1732年12月7日 00:00|イギリス| |||<開場>歌劇場「ロイヤル・オペラ・ハウス」[ロンドン・コヴェント・ガーデン]
- 1732年12月9日-07:00|タイ| |||<死去>アユタヤ王朝第33代国王「サンハット9世」(ミンターチャー)
- 1732年12月9日-07:00|タイ| |||<即位>アユタヤ王朝第34代国王「ホー・ロマーチャーティラート3世」(ホー・ロマーコート) (~17580413死去)

1740迄 (2954件)

- 1732年12月15日 04:30|ベネチア/スペイン| |||<就任>スペイン領ベネチア総督「Martin de Lardizabal y Elorza」(~17371006)
- 1732年12月17日-01:00|リヒテンシュタイン| |||<死去>リヒテンシュタイン公「ヨゼフ・ヨハン・アダム」
- 1732年12月17日-01:00|リヒテンシュタイン| |||<就任>リヒテンシュタイン公「ヨハン・林・ムク・カール」先代の息子、先々先代の後見下で統治(~17481222没)
- 1732年12月17日-01:00|リヒテンシュタイン| |||<就任>リヒテンシュタイン摂政「ヨゼフ・ヴェンツェル」(~17450708)
- 1732年12月18日-09:00|日本|愛媛県今治市|享保17年11月2日|今治藩領、越智郡上弓削村で大火事があり、百姓本家36軒・無給本家11軒・納屋牛屋44軒ほか焼失
- 1732年12月19日 06:00|アメリカ| |||<就任>ペンシバニア州知事「ジョン・ペン」
- 1732年12月23日 00:00|イギリス| |||<死去>ノーフォーク公・アランデル伯・サリ伯・ノーリッチ伯「トマス・ハワード」
- 1732年12月23日 00:00|イギリス| |||<就任>ノーフォーク公・アランデル伯・サリ伯・ノーリッチ伯「エドワード・ハワード」先代の弟(~1770920死去)
- 1733年-08:00|インド/オランダ| |||<就任>アンボン島オランダ総督「デヴィット・Johan Bake」(~1738年死去)
- 1733年-08:00|インド/ネパール| |||<即位>ネパール王国王「ムニヤム・ジャヤ・ラマ・マハラン」(~1750年)
- 1733年-08:00|フィリピン| |||<即位>マギンダナオスultan「Tahiruddin Malinug」(~1736年)
- 1733年-07:00|タイ| |||<即位>アユタヤ王朝第34代国王「ホー・ロマラーチャーティラート3世ホー・ロマコート」(~1758年死去) 芸術・文芸が栄える
- 1733年-05:30|インド| |||<死去>シッキム王「キェルメット・ナムギヤル」
- 1733年-05:30|インド| |||<死去>ダティア国統治者(マハラジャ・ラオ・ラシヤ)「ラムチャンドラ・シン」
- 1733年-05:30|インド/オランダ| |||<就任>オランダ領インド総督「エリアス・キヨ」(~1737年)
- 1733年-05:30|インド| |||<就任>クラントワト国統治者(オオ)「トリンバ・クラオ1世アッパ・サヒブ・ハトワルダン」建国(~1771年没)
- 1733年-05:30|インド| |||<就任>カヌール国支配者(ナワブ)「ヒマヤット・ハハート・ウル・カン」(~1751年)
- 1733年-05:30|インド| |||<就任>コラハ国統治者(サルル)「マナジ1世アングリア」(~1759年没)
- 1733年-05:30|インド| |||<就任>チャンデリ国ラジャ「トウルジヤン・シン」(~不明) =>「マン・シン」(~1760年)
- 1733年-05:30|インド| |||<就任>チョータ・ナグプール国支配者(ラジャ)「ウダ・イ・ナス・シャ」(~1740年)
- 1733年-05:30|インド| |||<就任>ヒンドル国ラジャ「ダモダル・シン・ナレントラ」(~1770年)
- 1733年-05:30|インド| |||<就任>マハタル国支配者(カン)「デイヤール・カン・サラハット・カン」建国(~1760年頃没)
- 1733年-05:30|インド| |||<就任>モルガイ国統治者(タル・サヒブ)「アリヤジ・カンヨジ」(~1739年没)
- 1733年-05:30|インド| |||<即位>シッキム王「ブンツォ・ナムギヤル2世」(~1780年、死去)
- 1733年-05:30|インド| |||<即位>ダティア国統治者(マハラジャ・ラオ・ラシヤ)「イントラジ・ット・シン」(~1762年)
- 1733年-03:00|ベラルーシ/ロシア| |||<就任>シベリアに占領された(~1734年)
- 1733年-02:00|モザンビーク/ポルトガル| |||<就任>モザンビーク、ソファラ、リオス・テ・クアマ、モモタハ 総司令官「ホセ・バルボサ・レアル」(~1736年)
- 1733年-02:00|シリア/アラブ/トルコ| |||シリアのアスマ家のスレイマンがダマスカス総督となる
- 1733年-01:00|スペイン/パナマ| |||<死去>ペラガア公「ペドロ・マヌエル・ヌニョ・コロン・デ・ポルトガル・イ・アヤラ」
- 1733年-01:00|セルビア/オーストリア| |||<就任>オーストリア軍セルビア総督「カール・クリストフ・グラーフ・フォン・シュメツタウ」(~17380904)
- 1733年-01:00|スペイン| |||<就任>オリバレス公「マリア・テレサ・アルバレス・デ・トレド・イ・アロ」(~1755年)
- 1733年-01:00|ルウェーテンマーク| |||<就任>ルウェーテンマーク総督「クリスチャン・グラーフ・ランツァウ」(~1739年)
- 1733年-01:00|スペイン/パナマ| |||<就任>ペラガア女公「カタリナ・ベネチア・コロン・デ・ポルトガル・イ・アヤラ」先代の妹(~1739年没)
- 1733年-01:00|フランス| |||フランスの物理学者デュ・フェイが摩擦で2種の電気を発見
- 1733年-01:00|ドイツ| |||プロイセン農民に徴兵義務が設定される
- 1733年 00:00|カリヤ諸島/スペイン| |||<死去>スペイン王国フェルテベントウ島永続的軍政知事「Pedro Sanchez Dumpierrez」
- 1733年 00:00|セカール/フランス| |||<就任>東インド会社セカール局長「フランソワ・エティエンヌ・ルージュ」(~3.7)
- 1733年 00:00|カリヤ諸島/スペイン| |||<就任>スペイン王国フェルテベントウ島永続的軍政知事「Jose Sanchez Dumpierrez」(~1741年死去)
- 1733年 00:00|セカール| |||<就任>ワロ統治者(ブラク)「イェリム・ナグ・テ・ブブ」(~1734年)
- 1733年 00:00|イギリス| |||イギリスの職工ジョン・ケイが飛梭(とびひ)を発明
- 1733年 03:00|ウルグアイ/スペイン| |||<就任>サン・フェリペ・イ・サンティアゴ・デ・モンテビデオ軍事司令官「Francisco Lobato」(~1738年)
- 1733年 04:00|セントクリストファー・ネイビス/イギリス| |||<就任>イギリス植民地セントクリストファーズ 総督「ギルバート・フレミング」(~1769年)
- 1733年 04:00|バルバドス/イギリス| |||<就任>イギリス領バルバドス総督「The Viscount Howe」(~17350329)
- 1733年 04:00|トリニダード・トバゴ/スペイン| |||<就任>トリニダード 知事代行「ホセ・オベール + ペドロ・ヒメネス」(~17351011)
- 1733年 04:00|ボリビア/スペイン| |||<就任>ラ・プラタ・デ・ロス・チャルカス聴問庁長官「ホセ・シプリアノ・デ・エレラ・ロサガ」(~1735年)
- 1733年 06:00|アメリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領ジョージア植民地第1代総督「ジェームズ・オーグルソフ」(~1743年)
- 1733年 06:00|アメリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領メリーランド植民地総督「サミュエル・オーグル」(~1742年)
- 1733年 06:00|アメリカ/フランス| |||<就任>フランス領ルイジアナ植民地総督「ジャン・バティスト・ル・モヌエール・ド・ビエンガイユ」(~1743年)
- 1733年 06:00|カナダ/メキシコ/アメリカ| |||北アメリカでインフルエンザが初めて流行
- 1733年1月1日-01:00|アンゴラ/ポルトガル| |||<就任>ポルトガル領西アフリカ総督「ロドリゴ・セザール・デ・メネズ」(~17380401没)
- 1733年1月1日 04:00|バルバドス/イギリス| |||<死去>イギリス領バルバドス元帥兼総督代理「Samuel Barwick Jr.」
- 1733年1月1日 04:00|バルバドス/イギリス| |||<就任>イギリス領バルバドス元帥兼総督代理「James Dotin」(1期目~4.21)

1740迄 (2954件)

- 1733年1月1日-09:00|日本|茨城県ひたちなか市|享保17年11月16日|<那珂湊享保17年の大火「玄宝屋火事」>夜、湊村五町目より発し全町を掃蕩、延焼1300戸
- 1733年1月4日-01:00|イギリス| ||<就任>カオチアとダルマチアのハン代行「サゲレブ 司教ジェルジ・フランシ」(2度目~8. 13)
- 1733年1月10日-09:00|日本|山形県鶴岡市|享保17年11月25日|<交替>出羽松山藩2万石「酒井忠豫」隠居⇒養子「酒井忠休」が継ぐ(安永8(1779)年12月15日、5000石加増され25000石)
- 1733年1月13日 00:00|イギリス/アメリカ| ||ユリウス暦:1733/1/2|チャールストンに、ジェームス・オグルゾフ率いる35家族がロンドンから到着し、北アメリカでの13番目の植民地ジョージアを建設
- 1733年1月17日-09:00|日本|京都府京都市|享保17年12月2日|幕府が京都に質物改会所を設置
- 1733年1月21日-09:00|日本|愛媛県大洲市|享保17年12月6日|大洲城下大火、437軒類焼
- 1733年1月22日 00:00|イギリス| ||<死去>ペンブルク伯・モンゴメリ伯「トマス・ハーバート」
- 1733年1月22日 00:00|イギリス| ||<就任>ペンブルク伯・モンゴメリ伯「ヘンリー・ハーバート」(~17490109退任)
- 1733年1月27日-09:00|日本|山形県上市市|享保17年12月12日|<交替>出羽上山藩3万石「松平長恒」隠居⇒養子「松平信将」が継ぐ(⇒宝暦11(1761)年11月14日、死去)
- 1733年2月-03:00|サウジアラビア| ||<就任>メッカ・シャリフ「ムハンマド・ブン・アフドゥラー」(2度目~1734年)
- 1733年2月1日-02:00|ロシア| ||<就任>ロシア大公「アレクサンドル・ボロウイノス・サビガ」大元帥(2回目~9. 12)
- 1733年2月1日-01:00|ドイツ| ||<死去>プ라우ンシュヴァイク＝ウーホルフェンビュッテル侯「ルートヴィヒ・ルト」
- 1733年2月1日-01:00|ポーランド/ドイツ/ロシア| ||<死去>ポーランド王・ロシア大公「アウグスト2世」兼ザクセン選帝侯「フリードリヒ・アウグスト1世」強健王/62歳(誕生16700512)
- 1733年2月1日-01:00|ドイツ| ||<就任>ザクセン選帝侯「フリードリヒ・アウグスト2世」(~17631005死去)
- 1733年2月8日 04:00|BES諸島/オランダ| ||<死去>セント・ユースタティウス島司令官「Everardt Raecx」
- 1733年2月10日-09:00|韓国/朝鮮| ||<就任>朝鮮国領議政「沈寿賢」(~17340605)
- 1733年2月10日 04:00|BES諸島/オランダ| ||<就任>セント・ユースタティウス島暫定司令官「Johan Heyliger」(4期目⇒17340227、司令官~17360310)
- 1733年2月12日 06:00|アメリカ/イギリス| ||英軍技術将校ジェームス・オグルゾフがアメリカ南部に「ジョージア植民地」建設
- 1733年2月14日-09:00|日本| ||享保18年1月|建部賢弘・中根元圭が「暦算全書」の訓詁を完成
- 1733年2月14日-09:00|日本|東京都|享保18年1月|<江戸時代最初の打ちこわし>江戸で、米問屋打ち壊し起こる/高間伝兵衛の自宅を1700人の庶民が襲い家材道具や米俵等を川に投げ入れるなどした
- 1733年2月15日-09:00|日本|広島県広島市|享保18年1月2日|広島城下火災、町家220軒焼失
- 1733年2月23日 04:00|米領ヴァージン諸島/デンマーク| ||<就任>セント・トマス島・セントジョン島総督「Philip Gardelin」(~17360221)
- 1733年2月23日-09:00|韓国/朝鮮| ||朝鮮・雍正11年1月10日|朝鮮で米価高騰のため禁酒令が出される
- 1733年3月-08:00|フィリピン| ||<死去>マニラ「Jaafar Sadiq Manamir」
- 1733年3月-02:00|シリア/アラブ/トルコ| ||<就任>アレクサンドリア(総督)「Aydinli Abdullah Pasha」(~同年)
- 1733年3月7日-08:00|マレーシア| ||<死去>トンガヌ・スルタン「トゥアンク・ザイナル・アビディン1世・イブニ・アル＝マルフム・ベント・ハラ・セリ・マハラシヤ・トク・ハビブ・アフドゥル・マジド」
- 1733年3月7日-08:00|マレーシア| ||<即位>トンガヌ・スルタン「トゥアンク・マンスール・シャー1世・イブニ・アル＝マルフム・スルタン・ザイナル・アビディン」(~17930126没)、摂政「エンク・タチン・ワンサ」(~17410226)
- 1733年3月7日 00:00|セネガル/フランス| ||<就任>東インド会社セネガル局長代行「セバスチャン・ド・ヴォール」(⇒1736年局長~1738年)
- 1733年3月10日-09:00|日本|東京都|享保18年1月25日|米価高騰により町人1,700人余が米問屋高間伝兵衛宅を襲撃する(江戸で最初の打ちこわし)
- 1733年3月29日 04:00|バルバドス/イギリス| ||<再任>イギリス領バルバドス総督代理「James Dotin」(2期目~1737年)
- 1733年3月30日 01:00|カーボベルテ/ポルトガル| ||<就任>カーボベルテ総督代行「ルイス・コスタ・リベイロ」「マテウス・モニスタシール」「フランシスコ・コレア・レボロ」(~17340323)
- 1733年4月1日-01:00|サンマリノ| ||<就任>サンマリノ共和国執政「フランチェスコ・マリア・ベルツァイ」「ジョヴァンニ・マリア・ジヤンツ」
- 1733年4月1日-09:00|日本|大阪府大阪市|享保18年2月17日|<死去>初代・並木正三(43才)
- 1733年4月9日-09:00|日本|福井県坂井市|享保18年2月25日|<死去>本多重益(71歳)元越前丸岡藩主
- 1733年4月14日-09:00|日本|群馬県前橋市|享保18年3月1日|<死去>酒井親愛(40歳)前上野前橋藩主
- 1733年4月15日-09:00|日本| ||享保18年3月2日|<死去>7代千宗室(25歳)茶人、裏千家家元
- 1733年4月16日-02:00|ルーマニア| ||<就任>ワラキア総督・領主「ゲレグ・リマティ・キカ」(1回目~17351127)
- 1733年4月17日-01:00|フランス| ||<死去>アンジュー公「フィリップ3世」2歳
- 1733年4月21日-01:00|ドイツ| ||<初演>J. S. バッハ《ミサ曲短調》
- 1733年4月21日 04:00|バルバドス/イギリス| ||<就任>イギリス領バルバドス元帥兼総督「Emanuel Scrope Howe」(~17350327死去)
- 1733年5月5日-01:00|ルクセンブルグ/オーストリア| ||<就任>オーストリア領ルクセンブルグ総督「ヴィルヘルム・ラインハルト・グラーフ・ナイペルク」(2回目~17340622)
- 1733年5月7日-02:00|ルーマニア| ||<就任>モルダヴィア総督「コンスタンティン・ニコラエ・マヴロコルト」(1回目~17351126)
- 1733年5月7日 00:00|イギリス| ||<死去>2代チャムリー伯「ジョージ・チャムリー」
- 1733年5月7日 00:00|イギリス| ||<就任>3代チャムリー伯「ジョージ・チャムリー」(~17700610死去)
- 1733年5月9日-09:00|日本| ||享保18年3月26日|<死去>青木鷺水(76歳)俳人、浮世草子作者
- 1733年5月14日 05:00|コロンビア/スペイン| ||<就任>ヌエバ・グラナダ大統領・総督・総司令官「ラファエル・デ・エスラヴァ・イ・ラサガ」(~17370424没)

1740迄 (2954件)

- 1733年5月14日-09:00|日本|福井県坂井市|享保18年4月1日|<交替>越前丸岡藩5万石「有馬寿純」隠居⇒長男「有馬孝純」が継ぐ(⇒宝暦7(1757)年2月8日、死去)
- 1733年5月17日 00:00|イギリス| |||英議会、糖蜜条例制定、植民地が西インド諸島の外国植民地から輸入していた安い糖蜜や砂糖に輸入税を課す
- 1733年5月19日-09:00|日本|群馬県安中市|享保18年4月6日|<交替>上野安中藩2万石「内藤政森」隠居⇒次男「内藤政里」が継ぐ(⇒延享3年4月30日(17460618)、死去)
- 1733年6月2日-09:00|日本|大阪府大阪市|享保18年4月20日|<死去>長谷川千四(45歳)浄瑠璃作者
- 1733年6月5日-09:00|日本| |||享保18年4月23日|<死去>稲津祇空(71歳)俳人
- 1733年6月8日 03:00|日本|石川県金沢市|享保18年4月26日|<金沢享保18年の連続大火>午の刻(午前12時ごろ)才川川除町の伊藤内膳方小者・九郎助の家から出火、申の刻(16時ごろ)には鎮火/火元の才川川除町の42軒をはじめ、後伝馬町87軒、同町支配違い41軒、伝馬町57軒、河原町83軒、大工町45軒、同町別53軒、十九間町58軒と8町が40軒以上焼失/すべてで795軒焼失及び破壊した中で、侍屋敷並びに足軽の家102軒、町家は681軒が焼けたほか、寺社5軒、6か町の木戸と番小屋15か所、別の番小屋2か所、土蔵5棟が灰となって、消火のため破壊した家は7軒、1人死亡
- 1733年6月11日-06:00|日本|石川県金沢市|享保18年4月29日|<金沢享保18年の連続大火>明け方の丑の下刻(午前3時ごろ)、犀川雨宝院から出火、新明社に飛び火し、野町二丁目の両側、足軽町はほぼ焼失、千日町は中程まで延焼、卯の下刻(午前7時ごろ)鎮火/すべてで537軒焼失及び破壊した中で、侍屋敷並びに足軽の家51軒、町家452軒、百姓家21軒が焼けたほか、髪結い床5か所、寺社7軒、木戸4か所と番所8か所、土蔵2棟が灰となった/その他は橋2か所が焼け落ち、消火のため7軒を破壊、1人死亡
- 1733年6月13日 04:00|米領ヴァージン諸島/デンマーク/フランス| |||デンマークはフランスからセントクリアを購入
- 1733年6月14日-05:30|インド| |||<就任>スーパト国支配者(ナワブ)「テグ・バグ・カン・ミザ・ケル」建国(~17460907没)
- 1733年6月24日-01:00|フランス| |||<就任>ベルゲン・オブ・ズーム総督「ライナルト男爵ファンリト・キンケル」(~1744年)
- 1733年6月27日 00:00|イギリス| |||<死去>16代サザランド伯「ジョン・サザランド」
- 1733年6月27日 00:00|イギリス| |||<就任>17代サザランド伯「ウィリアム・サザランド」(~17501207死去)
- 1733年6月30日-09:00|日本|富山県富山市|享保18年5月19日|<死去>前田利興(56歳)前越中富山藩主
- 1733年7月-01:00|スペイン/ベネチア| |||アンドレ・リト軍、白人地主層の裏切りを受け壊滅、多くが処刑される
- 1733年7月1日-02:00|エジプト/トルコ| |||<就任>オスマン帝国領エジプト総督「ムハマル・オスマン・パシャ」(~1735年)
- 1733年7月2日-09:00|日本|愛媛県松山市|享保18年5月21日|<死去>伊予松山藩15万「松平定英」(38歳)⇒長男「松平定喬」が継ぐ(⇒宝暦13年3月21日(17630503)、死去)の時も花火が打ち上げられ、江戸恒例の年中行事となり、現在の隅田川花火大会に引き継がれている
- 1733年7月9日-09:00|日本|東京都|享保18年5月28日|<江戸大川(隅田川)で花火大会はじまる>町奉行の許可を得て、余興の花火を鍵屋六代目・篠原弥兵衛の手によって打ち上げた/花火は打ち上げと仕掛けを合わせわずか20発内外だったというが、大人気となり翌年の水神祭の時も花火が打ち上げられ、江戸恒例の年中行事となり、現在の隅田川花火大会に引き継がれている
- 1733年7月11日 06:00|グアテマラ/スペイン| |||<就任>スペイン領グアテマラ総督・総司令官・大統領「ペドロ・デ・リベラ・イ・ビジャロン」(~17421016)
- 1733年7月11日-09:00|日本|千葉県館山市|享保18年6月|<加増>安房国北条藩12000石「水野忠定」+丹波国内3000石⇒15000石(⇒延享5(1748)年6月26日、58歳で死去)
- 1733年7月11日-09:00|日本|東京都|享保18年6月1日|幕府が永代橋の渡橋銭徴収を停止
- 1733年7月17日-09:00|日本|奈良県桜井市|享保18年6月7日|<死去>大和戒重藩1万石「織田長亮」(36歳)⇒8月2日、長男「織田輔宜」が継ぐ(⇒延享2(1745)年12月12日、大和芝村藩1万石へ陣屋移転)
- 1733年7月20日-01:00|ドイツ| |||<死去>プファルツスルツァッハ公「ヨハン・クリスティアン」
- 1733年7月20日-01:00|ドイツ| |||<即位>プファルツスルツァッハ公(プファルツ系ヴイッテルスバッハ家)カール・テオドール(~17421231退位⇒プファルツ選帝侯、バイエルン選帝侯)
- 1733年7月23日 04:00|パラグアイ/スペイン| |||<就任>パラグアイ総督「マヌエル・アグスティン・デ・ルイロバ・イ・カルデロン」(~17330914)
- 1733年7月27日-09:00|日本|広島県広島市|享保18年6月17日|広島茅屋町に出火、比治山町・京橋町・吉田町延焼、町家990竈焼失
- 1733年7月29日-09:00|日本|熊本県宇土市|享保18年6月19日|<死去>細川有孝(58歳)前肥後宇土藩主
- 1733年8月-01:00|セルビア/トルコ| |||<就任>オスマン帝国セルビア・ワリス「オスマン・トハル・パシャ」(2度目~1734年8月)
- 1733年8月1日-05:30|インド/デンマーク| |||<就任>デンマーク領東インド諸島(トランバル)司令官「ホル・クリスティアン」(~17410713)
- 1733年8月1日-09:00|日本| |||享保18年6月22日|荻生徂徠「度量考」刊行
- 1733年8月2日-08:00|中国| |||雲南、東川地震/M7.8、死者1,200人
- 1733年8月9日-09:00|日本|大阪府大阪市|享保18年6月30日|大坂竹田芝居より出火、嵐座、芝居茶屋焼失
- 1733年8月10日-09:00|日本| |||享保18年7月上旬|近畿以西に疫病が流行し、多数の死者が出る
- 1733年8月13日-01:00|クアアア| |||<就任>クアアアとタルマアのバン「ヨセフ・グロウ・エステルハージ」(~17410625)
- 1733年8月14日-03:00|エチオピア| |||<死去>ハル首長国エミール「カリフ・イブン・アビ・バクル」
- 1733年8月14日-03:00|エチオピア| |||<就任>ハル首長国エミール「ハミド・イブン・アビ・バクル」(~17470222没)
- 1733年8月28日-01:00|イタリア| |||イタリアの作曲家ジョヴァンニ・ペルゴレージ(23)の喜劇「奥様になった女中」がボリで上演
- 1733年9月1日-09:00|日本|岐阜県大垣市|享保18年7月23日|<死去>戸田氏定(77歳)前美濃大垣藩主
- 1733年9月7日-09:00|日本| |||享保18年7月29日|<死去>小原慶山(不明)画家
- 1733年9月11日-01:00|フランス| |||<死去>「クラウ・サン(チェンバロ)曲集」などで有名な「バロック音楽」のフランス作曲家フランソワ・ケー

1740迄 (2954件)

フランスがパリで (1668-、64歳)

- 1733年9月12日-01:00|ポーランド/リトアニア| |||<復位>ポーランド王・リトアニア大公「スタニスワフ・アズ1世 (スタニスワフ・レチニスキ)」 (~1736 0127退位、ポーランド公となる~17660223死去88歳)
- 1733年9月13日-09:00|日本| ||享保18年8月6日|<死去>初代横谷宗珉 (64歳) 装剣金工
- 1733年9月26日-01:00|フランス/イタリア/スペイン| |||フランス、スペイン、サルデーニャがトリノ条約を結んで、ポーランド国王選挙の自由を守る名目でオーストリアに対抗
- 1733年9月27日 04:00|パラグアイ/スペイン| |||<就任>パラグアイ総督「フエンシアイス司教フレイシ ユアンテ アルギ・イ・グティエレス」 (~172.9)
- 1733年9月28日 00:00|イギリス| |||<死去>サフォーク伯「チャールズ・ハワード」
- 1733年9月28日 00:00|イギリス| |||<就任>サフォーク伯「ヘンリー・ハワード」 (~17450422死去)
- 1733年10月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「シヨウ アンニ・パロ・ウ・アローニ」「シヨウ アンニ・マリア・ベニ」
- 1733年10月4日-01:00|パチカン| |||<就任>パチカン枢機卿国務長官「ジュゼッペ・フィラオ」 (~17400206)
- 1733年10月10日-01:00|オーストリア/フランス| |||ポーランド王位をめぐる、フランスがオーストリアに宣戦布告し、ポーランド継承戦争が起こる
- 1733年10月11日-01:00|ホスニア・ヘルツェゴビナ/トルコ| |||<就任>ホスニア総督「アブドゥッラー・ハシヤ・ムシナーデ」 (2回目~1735年)
- 1733年10月13日-09:00|日本|茨城県石岡市|享保18年9月6日|<死去>常陸府中藩2万石「松平頼明」 (43歳) =>10月、長男「松平頼永」が継ぐ (=>享保20 (1735) 年8月25日、23歳で死去)
- 1733年10月21日-09:00|日本| ||享保18年9月14日|<死去>内藤義英 (露沾) (79歳) 俳人
- 1733年10月23日-09:00|日本|茨城県筑西市|享保18年9月16日|<死去>常陸下館藩2万石「石川総茂」 (63歳) =>11月4日、養子「石川総陽」が継ぐ (=>元文5年10月7日 (17401125)、隠居)
- 1733年10月24日 00:00|イギリス| |||<死去>2代マルバウ女公「アンリエッタ・ゴットルフイン」
- 1733年10月24日 00:00|イギリス| |||<就任>3代マルバウ公「チャールズ・スペンサー」5代サントラント伯 (~17581020死去)
- 1733年10月31日-01:00|トイ/フランス| |||<死去>ヴュルテンベルク公・ヴュルテンベルク＝メンベルク公「エーバールト・ルトヴィヒ」
- 1733年10月31日-01:00|トイ/フランス| |||<即位>ヴュルテンベルク公・ヴュルテンベルク＝メンベルク公「カール・アレクサンダー」 (~173703 12死去)
- 1733年11月1日-09:00|日本|滋賀県野洲市|享保18年9月25日|<交替>近江三上藩1万石「遠藤胤親」隠居=>長男「遠藤胤将」が継ぐ (=>明和8 (1771) 年4月12日、死去)
- 1733年11月8日-01:00|モロコシ| |||<就任>モロコシ公「オノラト3世」 (~17930119)
- 1733年11月11日 04:00|オランダ/スペイン| |||<死去>オランダ総督「カブリエル・カノ・イ・アホンテ」
- 1733年11月11日 04:00|オランダ/スペイン| |||<就任>オランダ総督代行「フランシスコ・デ・サンチェス・デ・ラ・バレー・イ・ウエラ」 (~1734年5月)
- 1733年11月13日 04:00|米領ヴァージン諸島/デンマーク| |||セント・ジョン島は反乱の間、奴隷によって支配された (~1734.5)
- 1733年11月14日-06:30|ミャンマー| |||<死去>ビルマ王「タニガウエイ・ミン」
- 1733年11月14日-06:30|ミャンマー| |||<即位>ビルマ王「マハ・タンマザ・デイヤティ」 (~17520322)
- 1733年12月9日 04:00|パラグアイ/スペイン| |||<就任>パラグアイ総督「クリストファー・ミンゲステ・オバル」 (~17350330)
- 1733年12月14日-09:00|日本|兵庫県三田市|享保18年11月9日|<死去>摂津三田藩36000石「九鬼隆抵」 (44歳) =>12月27日、養子「九鬼隆由」が継ぐ (=>寛保3 (1743) 年12月5日、26歳で死去)
- 1733年12月29日-01:00|イタリア| |||<死去>ビオンボノ公「Ippolita」
- 1733年12月29日-01:00|イタリア| |||<即位>ビオンボノ公「Eleonora」 (~1745年死去)
- 1733年12月31日-01:00|イタリア| |||ベネチア、トルコによる攻撃の場合皇帝との防衛条約
- 1734年-08:00|マレーシア| |||<死去>ハンタハラ・セリ・マハラジャ「トゥン・アッパ・ス・ビン・スルタン・アブドゥル・ジャリル・リアヤット・シャー」
- 1734年-08:00|インドネシア/東ティモール/ポルトガル| |||<就任>ティモール知事「アントニオ・モニス・デ・メト」 (2期目~1737年)
- 1734年-08:00|フィリピン| |||<即位>スール王国スルタン「ムハンマド・Nassaruddin3世」 (~1735年)
- 1734年-08:00|インドネシア| |||<即位>チレボン・ガレボナン君主「Sultan Cirebon2世Muhammad Salihuddin」 (~1758年)
- 1734年-08:00|マレーシア| |||<即位>ハンタハラ・セリ・マハラジャ「トゥン・ムタヒル・ビン・スルタン・アブドゥル・ジャリル・リアヤット・シャー」 (~1750年頃没)
- 1734年-06:30|ミャンマー| |||<即位>ムラウクウー国王「ナラ・デイヤティ2世」 (~1735年)
- 1734年-05:30|インド| |||<就任>カンパラ国ラジャ「バハラギ・シン・マルタラジ・フアラマール・ライ」 (~1770年)
- 1734年-05:30|インド| |||<就任>ジャファラバード国タナール「スルル・カーン」 (~1759年)
- 1734年-05:30|インド| |||<就任>ジャヤンガラ国ワズル「スプル・カーン」 (~1737年)
- 1734年-05:30|インド| |||<就任>ハラリナ国統治者「タク・サーヒブ」 「ノンハンジ3世プリウ・イラジ」 (~不明) =>「サルタンジ2世ノンハンジ」 (~1766年)
- 1734年-05:30|インド| |||<就任>ムト・ル国統治者「ラジエ・コルパテ・バハドゥル」 「ヒラジラオ・ラジエ・コルパテ」 (~1737年没)
- 1734年-05:00|パキスタン| |||<就任>カラット国カーン「ムハムマド・カーン」 (~1749年没)
- 1734年-05:00|ウズベキスタン/ガフスタン/キルギス/タジキスタン| |||<即位>コーカント・ハン国ヘイ「アブドゥルカリム」 (~1751年)
- 1734年-04:00|ロシア/イラン| |||カズンがペルシャに占領される (~1736年)
- 1734年-04:00|アゼルバイジャン/イラン| |||シャマカはペルシャの一部、ナフハンをペルシャが統治 (~1747年)
- 1734年-03:00|イラク/トルコ| |||<就任>バグダット・ワリス「イスマイル・ハシヤ」
- 1734年-03:00|エチオピア| |||<即位>アウサ・スルタン国スルタン「ケタフ」建国 (~1749年)
- 1734年-03:00|スーダン| |||<即位>コルトファン・スルタン国スルタン「イサウイ・イブン・シヤンカル・アルムサッハ・アウイ」 (~1751年没)
- 1734年-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||<就任>アレクサンドリア (総督) 「Hasanoglu Ahmed Pasha」 (2期目~1735年)

1740迄 (2954件)

- 1734年-02:00|ラトビア/エストニア| |||<就任>リガ大司教・ラント公「メルオール・フォン・ヴァイダウ長老」(~17401121死去)
- 1734年-01:00|ドイツ| |||<即位>ツウアイフリュッケン公「クリスティアン3世」(~17350203死去)
- 1734年-01:00|デンマーク| |||デンマークで西インド・ギニア会社が勅許
- 1734年-01:00|イタリア| |||トルトナ、ノヴァーラがサルデーニャ公国に併合
- 1734年-01:00|オーストリア/イタリア| |||ナポリ王国はブルボン王朝の加3世とともにオーストリアから独立(-1759)
- 1734年-01:00|フランス| |||フランスで携帯用「世界地図」帳が登場
- 1734年 00:00|セカール| |||<就任>ワロ統治者(フランク)「ム・ミクティンバ・ケイ」(~1735年)
- 1734年 00:00|イギリス/ジャマイカ| |||ジャマイカで第1次マーン戦争、逃亡奴隷がイギリス人支配に反乱
- 1734年 00:00|イギリス/ジャマイカ| |||ナー・タウン、英国軍の攻撃により壊滅。逃亡奴隷の多くは絶壁から身投げ自殺する。トロニ・タウンは引き続き抵抗
- 1734年 04:00|モントセイト/イギリス| |||<就任>イギリス植民地モントセイト副総督「William Forbes」(~1738年)
- 1734年 04:00|グレタ/フランス| |||<就任>グレタ総督「ジャン＝レオン・フルニエ・ド・カリス・デ・フルーニス」(3回目~1748年)
- 1734年 06:00|アメリカ/スペイン| |||<就任>スペイン領テキサス植民地総督「マヌエル・デ・サントバル」(~1736年)
- 1734年 06:00|アメリカ/スペイン| |||<就任>スペイン領フロリダ植民地総督「フランシスコ・デル・モラル・イ・サンチェス」(~1737年)
- 1734年 06:00|カタール| |||ケベックからモントリオールへの道路が開通
- 1734年1月-02:00|シリア/アラブ/トルコ| |||<就任>ダマスカス・ワリス(総督)代行「Musa Agha」(~同月)
- 1734年1月-02:00|ウクライナ/ロシア| |||ヘーチマン国ロシア直接政権(~1750. 6)
- 1734年1月4日-02:00|リトアニア| |||<就任>リトアニア大元帥(首相)「ホウイラス カリス・サングシュカ」(2. 4まで代行~17500415)
- 1734年1月5日-09:00|日本| ||享保18年12月|幕府が医師望月三英・丹羽正伯処方の疫病救急法を版行し、諸国に頒布
- 1734年1月11日-05:30|インド| |||<就任>ウダipur国統治者(マハラ)「ジャガット・シン2世」(~17510605没)
- 1734年1月14日-02:00|シリア/アラブ/トルコ| |||<就任>ダマスカス・ワリス(総督)「Sulayman Pasha al-Azm」(1期目~17380719)
- 1734年1月17日-01:00|ポーランド/リトアニア| |||<即位>ポーランド王・リトアニア大公「アウグスタス3世ササアウグスト2世の息子。ザクセン選帝侯(対立王~17340630実際に即位~17631005死去66歳)
- 1734年1月18日-01:00|デンマーク| |||<就任>デンマーク王国秘密評議会議長「イヴァル・ローゼンクランツ・ティル・ローゼンホルム」(~17400427)
- 1734年1月26日 03:00|スリナム/オランダ| |||<就任>オランダ領スリナム(オランダ西インド会社)総督代行「ヨハン・フランソワ・コルネリス・ド・フリス」(1回目~12. 11)
- 1734年1月27日-05:30|スリナム/オランダ| |||<就任>オランダ領セイロン総督「ティエリック・ファン・トングルク」(~17360607死去)
- 1734年1月31日-04:00|ロシア| |||ロシア暦1月18日|<就任>全ロシア第一閣僚「アンドレイ・イワノビッチ・オスターマン伯爵」(1回目~17401119/1725年~1741年、副首相)
- 1734年2月-03:00|サウジアラビア| |||<就任>メッカ・シャリフ「マスト・ファン・サイト」(2度目~17520218)
- 1734年2月2日 01:00|アゾレス諸島/ポルトガル| |||<死去>サントマリア島島長「Afonso Caminha de Vasconcelos e Sousa Cunha Camara Faro e Veiga」
- 1734年2月2日 01:00|アゾレス諸島/ポルトガル| |||<就任>サントマリア島島長「Jose de Vasconcelos e Sousa Caminha Camara Faro e Veiga」(~17690420死去)
- 1734年2月3日-01:00|イタリア| |||<就任>ジェノヴァ共和国ドージェ「ステファノ・デ・ユラツ」(~17360203)
- 1734年2月19日-09:00|日本|茨城県土浦市|享保19年1月16日|<死去>常陸土浦藩95000石「土屋陳直」(40歳)⇒次男「土屋篤直」が継ぐ(⇒安永5(1776)年5月20日、死去)
- 1734年2月27日-09:00|日本|東京都|享保19年1月24日|<死去>澤村長十郎
- 1734年3月8日-09:00|日本|広島県福山市|享保19年2月4日|福山笠岡町出火、1089軒焼失
- 1734年3月12日-01:00|リヒテンシュタイン| |||<就任>リヒテンシュタイン王室廷吏代行「アントン・ハウアー」(2回目~17340430)
- 1734年3月13日 00:00|カナダ/オランダ| |||<就任>オランダ領ゴールドコースト総督「アンソニー・ヴァン・オパーベーク」(~17360402在任中死去)
- 1734年3月17日 07:00|メキシコ/スペイン| |||<就任>ヌエバ・イスパニャ副王「ファン・アントニオ・デ・ビサリオン・イ・エキアレタ」(~17400817)
- 1734年3月18日 05:00|キューバ/スペイン| |||<就任>スペイン植民地キューバ総督・総司令官「レヒジヤビト・伯ファン・フランシスコ・デ・ゲエマス・イ・ホラタス・ゴルドン・デ・サエンス・デ・ビシヤリネド」(~17460422)
- 1734年3月22日 03:00|アルゼンチン/スペイン| |||<就任>リオ・デ・ラ・プラタ総督「ミゲル・フェルナンド・デ・サルセド・シエアラタ」(~17420621)
- 1734年3月23日 01:00|カーボベルデ/ポルトガル| |||<就任>カーボベルデ総督「ベント・ゴメス・コエリヨ」(~1737年1月)
- 1734年3月31日 05:00|ジャマイカ/イギリス| |||<就任>英領サントイアゴ総督代行「ジョン・エイスコフ」(2回目~17350930)
- 1734年4月-01:00|セルビア/トルコ| |||<就任>オスマン帝国セルビア・ワリス「アブドラーハ・シャ」(3度目~17390904)
- 1734年4月-01:00|フランス| |||フランスの思想家ヴォルテールが「哲学書簡」を著す
- 1734年4月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「マリノ・エネア・ボネリ」「トマス・ガビツォーニ」
- 1734年4月3日-09:00|日本|神奈川県小田原市|享保19年2月30日|<小田原享保19年の大火>暮れ方、小田原城下で大火があり、小田原城にも火の粉が吹きかかり、城下がごとごとく被災
- 1734年4月4日-09:00|日本|香川県丸亀市|享保19年3月|那珂郡塩屋村に西本願寺別院、創立
- 1734年4月5日-01:00|イタリア| |||ベネチアで教会と貧しい少女のために新国営宝くじ始まる
- 1734年4月21日 00:00|ポルトガル| |||<就任>マテウス総督「Joao de Abreu Castelo Branco」(~17370716)
- 1734年4月29日-01:00|リヒテンシュタイン| |||<就任>リヒテンシュタイン王室廷吏代行「ヨハン・クリストフ・フォン・ベンツ」(2回目~17350811)
- 1734年5月-08:00|マレーシア| |||<死去>クランタン・ラジャ「スルタン・ロンク・ハ・ハール・イブニ・アル＝マルフム・ワム・ダーム」
- 1734年5月-08:00|マレーシア| |||<即位>クランタン・ラジャ「ラジャ・ロンク・スライマン・イブニ・アル＝マルフム・スルタン・ロンク・ハ・ハール」(1回目~173

1740迄 (2954件)

9年)

- 1734年5月 04:00|刊/スペイン| |||<就任>刊総督代行「マヌエル・シルベ・スト・デ・サラマンカ」(~17371115)
- 1734年5月3日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド 副卿代行判事「アーサー大司教ヒュー・ボールドウィン」(~17350926)
- 1734年5月8日-09:00|日本| ||享保19年4月6日|幕府が朱座以外で、朱と墨を製造・販売することを禁じる
- 1734年5月13日-09:00|日本|長崎県対馬市|享保19年4月11日|対馬府中大火、1158戸焼ける
- 1734年5月15日-01:00|イタリア| |||<即位>ネポリ王「カルロ7世」兼シチリア王「カルロ5世」(~17591006)
- 1734年5月22日-09:00|日本|愛知県西尾市|享保19年4月20日|<死去>三河西尾藩23000石「土井利庸」(32歳)⇒長男「土井利信」が継ぐ(⇒延享4(1747)年2月11日、三河刈谷藩23000石に移封)
- 1734年5月26日-09:00|日本|東京都江東区|享保19年4月24日|<死去>紀伊国屋文左衛門(66歳、生年寛文9(1669)年)豪商
- 1734年5月26日-09:00|日本|福井県|享保19年4月24日|今立郡粟田部村で火事、103軒焼失
- 1734年6月-01:00|オーストリア/フランス/イタリア/スペイン| |||フランス、スペイン軍がイタリア戦線でオーストリア軍を破る
- 1734年6月 05:00|ハノーヴァー/イギリス| |||<就任>イギリス王室植民地ハノーヴァー総督「リチャード・フィッツウィリアム」(~1738年)
- 1734年6月10日-05:30|インド| |||<即位>マニッパル国マハラジャ「クリシュナラジャ2世ウダヤール」(~17660425没)、摂政「マヒラ・デーヴァ・オ・デーヴァラジャヤ・ウルス」(~1746年)
- 1734年6月10日-05:30|インド| |||<廃位>マニッパル国マハラジャ「チャマラジャ7世ウダヤール」デーヴァ・アーイラにより妃ともにかがらたがへと幽閉されたのち、同年のうちに獄死
- 1734年6月10日-09:00|日本|東京都中央区|享保19年5月9日|<死去>初代辰松八郎兵衛(不明)人形浄瑠璃の人形遣い
- 1734年6月12日-01:00|ドイツ| |||<死去>東フーシ伯「George Albert」
- 1734年6月12日-01:00|ドイツ| |||<就任>東フーシ伯「Charles Edzard」(~17440525死去)
- 1734年6月13日-09:00|日本| ||享保19年5月12日|<死去>3代池坊専好(55歳)華道家
- 1734年6月13日-09:00|日本|愛媛県大洲市|享保19年5月12日|大洲城下裏町から出火、400軒余類焼
- 1734年6月14日-09:00|日本| ||享保19年5月13日|幕府が、医師吉田玄庵が作った薬用人参を薬種問屋で売らせる
- 1734年6月14日-09:00|日本|山形県米沢市|享保19年5月13日|<死去>出羽米沢藩15万石「上杉宗憲」(21歳)⇒6月28日、弟「上杉宗房」が継ぐ(⇒延享3年8月12日(17460926)死去)
- 1734年6月22日-01:00|ルクセンブルグ/オーストリア| |||<就任>オーストリア領ルクセンブルグ 総督代行「ジギスムント・フライヘル・フォン・トゥンゲン」(2回目~17360730)
- 1734年7月6日-09:00|日本|大阪府大阪市|享保19年6月6日|<就任>大坂城代「稲葉正親」(~9月14日)
- 1734年7月6日-09:00|日本|京都府京都市|享保19年6月6日|<就任>京都所司代「土岐頼稔」(⇒1742(寛保2年6月1日))
- 1734年7月6日-09:00|日本|東京都千代田区|享保19年6月6日|<就任>老中「本多忠良」(~享保20年閏3月1日)
- 1734年7月15日-09:00|日本| ||享保19年6月15日|官医望月三英、中風、麻疹、疝気、痔などに効用のある薬「七宝美髯丹」を発売
- 1734年7月27日 04:00|グアドループ/フランス| |||<就任>グアドループ 知事「Charles de Brunier」(~17370817)
- 1734年7月30日-09:00|日本|千葉県千葉市中央区|享保19年7月1日|<死去>下総生実藩1万石「森川俊常」(38歳)⇒養子「森川俊令」が継ぐ(⇒宝暦14(1764)年4月6日、隠居)
- 1734年8月-01:00|セルビア/トルコ| |||<就任>オスマン帝国セルビア・ワラシア「ベシル・パシャ」(~1735年4月)
- 1734年8月25日-10:00|グアム/北マリアナ諸島/スペイン| |||<就任>マリアナ諸島知事「Francisco Cardenas Pacheco」(~17400402死去)
- 1734年9月3日-09:00|日本|長崎県五島市|享保19年8月6日|<死去>五島盛佳(48歳)前肥前福江藩主
- 1734年9月9日-09:00|日本|東京都|享保19年8月12日|<死去>室鳩巢(77歳、明暦4(1658)0226)生/幕府の政治理念の朱子学の再建に努力した
- 1734年9月12日-09:00|日本| ||享保19年8月15日|<死去>永田貞柳(81歳)狂歌師
- 1734年9月28日 00:00|モロッコ| |||<即位>アラウィー朝スルタン「アリ2世アル=アライ」(~17360214廃位)
- 1734年9月28日 00:00|モロッコ| |||<廃位>アラウィー朝スルタン「アブド・アッラー」
- 1734年10月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「ジュゼッペ・オノフリ」「ロヴ・ニコ・アナトゥッチ」
- 1734年10月3日 03:00|ブラジル| |||バンテン・イランテスとパイクア族の戦い
- 1734年10月10日-09:00|日本|京都府京都市伏見区|享保19年9月14日|<死去>山城淀藩102000石「稲葉正親」(43歳)⇒11月5日、長男「稲葉正益」が継ぐ(⇒明和8(1771)年9月28日、54歳で死去)
- 1734年10月12日-01:00|ドイツ| |||<死去>リッペン=テトモルト伯「ジーン・ハインリヒ・アドルフ」
- 1734年10月12日-01:00|ドイツ| |||<就任>リッペン=テトモルト伯「ジーン・アウグスト」(~17820501死去)
- 1734年10月21日-09:00|日本|大阪府大阪市|享保19年9月25日|<移封>上野館林藩5万石「太田資晴」大坂城代に任じられ⇒摂津国周辺5万石(⇒元文5(1740)年3月24日、45歳で死去)
- 1734年10月31日-09:00|日本|大阪府大阪市|享保19年10月5日|<初演>竹田出雲、人形浄瑠璃「芦屋道満大内鑑」<葛の葉子別れ>竹本座
- 1734年11月 00:00|イギリス| |||<就任>初代モルトン伯「トマス・ワトソン=ウェントワース」(⇒1746.4兼初代ロッキンガム侯~17501214死去)
- 1734年11月3日-09:00|日本|滋賀県彦根市|享保19年10月8日|<廃藩>近江彦根新田藩1万石「井伊直定」宗家彦根藩の養嗣子となる/宗家に吸収

1740迄 (2954件)

- 1734年11月21日-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン王国国家主席補佐官「ホセ・パティニョ・イ・ロサス」(~17361103)
- 1734年11月28日 00:00|イギリス| |||<死去>6代アハム・コン伯「ジェームズ・ハミルトン」
- 1734年11月28日 00:00|イギリス| |||<就任>7代アハム・コン伯「ジェームズ・ハミルトン」先代の息子(~17440111死去)
- 1734年11月30日-09:00|日本|熊本県人吉市|享保19年11月6日|<死去>相良長興(42歳)前肥後人吉藩主
- 1734年12月2日-02:00|ルーマニア| |||<就任>トランシルヴァニア総督「ヤノス・グロフ・ハラー・ハルコイ」(~17551018没)
- 1734年12月11日 03:00|スリナム/オランダ| |||<就任>オランダ領スリナム(オランダ西インド会社)総督「ジェイコブ・アレクサンダー・ヘンリー・ト・シュース」(~17350126)
- 1734年12月25日-09:00|日本|広島修道大学|享保19年12月|「講学所」を「講学館」と改称
- 1734年12月27日-09:00|日本|新潟県|享保19年12月3日|幕府,新江用水の開削竣工
- 1734年12月31日-09:00|日本|宮崎県児湯郡高鍋町|享保19年12月7日|<交替>日向高鍋藩27000石「秋月種弘」隠居
→長男「秋月種美」が継ぐ(⇒宝暦10(1760)年7月8日、隠居)
- 1735年-08:00|インドネシア/オランダ| |||<就任>モルッカ諸島オランダ総督「Paulus Rouwenhoff」(~1737年)
- 1735年-08:00|フィリピン| |||<即位>スール王国スルタン「ムハンマド・Alimuddin1世」(1期目~1748年)
- 1735年-06:30|ミャンマー| |||<即位>ムラウカウー国王「ナラハ・ワラ」篡奪者(~1737年9月)
- 1735年-06:00|ブータン| |||<就任>ブータン精神的支配者・国家元首「ミナム・ワンポ」(~1738年没)
- 1735年-05:45|ネパール| |||<即位>カンティポラ王「シヤブ・ラサマツラ」(1回目~1746年)
- 1735年-05:30|インド| |||<就任>アウグ国統治者「アハ・チランツハ」(~1737年)
- 1735年-05:30|インド| |||<就任>オルカ国ラジャ「フリスタ・イ・シン」(~1752年)
- 1735年-05:30|インド| |||<就任>カチャリ国ラジャ「キリヤントラ・ナヤン」(~1745年)
- 1735年-05:30|インド| |||<就任>サト国統治者(ラ)「ラタンツジ 2世」(ラティンツジ」(~1753年没)
- 1735年-05:30|インド| |||<就任>チャンパ 国ラジャ「タレム・シン」(~1748年)
- 1735年-05:30|インド| |||<就任>スルベール国ラジャ「ワテ・シン」(~1770年没)
- 1735年-05:30|インド| |||<就任>パトラー国ラジャ「サンハット・パル」(~1770年没)
- 1735年-05:30|インド| |||<就任>パンカール国ラジャ「タレム・パル」(~1749年没)
- 1735年-05:30|インド| |||<就任>ルハダ 国統治者(ラ)「ワット・シン」(~1757年没)
- 1735年-05:30|インド| |||<復位>コワ・スルタン「I Mappaurangi Sultan Sirajuddin」(2期目~同年)⇒<即位>「I Mallaw agau Sultan Abdul Khair」(~1742年)
- 1735年-04:00|ジョージア| |||<即位>カルトリ王「アレクサンドル2世」(~1736年)
- 1735年-04:00|ロシア/イラン| |||カイトグがペルシャに服従(~1738年)
- 1735年-04:00|アゼルバイジャン/イラン| |||シヤルハ・ラカンがペルシャに占領された(~1738年)
- 1735年-04:00|アゼルバイジャン/ロシア| |||ナデル・ゴリーがロシアからバク・ほかを奪取
- 1735年-04:00|アゼルバイジャン/イラン| |||バクはペルシャに再併合(~1747年)
- 1735年-04:00|モリシャス/フランス| |||フランスのロドリゲス島恒久的入植が始まる(ブルボン島[リュオン]に從属)
- 1735年-04:00|ロシア/トルコ| |||ロシアがオスマントルクと戦争、アゾフ占領
- 1735年-03:00|ウガンダ| |||<就任>バグウェリ統治者(オムカマ)「キスリ」(~1743年頃)
- 1735年-03:00|イラク/トルコ| |||<就任>バグダット・ワリス「ラマ・ムハンマド」(~1742年)
- 1735年-03:00|ウガンダ| |||<就任>ブザヤ統治者(オムカマ)「ムザヤルワカ」(~1759年頃)
- 1735年-03:00|イェメン| |||<即位>上ヤファ首長「Ahmad ibn `Ali Al Harharaj」(~1750年)
- 1735年-02:00|エジプト/トルコ| |||<就任>オスマン帝国領エジプト総督「エベキル・ハシヤ」(2回目~1739年、地元軍によって退陣させられた)
- 1735年-01:00|ニジェール| |||<就任>アイル国統治者(アモカ)「ムハンマド・フマト・イブン・ムハンマド・アル・ムバラク」(1回目~1739年)
- 1735年-01:00|ポズニア・ヘルツェゴビナ/トルコ| |||<就任>ポズニア総督「ヘシメル・アリ・ハシヤ」(1回目~1740年)
- 1735年-01:00|フランス/中国| |||イエズス会士デュ・アルドの「中華帝国全志」がパリで刊行
- 1735年-01:00|スウェーデン| |||スウェーデンの博物学者リンネが「自然の体系」を発表
- 1735年-01:00|フランス| |||パリ王立アカデミーが地球の測量を開始、媒質理論と自転理論を検証
- 1735年 00:00|イギリス/ジャマカ| |||400人の民兵と200人の水夫からなる掃討部隊,マルンの新たな拠点を攻撃.マルンは部隊を待ち伏せ攻撃し撃退
- 1735年 00:00|トゴ| |||<就任>アグバナンキン摂政「ケベテ」(~1775年)
- 1735年 00:00|セネガル| |||<就任>ワロ統治者(フラク)「イェリム・コテ・ファラ・ムホジ」(~1736年)
- 1735年 04:00|アンギラ/イギリス| |||<死去>イギリス領アンギラ副総督「George Leonard」
- 1735年 04:00|アンギラ/イギリス| |||<就任>イギリス領アンギラ副総督「John Richardson」(~1741年死去)
- 1735年 04:00|パラグアイ| |||コメーヌの反乱,最終的に鎮圧される.アンテケラら首謀者は処刑される
- 1735年 05:00|パナマ/スペイン| |||<就任>パナマ総督・大統領「デ・イオニシオ・マルティネス・デ・ラ・ベガ・イ・モレノ」(~1743年)
- 1735年 06:00|アメリカ| |||チャールストンに最初の火災保険会社が設立
- 1735年 06:00|アメリカ/ブラジル| |||ブエノスアイレス長官ミゲル・サルセド,サクラメントを攻撃/2年後に奪取に成功
- 1735年-04:00|ロシア| |||ロシア暦1月18日|<即位>カムイク・ハン国ハン「トンドク・オンボ」(17370315まで摂政~17410402没)
- 1735年1月4日-01:00|モンテネグロ| |||<死去>モンテネグロ司教公「ダニロ1世」
- 1735年1月4日-01:00|モンテネグロ| |||<就任>モンテネグロ司教公「サファ2世」(~17810307死去)
- 1735年1月4日 00:00|イギリス| |||<就任>8代ストラスマーキング・ホーン伯「トマス・ライアン」先代の弟(~17530118死去)
- 1735年1月5日-01:00|イタリア| |||<死去>ヴェネツィア共和国ドージェ(元首)「カルロ・ルツィーニ」
- 1735年1月8日 04:00|米領ヴァージン諸島/デンマーク| |||<就任>セントクロア総督「Frederik von Moth」(~17360220)
- 1735年1月8日 04:00|米領ヴァージン諸島/デンマーク| |||セントクロアはデンマークの植民地

1740迄 (2954件)

- 1735年1月17日-01:00|イタリヤ| |||<就任>ウエネツィア共和国ドージェ(元首)「アルヴィーゼ・ピザニ」(~17410617死去)
- 1735年1月24日-09:00|日本| ||享保20年|<刊行>青木昆陽「蕃薯考」サツマの性質・栽培法などを記した
- 1735年1月24日-09:00|日本|京都府京都市中京区|享保20年|壬生寺の地蔵尊が開帳される
- 1735年1月24日-09:00|日本|栃木県宇都宮市|享保20年|<建立>宇都宮大仏・大豆三粒の金仏(善願寺)
- 1735年1月24日-09:00|日本|長野県須坂市|享保20年|<交替>信濃須坂藩10053石「堀直英」隠居⇒長男「堀直寛」が継ぐ(⇒明和5(1768)年、隠居)
- 1735年1月24日-08:00|中国| ||清・雍正13年|福建の少林寺僧が反清復明の秘密結社「天地会」を創設
- 1735年1月26日 03:00|スリナム/オランダ| |||<就任>オランダ領スリナム(オランダ西インド会社)総督代行「ヨハン・フランソワ・コルネリス・フリース」(2度目~3.4)
- 1735年1月27日-01:00|フランス| |||<退位>ロレーヌ大公「スタニスワフ・レチニスキ」(~17660223死去88歳)
- 1735年1月30日-01:00|イタリヤ| |||コシカ、独立宣言
- 1735年2月3日-01:00|ドイツ| |||<死去>プファルツツグアイフリュッケン=ヒルケンフェルト公「クリスティアン3世」60歳
- 1735年2月3日-01:00|ドイツ| |||<即位>プファルツツグアイフリュッケン公「クリスティアン4世」(~17751105死去)
- 1735年3月1日-01:00|ドイツ| |||<即位>プラウシュヴァイクウオルフェンヒュッテル侯「フェルディナント・アルブレヒト2世」ルートヴィヒ・ヴィルヘルムの従弟(~9.2急死)
- 1735年3月3日-09:00|日本|愛媛県大洲市|享保20年2月9日|大洲城下中町で出火、163軒焼失
- 1735年3月4日 03:00|スリナム/オランダ| |||<就任>オランダ領スリナム(オランダ西インド会社)総督代行「警察刑事司法裁判所評議会」(~12.22)
- 1735年3月6日-09:00|韓国/朝鮮| |||<就任>朝鮮国領議政「李宜顕」(~22日)
- 1735年3月10日-08:00|インドネシア/オランダ| |||<死去>オランダ領東インド総督「Dirk van Cloon」
- 1735年3月11日-08:00|インドネシア/オランダ| |||<就任>オランダ領東インド総督「アブラハム・Patras」(~17370503死去)
- 1735年3月21日-09:00|日本|長野県伊那市|享保20年2月27日|<死去>信濃高遠藩33000石「内藤頼卿」(39歳)⇒養子「内藤頼由」が継ぐ(⇒安永5(1776)年2月5日、隠居)
- 1735年3月25日-09:00|日本|滋賀県野洲市|享保20年3月2日|<死去>遠藤胤親(53歳)前近江三上藩主
- 1735年3月27日 04:00|バルバドス/イギリス| |||<死去>イギリス領バルバドス元帥兼総督「Emanuel Scrope Howe」
- 1735年3月27日 04:00|バルバドス/イギリス| |||<就任>イギリス領バルバドス元帥兼総督代理「James Dotin」(2期目~17391215)
- 1735年3月29日-09:00|日本|東京都|享保20年3月6日|本石町へ初めて人参座が置かれる/二人の町医岩永玄浩と杉山養元が和人参を製す
- 1735年3月30日 04:00|ハラガアイスペイン| |||<就任>ハラガアイ総督「フルノマリオ・デ・サハラ」(2回目~1736年1月)
- 1735年4月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「トランキロ・マネティ・ベルツィ」(「ヒアジジオ・アントニオ・マルテリ」)
- 1735年4月1日-09:00|日本| ||享保20年3月6日|青木昆陽「蕃薯考」刊行
- 1735年4月13日-09:00|日本|京都府京都市|享保20年3月21日|<譲位>114代「中御門天皇」
- 1735年4月13日-09:00|日本|京都府京都市|享保20年3月21日|<踐祚>115代「桜町天皇」/11月3日即位式
- 1735年4月16日 00:00|イギリス| |||<初演>ゲオルク・フリードリヒ・ヘンデル《歌劇「アルチーナ」》
- 1735年4月18日-09:00|日本|群馬県沼田市|享保20年3月26日|<死去>上野沼田3万石「黒田直邦」(70歳)⇒4月15日、養嗣子の直純が継いだ
- 1735年4月22日-09:00|日本|福井県|享保20年3月30日|坂井郡三国湊で火事、町家や御預所年貢米6637石余焼失
- 1735年4月23日-09:00|日本|東京都千代田区|享保20年間3月1日|<解任>老中「本多忠良」
- 1735年4月24日-09:00|日本|秋田県由利本荘市|享保20年間3月2日|<交替>出羽本荘藩2万石「六郷政晴」隠居⇒次男「六郷政長」が継ぐ(⇒宝暦4(1754)年8月5日、死去)
- 1735年5月-08:00|インドネシア| |||<即位>アチェ王国スルタン「アラウッディン・ジヤハン・シャー」(~1760年)
- 1735年5月3日 06:00|アメリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領サウスカロライナ植民地総督「トマス・フロトン」(~17371122)
- 1735年5月11日 03:00|ブラジル/ポルトガル| |||<就任>ポルトガル領ブラジル総督「カルロス・デ・アストロ」(~17491217)
- 1735年5月13日-09:00|日本|東京都中央区|享保20年間3月21日|木挽町の森田座が休演し、代わって河原崎座が興行を許される(控櫓の初め)
- 1735年5月17日-01:00|ドイツ| |||<死去>プランドンブルク=ハロイト辺境伯「ゲオルク・フリードリヒ・カール」
- 1735年5月17日-01:00|ドイツ| |||<就任>プランドンブルク=ハロイト辺境伯「フリードリヒ3世」(~17630226死去)
- 1735年5月22日-09:00|日本| ||享保20年4月|大名、旗本の遊郭、芝居小屋禁止
- 1735年5月22日-08:00|中国| ||清・雍正13年閏4月|清がガルトンツェリンの請願でジュンガル部の放牧区域を画定
- 1735年5月24日-09:00|日本| ||享保20年4月3日|幕府医師丹羽正伯が、中風や炎症などに効く「烏犀円」という薬を発売
- 1735年5月26日-09:00|日本|新潟県長岡市|享保20年4月5日|<死去>越後与板藩2万石「井伊直員」(20歳)⇒5月26日、養子「井伊直存」が継ぐ(⇒宝暦10(1760)年9月20日、42歳で死去)
- 1735年5月29日-09:00|日本|神奈川県横浜市金沢区|享保20年4月8日|<死去>武蔵六浦藩12000石「米倉忠仰」(30歳)⇒長男「米倉里矩」が継ぐ(⇒寛延2(1749)年3月6日、17歳で死去)
- 1735年6月4日-04:00|モリシャス/フランス/レユニオン/セイシェル| |||<就任>マスカリ諸島総督「ラ・フルトネ伯爵・フランソワ・マヘ」(~17460323)
- 1735年6月5日 00:00|カリヤ諸島/スペイン| |||<就任>スペイン王国カリヤ諸島総司令官「Francisco Jose de Emparan」(~1740.12死去)
- 1735年6月5日-07:00|ベトナム| ||大越黎朝・永祐1年閏4月15日|<死去>後黎朝(大越)後期第14代皇帝「純宗黎維祥」

1740迄 (2954件)

- 1735年6月12日-09:00|日本|山口県下関市|享保20年4月22日|<死去>長門長府藩5万石「毛利師就」(30歳)⇒弟「毛利匡敬」が継ぐ(⇒宝暦元(1751)年5月3日、本家長州藩を相続)
- 1735年6月14日-09:00|日本|兵庫県朝来市|享保20年4月24日|<死去>但馬出石藩58000石「仙石政房」(63歳)⇒婿養子「仙石政辰」が継ぐ(⇒安永8(1779)年8月24日、死去)
- 1735年6月17日-09:00|日本|栃木県下都賀郡壬生町|享保20年4月27日|<死去>下野壬生藩3万石「鳥居忠暲」(55歳)⇒長男「鳥居忠意」が継ぐ(⇒寛政6(1794)年7月18日、死去)
- 1735年6月17日-07:00|ベトナム||大越黎朝・永祐1年閏4月27日|<即位>後黎朝(大越)後期第15代皇帝「懿宗」(~1740年)永祐と改元(~17400614)
- 1735年6月21日-08:00|中国||清・雍正13年5月|漢人商人らの詐取を背景に、貴州の対族で反乱がひろがる
- 1735年6月27日-09:00|日本||享保20年5月7日|<死去>佐々木文山(77歳)書家
- 1735年6月29日-09:00|日本|滋賀県彦根市|享保20年5月9日|<交替>近江彦根藩30万石「井伊直惟」隠居⇒弟「井伊直定」が継ぐ(⇒宝暦4(1754)年6月19日、隠居)
- 1735年7月-04:00|モリヤス/フランス||<就任>マリヤヌ島司令官「オコル」(~1740年)
- 1735年7月8日-09:00|日本|福井県小浜市|享保20年5月18日|<死去>若狭小浜藩10万3500石(老中)「酒井忠音」(45歳)⇒三男「酒井忠存」が継ぐ(⇒元文5(1740)年8月22日、21歳で死去)
- 1735年7月12日-04:00|レニオン/フランス||<就任>ブルボン島司令官「Bertrand Francois Mahe de La Bourdonnais」(~10.1)
- 1735年7月12日-02:00|トルコ||<就任>オスマン帝国大宰相「キョルチュ・イスマイル・パシャ」(~17360109)
- 1735年7月13日-09:00|日本|東京都千代田区|享保20年5月23日|<就任>老中「本多忠良」(~延享3年6月1日)
- 1735年7月18日-09:00|日本|愛媛県宇和島市|享保20年5月28日|<死去>伊予宇和島藩10万石「伊達村年」(31歳)⇒長男「伊達村候」が継ぐ(⇒寛政6年9月14日(17941007)死去)
- 1735年7月19日-09:00|日本||享保20年5月29日|幕府が大名・旗本の郷借りを禁じる
- 1735年7月20日-09:00|日本||享保20年6月1日|<死去>江島其磧(70歳)浮世草子作者
- 1735年7月23日-09:00|日本|兵庫県佐用郡佐用町|享保20年6月4日|<死去>森長俊(87歳)前播磨三日月藩主
- 1735年7月26日-09:00|日本|徳島県徳島市|享保20年6月7日|<死去>阿波徳島藩25万7千石「蜂須賀宗員」(27歳)⇒養子「蜂須賀宗英」が継ぐ(⇒元文4(1739)年12月22日、隠居)
- 1735年8月4日 06:00|アメリカ||<センカ>-事件/印刷業者のジョン・センカ-が、ニューヨーク総督ウィリアム・コスビー-の不正選挙を報道したことに対する裁判で、出版の自由を勝取る
- 1735年8月10日-09:00|日本||享保20年6月22日|<享保20年若狭、丹波、山城、摂津、河内豪雨大洪水>明け方から、若狭前で前夜午後からの雨で各地で山崩れ、谷は崩れた土砂でふさがり、あふれた水は一気に下流へと流れ、橋や民家を押し流すという大洪水となる/小浜城下では早朝から町中満水大海のごとき状況となり、多くの家や家財道具などが海に流された/91人が死亡、家屋流失355軒、同全潰378軒、同半潰555軒、山体崩壊1万1040か所/また豪雨をともなった大風によって海上は荒れ、破船が多く出た/同山地南方の丹波、山城では、桂川など淀川上流部に水流が集中、下流域の北河内郡枚方では三矢の堤防が破壊され、榎並8か村など、摂津、河内を占める大坂平野が湖水となり、12万石の田畑が水没
- 1735年8月11日-01:00|リトニョタイン||<就任>リトニョタイン王室廷吏代行「アントン・ハウアー」(~3回目17470204)
- 1735年8月12日 00:00|ガ-ナ/デンマーク||<就任>デンマーク領ゴールド=コスト長官「セウリン・シルゲル」(~17360614)
- 1735年8月26日-09:00|日本||享保20年7月9日|<死去>松崎蘭谷(62歳)儒学者、書家
- 1735年9月2日-01:00|ドイツ||<急死>プ ラウシュヴァイク=ヴ オルフエンビ ュッテル侯「フェルディナント・アルブ レヒト2世」
- 1735年9月2日-01:00|ドイツ||<就任>プ ラウシュヴァイク=ヴ オルフエンビ ュッテル侯「カール1世」フェルディナント・アウグスト2世の息子(~17800326死去)
- 1735年9月7日-01:00|チュニジア||<即位>フサイン朝ベ イ「アリ1世」(~17560902死去68歳)
- 1735年9月7日-01:00|チュニジア||<廃位>フサイン朝ベ イ「フサイン1世」(~17400313死去71歳)
- 1735年9月18日-09:00|日本|三重県津市|享保20年8月2日|<死去>伊勢津藩32万3千石「藤堂高治」(26歳)⇒9月21日、養子(久居藩主)「藤堂高朗」が継ぐ(⇒明和6(1769)年2月9日、隠居)
- 1735年9月19日-05:30|インド/フランス||<就任>フランス領インド 総督「ビエール・ブワテュル」(~1741年)
- 1735年9月26日-09:00|日本|岐阜県大垣市|享保20年8月10日|<死去>美濃大垣藩10万石「戸田氏長」(49歳)⇒次男「戸田氏英」が継ぐ(⇒明和5(1768)年4月23日、死去)
- 1735年9月30日 05:00|ジャマイカ/イギリス||<就任>英領サテティアゴ 総督代行「ジョン・ケロリー」(1回目~17351229)
- 1735年10月1日-01:00|サンマリノ||<就任>サンマリノ共和国執政「フェデリコ・トシニ」「アントニオ・ウーリニ山地」
- 1735年10月1日-09:00|日本|大阪府大阪市中央区|享保20年8月15日|<初演>並木宗輔、人形浄瑠璃「苅萱桑門筑紫車榮」豊竹座
- 1735年10月2日-04:00|レニオン/フランス||<就任>ブルボン島司令官「Charles L' Emery Dumont」(~17390930)
- 1735年10月3日-01:00|イタリア||<即位>サルマ公「カルロ6世」(~17401020死去55歳)
- 1735年10月3日-01:00|オーストリア/フランス||ウィーン暫定協定が結ばれ、ポーランド 継承戦争が終結/スタニスワフ1世が王位請求権を放棄
- 1735年10月3日-09:00|日本|静岡県藤枝市|享保20年8月17日|<死去>駿河田中藩4万石「本多正矩」(55歳)⇒三男「本多正珍」が継ぐ(⇒安永2(1773)年5月23日、隠居)
- 1735年10月6日 00:00|イギリス||<死去>デ ヴォン伯「ウィリアム・コートニー」
- 1735年10月6日 00:00|イギリス||<就任>デ ヴォン伯「ウィリアム・コートニー」(~17620516死去)
- 1735年10月7日 00:00|イギリス||<死去>6代マリ伯「チャールズ・ステュアート」
- 1735年10月7日 00:00|イギリス||<就任>7代マリ伯「フランス・ステュアート」先代の弟(~17391211死去)

1740迄 (2954件)

- 1735年10月8日-08:00|中国| ||清・雍正13年8月23日|<死去>清5代皇帝「雍正帝」[16781030生~](享年56)
1735年10月11日-02:00|ラトビア/ポーランド| ||<就任>ポーランド・リウオニア総督代行「ミコワ・スグィナルスキ」(1回目~11.17)
1735年10月11日 04:00|トリニダード・トバゴ/スペイン| ||<就任>トリニダード 知事「エステバン・シモン・リナン・イヴァエラ」(~1745年)
- 1735年10月11日-09:00|日本|茨城県石岡市|享保20年8月25日|<死去>常陸府中藩2万石「松平頼永」(23歳)⇒弟「松平頼幸」が継ぐ(⇒寛保2(1742)年6月28日、24歳で死去)
1735年10月14日-09:00|日本| ||享保20年8月28日|幕府が、大名・旗本が遊里に出入りすることを禁じる
1735年10月15日-09:00|日本|滋賀県大津市|享保20年8月29日|<死去>近江堅田藩1万石「堀田正永」(27歳)⇒11月2日、養子「堀田正實」が継ぐ(⇒宝暦8(1758)年10月18日、死去)
1735年10月18日-08:00|中国| ||清・雍正13年9月3日|<即位>清6代皇帝「高宗乾隆帝」宝親王(24) (~1795年)
1735年10月30日 00:00|イギリス| ||<死去>2代ハックスマーノマンビエ公・マルグレイヴ伯「エドマンド・シェフィールド」全爵位廃絶
1735年11月4日-09:00|日本|岩手県盛岡市|享保20年9月20日|報恩寺羅漢堂完成/五百羅漢の中にヒライ像とマルコポロ像が混じっている
1735年11月5日-09:00|日本|三重県津市|享保20年9月21日|<交替>伊勢久居藩53000石「藤堂高豊」本家伊勢津藩の家督を継ぐ⇒10月11日、弟「藤堂高雅」が継ぐ(⇒宝暦12(1762)年9月20日、死去)
1735年11月6日-09:00|日本| ||享保20年9月22日|<死去>香川宣阿(89歳) 歌人、岩国藩士
1735年11月7日-09:00|日本|東京都千代田区|享保20年9月23日|<創設>一橋徳川家3万俵「徳川宗尹」(⇒元文2(1737)年10月18日、2万俵加増され5万俵)
1735年11月8日-09:00|日本|香川県丸亀市|享保20年9月24日|<交替>讃岐多度津藩1万石「京極高通」隠居⇒長男「京極高慶」が継ぐ(⇒宝暦6(1756)年2月26日、死去)
1735年11月14日-01:00|ドイツ| ||<死去>ホーエンツォレルン=ヘヒゲン侯国「Friedrich Wilhelm」
1735年11月14日-01:00|ドイツ| ||<就任>ホーエンツォレルン=ヘヒゲン侯国「Friedrich Ludwig」(~17500604死去)
1735年11月14日-09:00|日本|大阪府大阪狭山市|享保20年9月30日|<死去>河内狭山藩11000石「北条氏朝」(67歳)⇒長男「北条氏貞」が継ぐ(⇒宝暦8(1758)年4月27日、死去)
1735年11月16日-09:00|日本|新潟県長岡市|享保20年10月2日|<死去>越後長岡藩74000石「牧野忠壽」(41歳)⇒次男「牧野忠周」が継ぐ(⇒延享3(1746)年4月4日、隠居)
1735年11月17日-02:00|ラトビア/ポーランド| ||<就任>ポーランド・リウオニア総督「ヤン・ルトヴァイク・プラー」(~17361124没)
1735年11月18日-09:00|日本| ||享保20年10月4日|幕府が米価の低下防止のため最低価格を公定(翌年07廃止)
1735年11月22日-09:00|日本|静岡県富士宮市|享保20年10月8日|重須本門寺宝蔵再建
1735年11月27日-02:00|ルーマニア| ||<就任>モルダヴィア総督「グロ・ル・マテイ・ギカ」(2回目~17410913)
1735年11月27日-02:00|ルーマニア| ||<就任>ワラキア総督・領主「コンスタンティン・ニコラエ・マヴロコラツ」(3回目~17410916)
1735年11月27日-09:00|日本|岡山県津山市|享保20年10月13日|<死去>美作津山藩5万石「松平長熙」(16歳)⇒養子「松平長孝」が継ぐ(⇒宝暦12(1762)年閏4月29日、死去)
1735年12月4日-09:00|日本|香川県高松市|享保20年10月20日|<死去>讃岐高松藩12万石「松平頼豊」(56歳)⇒12月20日、養子「松平頼桓」が継ぐ(⇒元文4(1739)年9月16日、死去)
1735年12月15日-09:00|日本|熊本県宇土市|享保20年11月2日|<交替>肥後宇土藩3万石「細川興生」隠居⇒長男「細川興里」が継ぐ(⇒延享2(1745)年10月5日、24歳で死去)
1735年12月15日-09:00|日本|新潟県胎内市|享保20年11月2日|<死去>越後黒川藩1万石「柳沢里済」(27歳)⇒甥「柳沢里旭」が継ぐ(⇒元文元(1736)年6月3日、死去)
1735年12月16日-05:30|インド| ||<死去>ビカネル国マハラジャ「スジヤン・シン」
1735年12月16日-05:30|インド| ||<即位>ビカネル国マハラジャ「ゾラワル・シン」(~17460515没)
1735年12月22日 03:00|スリナム/オランダ| ||<就任>オランダ 領スリナム(オランダ 西インド 会社) 総督「ヨハン・ライジエ・ファン・ブレンネーヴァー」(~17370811)
1735年12月27日-09:00|日本| ||享保20年11月14日|幕府が諸士の米脇売りを禁制
1735年12月29日 05:00|ジャマイカ/イギリス| ||<就任>英領ジャマイカ 総督「ハリー・カンガム」(~17360212没)
- 1736年-13:00|トンガ| ||<交替>トンガ 主長(トウイ・カノボオ)「ウナ・トウイエタウ」⇒「マアフォツイトン」(~1765年)
1736年-08:00|インドネシア/イギリス| ||<死去>ベンクーレン副総督(マドラス総督に從属)「フランス・Everest」
1736年-08:00|インドネシア/イギリス| ||<就任>ベンクーレン副総督(マドラス総督に從属)「ロバート・Lennox」(~1746年)
1736年-08:00|インドネシア| ||<即位>ブランバン君主「Danuningrat」(~1763年~1766年死去)
1736年-08:00|フィリピン| ||<即位>マキータナ・スルタン「Pakir Maulana Khairuddin Hamza」(~1775年)
1736年-06:00|プータン| ||<就任>プータン摂政「クウォ・ペルジョール」(~1739年)
1736年-05:30|インド| ||<死去>タンジャーバル・マラーター王国国王「トゥッコージー」
1736年-05:30|インド| ||<就任>ケンジヤル国ラジャ「ナルシン・ナヤン・バニ」(~1757年)
1736年-05:30|インド| ||<就任>コタク国ラジャ「チッカウ・イラッパ」(~1766年没)
1736年-05:30|インド| ||<就任>サンガール国ラジャ「カリヤン・サイ」(~1777年没)
1736年-05:30|インド| ||<就任>タンジュール国ラジャ「ウエンゴジ 2世ハバ・サーヒブ」(~1737年没)
1736年-05:30|インド| ||<就任>ハヨリ国ラジャ「アジット・パル」(~1757年没)
1736年-05:30|インド| ||<就任>ムガル帝国ガミール総督「ティル・ティラー・カーン」(~1737年)
1736年-05:30|インド| ||<即位>タンジャーバル・マラーター王国国王「ウイヤンゴジ 2世」(~1737年死去)
1736年-05:00|ウズベキスタン| ||<死去>ヒヴァ・ハン国対立ハン「Shah Timur Khan」
1736年-04:30|アフガニスタン| ||<即位>アンクイ・ハン「スライマン・カーン」(~1790年)
1736年-04:30|アフガニスタン| ||<即位>バクタフジャン・ハン「スライマン・ベグ」(~不明)⇒「ミルザ・カーン1世」(~1748年)

1740迄 (2954件)

- 1736年-04:00|ジ ョージア| |||<即位>カティ王「アレクサンドル3世」(~1738年)
- 1736年-04:00|ジ ョージア/イラン| |||カトリはペルシャ(イラン)に併合(~1744年)
- 1736年-04:00|ロシア/トルコ| |||ロシアがクリミア半島へ侵入し、オスマンと開戦
- 1736年-03:30|イラン| |||<就任>サファヴィー朝大宰相「ミルザ・アリ・アクバル・シラジ」(~1747年)
- 1736年-03:00|エチオピア| |||<即位>エチオピア帝国(ソモソ朝)対立皇帝「ヒズケヤス」(~1737年)
- 1736年-02:00|シリア/アラブ/トルコ| |||<就任>アレクサンドリア(総督)「Silahdar Mehmed Pasha」(2期目~1737年)
- 1736年-02:00|モザンビーク/ポルトガル| |||<就任>モザンビーク、ソファラ、リス・テ・クアマ、モモタパ 総司令官「ニコラウ・トレンティノ・デ・アルメイダ」(~1740年)
- 1736年-02:00|ギリシャ/トルコ| |||<就任>エフィソス(総督)「イブラヒム」(~1739年)
- 1736年-01:00|フランス| |||<就任>ブルボン公「ルイ5世ジョゼフ」(~1772年)
- 1736年-01:00|チャド| |||<即位>ハギルミ王国スルタン「Burkomanda2世 Tad Lele, Mbangi」(~1741年)
- 1736年 00:00|カナリヤ諸島| |||<死去>ラサローテ島領主「Martin Pedro de Castejon Belvis e Ibanez」
- 1736年 00:00|トコロ| |||<就任>アリン統治者(アブ・カ)「アリン」(~1771年)
- 1736年 00:00|カナリヤ諸島| |||<就任>ラサローテ島領主「Martin Nicolas de Castejon e Ibanez de Segovia」(~1752年死去)
- 1736年 00:00|セカール| |||<就任>ワロ統治者(ワラ)「ニヤク・シュリ・ヨッポ」(~1780年)
- 1736年 03:00|サンピエール島/ミクロン島/フランス| |||<就任>サンピエール島・ミクロン島副王「Jean Pymont」⇒「Rouve de La Perelle」司令官(1期目~1744年)
- 1736年 04:00|ボリビア/スペイン| |||<就任>ラ・フータ・デ・ロス・チャルカス聴問庁長官代行「イグナシオ・デル・カステイロ」(~1737年)
- 1736年 06:00|アメリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領ニューヨークおよびニュージャージー 総督「ジョン・アンダーソン」(同年)⇒「ジョン・ハミルトン」(~1738年)
- 1736年 06:00|アメリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領ペナル植民地総督「ジェームズ・ローガン」(同年)
- 1736年 06:00|コスタリカ/スペイン| |||<就任>コスタリカ総督「アントニオ・バスケス・デ・ラ・クアト・ラ・イ・セウラ」(同年没)⇒代行「ファン・フランシスコ・デ・イバラ・イ・カホ」(~7.24)
- 1736年 06:00|アメリカ/スペイン| |||<就任>スペイン領テキサス植民地総督「カルロス・ベニテス・フランキス・デ・ルーゴ」(~1737年)
- 1736年 06:00|アメリカ/スペイン| |||<就任>スペイン領ニューメキシコ総督「Enrique de Olavide y Michelena」(~1738年)
- 1736年 06:00|アメリカ| |||大覚醒運動のネットワーク「カレッジ」を創設
- 1736年 10:00|ハワイ| |||<死去>マウイ島国王「Kekaulike Kuihonoikamoku」
- 1736年 10:00|ハワイ| |||<即位>マウイ島国王「Kamehamehanui Ailuaui」(~1765年死去)
- 1736年1月 04:00|ハラウアイ/スペイン| |||<就任>ハラウアイ総督「マルティン・ヒュル・デ・ハウレク」(~1741年)
- 1736年1月2日-09:00|韓国/朝鮮| |||<就任>朝鮮国領議政「金興慶」(~4.7)
- 1736年1月2日-09:00|日本|茨城県行方市|享保20年11月20日|<交替>常陸麻生藩1万石「新庄直祐」隠居⇒長男「新庄直隆」が継ぐ(⇒宝暦5(1755)年10月5日、隠居)
- 1736年1月4日 05:00|ペルー/スペイン| |||<就任>ペルー副王「ビシヤカール侯爵・ハランテス伯爵・アントニオ・デ・メントーサ・カマニョ・イ・ソトマヨール」(~17450712)
- 1736年1月9日-02:00|トルコ| |||<就任>オスマン帝国大宰相「シラフダル・セイイト・メフメド・ハシヤ」(~17370806)
- 1736年1月13日-08:00|中国| ||清・雍正13年12月|清で「明史」332巻全巻が完成
- 1736年1月14日-09:00|日本|長崎県島原市|享保20年12月2日|<交替>肥前島原藩65900石「松平忠雄」隠居⇒養子「松平忠侃」が継ぐ(⇒元文3(1738)年3月21日、死去)
- 1736年1月17日-09:00|日本|島根県浜田市|享保20年12月5日|<死去>石見浜田藩5万石「松平康豊」(51歳)⇒長男「松平康福」が継ぐ(⇒宝暦9(1759)年1月15日、下総古河藩5万石に移封)
- 1736年1月22日-03:30|イラン| |||<即位>アフシャル朝初代「ナディール・シャ」建国(~17470619)
- 1736年1月24日-09:00|日本|三重県鈴鹿市|享保20年12月12日|<死去>伊勢西条藩1万石「有馬氏倫」(68歳)⇒翌年2月3日、養子「有馬氏久」が嗣ぐ(⇒元文2(1737)年、伊勢南林崎藩1万石へ陣屋移転)
- 1736年1月27日-01:00|ポーランド/リトアニア| |||<退位>ポーランド・リトアニア共和国国王「スタニスワフ・レンチニスキ」ポーランド 継承戦争で敗退(~17660223死去88歳)
- 1736年1月28日-09:00|日本|山形県鶴岡市|享保20年12月16日|<死去>酒井忠予(79歳)前出羽松山藩主
- 1736年1月30日-08:00|台湾| |||台湾、台南・嘉義地震/M7.0、死者372人
- 1736年2月1日 00:00|イギリス| |||<死去>ダートマス伯「ジェームズ・スタンレー」
- 1736年2月1日 00:00|マン島| |||<死去>マン島主「James2世 Stanley」
- 1736年2月1日 00:00|イギリス| |||<就任>ダートマス伯「エドワード・スタンレー」(~17760222死去)
- 1736年2月1日 00:00|マン島| |||<就任>マン島主「James3世 Murray」(~17640108死去)
- 1736年2月4日-09:00|日本|東京都|享保20年12月23日|<死去>細井広沢(78歳)儒学者、書家、篆刻家
- 1736年2月7日-01:00|イタリア| |||<就任>ジェノヴァ共和国ドージェ「ニコロ・カッタチ」(~17380207)
- 1736年2月12日-09:00|日本|J.フロントリテイリング|享保21年|下村彦右衛門正啓、京都、東洞院船屋町に大丸総本店「大文字屋」開店
- 1736年2月12日-09:00|日本|新潟県五泉市|享保21年|<交替>越後村松藩3万石「堀直為」隠居⇒長男「堀直堯」が継ぐ(⇒天明5年10月29日(17851130)死去)
- 1736年2月12日 05:00|ジャマイカ/イギリス| |||<就任>英領ジャマイカ 総督代行「ジョン・グロリア」(2回目~17380429)
- 1736年2月12日-09:00|日本|大阪府大阪市|享保21年1月|<初演>「花鬘勢曾我」岩井半四郎、角の芝居
- 1736年2月12日-09:00|日本|東京都中央区|享保21年1月|<初演>「遊君鑑曾我」澤村宗十郎、中村座
- 1736年2月12日-08:00|中国| ||清・乾隆1年1月1日|清・乾隆と改元

1740迄 (2954件)

- 1736年2月14日 00:00|モロッコ| |||<即位>アラウィー朝スルタン「アブド・アッラー」(2回目~8. 8廃位~17571110死去79歳)
- 1736年2月14日 00:00|モロッコ| |||<廃位>アラウィー朝スルタン「アリ2世アル=アラ」
- 1736年2月21日-09:00|日本|長崎県平戸市|享保21年1月10日|<死去>松浦昌(86歳)前肥前平戸新田藩主
- 1736年2月22日 04:00|米領グァージン諸島/デンマーク| |||<就任>セント=トマス島・セントジョン島総督「Frederik Moth」(2期目~17440403)
- 1736年2月24日 04:00|米領グァージン諸島/デンマーク| |||<就任>セント=クロア暫定総督「Gregers Hoeg Nissen」(~17440416)
- 1736年3月-01:00|イタリヤ| |||コルシカ王国がジエノヴァ共和国から独立宣言
- 1736年3月8日-03:30|イラン| |||<即位>アフシャール王朝シャー「ナーデル=シャー」(~17470620没)
- 1736年3月8日-03:30|イラン| |||<退位>サファヴィー朝シャー「アハハ3世」(~1740. 2死去)
- 1736年3月9日 00:00|マン島/イギリス| |||<就任>マン島知事「James Murray, Duke of Atholl」(~1744年)
- 1736年3月9日-09:00|日本|大阪府豊中市|享保21年1月27日|<死去>摂津麻田藩1万石「青木一典」(40歳)⇒長男「青木一都」が継ぐ(⇒寛延2(1749)年10月26日、死去)
- 1736年3月10日 04:00|BES諸島/オランダ| |||<就任>セント=ユースタティウス島暫定司令官「Johan “Jan” Markoe, Jr.」(~17370624)
- 1736年3月18日-09:00|日本|長崎県島原市|享保21年2月7日|<死去>松平忠雄(64歳)前肥前島原藩主
- 1736年3月22日-09:00|日本| ||享保21年2月11日|<死去>佐久間洞巖(84歳)儒学者、画家、書家
- 1736年3月25日-02:00|エストニア/ロシア| |||<就任>エストニア総督「グラーフ=プラトン=イワノヴィッチ=ムシネ=プーシキン」(~8. 6)
- 1736年3月25日 06:00|アメリカ/フランス| |||<チカソー戦争: オガラ=チェホの戦い>北米ミシシッピでチカソー族インディアンが英国援助でフランス入植者撃退
- 1736年3月25日-09:00|日本|福島県伊達郡桑折町|享保21年2月14日|<死去>陸奥桑折藩2万石「松平忠暁」(46歳)⇒次男「松平忠恒」が継ぐ(⇒延享4(1747)年7月7日、上野篠塚藩2万石に移封)
- 1736年4月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「ジャン=ジャコモ=アンジェリ」 「ジ=ローモ=マルテリ」
- 1736年4月2日-01:00|ドイツ| |||<初演>J. S. バッハ《カンタータ第6番「われらと共に留まりたまえ」》
- 1736年4月2日 00:00|カナダ/オランダ| |||<死去>オランダ領=ゴースト総裁「アンソニー=ヴァン=オーバー=ベーク」
- 1736年4月6日-09:00|日本|東京都|享保21年2月26日|幕府が盲人の統括職である江戸惣検校職を廃止
- 1736年4月7日 00:00|カナダ/オランダ| |||<就任>オランダ領=ゴースト総裁「マルティヌス=フランソワ=デ=ホルト」(17370202まで大統領~17400316在任中死去)
- 1736年4月8日-09:00|日本|福井県勝山市|享保21年2月28日|<死去>小笠原信辰(51歳)前越前勝山藩主
- 1736年4月15日-02:00|ラトビア| |||<就任>ケルラント=セムガレン公国政府議長「サッケン=アブリッケン将軍クリストフ=フリートリヒ=フォン=テ=ア=オステン」(~1759年)
- 1736年4月28日-01:00|オーストリア/イタリヤ| |||ハルマ、オーストリアに
- 1736年5月9日 00:00|ポルトガル| |||<死去>ポルトガル国務長官「テ=イオコ=デ=メントンカ=コルテ=レアル」
- 1736年5月9日 00:00|ポルトガル| |||<就任>ポルトガル国務長官代理「ジョアン=ダ=モッタ=エ=シルバ、ダ=モッタ枢機卿」(~7. 28)
- 1736年5月14日-01:00|フランス| |||<就任>オマル公「ルイ=シャルル」(~1773年退任)
- 1736年5月16日-09:00|日本|千葉県香取郡多古町|享保21年4月6日|<交替>下総多古藩12000石「松平勝房」隠居⇒養子「松平勝尹」が継ぐ(⇒明和5(1768)年3月26日、死去)
- 1736年5月17日 04:00|モントセト/イギリス| |||<死去>イギリス植民地モントセト大統領「William Frye」
- 1736年5月17日 01:00|日本|石川県金沢市|享保21年4月7日|<金沢享保21年「卯辰の大火」>4つ時(午前10時ごろ)、卯辰山の日蓮宗連昌寺門前の坂下にある町家から出火、間もなく連昌寺に延焼、同寺を灰とした炎は、近隣に燃え移りそのあたりの神社、仏閣といわず町家から農家まで次々と焼き尽くし大火となった/観音町から春日町、森本、大衆免などこのあたりの町々に延焼して灰とした/酉の刻(18時ごろ)鎮火/焼失した家屋は2111軒、その内町家が1400~500軒、寺社の焼失60軒
- 1736年5月19日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド副卿代行判事「ア=マー=大司教ヒュー=ポールター=ウィングラム男爵トマス=ウィングラム/ヘンリー=ポイル」(~17370907)
- 1736年5月19日-09:00|日本|島根県鹿足郡津和野町|享保21年4月9日|<死去>石見津和野藩43468石「亀井茲満」(24歳)⇒甥「亀井茲延」が継ぐ(⇒寛保3(1743)年間4月3日、隠居)
- 1736年5月23日 00:00|イギリス| |||<初演>ゲオルク=フリートリヒ=ヘンデル《歌劇「アタランタ」》
- 1736年5月26日 06:00|アメリカ/フランス| |||<チカソー戦争: アキアの戦い>北米ミシシッピでチカソー族インディアンが英国援助でフランス入植者撃退
- 1736年6月-05:30|インド| |||<就任>ダール国ラジャ「ジャシュワント=ラオ=イ=プアル」(~17610106没)
- 1736年6月4日 00:00|イギリス| |||<死去>ウェスト=モラント伯「トマス=フェイン」
- 1736年6月4日 00:00|イギリス| |||<就任>ウェスト=モラント伯「ジョン=フェイン」先代の弟(~17620826死去)
- 1736年6月7日-05:30|スリランカ/オランダ| |||<死去>オランダ領セイロン総督「デ=イ=テ=リク=ファン=ドンブルク」
- 1736年6月7日-05:30|スリランカ/オランダ| |||<就任>オランダ領セイロン総督代理「ヤン=マカレ」(~7. 23)
- 1736年6月7日-09:00|日本| ||元文1年4月28日|「元文」に改元
- 1736年6月14日 00:00|カナダ/デンマーク| |||<就任>デンマーク領=ゴースト=ゴースト長官「エホ=ホルト=ニールソン=ホルス」(~17400620没)
- 1736年6月16日-09:00|日本|奈良県葛城市|元文1年5月8日|<死去>永井直圓(66歳)前大和新庄藩主
- 1736年6月20日-09:00|日本| ||元文1年5月12日|<初演>文耕堂、三好松洛「敵討檻樓錦」<大晏寺堤>竹本座
- 1736年7月1日-02:00|トルコ| |||<死去>オスマン帝国先代(23代)スルタン「アフメト3世」
- 1736年7月1日-09:00|日本|岐阜県郡上市|元文1年5月23日|<死去>美濃郡上藩38900石「金森頼時」(68歳)⇒孫「金

1740迄 (2954件)

- 森頼錦が継ぐ(⇒宝暦8(1758)年12月25日、藩政の失敗により改易)
1736年7月3日-09:00|日本|滋賀県蒲生郡日野町|元文1年5月25日|<交替>近江仁正寺藩17000石「市橋直方」隠居⇒養子「市橋直拳」が継ぐ(⇒宝暦8(1758)年11月24日、隠居)
1736年7月6日-09:00|日本|佐賀県佐賀市|元文1年5月28日|<死去>鍋島直称(70歳)前肥前蓮池藩主
1736年7月7日-09:00|日本| ||元文1年5月29日|<死去>初代谷風梶之助(44歳)大相撲力士(最高位大関)
1736年7月9日-09:00|日本| ||元文1年6月1日|幕府が米の公定値段を廃止
1736年7月9日-09:00|日本|京都府京都市|元文1年6月1日|<死去>浮世草子作者・江島其磧(71)
1736年7月11日-09:00|日本|新潟県胎内市|元文1年6月3日|<死去>越後黒川藩1万石「柳沢里旭」(15歳)⇒弟「柳沢保卓」が継ぐ(⇒安永3(1774)年3月22日、死去)
1736年7月12日-09:00|日本|滋賀県彦根市|元文1年6月4日|<死去>井伊直惟(37歳)前近江彦根藩主
1736年7月23日-05:30|スリラカ/オランダ| ||<就任>オランダ領セイロン総督「ヴァン・ムルメル」(17400312)
1736年7月23日-09:00|日本| ||元文1年6月15日|<元文改鑄>元文小判・元文丁銀の通用開始/質を下げて米価の上昇をはかる
1736年7月24日 06:00|コスタリカ/スペイン| ||<就任>コスタリカ総督代行「デ・イオシオ・サルモン・パチェコ・イ・アバルカ」(~12.24)
1736年7月27日-09:00|日本| ||元文1年6月19日|書物奉行「類聚国史」校訂完了
1736年7月28日 00:00|ポルトガル| ||<就任>ポルトガル首相「ペドロ・ロドリゲス・モッタ・エ・シルバ」(~17550911死去)
1736年7月30日-01:00|ルクセンブルグ/オーストリア| ||<就任>オーストリア領ルクセンブルグ総督「ヴァイルヘルム・ラインハルト・グラーフ・ナヘルク」(3回目~1737年1月)
1736年8月-02:00|ウクライナ| ||<即位>クリミア汗国ハン「フェフ2世ギレイ」(~1737.9)
1736年8月8日 00:00|モロッコ| ||<即位>アラウィー朝スルタン「ムハンマド2世イブン・アル・アラビ・ヤム・レイ・イスマイル」の息子(~17380619 廃位)
1736年8月8日 00:00|モロッコ| ||<廃位>アラウィー朝スルタン「アブド・アッラー」(~17571110死去79歳)
1736年8月8日-09:00|日本| ||元文1年7月2日|<死去>荷田春満. 中風のため(68歳)国学者、歌人
1736年8月11日-02:00|エストニア/ロシア| ||<就任>エストニア総督代行「エルスト・セバスチャン・フォン・マンシュタイン」(~1738年8月)
1736年8月18日-09:00|日本|大阪府大阪市|元文1年7月12日|<死去>3代鴻池善右衛門(70歳)豪商
1736年8月30日 03:00|仏領ギニア/フランス| ||<死去>ギニア知事「Henri Dussault」
1736年8月30日 03:00|仏領ギニア/フランス| ||<就任>ギニア知事「Henri de Poilvillain」(~1736.12)
1736年9月16日-01:00|ドイツ| ||<死去>ドイツの物理学者が「フリエドリッヒ・マッテルト(168605.24~) 液体の沸点を測定し、液体には特有の沸点があり、それが大気圧によって変化することを発見
1736年10月1日-01:00|サマリヤ| ||<就任>サマリヤ共和国執政「フランチェスコ・マリア・ヘッルツィン」(「ジヨヴァンニ・マリア・ジヤンツ」)
1736年10月1日-09:00|日本|京都府京都市|元文1年8月27日|<就任>関白「二条吉忠」(~元文2年8月3日在官中に薨御)
1736年10月4日-09:00|日本|東京都|元文1年8月30日|幕府が市中および江戸城中での落書・雑説を禁じる
1736年10月8日-09:00|日本|栃木県足利市|元文1年9月4日|<死去>下野足利藩11000石「戸田忠位」(39歳)⇒長男「戸田忠言」が継ぐ(⇒安永3(1774)年12月14日、死去)
1736年10月11日-09:00|日本|鳥取県鳥取市|元文1年9月7日|<死去>鳥取西館新田藩2万石「池田定賢」(37歳)⇒長男「池田定就」が継ぐ(⇒明和5(1768)年4月13日、隠居)
1736年10月19日-09:00|日本| ||元文1年9月15日|幕府が1693年の服忌令を増補・改訂し刊行
1736年11月-01:00|イタリヤ| ||<解体>コルシカ王国⇒ジェノヴァ共和国
1736年11月5日-09:00|日本|京都府京都市|元文1年10月3日|<死去>近衛家熙(70歳)元摂政・関白、太政大臣
1736年11月24日-02:00|ラトヴィア/ポーランド| ||<就任>ポーランド・リトアニア総督代行「ミコウ・アジ・スクヤルスキ」(2回目~17370516)
1736年11月26日-01:00|スペイン| ||<就任>スペイン王国国家主席補佐官「セバスチャン・デ・ラ・カドゥラ」初代ヴァリャリアス侯(~17461204)
1736年12月 03:00|仏領ギニア/フランス| ||<就任>ギニア知事「Gilbert Guillouet」(2期目~17380709)
1736年12月2日-09:00|日本|東北大学|元文1年11月1日|仙台藩明倫養賢堂設置
1736年12月5日 00:00|サントメ・プリンシパル/ポルトガル| ||<就任>サントメ植民地総督「Jose Caetano de Soto Maior」(~1741.5)
1736年12月12日-01:00|マルタ| ||<死去>マルタ騎士団総長「アントニオ・マニエル・デ・ビルヘナ」
1736年12月13日-01:00|マルタ| ||<就任>マルタ騎士団総長「ラモン・デ・スプイグ・イ・マルティネス・デ・マルシージャ」(3回目~17410115 死去)
1736年12月19日-09:00|日本|茨城県結城市|元文1年11月18日|<交替>下総結城藩18000石「水野勝政」隠居⇒長男「水野勝庸」が継ぐ(⇒寛延2(1749)年10月10日、死去)
1736年12月24日 06:00|コスタリカ/スペイン| ||<就任>コスタリカ暫定総督「フランシスコ・テ・カラント・イ・マン」(~17390713)
1736年12月27日-09:00|日本|佐賀県唐津市|元文1年11月26日|<死去>肥前唐津藩7万石「土井利実」47歳)⇒養子「土井利延」が継ぐ(⇒延享元年7月17日(17440824)、死去)
1736年12月28日 05:00|エカトル/スペイン| ||<就任>スペイン領土総督・総司令官・大審問院長「ルイス・アラウ・イ・リカ」(~17430703)
1737年-08:00|ブルネイ| ||<死去>ブルネイ・スルタン「ムハンマド・アラウデイン」
1737年-08:00|インドネシア/東ティモール/ポルトガル| ||<就任>ティモール知事代行「統治ジュンタ(「ジョアン・ホネ・フレイ・ジヤント・ダ・コンテソ」)(1期目~1739年)
1737年-08:00|インドネシア/オランダ| ||<就任>モルッカ諸島オランダ総督「Martinus Storm」(~1739年)

1740迄 (2954件)

- 1737年-08:00|インドネシア| |||<即位>スマタラ君主「Cakranegara3世」(~1750年)
- 1737年-08:00|インドネシア| |||<即位>ハダカサ君主「Adikara3世」(~1743年)
- 1737年-08:00|ブルネイ| |||<復位>ブルネイ・スルタン「フシム・カルデイン」(2回目~1740年)
- 1737年-05:30|インド| |||<死去>タンザニア・ムラタール王国国王「ウイソコジ-2世」
- 1737年-05:30|インド| |||<就任>アウグ国統治者「シエラ」(~1739年)
- 1737年-05:30|インド| |||<就任>シヤンラ国ワシ「アブト・アルフマン・カーン」(~1740年)
- 1737年-05:30|インド| |||<就任>タンザニール国ラジャ「フアラタ・シンハ」(1回目~1738年)、摂政「ラニ・シヤハ・ハ」(~1738年没)
- 1737年-05:30|インド| |||<就任>ハンガナツル国統治者「ナワブ」 「ファシル・アリ・カーン2世」(~1769年没)
- 1737年-05:30|インド| |||<就任>ハンズワラ国統治者「マハラ」 「ウグアイ・シン2世」(~1747年没)
- 1737年-05:30|インド| |||<就任>ホーランド国統治者「ハント・サフ」 「チムツ1世」(~1757年没)
- 1737年-05:30|インド| |||<就任>ムガル帝国ガミール総督「ファクル・ドゥール」(~1738年)
- 1737年-05:30|インド| |||<就任>ムト・ル国統治者「ラジエ・コルパテ・ハハトール」 「マロシラオ3世ラジエ・コルパテ」(~1805年没)
- 1737年-05:30|インド| |||<即位>タンザニア・ムラタール王国国王「スジヤハ・ハ-イ」(~1738年死去)
- 1737年-05:00|カナダ| |||<死去>中ジュー・ハーン「サメ・カーン」
- 1737年-03:00|カナダ| |||<就任>ケル統治者「オムカマ」 「イハント・インコビ」建国(~1752年)
- 1737年-03:00|カナダ| |||<就任>ブコノ統治者「オムカマ」 「ンケンガ」(~1760年頃)
- 1737年-03:00|カナダ| |||<就任>ル統治者「オムカマ」 「ビソウ・イハント・ンコビ」建国(~1752年没)
- 1737年-03:00|カナダ| |||<設立>ブクアンガ・キ国
- 1737年-03:00|ハレーン/イラン| |||ハレーンがペルシャに再占領された
- 1737年-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||<就任>アレッポ・ワリス(総督)「Uthman Pasha」(~1740年)
- 1737年-01:00|カメルーン| |||<即位>マダラ・スルタン国スルタン「マティ・ア・マキザ」(~1755年)
- 1737年 00:00|セネガル| |||<就任>サアソ統治者「ファンカマ」 「ジンバ・キンティ・ジャロ」
- 1737年 00:00|カリブ諸島/スペイン| |||<就任>ラ・コメロ伯「Antonio Jose de Herrera Ayala y Rojas」(~1748年)
- 1737年 04:00|バルバドス/イギリス| |||<就任>イギリス領バルバドス総督「Orlando Bridgeman」(~1738年)
- 1737年 04:00|ホリビア/スペイン| |||<就任>ラ・プラタ・デ・ロス・チャルカス聴問片長官「アントニオ・エルメネジルト・デ・ケラス」(~1746年)
- 1737年 06:00|アメリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領ニューヨークおよびニュージャージー-総督「ジョン・ウエスト」(~同年)
- 1737年 06:00|エルサルバドル/スペイン| |||<就任>サン・サルバドル、サン・ミゲル、サン・ビセンテ州市長兼副司令官「クリストバル・マルコス・デ・ガルベ・ス・コラル」(1回目~同年)⇒暫定市長兼副司令官「マヌエル・デ・ガルベ・ス・イ・コラル」(~1740年)
- 1737年 06:00|アメリカ/スペイン| |||<就任>スペイン領テキサス植民地総督「ブルテンソ・デ・オロビ・オ・イ・バステラ」(~1741年)
- 1737年 06:00|アメリカ/スペイン| |||<就任>スペイン領フロリダ植民地総督代理「マヌエル・ホセ・デ・フステイス」⇒総督「マヌエル・デ・モンティエリ」(~1749年)
- 1737年 10:00|ハワイ| |||<死去>オアフ島国王「Kapionookalani」
- 1737年 10:00|ハワイ| |||<即位>オアフ島国王「Kanahaokalani」(~1738年死去)
- 1737年1月-01:00|ルクセンブルグ/オーストリア| |||<就任>オーストリア領ルクセンブルグ 総督代行「ジヨルジュ・アドルフ・トリエー」(1回目~4月)
- 1737年1月 00:00|ギニアビサウ/ポルトガル| |||<就任>カチー司令官「ダミアン・デ・バスタス」(~1740年)
- 1737年1月14日-09:00|日本| ||元文1年11月26日<死去>奈良利寿(70歳)装剣金工家
- 1737年1月26日-09:00|日本|長野県長野市|元文1年12月26日<死去>信濃松代藩13万2千石「真田信弘」(67歳)⇒翌年2月18日、三男「真田信安」が継ぐ(⇒宝暦2年4月25日(17520607)、死去)
- 1737年1月29日 00:00|イギリス| |||<死去>初代オーケー伯「ジョージ・ダグラス=ハミルトン」
- 1737年1月29日 00:00|イギリス| |||<就任>2代オーケー女伯「アン・オブ・ライエン」(~17561207死去)
- 1737年1月31日-09:00|日本|三重県鈴鹿市|元文2年<陣屋移転>伊勢西条藩1万石「有馬氏久」⇒伊勢南林崎藩1万石(⇒宝暦9(1759)年6月2日、隠居)
- 1737年2月-03:00|サウジアラビア| |||<就任>デイヤ首長「ムハンマド1世ブン・サト」(~1765年死去)
- 1737年2月5日-09:00|日本|兵庫県丹波市|元文2年1月6日<死去>丹波柏原藩2万石「織田信朝」(29歳)⇒2月9日、弟「織田信旧」が継ぐ(⇒天明3(1783)年4月29日、死去)
- 1737年2月6日-09:00|日本|熊本県宇土市|元文2年1月7日<死去>細川興生(39歳)前肥後宇土藩主
- 1737年2月16日-09:00|日本|大分県臼杵市|元文2年1月17日<死去>豊後臼杵藩5万石「稲葉董通」(32歳)⇒長男「稲葉泰通」が継ぐ(⇒明和5(1768)年7月2日、39歳で死去)
- 1737年2月18日 01:00|アゾレス諸島/ポルトガル| |||<死去>グランド・サントリア長官兼ファイアル島・ピコ島トナリア長官「Pedro Sanches Farinha de Baena」
- 1737年2月18日 01:00|アゾレス諸島/ポルトガル| |||グランド・サントリア島、ファイアル島・ピコ島トナリアは王領に組み込まれる
- 1737年2月27日-09:00|日本|大阪府大阪市|元文2年1月28日<初演>文耕堂、三好松洛「御所桜堀川夜討」竹本座
- 1737年2月28日 01:00|カーボベルデ/ポルトガル| |||<就任>カーボベルデ 総督「セダ・フォンセカ・バルボサ」(~17380807没)
- 1737年3月-05:30|インド| |||マラタール宰相「バジッラオ」軍がデリーでムガル帝国軍を打ち破る(デリーの戦い)
- 1737年3月1日-09:00|日本|東京都中央区|元文2年2月<初演>歌舞伎「葛の葉子別れ」中村座
- 1737年3月12日-01:00|ドイツ/フランス| |||<死去>ウエルテンベルク公・ウエルテンベルク=メンベルグ公「カール・アレクサンダー」
- 1737年3月12日-01:00|ドイツ/フランス| |||<即位>ウエルテンベルク公・ウエルテンベルク=メンベルグ公「カール・オイゲン」(~17931024死去)1793年にフランス軍が最終的に占領
- 1737年3月31日 00:00|イギリス| |||<死去>5代アングルシー伯「アーサー・アンスリー」
- 1737年3月31日 00:00|イギリス| |||<就任>6代アングルシー伯「リチャード・アンスリー」先代の従兄弟(~17610214死去アングルシー伯)

1740迄 (2954件)

廃絶)

- 1737年4月-01:00|ルクセンブルグ/オーストリア| |||<就任>オーストリア領ルクセンブルグ 総督代行「ジヤック・アントワーヌ・ド・ペイアン」(~5月)
- 1737年4月 00:00|モロッコ| |||<死去>元アラウィー朝(モロッコ)スルタン「アリ」
- 1737年4月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「ウァレリオ・マッジョニ」「ウァンチェンツォ・モラッチ」
- 1737年4月24日 05:00|コロンビア/スペイン| |||<就任>ヌエバ・グラナダ 大統領・総督・総司令官「大審問院」(~17380820)
- 1737年5月-01:00|ルクセンブルグ/オーストリア| |||<就任>オーストリア領ルクセンブルグ 総督「ウァイルヘルム・ラインハルト・グラーフ・ナイベルク」(4回目~1738年1月)
- 1737年5月3日-08:00|インドネシア/オランダ| |||<死去>オランダ 領東インド 総督「アブラハム・Patras」
- 1737年5月3日-08:00|インドネシア/オランダ| |||<就任>オランダ 領東インド 総督「Adriaan Valckenier」(~17411106)
- 1737年5月4日-02:00|ラトビア| |||<死去>ケルラント・セムガレン公「フェルディナント・ケトラ」
- 1737年5月4日-02:00|ラトビア| |||<就任>ケルラント総督「サッケン=アフリッケン=リーゼント」将軍クリストフ・フリートリヒ・フォン・デア・オステン」(1回目~7.13)
- 1737年5月10日-09:00|日本| ||元文2年4月11日|<死去>中御門上皇(37歳、元禄14(1701)1217生)114代天皇
- 1737年5月18日 00:00|イギリス| |||<初演>ゲオルク・フリードリヒ・ヘンデル《歌劇「ペレニチエ」》
- 1737年5月29日 00:00|イギリス| |||<死去>6代ダントナルト 伯「トマス・コラン」
- 1737年5月29日 00:00|イギリス| |||<就任>7代ダントナルト 伯「ウリアム・コラン」先代の息子(~17580709死去)
- 1737年5月31日-09:00|日本|福井県|元文2年5月2日|丸岡城下で火事、町家320軒・侍家63軒など焼失
- 1737年6月-02:00|ラトビア| |||<就任>ケルラント・セムガレン公「エルスト・ヨハン・フォン・ビロン」(~1740年)
- 1737年6月1日-09:00|日本|東京都|元文2年5月3日|江戸下谷相生町から出火して、上野に延焼し、寛永寺本坊・下谷常在寺などを焼失
- 1737年6月6日-09:00|日本| ||元文2年5月8日|幕府が家主・五人組に相談せずに訴訟をおこすことを禁じる
- 1737年6月11日-09:00|日本|千葉県安房郡鋸南町|元文2年5月13日|<死去>安房勝山藩12000石「酒井忠篤」(35歳)⇒長男「酒井忠大」が継ぐ(⇒宝暦6(1756)年3月24日、死去)
- 1737年6月24日 04:00|BES諸島/オランダ| |||<就任>セント・ユスティウス島司令官「Isaac Faesch」(~17400706)
- 1737年6月29日-09:00|日本| ||元文2年5月13日|<死去>有賀長伯(77歳)歌人、歌学者
- 1737年7月-01:00|セルビア/オーストリア| |||ニッシュをオーストリアが占領(~10.16)
- 1737年7月8日-02:00|ラトビア/ポーランド| |||<就任>ポーランド・リガ 公使総督「フランチェスコ・ヤクブ・シェンペク」(~17650625没)
- 1737年7月9日-01:00|イタリヤ| |||<死去>トスカナ大公「ジャン・ガストネ・デ・メディチ」66歳/メディチ家が断絶
- 1737年7月9日-01:00|イタリヤ| |||<即位>トスカナ大公「フランチェスコ・ステファノ」マリア・テレジアの夫ロートリンゲン公(~17650818神聖ローマ皇帝となる)
- 1737年7月9日-01:00|フランス| |||<即位>ロレーヌ(ロートリンゲン)公「スタニスラス・ポーランド」王スタニスワフ1世(~17660223死去88歳、ロレーヌ公国はフランス王ルイ15世に相続され、王領に併合)
- 1737年7月16日 00:00|ポルトガル| |||<就任>マテウス 総督「Francisco Pedro de Mendonca Gorjao」(~17470526)
- 1737年7月24日-09:00|日本|奈良県葛城市|元文2年6月27日|<死去>大和新庄藩1万石「永井直亮」(45歳)⇒次男「永井直国」が継ぐ(⇒明和2(1765)年2月4日、43歳で死去)
- 1737年7月27日-09:00|日本|愛媛県宇和島市|元文2年6月30日|<死去>伊予吉田藩3万石「伊達村豊」(56歳)⇒次男「伊達村信」が継ぐ(⇒宝暦13(1763)年9月8日、隠居)
- 1737年7月29日-09:00|日本|愛知県岡崎市|元文2年7月2日|<死去>三河岡崎藩6万石「水野忠輝」(47歳)⇒9月、長男「水野忠辰」が継ぐ(⇒宝暦2(1752)年3月22日、強制隠居幽閉)
- 1737年8月6日-02:00|トルコ| |||<就任>オスマン帝国大宰相「ムシナー・デ・アブドゥッラー・ハシヤ」(~12.19)
- 1737年8月11日 03:00|スリナム/オランダ| |||<就任>オランダ 領スリナム(オランダ 西インド 会社) 総督代行「ヘラルト・ファン・デ・シェッパ」(⇒1738年、総督~17421015)
- 1737年8月11日 05:00|ハイチ/フランス| |||<就任>フランスのサント・ミンゴ 総督代行「エティエンヌ・コジャール・デュペルノット・シヤステワ」(2回目~11.11)
- 1737年8月15日-09:00|日本|茨城県つくば市|元文2年7月19日|<死去>細川興栄(80歳)前常陸谷田部藩主
- 1737年8月17日 04:00|グアドループ/フランス| |||<就任>グアドループ 知事「Gabriel d'Erchigny de Clieu」(1期目~1749.10)
- 1737年8月28日-09:00|日本|京都府京都市|元文2年8月3日|<死去>二条吉忠(49歳)元関白、左大臣
- 1737年8月31日-02:00|南アフリカ/オランダ| |||<就任>オランダ 領ケープ 植民地司令官(オランダ 東インド 会社)「アドリアン・ファン・ケルヴェル」(~9.19)
- 1737年9月-06:30|ミャンマー| |||<即位>ムラウケウ国王「サンダウイザヤ2世」(~17380325)
- 1737年9月-02:00|ウクライナ| |||<即位>クリミア汗国ハン「メンクリ2世ギレイ」(2期目~17391230死去)
- 1737年9月 04:00|バミューダ/イギリス| |||<就任>イギリス直轄植民地バミューダ 総督代理「アントワーヌ・オーキンレック」(~17380710)
- 1737年9月5日-09:00|韓国/朝鮮| |||<就任>朝鮮国領議政「李光佐」(~17400619)
- 1737年9月6日-09:00|日本|兵庫県小野市|元文2年8月12日|<死去>播磨小野藩1万石「一柳末昆」(39歳)⇒10月18日、長男「一柳末栄」が継ぐ(⇒安永8(1779)年9月16日、隠居)
- 1737年9月7日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド 副卿「デボンシャー公爵ウリアム・キャベンディッシュ」(~17450831)
- 1737年9月11日-09:00|日本|京都府京都市|元文2年8月17日|<死去>近衛家久(51歳)元関白、太政大臣
- 1737年9月17日-09:00|日本| ||元文2年8月23日|幕府が潰し銀を銀座以外に密売することを厳禁
- 1737年9月20日-02:00|南アフリカ/オランダ| |||<就任>オランダ 領ケープ 植民地司令官代行(オランダ 東インド 会社)「ダニエル・ファン・デン・ヘンゲル」(~17390414)
- 1737年9月23日-09:00|日本|京都府京都市|元文2年8月29日|<就任>関白「一条兼香」(~延享3年12月15日)

1740迄 (2954件)

- 1737年9月27日 00:00|イギリス| |||<死去>レスター伯「ジョン・シドニー」
- 1737年9月27日 00:00|イギリス| |||<就任>レスター伯「ジョン・シドニー」(~17430707死去)
- 1737年9月29日-09:00|日本|石川県加賀市|元文2年9月6日|<死去>加賀大聖寺藩7万石「前田利章」(47歳)⇒長男「前田利道」が継ぐ(⇒安永7(1778)年5月25日、隠居)
- 1737年10月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「フィリッポ・マッテイ・ベルツィ」(「ジュリアーノ・マルベリ」)
- 1737年10月6日 04:30|ベネチア/スペイン| |||<就任>スペイン領ベネチア総督「Gabriel Jose de Zuloaga y Moyua」(~17470612)
- 1737年10月6日-09:00|日本| ||元文2年9月13日|<死去>浜田洒堂(浜田珍碩)(不明)俳人
- 1737年10月10日-09:00|日本|茨城県笠間市|元文2年9月17日|<死去>常陸笠間藩6万石「井上正之」(42歳)⇒長男「井上正経」が継ぐ(⇒延享4(1747)年3月19日、陸奥磐城平藩37000石に減移封)
- 1737年10月12日-05:30|インド| |||インド、カッタで地震、サイクロンに伴う高潮による被害も含め、死者30万人
- 1737年10月13日-09:00|日本|長野県飯山市|元文2年9月20日|<死去>信濃飯山藩35000石「本多助有」(24歳)⇒11月16日、養子「本多助盈」が継ぐ(⇒安永3(1774)年2月5日、死去)
- 1737年10月17日-04:00|ロシア| |||カムチャツカで地震/M8.3、大津波発生、死者70人
- 1737年10月25日-09:00|日本|京都府舞鶴市|元文2年10月2日|<交替>丹後田辺藩35000石「牧野英成」隠居⇒次男「牧野明成」が継ぐ(⇒寛延3(1750)年10月5日、死去)
- 1737年10月26日-01:00|イタリア| |||<死去>モデナ・レッジョ公「リナルド 3世」
- 1737年10月26日-01:00|イタリア| |||<即位>モデナ・レッジョ公「フランチェスコ3世」(~17800222死去)
- 1737年11月 04:00|バルバドス/イギリス| |||<就任>イギリス領バルバドス元帥兼総督「Orlando Bridgeman」(~1738年)
- 1737年11月4日-01:00|イタリア| |||<開場>初代王カッロ：歌劇場「サン・カルロ劇場」[イタリア・ナポリ](ヨーロッパ 現役最古劇場)
- 1737年11月10日-09:00|日本|東京都千代田区|元文2年10月18日|<加増>一橋徳川家3万俵「徳川宗尹」+2万俵⇒5万俵(⇒元文5(1740)年11月18日、1万俵加増され6万俵)
- 1737年11月11日 05:00|ハイチ/フランス| |||<就任>フランスのサント・ミンゴ 総督「ラルネ・ジ 侯爵シャルル・ド・フルニエ」(~17461119没)
- 1737年11月15日 04:00|カリブ/スペイン| |||<就任>カリブ総督「スベールウタ 伯爵ジョセフ・アントニオ・マンソ・デ・ベラスコ・サンチェス・デ・サマニョ」(~17450604)
- 1737年11月22日 06:00|アメリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領サウスカロライナ植民地総督「ウィリアム・ブル」(~17431217)
- 1737年11月22日-09:00|日本|東京都中央区|元文2年11月|<初演>「閨月仁景清」<関羽>二代目市川海老蔵、重忠にせ景清・市川團蔵の早や代わり、河原崎座(市川團十郎十八番)
- 1737年12月-05:30|インド| |||マラーター宰相「バジール・ラオ」軍が「ポール」で「ムガル」帝国軍の援軍たる諸国の軍勢を破った(ポールの戦い)
- 1737年12月18日-01:00|イタリア| |||<死去>アントニオ・ストラヴィンギアリ/93歳(誕生:1644)。ヴァイオリン製作者
- 1737年12月19日-02:00|トルコ| |||<就任>オスマン帝国大宰相「イェン・メフメト・ハシヤ」(~17390322)
- 1738年-08:00|インドネシア/オランダ| |||<死去>アンボン島オランダ 総督「テウグット・Johan Bake」
- 1738年-08:00|インドネシア/オランダ| |||<就任>アンボン島オランダ 総督「Jacob de Jong」(~1743年)
- 1738年-07:00|ラオス| |||<死去>チャンパ ーサク王「ノカット(シーサムット女王)」
- 1738年-07:00|カンボジア| |||<即位>カンボジア王国国王「トシモレキア2世」(3回目~1747年)
- 1738年-07:00|ラオス| |||<即位>チャンパ ーサク王「サヤクマン」(~1791年没)
- 1738年-05:30|インド| |||<死去>タンジャーヴール・マラーター王国国王「スーラヤハ・ハーイー」
- 1738年-05:30|インド/オランダ| |||<就任>オランダ 領インド 総督「ジェイコブ・モッセル」(~1743年)
- 1738年-05:30|インド| |||<就任>ジュバル国統治者(ラ)「ヨグ・チャンド」(~1758年没)
- 1738年-05:30|インド| |||<就任>タンジュール国ラジャ「シャフジ 2世カトゥラージェ(篡奪者)」(~1739年)
- 1738年-05:30|インド| |||<就任>ムガル帝国カンミル総督「イヤット・ウッラー・カン2世」(~1740年)
- 1738年-05:30|インド| |||<即位>タンジャーヴール・マラーター王国国王「シャフジ 2世」(~1739年廃位)
- 1738年-04:30|アフガニスタン| |||<死去>ホータキ朝首長「フサイン・ホータキ」
- 1738年-04:00|アゼルバイジャン| |||<即位>イリス・スルタン「ムハンマド・ベク2世」(~1747年)
- 1738年-04:00|ジョージア| |||<即位>カヘティ王「テムラス 2世」(2度目~1744年)
- 1738年-04:00|オマーン/イラク| |||アフシャール朝ペルシアのナーデル・シャーがオマーンを占領
- 1738年-01:00|ベナン| |||<就任>サヘ 統治者「オラ・オヘ」(~1765年)
- 1738年-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン領セウタ総督「Antonio Manso y Maldonado」(~1739年)
- 1738年-01:00|フランス| |||<就任>ルテル伯「ルイス・ジャンヌ・ド・デュルフォール」(~1781年)マイエヌ女公、メイリュ女公
- 1738年-01:00|スイス| |||スイスの科学者ベルヌーイが流体力学の基本定理を発表
- 1738年 00:00|セカール/フランス| |||<就任>東インド 会社セカール局長「ピエール・フェリックス・バルテルミー・ダウイット」(~1746年)
- 1738年 00:00|セカール| |||<就任>フクトー 統治者(デナケ・サヒギ)「サンバ・シエラホ・ジギ」(2回目~1741年頃)
- 1738年 03:00|ウルグアイ/スペイン| |||<就任>サン・フェルナンド・イ・サント・ドミンゴ 軍事司令官「Domingo Santos de Uriarte」(~17490916死去)
- 1738年 04:00|BES諸島/オランダ| |||<死去>ボネール司令官「Jan Hendrik Geerkens」
- 1738年 04:00|モントセロ/イギリス| |||<就任>イギリス植民地モントセロ副総督「Robert Carpenter」(~1745年死去)
- 1738年 04:00|バルバドス/イギリス| |||<就任>イギリス領バルバドス総督「Humphrey Howarth」(~同年)⇒「The Viscount Gage」(~1739年)
- 1738年 04:00|ボリビア| |||ファン・ペレス・デ・コルトバ、行政府の増税政策に反発して、ボリビアの州で反乱を計画/みずから「印加王の孫」を名乗る。メステイロ、インディオの多くが反乱に参加するが、密告により鎮圧される
- 1738年 05:00|バハマ/イギリス| |||<就任>イギリス王室植民地バハマ総督代行「ジェームズ・ハウエル」(~17410421)

1740迄 (2954件)

- 1738年 06:00|アメリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領ニュージャージー総督「ルイス・モリス」(~1746年)
1738年 06:00|アメリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領ベネチア植民地総督「ジョージ・トーマス」(~1747年)
1738年 06:00|ホンジュラス/スペイン| |||<就任>マヤケア県総督「フランシスコ・デ・パルカ」(~1741年)
1738年 10:00|ハワイ| |||<死去>オアフ島国王「Kanahaokalani」
1738年 10:00|ハワイ| |||<即位>オアフ島国王「Peleioholani」(~1770年死去)
1738年1月-01:00|ルクセンブルク/オーストリア| |||<就任>オーストリア領ルクセンブルク総督代行「ジョルジュ・アト・ルフ・ド・リジー」(2回目~17390516)
1738年1月2日-05:30|インド| |||<就任>サウジアラビア国統治者(サル・デ・サイ)「ラマチャンドラ・サウアン1世」(~1755年没)、摂政「シエラム・サウト・ボンズル」(~1753年没)
1738年1月4日 00:00|イギリス| |||<死去>13代モートン伯「ジョージ・ダグラス」
1738年1月4日 00:00|イギリス| |||<就任>14代モートン伯「ジェームズ・ダグラス」(~17681012死去)
1738年1月17日-09:00|日本|三井住友フィナンシャルグループ|元文2年閏11月27日|<死去>三井高平(豪商・三井高利の長男で越後屋呉服店創業)(85歳、1653年4月27日生)
1738年1月25日-09:00|日本|山形県新庄市|元文2年12月6日|<交替>出羽新庄藩68200石「戸沢正庸」隠居⇒三男「戸沢正勝」が継ぐ(⇒延享2(1745)年8月14日、死去)
1738年2月5日-09:00|日本|静岡県沼津市|元文2年12月17日|<死去>大久保教寛(81歳)前駿河松長藩主、側用人・若年寄
1738年2月7日-01:00|イタリヤ| |||<就任>シエラレオン共和国トージエ「コンスタンティン・パルビ」(~17400207)
1738年2月9日-09:00|日本|茨城県つくば市|元文2年12月21日|<死去>常陸谷田部藩16300石「細川興虎」(28歳)⇒長男「細川興晴」が継ぐ(⇒天明8(1788)年12月5日、隠居)
1738年2月9日-09:00|日本|東京都台東区|元文2年12月21日|寛永寺本坊が富山・佐土原2藩の助役により完成
1738年2月19日-07:00|ベトナム| ||大越黎朝・永祐4年|ベトナムの黎朝王族の黎維權がタイン村で挙兵し、鄭氏に反抗
1738年2月20日-09:00|日本| ||元文3年1月2日|<死去>椎本才麿(83歳)俳人
1738年3月7日-09:00|日本| ||元文3年1月17日|<死去>益子内親王(70歳)後西天皇の皇女
1738年3月12日-04:30|アフリカ/イラン| |||ナイル川の下のヘルシヤがカタールを再支配宣言、ナイルバードと改名
1738年3月28日-06:30|ミャンマー| |||<即位>ムラウケウー国王「マダリット」(~17430206)
1738年3月28日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド副卿代行判事「アマー大司教ヒュー・ホー・ルター/ウインダム男爵トマス・ウインダム/ヘンリー・ホイル」(~17390927)
1738年4月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「ジュゼッペ・オノフリ」
1738年4月1日-01:00|アンゴラ/ポルトガル| |||<就任>ポルトガル領西アフリカ総督「ジョアキン・ジ・ヤック・ド・マゼラン」(~17480417)
1738年4月4日-09:00|日本|岡山県浅口市|元文3年2月16日|<交替>岡山新田藩25000石「池田政倚」隠居⇒養子「池田政方」が継ぐ(⇒宝暦10(1760)年3月14日、隠居)
1738年4月15日 00:00|イギリス| |||<初演>ゲオルク・フリードリヒ・ヘンデル《歌劇「セルセ(ケルケス)」》
1738年4月27日-01:00|イタリヤ| |||ベネチアでサン・シモン・ピッコロ再建され献堂
1738年4月29日 05:00|ジャマイカ/イギリス| |||<就任>英領サテリアコ総督「エドワード・トロローニ」(~17520919)
1738年5月1日 00:00|イギリス| |||<死去>カーライル伯「チャールズ・ハワード」
1738年5月1日 00:00|イギリス| |||<就任>カーライル伯「ヘンリー・ハワード」3代伯の長男(~17580903死去)
1738年5月4日-09:00|日本|愛媛県西条市|元文3年3月16日|<死去>伊予西条藩33000石「松平頼渡」(33歳)⇒長男「松平頼邑」が継ぐ(⇒宝暦3(1753)年7月29日、隠居)
1738年5月5日-01:00|アンドラ| |||<就任>アンドラ公国共同大公「ウルル司教ジョルジュ・イクレート・イトレフランス」(~17470512)
1738年5月9日-09:00|日本|千葉県富津市|元文3年3月21日|<死去>保科正殷(45歳)前上総飯野藩主
1738年5月9日-09:00|日本|長崎県島原市|元文3年3月21日|<死去>肥前島原藩65900石「松平忠侃」(28歳)⇒養子「松平忠刻」が継ぐ(⇒寛延2(1749)年5月10日、死去)
1738年5月12日-01:00|ドイツ| |||<死去>ハートン・ド・ウルハ辺境伯「カール3世ウイヘルム」
1738年5月12日-01:00|ドイツ| |||<就任>ハートン・ド・ウルハ辺境伯「カール・フリードリヒ」(~17711021)
1738年5月13日-09:00|日本|栃木県大田原市|元文3年3月25日|<交替>下野黒羽藩2万石「大関増恒」隠居⇒次男「大関増興」(~宝暦13(1763)年10月10日、隠居)
1738年5月19日-09:00|日本|福岡県久留米市|元文3年3月21日|<死去>有馬則維(65歳)前筑後久留米藩主
1738年5月22日-09:00|日本|大阪府大阪市|元文3年4月4日|幕府、大坂に銅座を復活設置
1738年5月31日 04:00|BES諸島/フランス| |||<就任>ポネール暫定司令官「Frederik Zaunslifer」(~1750年)
1738年6月7日-07:00|ベトナム| ||大越黎朝・永祐4年4月20日|<死去>広南国王「寧王・阮福ユウ」
1738年6月7日-07:00|ベトナム| ||大越黎朝・永祐4年4月20日|<即位>広南国王「武王・阮福潤」(~17650707死去)
1738年6月19日-04:30|アフリカ/イラン| |||ヘルシヤはカールを支配宣言
1738年6月19日 00:00|モロッコ| |||<即位>アラウィー朝スルタン「アルムスタティ」(1回目~1740年2月廃位)
1738年6月19日 00:00|モロッコ| |||<廃位>アラウィー朝スルタン「ムハンマド2世ブン・アル・アラビヤ」
1738年6月23日-09:00|日本|東京都中央区|元文3年5月7日|和薬の普及・浸透にともない、日本橋伊勢町の和薬改会所廃止/薬販売が自由に
1738年6月28日-09:00|日本|京都府京都市|元文3年5月12日|幕府が京都の和薬改会所を廃止/薬販売が自由に
1738年6月28日-09:00|日本|群馬県安中市|元文3年5月12日|<死去>内藤政森(56歳)前上野安中藩主
1738年6月29日-09:00|日本|長崎県大村市|元文3年5月13日|<死去>大村純庸(69歳)前肥前大村藩主
1738年7月9日 03:00|仏領ギアナ/フランス| |||<就任>ギアナ知事「Antoine Le Moyne, seigneur de Chateauguay」(~1743.6)

1740迄 (2954件)

- 1738年7月10日 04:00|バミューダ/イギリス| |||<就任>イギリス直轄植民地バミューダ総督「アリレット・ホップル」(~17441117死去)
- 1738年7月11日-09:00|日本|大阪府大阪市|元文3年5月25日|幕府が大坂の和菓改会所も廃止し、和菓の販売を自由化
- 1738年7月17日-09:00|日本|東京都中央区|元文3年6月|肥前座、開場(豊竹新太夫・肥前操)堺町
- 1738年7月17日-09:00|日本|広島県広島市|元文3年6月1日|長雨・洪水のため広島領の田畑損毛5万3870石余、流失全壊家屋1020軒、死者21人
- 1738年7月20日-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||<就任>ダマスカス(総督)代行「Fathi-al-Defitari」(~8.30)
- 1738年7月29日 00:00|セントヘレナ/イギリス| |||<就任>イギリス領セントヘレナ総督代理「ジョン・グットウイン」(⇒1738年総督~17400809死去)
- 1738年8月 04:00|バルバドス/イギリス| |||<就任>イギリス領バルバドス元帥兼総督「Sir Humphrey Howorth」(~同年)
- 1738年8月7日 01:00|カーボベルテ/ポルトガル| |||<就任>カーボベルテ総督「商工会議所上院/ル・ダ・コスタ・リベイロ」(~1742年)
- 1738年8月8日-09:00|日本| ||元文3年6月23日|<死去>井上通女(79歳)歌人
- 1738年8月10日-09:00|日本|熊本県人吉市|元文3年6月25日|<死去>肥後人吉藩22165石「相良長存」(36歳)⇒長男「相良頼峯」が継ぐ(⇒宝暦8(1758)年4月12日、死去)
- 1738年8月11日-02:00|エストニア/ロシア| |||<就任>エストニア総督「オットー・グスタフ・グレーヴェ・ダ・グラス・アウフ・アルプ・オク・カッコーア」(~17400322)
- 1738年8月20日 05:00|コロンビア/スペイン| |||<就任>ヌエバ・グラタ大統領・総督・総司令官「アントニオ・ゴンサレス・マンリケ」(~9.1没)
- 1738年8月28日-09:00|日本| ||元文3年7月14日|<死去>八十村路通(90歳)俳人
- 1738年8月30日-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||<就任>ダマスカス(総督)「Huseyin Pasha al-Bustanji」(~17390905)
- 1738年9月1日 05:00|コロンビア/スペイン| |||<就任>ヌエバ・グラタ大統領・総督・総司令官「大審問院」(~17390325)
- 1738年9月15日-09:00|日本| ||元文3年8月2日|<死去>上島鬼貫(78歳)俳諧師
- 1738年9月24日-09:00|日本|岡山県新見市|元文3年8月11日|<死去>関長治(82歳)前備中新見藩主
- 1738年9月26日-09:00|日本|奈良県高市郡高取町|元文3年8月13日|<死去>大和高取藩20500石「植村家包」(29歳)⇒養子「植村家道」が継ぐ(⇒明和4(1767)年3月18日、死去)
- 1738年10月1日-01:00|サマリヤ| |||<就任>サマリヤ共和国執政「ジョアンニ・アントニオ・レオナルド・ツリ」「ジョアンニ・マルテツリ」
- 1738年10月12日-09:00|日本|大分県速見郡日出町|元文3年8月29日|<死去>豊後日出藩25000石「木下長保」(33歳)⇒甥「木下長監」が継ぐ(⇒寛保元(1741)年12月14日、死去)
- 1738年10月17日-09:00|日本|埼玉県川越市|元文3年9月5日|<死去>武蔵川越6万石「秋元喬房」(56歳)⇒10月28日、婿養子「秋元喬求」が継ぐ(⇒寛保2(1742)年4月3日、隠居)
- 1738年10月31日-09:00|日本|宮崎県宮崎市|元文3年9月19日|<死去>島津惟久(64歳)前日向佐土原藩主
- 1738年11月-01:00|セルビア/オーストリア| |||<就任>オーストリア軍セルビア総督「ゲオルク・オウイェ・グラーフ・フォン・ウオリス」(~17390904)
- 1738年11月12日-09:00|日本| ||元文3年10月1日|刈谷藩領の農民、新しい方法による検見に反抗して一揆を起こす
- 1738年11月18日-03:30|イラン/パキスタン| |||イランのナーデル・シャーがペシャーワルを占領
- 1738年11月29日-09:00|日本|東京都千代田区|元文3年10月18日|幕府、大筒役を新設
- 1738年12月25日-08:00|中国| ||清・乾隆3年11月15日|中国、寧夏、銀川地震M6.5、犠牲者約100人
- 1739年-08:00|インドネシア/東ティモール/ポルトガル| |||<就任>ティモール知事「マヌエル・ド・ウテル・ド・フィゲイredo・サルメント」(1期目~1741年)
- 1739年-08:00|インドネシア/オランダ| |||<就任>モルッカ諸島オランダ総督「Marten Lelievelt」(~1744年)
- 1739年-06:00|バングラデシュ| |||<死去>ベンガル・ナワブナジム「シュジヤウデイン・ムハンマド・カン」
- 1739年-06:00|ブータン| |||<就任>ブータン摂政「ガワン・ギャルツェン」(~1744年)
- 1739年-06:00|バングラデシュ| |||<就任>ベンガル・ナワブナジム「アラウデイン・ハイドル・チャン・サルファラズ・ハーン」(~17400406没)
- 1739年-05:30|インド| |||<死去>ワットン国統治者(タクル・サーヒブ)「アルジヤンシムジ・マダブシムジ」
- 1739年-05:30|インド| |||<就任>アウク国統治者「ナラシハ2世」(~1743年)
- 1739年-05:30|インド| |||<就任>タンジュール国ラジャ「プラタプシンハ」(2回目~17631216)
- 1739年-05:30|インド| |||<就任>トリプラ国ラジャ「ジャイ・マーニ・キヤ2世」(~1744年)
- 1739年-05:30|インド| |||<就任>ナーガフル太守「ラージー・ホーンズレー」(~17550214死去)
- 1739年-05:30|インド| |||<就任>ハンスタ国統治者(ラジャ・サーヒブ)「ケラフシムジ-1世」(~1753年没)
- 1739年-05:30|インド| |||<就任>ハナ国ラジャ「サハ・シン」(~1752年没)
- 1739年-05:30|インド| |||<就任>モルガイ国統治者(タクル・サーヒブ)「ラウジ・アリヤジ1世」(~1764年没)
- 1739年-05:30|インド| |||<就任>ワットン国統治者(タクル・サーヒブ)「サハルシムジ・アルジヤンシムジ2世」(~1765年没)
- 1739年-05:30|インド| |||<即位>タンジャール・マラーター王国国王「ワラター・シンク」(~17631216死去)
- 1739年-05:30|インド| |||<即位>ラタック王「フンツォク・ナムギヤル」(~1753年)
- 1739年-05:30|インド| |||<即位>ラタック国王(フォス・ギヤル・チェン・ホ)「フクリト・ハンモ」⇒「フンツォク・ナムギヤル」(~1753年)
- 1739年-05:30|インド| |||<廃位>タンジャール・マラーター王国国王「シャーフジ-2世」
- 1739年-05:00|ウズベキスタン| |||<死去>コーカンド(フェルガナ)ベク「Abd ar-Rahim Biy」
- 1739年-05:00|カザフスタン| |||<就任>中ジユズ・ハーン「アヒルマンベト・ハーン」(~1771年没)
- 1739年-05:00|パキスタン| |||<就任>マクラン統治者(サドム)「アイザ・カーン」(~1740年)
- 1739年-05:00|ウズベキスタン| |||<即位>コーカンド(フェルガナ)ベク「Abd al-Karim Biy」(~1746年死去)

1740迄 (2954件)

- 1739年-03:00|ケニア| |||東アフリカでマズルイ勢力がモンバサに支配を確立
- 1739年-02:00|ブルンジ| |||<死去>ブルンジ王国国王「ムウシ3世ンタグシエ」
- 1739年-02:00|エジプト/トルコ| |||<就任>オスマン帝国領エジプト総督「スレイマン・ハシヤ・アル・アズム」(~1740年、地元軍によって退陣させられた)
- 1739年-02:00|ギリシャ/トルコ| |||<就任>ヨアニナ(総督)「ヒューセイイン・モリス」(~1740年)
- 1739年-02:00|ブルンジ| |||<即位>ブルンジ王国国王「ムカガ3世セヤムウイザ」(~1767年頃没)
- 1739年-01:00|スペイン| |||<死去>13代メティナ=シトニア公「トミンゴ・ホセ・クラロス・アロンソ・ペレス・テ・グスマン・イ・シルバ」
- 1739年-01:00|スペイン/ハナマ| |||<死去>ペラガア女公「カタリナ・ベンチュラ・コロン・テ・ホルトガル・イ・アヤラ」
- 1739年-01:00|スペイン| |||<就任>14代メティナ=シトニア公「ペドロ・テ・アルカンタラ・アロンソ・ペレス・テ・グスマン・イ・ロペス・パチエコ」(~17790106死去)先代の子
- 1739年-01:00|スペイン| |||<就任>第11代アルバ女公「マリア・テレサ・アルバ・ペレス・トレスト・イ・アロ」(~1755年)先代の娘
- 1739年-01:00|ニジェール| |||<就任>アル国統治者(アモカ)「ムハンマド・ガマ・イブン・アル・アディル」(~1744年)
- 1739年-01:00|スペイン| |||<就任>アンソリアス伯「Luis Antonio Fernandez de Cordoba-Figueroa y Spinola」(~1768年)
- 1739年-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン領セウラ総督「Pedro de Vargas Maldonado Lopez de Carrizosa y Perea」(~1745年)
- 1739年-01:00|ノルウェー/デンマーク| |||<就任>ノルウェー総督「ハンス・ヤコブ・アーノルト」(~1750年)
- 1739年-01:00|ドイツ| |||<就任>プロシヤ王国首相「Heinrich von Podewils」(~1749年)
- 1739年-01:00|スペイン/ハナマ| |||<就任>ペラガア公「ハコボ・フランシスコ・フィツハメス・ストゥアルト・イ・コロン・テ・ホルトガル」先代の子(~1785年没)
- 1739年-01:00|ドイツ| |||<就任>ロイス=ローベンスシュタイン伯「Heinrich2世」(~1782年)
- 1739年-01:00|ベナン| |||<即位>アジヤチ・イェのフォン王国国王「ウホソ」(~1746年)
- 1739年-01:00|ドイツ| |||<即位>ネーデルラント公「カール・ペーター・ウルリヒ」(のちロシア皇帝ピョートル3世~17620717死去)
- 1739年-01:00|フランス| |||インド東海岸加ガが植民地となった
- 1739年-01:00|サンマリノ| |||サンマリノ共和国がアルバに枢機卿によって一時的に占領されるが、教皇クレメン12世の勧告により独立を維持
- 1739年 00:00|ギリシャ/シヤマカ| |||第一次マルン戦争終結。講和条約を結んで土地と自治を保障される
- 1739年 04:00|アルバ/オランダ| |||<就任>アルバ島司令官「Daniel Nieuwkerk」(~1754年死去)
- 1739年 04:00|トミニカ共和国/スペイン| |||<就任>スペイン領サントミンゴ 総裁・総司令官「ガングーラ・レアル侯爵ペドロ・ソリヤ・テ・サン・マルティン」(~1750年)
- 1739年 06:00|アメリカ/スペイン| |||<就任>スペイン領ニューメキシコ総督「Gaspar Domingo de Mendoza」(~1743年)
- 1739年 06:00|ニカラガア/スペイン| |||<就任>ニカラガア総督「アントニオ・オルティス」(~1740年)
- 1739年1月1日-01:00|ノルウェー/フランス| |||フランスのジャン=バティスト・チャールズ・ブーベ・ド・ロジェ大尉によってブーベ島発見
- 1739年1月3日-08:00|中国| ||清・乾隆3年11月23日|中国・寧夏省、平羅銀山地震M8.0、死者5万人
- 1739年1月9日-09:00|日本| ||元文3年11月30日|幕府が文字金銀の引き換え所を廃止し、以後金は江戸・京都の金座、銀は江戸・京都・大坂の銀座で交換
- 1739年1月12日-04:30|アフガニスタン/イラン| |||ペルシヤはラホールを支配宣言
- 1739年1月18日-09:00|日本| ||佐賀県佐賀市|元文3年12月9日|<交替>肥前佐賀藩32万石「鍋島宗茂」隠居⇒長男「鍋島宗教」が継ぐ(⇒宝暦10(1760)年11月26日、隠居)
- 1739年1月25日-09:00|日本| ||兵庫県朝来市|元文3年12月16日|但馬国の生野銀山の鉱夫が扶持米増加を要求して強訴、周辺農民も一揆
- 1739年1月27日-09:00|日本| ||元文3年12月18日|幕府が銅の密売を禁止
- 1739年2月8日-09:00|日本| ||元文4年|<完成>坂倉源次郎「北海随筆」蝦夷地の実情・産物を紹介するとともに開拓意見を述べる
- 1739年2月8日-08:00|中国| ||清・乾隆4年|<死去>ハミ郡ハン「アミン」
- 1739年2月8日-08:00|中国| ||清・乾隆4年|<就任>ハミ郡ハン「ユースフ」(~1767年、死去)
- 1739年2月14日-05:30|インド/フランス| |||カリカルはフランスの所有物
- 1739年2月19日-09:00|日本| ||愛知県名古屋市|元文4年1月12日|<交替>尾張藩61万9500石「徳川宗春」幕府より蟄居を命ぜられる⇒13日、従弟「徳川宗勝」が継ぐ(⇒宝暦11(1761)年6月22日、57歳で死去)
- 1739年2月21日-09:00|日本| ||宮崎県日南市|元文4年1月14日|<死去>日向飫肥藩51000石「伊東祐永」(51歳)⇒九男「伊東祐之」が継ぐ(⇒延享元(1744)年9月2日、18歳で死去)
- 1739年3月12日-09:00|日本| ||岐阜県海津市|元文4年2月3日|<交替>美濃高須藩3万石「松平義淳」宗家尾張藩を相続⇒三男「松平義敏」が継ぐ(⇒明和8年4月28日(17710610)、死去)
- 1739年3月12日-09:00|日本| ||群馬県桐生市|元文4年2月3日|桐生に京都西陣の高機技術が伝えられ、絹織物の生産が開始される
- 1739年3月13日-05:30|インド| |||<即位>ベンガル太守「サルファーズ・ハーン」(~17400429死去)
- 1739年3月13日 00:00|ギリシャ| |||<死去>2代セルカク伯「チャールズ・ダグラス」
- 1739年3月13日 00:00|ギリシャ| |||<就任>3代セルカク伯「ジョン・ハミルトン」ラケラン伯(~17441203死去)
- 1739年3月19日-05:30|インド| |||<就任>アワド 国統治者(スハダール・ナワブ)「アブール・マンズール・モハメド・モキム・カーン」(1回目~17480428)
- 1739年3月20日-05:30|インド| |||<死去>ラダック国王(チョス・ギヤル・チェン・ホ)「デギン・ナムギヤル」
- 1739年3月20日-05:30|インド/イラン| |||ペルシヤのナティール・シャーがインドのムガル軍を破り、デリーを攻略、2万人の民衆を虐殺

1740迄 (2954件)

- 1739年3月22日-02:00|トルコ| |||<就任>オスマン帝国大宰相「イヴ・アズ・メフト・パシャ」(~17400623)
- 1739年3月25日 05:00|コロンビア/スペイン| |||<就任>ヌエバ・グラナダ 暫定大統領・総督・総司令官「フランシスコ・ゴンサレス・マンリケ」(~17400424)
- 1739年3月25日-09:00|日本|大分県杵築市|元文4年2月16日|<死去>豊後杵築藩32000石「松平親純」(37歳)⇒長男「松平親盈」が継ぐ(⇒明和4(1767)年8月14日、隠居)
- 1739年3月25日-09:00|日本|新潟県糸魚川市|元文4年2月16日|<死去>越後糸魚川藩1万石「松平直好」(39歳)⇒四男「松平堅房」が継ぐ(⇒安永2(1773)年2月16日、死去)
- 1739年3月28日-09:00|日本|鳥取県|元文4年2月19日|<元文一揆>鳥取藩で起きた大規模な百姓一揆/一揆は因幡国岩井郡から始まり、一行は八東郡へ向かった
- 1739年3月29日-09:00|日本|鳥取県|元文4年2月20日|<元文一揆>西御門村で勘右衛門らと合流した一揆勢は若桜の大庄屋・木島市郎右衛門の屋敷を打ち壊した/駆けつけた在吟味役・小谷新右衛門、郡奉行・安田清左衛門ら藩の役人を追い返した一揆勢は各地で年貢の取立てに熱心な大庄屋などの住む屋敷の打ち壊しを行い、食事などの支給を受けながら城下の鳥取へと向かった/伯耆勢は打ち壊しなどの破壊行為は行わず、因幡勢より一足早く到着、城下近郊の千代川河川敷に集結した
- 1739年4月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「ジヨヴァンニ・ベネット・ベルツィ」「ヒアジジオ・アントニオ・マルテリ」
- 1739年4月4日 00:00|イギリス| |||<初演>ゲオルク・フリードリヒ・ヘンデル《オトリオ「エジプトのイスラエル人」》
- 1739年4月4日-09:00|日本|鳥取県|元文4年2月26日|<元文一揆>一部の者が城下へ乱入を試みるも失敗/翌日には目付らの説得と長期化による疲労により、ほとんどの参加者が帰宅
- 1739年4月9日-09:00|日本|岡山県|元文4年3月2日|美作国勝北郡で困窮救済を求めて一揆が起こる
- 1739年4月14日-02:00|南アフリカ/オランダ| |||<就任>オランダ領ケープ植民地司令官(オランダ東インド会社)「ヘントリック・スウェルンダーベル」(~17510227)
- 1739年4月18日 00:00|イギリス| ||ユリウス暦:1739/4/7|密輸業者のリチャード・デック・タービン(33)が絞首刑に処せられる
- 1739年5月 04:00|バルバドス/イギリス| |||<就任>イギリス領バルバドス総督「Robert Byng」(~17401006死去)
- 1739年5月 06:00|ニカラガ| |||<死去>モスキート摂政「ピーター」
- 1739年5月 06:00|ニカラガ| |||<即位>モスキート王「エドワード1世」(~1755年1月没)
- 1739年5月1日 00:00|イギリス| |||<初演>ゲオルク・フリードリヒ・ヘンデル《歌劇「アルゴスのオーヴェ」》
- 1739年5月9日 00:00|イギリス| |||<死去>初代ハリファックス伯「ジョージ・モンタギュー」
- 1739年5月9日 00:00|イギリス| |||<就任>2代ハリファックス伯「ジョージ・モンタギュー・ダウ」(~17710608死去断絶)
- 1739年5月11日-09:00|日本|鳥取県|元文4年4月4日|因幡国八橋郡と久米郡で一揆が起こる
- 1739年5月13日-05:30|スリランカ| |||<死去>キャンディ王国国王・シンハラ国王「ウイラハ・ラッカマ・ナレント・ランハ」
- 1739年5月13日-05:30|スリランカ| |||<即位>キャンディ王国国王・シンハラ国王「シリ・ウイジヤ・ラン・ヤシンハ」(~17470811死去)
- 1739年5月16日-01:00|ルクセンブルグ/オーストリア| |||<就任>オーストリア領ルクセンブルグ 総督「カール・ウルバン・グラーフ・フォン・チャックロス」(~17420917)
- 1739年5月16日-09:00|日本|広島県庄原市|元文4年4月9日|夜9つ時出火し、庄原町全焼
- 1739年5月18日-09:00|日本|大阪府大阪市|元文4年4月11日|<初演>文耕堂、三好松洛、浅田可啓、竹田小出雲、千前軒(竹田出雲)「ひらかな盛衰記」竹本座
- 1739年5月21日-01:00|フランス| |||<初演>ジャン・フィリップ・ラモ《オペラ「エバの祭り」》
- 1739年5月23日-09:00|日本|静岡県掛川市|元文4年4月16日|<交替>遠江掛川藩6万石「小笠原長熙」隠居⇒養子「小笠原長庸」が継ぐ(⇒延享元(1744)年7月6日、23歳で死去)
- 1739年6月6日-08:00|中国| ||清・乾隆4年5月|清朝が省界を越えて集団で寺廟に参詣することを禁じる
- 1739年7月-08:00|フィリピン/スペイン| |||<就任>スペイン領フィリピン諸島総督「ガスパル・デ・ラ・トリ」(~17450921死去)
- 1739年7月4日-09:00|日本|千葉県富津市|元文4年5月29日|<死去>上総飯野藩2万石「保科正寿」(36歳)⇒次男「保科正富」が継ぐ(⇒明和7(1770)年7月5日、隠居)
- 1739年7月13日 06:00|コスタリカ/スペイン| |||<就任>コスタリカ暫定総督「フランシスコ・デ・オラエチア・イ・ガライコチア」(~17400602)
- 1739年7月13日-09:00|日本| ||元文4年6月8日|幕府、異国船警戒令を出す
- 1739年7月14日-09:00|日本| ||元文4年6月9日|幕府が、無鑑札の古鉄商・古着商・古道具商が火事場で古鉄買いをするのを禁じる
- 1739年7月16日-01:00|フランス| |||<死去>フランスの物理学者デューエ/40歳(誕生16980914)/摩擦電気に関する研究を行った
- 1739年7月20日 00:00|イギリス/インド| |||ポントアイのイギリス人がマラーター王国と条約を締結
- 1739年7月22日-01:00|オーストリア/セルビア/ロシア/トルコ| |||オスマン朝とロシア・オーストリアにベグ・ラートの戦いが勃発
- 1739年7月26日-09:00|日本| ||元文4年6月21日|幕府が庶民の火事場見物を禁じる
- 1739年7月31日-09:00|日本|兵庫県佐用郡佐用町|元文4年6月26日|<交替>播磨三日月藩15000石「森長記」隠居⇒五男「森俊春」が継ぐ(⇒安永3(1774)年5月29日、隠居)
- 1739年8月2日-09:00|日本|長野県松本市|元文4年6月28日|<死去>水野忠恒(39歳)元信濃松本藩主
- 1739年8月5日-09:00|日本| ||元文4年7月|<刊行>石田梅岩「都鄙問答」
- 1739年8月9日-09:00|日本|島根県|元文4年7月5日|<元文4年出雲、隠岐風水害>(~6日)連日、出雲、隠岐地方が暴風雨に見舞われ大洪水となった/出雲では堤防大小2万7500余か所が決壊、波よけの石垣3500余か所、水柵4700余か所が破られて、倒潰した民家2123戸、神祠3戸、仏堂46戸、船舶の破損大小64艘、5人が死亡/隠岐の島では民家47戸が倒潰、7戸が流失、破損および流失した船舶大小49艘、田の損害733石
- 1739年8月9日-09:00|日本|広島県広島市安佐北区|元文4年7月5日|高宮郡可部町出火、家数129軒、土蔵2か所焼失
- 1739年8月12日-09:00|日本|福井県福井市|元文4年7月8日|福井城下石場寺町で火事、100軒余焼失

1740迄 (2954件)

- 1739年8月20日 05:00|コロンビア/エクアドル/ペルー/エクアドル/ペルー | ||<再設>ヌエバ・グラータ [コロンビア、エクアドル、ペルー] (~17770908)
- 1739年8月24日-09:00|日本|東京都|元文4年7月20日|<死去>建部賢弘 (76歳) 数学者
- 1739年8月26日-05:30|インド | ||<死去>ベンガル太守「シッシー・ウッデーン・ムハンマド・ハン」
- 1739年8月27日-09:00|日本|鳥取県鳥取市|元文4年7月23日|<死去>因幡鳥取藩32万石「池田吉泰」 (53歳) ⇒長男「池田宗泰」が継ぐ(⇒延享4 (1747) 年8月21日、死去)
- 1739年8月31日-09:00|日本|埼玉県久喜市|元文4年7月27日|<死去>武蔵久喜藩11000石「米津政容」 (58歳) ⇒三男「米津政崇」が継ぐ(⇒明和4 (1767) 年10月11日、隠居)
- 1739年9月1日-01:00|オーストリア/セルビア/トルコ | ||オーストリアとオスマン帝国が、ヴェナート条約を締結
- 1739年9月4日-01:00|セルビア/トルコ | ||<就任>オスマン帝国セルビア・クリス代行「メフメド・ハッシャ」 (~同年) ⇒クリス「アリ・ハッシャ」 (~1740年)
- 1739年9月9日 06:00|アメリカ | ||黒人奴隷ゲイトーの暴動。サスカロウワで起こる
- 1739年9月12日-01:00|ドイツ | ||<死去>ヘッセン＝ダルムシュタット方伯「エルスト＝ルトウイヒ」
- 1739年9月12日-01:00|ドイツ | ||<就任>ヘッセン＝ダルムシュタット方伯「ルトウイヒ8世」エルスト＝ルトウイヒの息子 (~17681017死去)
- 1739年9月14日-02:00|ルーマニア/ロシア | ||<就任>モルダヴィア総督「フルカルト・クリストフ・グラーフ・フォン・ミュンニヒ」 (ロシア軍司令官 ~10月)
- 1739年9月14日-02:00|ルーマニア/ロシア | ||モルダヴィアはロシアに占領される (~10月)
- 1739年9月17日-09:00|日本|大阪府|元文4年8月15日|<移封>越後高柳藩1万石「丹羽薫氏」⇒河内・播磨・美作国内1万石 (⇒寛保2 (1742) 年11月21日、播磨三草藩へ移封)
- 1739年9月20日-09:00|日本 | ||元文4年8月18日|<死去>中川乙由 (65歳) 俳人
- 1739年9月21日-02:00|シリア・アラブ /トルコ | ||<就任>ダマスカス・クリス (総督) 「Muhassil Uthman Pasha」 (~1740.10)
- 1739年9月23日-09:00|日本|長崎県壱岐市|元文4年8月21日|前年、落雷で焼失した住吉神社の社殿を造営
- 1739年10月1日-01:00|サンマリノ | ||<就任>サンマリノ共和国執政「ジャン・ジヤコモ・アンジェリ」 「アルフォンソ・ジヤンギ」 (~18日)
- 1739年10月6日 00:00|イギリス | ||<就任>初代ベスラウ伯「ブラバゾン・ホッソルバー」 (~17580704死去)
- 1739年10月18日-01:00|サンマリノ | ||<就任>サンマリノ・ゴンファロニエ「ジャン・ジヤコモ・アンジェリ」 (~28日)
- 1739年10月18日-09:00|日本|香川県高松市|元文4年9月16日|<死去>讃岐高松藩12万石「松平頼桓」 (20歳) ⇒18日、養子「松平頼恭」が継ぐ(⇒明和8 (1771) 年7月18日、死去)
- 1739年10月19日-01:00|スペイン/イギリス | ||ユリウス暦10月8日|イギリスがスペインに宣戦布告し、「ジエンキンス」の耳戦争が起こる
- 1739年10月21日 00:00|イギリス | ||<死去>2代マンチェスター公「ウィリアム・モンタギュー」
- 1739年10月21日 00:00|イギリス | ||<就任>3代マンチェスター公「ロバート・モンタギュー」 (~17620510死去)
- 1739年10月24日-02:00|ルーマニア | ||<復位>モルダヴィア王「ゲリコ・レ2世ギルカ」 (3度目 ~17410910)
- 1739年10月24日-01:00|ジブラルタル/イギリス | ||<死去>イギリス領ジブラルタル知事「ジョゼフ・サピン」
- 1739年10月24日-01:00|ジブラルタル/イギリス | ||<就任>イギリス領ジブラルタル知事「フランス・コロンバイン」 (~17400422)
- 1739年10月28日-01:00|サンマリノ/バチカン | ||<就任>サンマリノ教皇総督「ガスパール・フォグリア」 (~11.26)
- 1739年11月1日-08:00|中国 | ||清・乾隆4年10月|清で荘親王允祿らの陰謀事件が発覚、允祿ら失脚
- 1739年11月11日-04:00|レニオン/フランス | ||<就任>ブルボン島司令官「Pierre Andre d'Hequerty」 (~17431212)
- 1739年11月15日 00:00|イギリス | ||<死去>初代ストラフォード伯「トマス・ウェントワース」
- 1739年11月15日 00:00|イギリス | ||<就任>2代ストラフォード伯「ウィリアム・ウェントワース」 (~17910310死去)
- 1739年11月17日-09:00|日本 | ||元文4年10月7日|「豊後節浄瑠璃停止」が出される。芝居など家業として演奏することは許すが、稽古所、出稽古の禁止及び一般人の豊後節習得及び演じる事が禁止される
- 1739年11月26日-01:00|サンマリノ/バチカン | ||<就任>サンマリノ教皇総督「マート・バルトルッチ」 (~17400205)
- 1739年12月1日-09:00|日本 | ||元文4年11月|<刊行>荷田在満「大嘗会便蒙」
- 1739年12月8日 00:00|イギリス | ||<死去>6代ダルハウジー伯「ウィリアム・ラムゼイ」
- 1739年12月8日 00:00|イギリス | ||<就任>7代ダルハウジー伯「チャールズ・ラムゼイ」 (~17640129死去)
- 1739年12月8日 03:00|ブラジル | ||カササグアスの戦い。ニコラス・ネーグイルのゲアラニ族が、Pascoal Leite Paesの率いる2,300の部隊を撃退
- 1739年12月11日 00:00|イギリス | ||<死去>7代マリ伯「フランス・ステュアート」
- 1739年12月11日 00:00|イギリス | ||<就任>8代マリ伯「ジェームズ・ステュアート」先代の息子 (~17670705死去)
- 1739年12月15日 04:00|バルバドス/イギリス | ||<就任>イギリス領バルバドス元帥兼総督「ロバート・Byng」 (~17401006死去)
- 1739年12月30日-02:00|ウクライナ | ||<死去>クリミア汗国ハン「メンクリ2世ギレイ」
- 1739年12月31日-02:00|ウクライナ | ||<即位>クリミア汗国ハン「セラメト2世ギレイ」 (1740.3まで代理 ~17431220)
- 1740年-08:00|ブルネイ | ||<即位>ブルネイ・スルタン「オマル・アリ・サイフェーン1世」 (~1778年)
- 1740年-06:30|ミャンマー | ||ビルマでモン族がフランス東インド会社の援助を受け独立
- 1740年-05:30|インド | ||<就任>アークト国支配者「サファル・アリ・カーン」 (~17421002没)
- 1740年-05:30|インド | ||<就任>ウアラ国統治者(タクル・サーヒブ)「ヒッサジ」建国 (~1774年没)
- 1740年-05:30|インド | ||<就任>コラハ国統治者(サルケル)「サンバジ・アングリア」 (~1748年没)
- 1740年-05:30|インド | ||<就任>ジャンラ国ワル「ハサン・カーン」 (2回目 ~1745年)
- 1740年-05:30|インド | ||<就任>タルチャー国ラジャ「ラルシン・ビラハール・ハリチャンドン」 (~1752年)
- 1740年-05:30|インド | ||<就任>チョタ・ナグプール国支配者(ラジャ)「シャム・サンター・シャー」 (~1745年)
- 1740年-05:30|インド | ||<就任>ナラント国統治者(ラオ)「タタシラオ1世」 (~1742年)

1740迄 (2954件)

- 1740年-05:30|インド| |||<就任>ハナラス国ラジヤ「ハルワント・シン」(~17700819没)
- 1740年-05:30|インド| |||<就任>ムガル帝国カミール総督「アサト・ウッラー・カーン」(~1744年)
- 1740年-05:30|インド| |||<就任>ラーズガル国支配者(ラワット)「ナルパット・シン」(~1747年)
- 1740年-05:30|インド| |||トルポール国をケワリエルが占領(~1756年)
- 1740年-05:00|パキスタン| |||<就任>フンザ国ミル・タム「シャー・カーン2世」
- 1740年-05:00|パキスタン| |||<就任>マラン統治者(サドム)「ナシル・カーン」(~1750年)
- 1740年-03:00|カンダ| |||<就任>ユキ王国統治者(オムカマ)「ホヘ」建国(~1750年頃)
- 1740年-03:00|カンダ| |||<就任>ブガワン王国首相「Ssebanakitta」(~1741年)
- 1740年-03:00|カンダ| |||<就任>ブソコラ統治者(オムバイト)「カントウケル」(~1750年)
- 1740年-03:00|イェメン| |||<即位>下ヤファ・サルタン「Ma'awda ibn Sayf al-Afifi」(~1760年)
- 1740年-03:00|ジブチ| |||<即位>タジュラ・スルタン国スルタン「ムハンマド・ヒン・ハマド」
- 1740年-03:00|カンダ| |||<即位>ブガワン王国国王「Mwanga11世」(~1741年)
- 1740年-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||<就任>アレクソ・ワリス(総督)「Kazikci Huseyin Pasha」(~同年)
- 1740年-02:00|エジプト/トルコ| |||<就任>オスマン帝国領エジプト総督「ハキモル・アリ・ハシヤ」(1回目~1741年)
- 1740年-02:00|ザンビア| |||<就任>カレンバ統治者(ムタ・カレンバ)「カレンバ2世カニエンホ1世ムベンバ」(~1760年頃)
- 1740年-02:00|モザンビーク/ホルトガル| |||<就任>モザンビーク、ソファラ、リオス・テ・クアマ、モノモバ 総司令官「ロウレンソ・デ・ノロニャ・イ・ダウラ」(~1743年)
- 1740年-02:00|ギリシャ/トルコ| |||<就任>ヨアニナ・ワリス(総督)「アフメド・ハシヤ」(~1748年)
- 1740年-02:00|ジンバブエ| |||<設立>ムベレ国
- 1740年-01:00|ベナン| |||<死去>ダホメ王国国王「アガジヤ・トルド・トス」
- 1740年-01:00|アルバニア/トルコ| |||<就任>イシュコラのワリス「ユソフ・ハシヤ」(~1747年)
- 1740年-01:00|ホスニア・ヘルツェゴビナ/トルコ| |||<就任>ホスニア総督「アブドラ・ハシヤ・ムシナート」(3回目~1741年)
- 1740年-01:00|ベナン| |||<即位>ダホメ王国国王「テゲベス・アウイス」(~17740517没)
- 1740年-01:00|クアチア| |||<即位>ホルヒツァ大公「マルコ・ハリッチ」(~1742年)
- 1740年-01:00|赤道ギニア/ホルトガル| |||ホルトガルがフェルナント・ポ島を占領
- 1740年-01:00|スペイン/メキシコ| |||ヤキ族の反乱. スペイン人千人以上を殺害
- 1740年 00:00|ギリシャ/ホルトガル| |||<就任>カチュー司令官「マヌエル・ピレス・コレア」(1回目~1744年)
- 1740年 00:00|セネガル| |||<就任>ジョロフ帝国統治者(ブールバ・ジョロフ)「ヒラヤン」(~1748年頃)
- 1740年 00:00|モリタニア| |||<設立>アトラル連合(ケル・アトラル)
- 1740年 00:00|イギリス| |||イギリス海軍のアスン隊が南アメリカから太平洋を探検航海
- 1740年 06:00|エルサルバドル/スペイン| |||<就任>サン・サルバドル、サン・ミゲル、サン・ビセンテ州市長兼副司令官「エステバン・サンチェス・カレロン」(サン・サルバドルには来なかった~1744年)
- 1740年1月15日-09:00|日本| 広島県山県郡安芸太田町|元文4年12月17日|山県郡加計町全焼
- 1740年1月19日-09:00|日本| ||元文4年12月21日|<死去>尊胤入道親王(25歳) 霊元天皇の皇子
- 1740年1月20日-09:00|日本| 徳島県徳島市|元文4年12月22日|<交替>阿波徳島藩25万7千石「蜂須賀宗英」隠居⇒養子「蜂須賀宗鎮」が継ぐ(⇒宝暦4(1754)年5月22日、隠居)
- 1740年1月27日-01:00|フランス| |||<死去>アンジャン公「ルイ2世アンリ」兼キース公「ルイ3世アンリ」
- 1740年1月27日-01:00|フランス| |||<就任>アンジャン公「ルイ3世ジョゼフ」兼キース公「ルイ4世ジョゼフ」(~18180513死去)
- 1740年1月29日 00:00|イギリス| |||<死去>2代スカハラ伯「リチャード・ラムリー」自殺
- 1740年1月29日 00:00|イギリス| |||<就任>3代スカハラ伯「トマス・ラムリー=サンダーソン」(~17520315死去)
- 1740年1月29日-08:00|中国| ||清・乾隆5年1月|中国の湖南で苗族の反乱が起こる
- 1740年1月31日-09:00|日本| 東京都|元文5年1月3日|<死去>志太野坡(79歳) 俳諧師
- 1740年2月 00:00|モロッコ| |||<即位>アラウィー朝スルタン「アブド・アッラー」(3回目~17410613廃位~17571110死去79歳)
- 1740年2月 00:00|モロッコ| |||<廃位>アラウィー朝スルタン「アルムスタイイ」
- 1740年2月5日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「マリノ・エネア・ボネリ」「アルフォンソ・ジヤンギ」
- 1740年2月6日-01:00|バチカン| |||<死去>第246代ローマ教皇「クレメンス12世」[16520407生~](享年87)
- 1740年2月16日-01:00|イタリア| |||<就任>ジェノヴァ共和国ドージェ「ニコロ・スピノラ」(~17420216)
- 1740年2月27日-09:00|日本| 大阪府大阪市|元文5年2月|<初演>人形浄瑠璃「鶴山姫捨松」三段目[中将姫雪責]大坂豊竹座
- 1740年2月27日-08:00|中国| ||清・乾隆5年2月|清が民間の石炭採掘を許す
- 1740年3月12日-05:30|スリランカ/オランダ| |||<就任>オランダ領セイロン総督「ウィレム・モリッツ・ブルーインク」(~17420108)
- 1740年3月16日 00:00|ガーナ/オランダ| |||<死去>オランダ領ゴールドコースト総督「マルティヌス・フランソワ・デ・ホルト」
- 1740年3月16日 06:00|ニカラガ/イギリス| |||モーストはイギリスの保護領(1749~1786年、イギリス領ホンジュラスの監督下)
- 1740年3月17日 00:00|ガーナ/オランダ| |||<就任>オランダ領ゴールドコースト大統領「フランソワ・バロウ・イウス」(~17410307)
- 1740年3月20日-04:00|モリシャス/フランス/レユニオン/セイシェル| |||<就任>マスカリン諸島総督代行「ティエ・ド・サン・マルタン」(1回目~17410814)
- 1740年3月22日-02:00|エストニア/ロシア| |||<就任>エストニア総督「グオルデマル・フォン・レーヴェンダール男爵」(~17431108)
- 1740年3月23日 00:00|イギリス| |||<死去>7代キンカーデイン伯「トマス・ブルース」
- 1740年3月23日 00:00|イギリス| |||<就任>8代キンカーデイン伯「ウィリアム・ブルース」(~9.8死去)
- 1740年3月26日-09:00|日本| 愛媛県大洲市|元文5年2月29日|大洲城下町木屋吉兵衛宅裏より出火、600軒を焼く
- 1740年3月31日-01:00|ドイツ| |||<死去>ラーゲンスベルク伯「フリートリヒ・ヴィルヘルム1世」
- 1740年3月31日-01:00|ドイツ| |||<就任>ラーゲンスベルク伯「フリートリヒ2世」(~17860817死去)

1740迄 (2954件)

- 1740年4月-05:00|ウズベキスタン| |||<死去>ツシュセント・ハン「Zholbars Khan」
1740年4月-05:00|ウズベキスタン| |||<即位>ツシュセント・ハン「Abu al-Ghazi Khan」(~1741年)
1740年4月2日-10:00|グアム/北マリアナ諸島/スペイン| |||<死去>マリアナ諸島知事「Francisco Cardenas Pacheco」
1740年4月2日-10:00|グアム/北マリアナ諸島/スペイン| |||<就任>マリアナ諸島知事「Miguel Fernandez de Cardenas」(~17460921)
1740年4月6日-06:00|ハンガリー/シレジア| |||<就任>ベングアル・ナワブ・ナジム「アリヴァルデ・イ・カーン」(~17560409)
1740年4月18日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド 副卿代行判事「アマー大司教ヒュー・ポルター/ロバート・ジョゼリン/ヘンリー・ポイル」(~17410923)
1740年4月20日-09:00|日本|群馬県館林市|元文5年3月24日|<死去>摂津国周辺5万石「太田資晴」(46歳)⇒長男「太田資俊」が継ぎ上野館林藩5万石に移封(⇒延享3(1746)年9月25日、遠江掛川藩に移封)
1740年4月22日-01:00|ジブラルタル/イギリス| |||<就任>イギリス領ジブラルタル知事「ウィリアム・ハーグレイヴ」(~17490314)
1740年4月24日 05:00|コロンビア/スペイン| |||<就任>ヌエバ・グラナダ 副王「セバステアン・デ・エスラウ・アイ・ラサガ」(~17491105)
1740年4月27日-01:00|デンマーク| |||<就任>デンマーク王国秘密評議会議長「ホルシュタイン・ズ・レト・レボルグ 伯爵ヨハン・ルートヴィヒ・ホルシュタイン・ツウ・レト・レボリ」(~17630129没)
1740年4月28日-05:30|インド| |||<死去>マラーター王国宰相「ハージ・ラーオ」
1740年4月28日-09:00|日本|大阪府大阪市|元文5年4月3日|<就任>大坂城代「酒井忠恭」(~延享元(1744)年5月1日)
1740年4月29日-05:30|インド| |||<死去>ベングアル太守「サルファーズ・ハン」
1740年4月29日-05:30|インド| |||<即位>ベングアル太守「アリヴァルデ・イ・カーン」(~17560409退位)
1740年4月30日-09:00|日本| ||元文5年4月5日|<死去>初代市川團蔵(57歳)歌舞伎役者
1740年5月9日-09:00|日本| ||元文5年4月14日|幕府が市中奉公人請け人の処罰規定を定める
1740年5月19日 00:00|イギリス| |||<就任>初代グレイ侯「ヘンリー・グレイ」初代ケント公(~6.5死去)
1740年5月20日-05:30|インド| |||<即位>カナー・ヌ太守「サダル・アリー・ハン」(~17421002死去)
1740年5月20日-09:00|日本|滋賀県東近江市|元文5年4月25日|<死去>近江山上藩13000石「稲垣定享」(31歳)⇒6月21日、養子「稲垣定計」が継ぐ(⇒寛政4(1792)年11月20日、隠居)
1740年5月31日-01:00|トイボランド| |||<死去>プロシエン王・ブランデンブルク選帝侯・マルク伯「フリートリヒ・ヴィルヘルム1世」51歳(誕生16880815)
1740年5月31日-01:00|トイボランド| |||<即位>プロシエン王・ブランデンブルク選帝侯・マルク伯「フリートリヒ2世」フリートリヒ・ヴィルヘルム2世の息子(~17860817死去74歳)
1740年6月-02:00|シリア/アラブ/トルコ| |||<就任>アレクサンドリア(総督)「Ya' kub Pasha」(~1743年)
1740年6月2日 06:00|コスタリカ/スペイン| |||<就任>コスタリカ総督「ジョアン・ジョゼ・エミール・レオナルド・フォンタニス」(~17471105没)
1740年6月5日 00:00|イギリス| |||<死去>初代ケント公・初代グレイ侯「ヘンリー・グレイ」ケント公廃絶
1740年6月5日 00:00|イギリス| |||<就任>2代グレイ女侯「ジェイマ・ヨーク」(~17970110死去)
1740年6月5日-09:00|日本|東京都|元文5年5月12日|幕府が、3奉行・大目付・目付らに会合のときの遊宴・三味線を禁じる/勘定奉行・寺社奉行・町奉行の3奉行らに將軍の側近および老中などの家臣から請託をうけないよう指示
1740年6月10日-09:00|日本| ||元文5年5月17日|<死去>柳瀬方塾(56歳)歌人
1740年6月17日-07:00|ベトナム| ||大越黎朝・景興1年5月24日|<即位>後黎朝(大越)後期第16代皇帝「顯宗」(~17860810死去)景興と改元(~1786年)
1740年6月20日 00:00|カナダ/デンマーク| |||<就任>デンマーク領グリーンランド=コスタ長官「ピーター・ニコライ・ヨルゲンセン」(~17430526)
1740年6月22日-01:00|トイボランド| |||プロシエンの宗教寛容令、ユダヤ人は除外
1740年6月27日-02:00|ラトヴィア| |||<就任>ケルラント・ゼムライン公「ルイ・アーネスト・オブ・ブランズウィック・リュネブルク」(~12.6)
1740年6月27日-09:00|日本| ||元文5年6月4日|<死去>杉浦国頭(63歳)歌人、国学者
1740年7月-08:00|インド/ネパール| |||華僑虐殺事件/バクタリア市内で華僑が暴動。オランダ人と現地人(ブリアミ)当局は暴動を収めた華僑を捕らえは中国人を殺しまくり犠牲になった華僑は1000人とも1万とも言われた
1740年7月-01:00|セルビア/トルコ| |||<就任>オスマン帝国セルビア・ワリス「ムスタファ・パシャ」(1回目~11月)
1740年7月2日-09:00|日本|広島県|元文5年6月9日|洪水のため、戸郷川筋より下原山根まで一面川成り。死者34人/備後北部、雷雨のため田畝舎屋の損害多く死人36、死牛馬14
1740年7月4日-05:30|インド| |||<就任>マラーター王国宰相「ハージ・ラーオ」(~17610623死去)息子が宰相位を継承
1740年7月8日 04:00|BES諸島/オランダ| |||<就任>セント・ユスティウス島司令官「Hendrik Coesvelt」(~17410820)
1740年7月22日-02:00|トルコ| |||<就任>オスマン帝国大宰相「ニサンチュ・ハチ・アーメド・パシャ」(~17420421)
1740年7月23日-09:00|日本|東京都|元文5年6月30日|幕府が機密保持のため、奥の右筆が大名・藩士と交際することを禁じる
1740年7月25日-09:00|日本|和歌山県新宮市|元文5年7月2日|<死去>水野重期(46歳)前紀伊新宮藩主、紀州藩家老
1740年8月9日 00:00|セントヘレナ/イギリス| |||<死去>イギリス領セントヘレナ総督「ジョン・グットウイン」
1740年8月9日 00:00|セントヘレナ/イギリス| |||<就任>イギリス領セントヘレナ総督代理「デューク・クリス」(~17410509)
1740年8月11日-09:00|日本|北海道|元文5年7月19日|松前海嘯/人家多数流出、死者多し
1740年8月13日-09:00|日本|岡山県岡山市北区|元文5年7月21日|<死去>備中足守藩25000石「木下利潔」(30歳)⇒長男「木下利忠」が継ぐ(⇒天明4(1784)年7月27日、隠居)
1740年8月17日-01:00|バチカン| |||<就任>第247代ローマ教皇「ベネディクトゥス14世」(~17580503)
1740年8月17日 07:00|メキシコ/スペイン| |||<就任>ヌエバ・イスパニヤ副王「ラ・コンキスタ公兼グアラリアル侯爵ペドロ・デ・カストロ・イ・ウイゲロ」(~17410822没)

1740迄 (2954件)

- 1740年8月20日-01:00|パチカン| |||<就任>パチカン枢機卿國務長官「シルグ・イ・ウ・アレンティ・ゴンザール」(~17560828)
- 1740年9月-05:00|ウズベキスタン/イラン| |||フハラはペルシャの宗主権下(~1747年)
- 1740年9月6日-09:00|日本|京都府|元文5年閏7月16日|<元文5年京都・畿内大水害>京洛内外や畿内が集中豪雨に襲われ鴨川があふれて三条大橋が破損、四条下宮町、石垣町など東西の民家は2階まで浸水、二条河原東新地も水深約2mとなる
- 1740年9月7日-09:00|日本|奈良県|元文5年閏7月17日|和泉国に流れる葛城川が洪水となり、大和国御所(五瀬)村で218人死亡、民家659軒が流失
- 1740年9月8日 00:00|イギリス| |||<死去>8代キンカーティン伯「ウィリアム・ブルース」
- 1740年9月8日 00:00|イギリス| |||<就任>9代キンカーティン伯「チャールズ・ブルース」(⇒17470210兼5代エルキン伯~17710514死去)
- 1740年10月-05:00|ウズベキスタン| |||ナテール・シャーがウズベク族を攻撃し、フハラ、ヒウアを征服
- 1740年10月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「ジュゼッペ・オノフリ」 「ウ・インツォ・モラッチ」
- 1740年10月6日 04:00|バルバドス/イギリス| |||<死去>イギリス領バルバドス元帥兼総督「ロバート・Byng」
- 1740年10月6日 04:00|バルバドス/イギリス| |||<就任>イギリス領バルバドス元帥兼総督代理「James Dotin」(3期目~17420818)
- 1740年10月9日-08:00|インドネシア| |||バタヴィアで中国人が騒乱、数千人が殺される
- 1740年10月12日-09:00|日本|福井県小浜市|元文5年8月22日|<死去>若狭小浜藩10万3500石「酒井忠存」(21歳)⇒10月7日、弟「酒井忠用」が継ぐ(⇒宝暦7(1757)年3月晦日、隠居)
- 1740年10月17日-09:00|日本|岐阜県中津川市|元文5年8月27日|<交替>美濃苗木藩10021石「遠山友央」隠居⇒養子「遠山友明」が継ぐ(⇒宝暦3(1753)年6月1日、死去)
- 1740年10月20日-01:00|トイ/オーストリア/ハンガリー/ベルギー/オランダ/ルクセンブルク/フランス/チェコ/イタリア/クロアチア| |||<死去>神聖ローマ皇帝「カール6世」兼ボヘミア王「カレル2世」兼ハンガリー王国国王「カロイ3世」兼オーストリア大公・クロアチア王「カール3世」兼ブラント公・アルトワ伯・エノー伯「シャルル4世」兼ルクセンブルク公・フランドル伯「シャルル5世」55歳(誕生16851001)
- 1740年10月20日-01:00|フランス| |||<死去>フランドル伯「シャルル5世」
- 1740年10月20日-01:00|トイ| |||<就任>神聖ローマ帝国牧師「ハインリッヒ・カール・アルブレヒト・ザクセン伯・ザクセン公フリードリヒ・アウグスト2世(1回目)」(~17420114)
- 1740年10月20日-01:00|フランス| |||<就任>アルトワ伯「フランス1世」(~17650818死去)
- 1740年10月20日-01:00|フランス| |||<就任>フランドル伯「マリ2世」(~17801129死去)
- 1740年10月20日-01:00|トイ/オーストリア/ハンガリー/クロアチア/イタリア/フランス/ベルギー/チェコ/オランダ/ルクセンブルク| |||<即位>オーストリア・シュタイアーマルク大公「マリア・テレジア女帝」兼クロアチア王「マリア2世テレサ」兼ハンガリー女王「マリア・テレジア」兼ブルゴニュ公・アルトワ伯「マリー・テレーズ」兼ブラント公・フランドル伯・エノー伯「マリ2世」兼ルクセンブルク公「マリア2世テレサ」カロイ3世の長女(~17801129死去63歳)兼バルマ公「マリア・テレザ」(~17481018)兼ボヘミア王「マリア・テレジア」(~17411219退位)
- 1740年10月21日-09:00|日本|大阪府大阪市|元文5年9月|<初演>歌舞伎「ひらかな盛衰記」大坂角の芝居
- 1740年10月21日-09:00|日本|静岡県富士宮市|元文5年9月|重須本門寺五重塔再建
- 1740年10月21日-09:00|日本|東京都|元文5年9月1日|<死去>初代宮古路豊後掾(81歳)浄瑠璃太夫。浄瑠璃の一派、豊後節の創始者
- 1740年10月28日-04:00|ロシア| |||ロシア暦10月17日|<死去>ロシア帝国皇帝「アンナ・エヴゲニス」47歳(誕生16930207)
- 1740年10月28日-04:00|ロシア| |||ロシア暦10月17日|<就任>ロシア摂政「クルラント・ゼンカレン公エルンスト・ヨハン・フォン・ビロン」(~11.20)
- 1740年10月28日-04:00|ロシア| |||ロシア暦10月17日|<即位>ロシア皇帝「イヴァン6世」アンナ・イワノヴナの姪の子のイワン(~1741年)
- 1740年11月-06:30|ミャンマー| |||<即位>ペーグ国王「スミ・ト・ブッタケティ」(~1747年12月)
- 1740年11月-05:00|ウズベキスタン| |||<死去>ヒウア・ハン国第29代ハン「イルハス2世」
- 1740年11月-05:00|ウズベキスタン| |||<即位>ヒウア・ハン国ハン「アブ・アルガジール」(~1週間)
- 1740年11月-01:00|セルビア/トルコ| |||<就任>オスマン帝国セルビア・ワリス「ハフィズ・アフメド・パシヤ」(1回目~1741年)
- 1740年11月2日-09:00|日本| |||元文5年9月13日|<死去>3代山本春正(87歳)蒔絵師
- 1740年11月7日 04:00|パラグアイ/スペイン| |||<就任>パラグアイ総督「ラファエル・デ・ラコイン」(~17410810)
- 1740年11月17日-09:00|韓国/朝鮮| |||<就任>朝鮮国領議政「金在魯」(~17491015)
- 1740年11月19日-04:00|ロシア| |||<就任>全ロシア第一閣僚「ゲラフ・フリストフォー・アントノヴィチニコ」(~17410314)
- 1740年11月20日-02:00|ラトビア| |||<就任>ケルラント総督「サッケン=アブリッケン=リーゼント将軍クリストフ・フリードリヒ・フォン・デア・オステン」(2回目~17581116)
- 1740年11月20日-04:00|ロシア| |||<就任>ロシア摂政「アンナ・レホルトウナ」(~17411206)
- 1740年11月21日-02:00|ラトビア/エストニア| |||<就任>リガ大司教・リヴァント公「ゲオルク・ベレンス」(~17531208没)
- 1740年11月21日-01:00|オーストリア| |||<即位>オーストリア・シュタイアーマルク大公「フランツ1世ステファン」共同統治(トスカナ大公フランチェスコ2世~17650818日没)
- 1740年11月21日 06:00|ニカラガア/スペイン| |||<就任>ニカラガア総督「ホセ・アントニオ・ラヨ・デ・フリアス」(~1745年)
- 1740年11月21日-04:00|ロシア| |||<就任>全ロシア首相「クニャース・アレクセイ・ミハイロヴィチ・チェルカスキー」(~17421126)
- 1740年11月23日-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||<就任>ダマスカス・ワリス(総督)「Ali Pasha Abu Qili (Rishah)」(~1741.7)
- 1740年11月25日-09:00|日本|茨城県筑西市|元文5年10月7日|<交替>常陸下館藩2万石「石川総陽」隠居⇒養子「石川総候」が継ぐ(⇒明和7(1770)年8月17日、53歳で死去)
- 1740年11月28日-01:00|トイ| |||<死去>シュヴァルツブルク=ゾントー=スハウゼン侯「ギョントー43世」
- 1740年11月28日-01:00|トイ| |||<就任>シュヴァルツブルク=ゾントー=スハウゼン侯「ハインリヒ35世」(~17581106死去)
- 1740年12月-05:00|ウズベキスタン/トルクメニスタン| |||<即位>ヒウア・ハン国ハン「ムハンマド・ターヒル」(~1741.6死去)
- 1740年12月-05:00|ウズベキスタン/イラン| |||コラスム(キハ)はペルシャの宗主権下(~1747.7)

1740迄 (2954件)

1740年12月 00:00|カナリヤ諸島/スペイン| |||<死去>スペイン王国カナリヤ諸島総司令官「Francisco Jose de Emparan」
1740年12月 00:00|カナリヤ諸島/スペイン| |||<就任>スペイン王国カナリヤ諸島総司令官代理「Francisco Valenzuela」(~1741年)
1740年12月8日-09:00|日本| ||元文5年10月20日|<死去>2代市川團蔵(31歳)歌舞伎役者
1740年12月16日-01:00|オーストリア/ドイツ| |||フリードリヒ2世が、オーストリア領シュレージエンの併合をオーストリアに要求し、第1次シュレージエン戦争が始まる
1740年12月16日-01:00|チェコ/ドイツ| ||プロシヤがチェコへの侵略開始
1740年12月19日-08:00|中国| ||清・乾隆5年11月|清で「大清一統志」が完成